別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画		
事　項	記　入　欄	備　考
計画の区分	学部の学科の設置	
フリガナ 設置者	ガッコウホウジン　ケイワガクエン 学校法人 敬和学園	
フリガナ 大学の名称	ケイワガクエンダイガク 敬和学園大学	
大学本部の位置	新潟県新発田市富塚字三賀境1270番地	
大学の目的	本学は、教育基本法及び学校教育法に従い、福音主義キリスト教の精神に基づく自由かつ敬けんな学風の中で真理を探究するとともに心の教育を実践し、国際的教養豊かな良心的人材を養成することを目的とする。	
新設学部等の目的	「隣人に仕え持続可能な社会を担う良識ある市民を育成し、地域社会と国際社会に貢献する」というヴィジョンを達成するために、人間の尊厳と人権を尊重する姿勢、社会で必要な言語・数量・ＩＣＴに関する基礎知識と専門分野に関する知識を育てる。グローバルな視点をもって多様な人々との共生を可能とする異文化理解力を涵養する。さらに、それらをもとに批判的・分析的に考え、言語やデジタル技術を活用して明瞭かつ効果的に表現する能力を育成し、持続可能な社会の形成・発展に高い倫理的基準をもって貢献できる人材を育成する。	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	年	人	年次 人	人			年　月 第　年次	
人文学部 国際教養学科	4	170	—	680	学士（文学）	文学関係	令和8年4月 第1学年	新潟県新発田市富塚字三賀境1270番地
計								

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	人文学部 英語文化コミュニケーション学科（廃止）　（△60） 国際文化学科（廃止）　（△80） 共生社会学科（廃止）　（△40） ※令和8年4月学生募集停止

教育課程

新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
	講義	演習	実験・実習	計	
人文学部　国際教養学科	313 科目	29 科目	28 科目	370 科目	124単位

学部等の名称		基幹教員 教授	准教授	講師	助教	計	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）
新設分	人文学部　国際教養学科	人 14 (14)	人 6 (6)	人 1 (1)	人 1 (1)	人 22 (22)	人 0 (0)	人 61 (61)
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	14 (14)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	22 (22)		
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（ａ～ｂ）	14 (14)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	22 (22)		
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（ａ～ｄ）	14 (14)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	22 (22)		
	計	14 (14)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	22 (22)	0 (0)	61 (61)

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　9人

既設分									
該当なし	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　○○人
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
小計（a～b）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（a，b又はcに該当する者を除く）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
計（a～d）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)			
計	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
合計	14 (14)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	22 (22)	0 (0)	61 (61)	

職種	専属	その他	計
事務職員	21人 (22)	5 (5)	26人 (27)
技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
図書館職員	1 (1)	1 (1)	2 (2)
その他の職員	0 (0)	9 (9)	9 (9)
指導補助者	0 (0)	2 (2)	2 (2)
計	22 (23)	17 (17)	39 (40)

校地等 区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
校舎敷地	56,109㎡	0㎡	0㎡	56,109㎡
その他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡
合計	56,109㎡	0㎡	0㎡	56,109㎡

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
	8,114㎡ (8,114㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	8,114㎡ (8,114㎡)

教室・教員研究室	教室	24室	教員研究室	29室	大学全体

図書・設備 新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点
人文学部 国際教養学科	112,832〔23,514〕 (109,217〔22,908〕)	238〔131〕 (223〔125〕)	618〔456〕 (591〔426〕)	334〔334〕 (304〔304〕)	92 (92)	0 (0)
計	112,832〔23,514〕 (109,217〔22,908〕)	238〔131〕 (223〔125〕)	618〔456〕 (591〔426〕)	334〔334〕 (304〔304〕)	92 (92)	0 (0)

スポーツ施設等	スポーツ施設	講堂	厚生補導施設	大学全体
	2750㎡	0㎡	290㎡	

経費の見積及び維持方法の概要	区　分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		教授 371千円	教授 371千円	教授 371千円	教授 371千円			図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コストを含む）を含む
			准教授・講師 349千円	准教授・講師 349千円	准教授・講師 349千円	准教授・講師 349千円	—	—	
	共同研究費等		800千円	800千円	800千円	800千円	—	—	
	図書購入費	2,240千円	2,240千円	2,240千円	2,240千円	2,240千円	—	—	
	設備購入費	2,917千円	2,693千円	2,693千円	2,693千円	2,693千円	—	—	
学生１人当り納付金			第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
			1,240千円	1,010千円	1,010千円	1,010千円	— 千円	— 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、国庫補助金、地方公共団体補助金、手数料、寄附金　等						

既設大学等の状況	大学等の名称	敬和学園大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	人文学部	4年	180人	年次 人	720人		0.77倍		新潟県新発田市富塚字三賀境1270番地	令和8年度より学生募集停止（英語文化コミュニケーション学科、国際文化学科、共生社会学科）
	英語文化コミュニケーション学科	4	60	—	240	学士（文学）	0.51	平成3年度		
	国際文化学科	4	80	—	320	学士（文学）	1.08	平成3年度		
	共生社会学科	4	40	—	160	学士（文学）	0.53	平成16年度		
附属施設の概要		該当なし								

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
A群 宗教と思想	キリスト教学１	1前	○	2			○			1						
	キリスト教学２	1後	○	2			○			1						
	チャペル・アッセンブリ・アワー１	1前			1		○			1						
	チャペル・アッセンブリ・アワー２	1後			1		○			1						
	チャペル・アッセンブリ・アワー３	2前			1		○			1						
	チャペル・アッセンブリ・アワー４	2後			1		○			1						
	チャペル・アッセンブリ・アワー５	3前			1		○			1						
	チャペル・アッセンブリ・アワー６	3後			1		○			1						
	チャペル・アッセンブリ・アワー７	4前			1		○			1						
	チャペル・アッセンブリ・アワー８	4後			1		○			1						
	キリスト教音楽１	1前			1				○						1	
	キリスト教音楽２	1後			1				○						1	
	キリスト教音楽３	2前			1				○						1	
	キリスト教音楽４	2後			1				○						1	
	キリスト教音楽５	3前			1				○						1	
	キリスト教音楽６	3後			1				○						1	
	キリスト教音楽７	4前			1				○						1	
	キリスト教音楽８	4後			1				○						1	
	哲学１	1･2･3･4前			2		○				1					
	哲学２	1･2･3･4後			2		○				1					
	文学１	1･2･3･4前			2		○			3	1					隔年･オムニバス
	文学２	1･2･3･4後			2		○			3	1					隔年･オムニバス
	小計（22科目）	－	－	4	24	0	－			3	1	0	0	0	1	
B群 人間行動と歴史	心理学１	1･2･3･4前			2		○			1						
	心理学２	1･2･3･4後			2		○			1						
	文化人類学１	1･2･3･4前			2		○				1					
	文化人類学２	1･2･3･4後			2		○				1					
	日本史概説	1･2･3･4前			2		○				1					
	歴史学	1･2･3･4後			2		○				1					
	考古学１	1･2･3･4前			2		○								1	
	考古学２	1･2･3･4後			2		○								1	
	小計（8科目）	－	－	0	16	0	－			1	2	0	0	0	1	
C群 人間と社会	政治学１	1･2･3･4前			2		○			1						
	政治学２	1･2･3･4後			2		○			1						
	私たちの暮らしと行政	1･2･3･4前			2		○			1						
	経済学１	1･2･3･4前			2		○			1						
	経済学２	1･2･3･4後			2		○			1						
	経営学１	1･2･3･4前			2		○								1	地域経営コース必修
	経営学２	1･2･3･4後			2		○								1	地域経営コース必修
	日本国憲法１	1･2･3･4前			2		○			1						
	日本国憲法２	1･2･3･4後			2		○			1						
	法学１	1･2･3･4前			2		○								1	
	法学２	1･2･3･4後			2		○								1	
	私たちの暮らしと労働法制	3･4後			1		○			1						
	時事問題研究１	1･2･3･4前			2		○			1						
	時事問題研究２	1･2･3･4後			2		○			1						
	社会学１	1･2･3･4前			2		○								1	集中講義
	社会学２	1･2･3･4後			2		○								1	メディア
	人文地理学	2･3･4前			2		○								1	
	自然地理学	2･3･4後			2		○								1	集中講義
	地誌	2･3･4後			2		○								1	
	教養スペシャル・トピックスＡ	1･2･3･4前･後			1		○			1						

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
基盤科目		教養スペシャル・トピックスＢ	1･2･3･4前･後			1		○			1						
		教養スペシャル・トピックスＣ	1･2･3･4前･後			1		○			1						
		教養スペシャル・トピックスＤ	1･2･3･4前･後			1		○			1						
		教養スペシャル・トピックスＥ	1･2･3･4前･後			2		○			1						
		教養スペシャル・トピックスＦ	1･2･3･4前･後			2		○			1						
		小計（25科目）	－	－	0	45	0	－			5	0	0	0	0	5	
	Ｄ群 情報とコンピュータ・サイエンス	コンピュータリテラシー	1前･後		2			○			1					1	
		情報技術資格対策（Word）	1･2･3･4前･後			2		○								1	集中講義
		情報技術資格対策（Excel）	1･2･3･4前･後			2		○								1	集中講義
		情報技術資格対策（ITパスポート）	2･3･4前			4		○			1						情報メディアコース必履修
		データサイエンス入門	2･3･4前			2		○			1						
		情報技術資格対策（デジタルコンテンツ制作）	2･3･4前			2		○			1						メディア
		AIリテラシー	2･3･4後			2		○			1						メディア
		サイバーセキュリティ入門	1･2･3･4後			1		○			1						
		小計（8科目）	－	－	2	15	0	－			2	0	0	0	0	2	
	Ｅ群 言語とコミュニケーション	英語Ⅰ読む・書く	1前			4		○			2					2	
		英語Ⅱ読む・書く	1後			4		○			2					2	
		英語Ⅰ聴く・話す	1前			4		○				2				2	
		英語Ⅱ聴く・話す	1後			4		○				2				2	
		英語Ⅲ読む・書く	2前			4		○								2	
		英語Ⅳ読む・書く	2後			4		○								2	
		英語Ⅲ聴く・話す	2前			4		○				2				1	
		英語Ⅳ聴く・話す	2後			4		○				2				1	
		中国語Ⅰ文法	1前			4		○			1						
		中国語Ⅱ文法	1後			4		○			1						
		中国語Ⅰ読む・書く	1前			2		○								1	
		中国語Ⅱ読む・書く	1後			2		○								1	
		中国語Ⅰ聴く・話す	1前			2		○								1	
		中国語Ⅱ聴く・話す	1後			2		○								1	
		中国語Ⅲ文法	2前			2		○								1	
		中国語Ⅳ文法	2後			2		○								1	
		中国語Ⅲ読む・書く	2前			2		○								1	
		中国語Ⅳ読む・書く	2後			2		○								1	
		中国語Ⅲ聴く・話す	2前			2		○								1	
		中国語Ⅳ聴く・話す	2後			2		○								1	
		ドイツ語Ⅰ文法	1前			4		○				1					
		ドイツ語Ⅱ文法	1後			4		○				1					
		ドイツ語Ⅰ読む・書く	1前			2		○								1	
		ドイツ語Ⅱ読む・書く	1後			2		○								1	
		ドイツ語Ⅰ聴く・話す	1前			2		○								1	
		ドイツ語Ⅱ聴く・話す	1後			2		○								1	
		ドイツ語Ⅲ文法	2前			2		○								1	
		ドイツ語Ⅳ文法	2後			2		○								1	
		ドイツ語Ⅲ読む・書く	2前			2		○								1	
		ドイツ語Ⅳ読む・書く	2後			2		○								1	
		ドイツ語Ⅲ聴く・話す	2前			2		○								1	
		ドイツ語Ⅳ聴く・話す	2後			2		○								1	
		日本語Ⅰ読む・書く	1前			8		○								1	
		日本語Ⅱ読む・書く	1後			8		○								1	
		日本語Ⅰ聴く・話す	1前			8		○								1	
		日本語Ⅱ聴く・話す	1後			8		○								1	
		日本語Ⅲ読む・書く	1･2前			4		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
		日本語Ⅳ読む・書く	1･2後			4		○								1	
		日本語Ⅲ聴く・話す	1･2前			4		○								1	
		日本語Ⅳ聴く・話す	1･2後			4		○								1	
		フランス語Ⅰ総合	1前			2		○								1	
		フランス語Ⅱ総合	1後			2		○								1	
		コリア語Ⅰ総合	1前			2		○								1	
		コリア語Ⅱ総合	1後			2		○								1	
		小計（44科目）	－	－	0	144	0	－			3	3	0	0	0	14	
	Ｆ群 自然科学と社会	科学史１	1･2･3･4前			2		○								1	
		科学史２	1･2･3･4後			2		○								1	
		基礎数学１	1･2･3･4前			2		○								1	
		基礎数学２	1･2･3･4後			2		○								1	
		社会と数理１	2･3･4前			2		○								1	
		社会と数理２	2･3･4後			2		○								1	
		小計（6科目）	－	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	2	
	Ｇ群 スポーツと健康	スポーツ実習１	1前		1					○						1	
		スポーツ実習２	1後		1					○						1	
		スポーツ実習３	2･3･4前			1				○						1	
		スポーツ実習４	2･3･4後			1				○						1	
		スポーツとリベラルアーツ	2･3･4後			2		○			7	2					オムニバス
		小計（5科目）	－	－	2	4	0	－			7	2	0	0	0	2	
	Ｈ群 思考と実践	基礎演習１	1前		2				○		13	5	1	1			
		基礎演習２	1後		2				○		13	5	1	1			
		地域とボランティア	1後		2			○						1			
		ボランティア	1･2･3･4前･後			1～2				○				1			標準外
		留学 異文化研究	1･2･3前･後			1～16				○	1						標準外
		フィールド・ワーク	1･2･3･4前･後			1～2				○	1	1					標準外
		小計（6科目）	－	－	6	20	0	－			13	5	1	1	0	0	
	Ｉ群 キャリアと実践	インターンシップ	3前･後			1～2				○	1	3					標準外
		キャリア開発入門	2後			1		○			1						
		キャリア開発１	3前		2			○			1						
		キャリア開発２	3後		2			○			1						
		SPI対策１	3･4前			2		○								1	
		SPI対策２	3･4後			2		○								1	
		ビジネスマナー講座（秘書検定対策）１	2･3･4前			2		○								1	
		ビジネスマナー講座（秘書検定対策）２	2･3･4後			2		○								1	
		小計（8科目）	－	－	4	11	0	－			1	3	0	0	0	2	
小計（132科目）			－	－	18	291	0	－			14	6	1	1	0	28	
	HE群 言語と教育	検定試験準備コース（TOEIC）Ⅰ１	1前			2		○								1	
		検定試験準備コース（TOEIC）Ⅰ２	1後			2		○								1	
		観光と留学の英語１	2前			2		○								1	
		観光と留学の英語２	2後			2		○								1	
		検定試験準備コース（中国語）	1･2･3前			2		○								2	オムニバス
		児童英語教育概論１	2前			2		○				1					
		児童英語教育概論２	2後			2		○				1					
		児童英語教育実践１	2前			2		○								1	
		児童英語教育実践２	2後			2		○								1	
		児童英語指導実習論	3通			2			○			1				1	オムニバス･一部集中講義
		留学生と学ぶ日本語表現	1前			2		○								1	
		日本語学１	2前			2		○								1	
		日本語学２	2後			2		○								1	
		日本語教育学概論１	2前			2		○								1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
専門科目（コース共通）		日本語教育学概論２	2後			2		○								1	
		日本語能力試験対策クラスⅠ	1･2前			2		○								1	
		日本語能力試験対策クラスⅡ	1･2後			2		○								1	
		日本語表現Ⅰ	1･2前			2		○								1	
		日本語表現Ⅱ	1･2後			2		○								1	
		日本事情１	2前			2		○								1	
		日本事情２	2後			2		○								1	
		小計（21科目）	－	－	0	42	0	－			0	1	0	0	0	8	
	HH群 思考と実践	教育活動アクティブワーク	2前			2				○	1						
		地域学１	2前			2		○				1					
		地域学２	2後			2		○				1					
		小計（3科目）	－	－	0	6	0	－			1	1	0	0	0	0	
	HJ群 教職課程 指導法	英語教育学概論	2前			2		○								1	
		英語教材研究論	2後			2		○								1	
		英語科教科教育法１	3前			2		○								1	
		英語科教科教育法２	3後			2		○								1	
		社会科・公民科教科教育法	3前			2		○								1	
		社会科・公民科指導法	3後			2		○								1	
		社会科・地理歴史科教科教育法	3後			2		○								1	
		社会科・地理歴史科指導法	4前			2		○								1	
		小計（8科目）	－	－	0	16	0	－			0	0	0	0	0	4	
	小計（32科目）		－	－	0	64	0	－			1	2	0	0	0	12	
	歴史探究コース	国際関係史１	1前			2		○			1						隔年
		国際関係史２	1後			2		○			1						隔年
		アジア近現代史１	2前			2		○			1						
		アジア近現代史２	2後			2		○			1						
		アジア史概説	2前	○		2		○			1						
		アジア史	2後	○		2		○			1						
		アジア文化論１	2前			2		○			1						
		アジア文化論２	2後			2		○			1						
		アメリカ社会と歴史１	2前	○		2		○			1						隔年
		アメリカ社会と歴史２	2後	○		2		○			1						隔年
		アメリカ社会と歴史３	3前			2		○			1						隔年
		アメリカ社会と歴史４	3後			2		○			1						隔年
		イスラーム文化論１	2前			2		○								1	集中講義
		イスラーム文化論２	2後			2		○								1	集中講義
		キリスト教史１	2前			2		○			1						
		キリスト教史２	2後			2		○			1						
		ヨーロッパ思想史１	2前	○		2		○				1					
		ヨーロッパ思想史２	2後	○		2		○				1					
		欧米文化論１	2前			2		○			1						
		欧米文化論２	2後			2		○			1						
		音楽・音楽史１	2前			2		○								1	
		音楽・音楽史２	2後			2		○								1	
		経済史１	2前			2		○			1						
		経済史２	2後			2		○			1						
		西洋史概説	2前	○		2		○			1						
		西洋史	2後	○		2		○			1						
		日本近現代史１	2前	○		2		○				1					
		日本近現代史２	2後	○		2		○				1					
		日本思想史１	2前			2		○				1					
		日本思想史２	2後			2		○				1					

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
		倫理思想史１	2前			2		○				1					隔年
		倫理思想史２	2後			2		○				1					隔年
		歴史学フィールドワーク１	2前			2		○			2						共同･隔年
		歴史学フィールドワーク２	2前			2		○			1	1					共同･隔年
		歴史学フィールドワーク３	2前			2		○			1	1					共同･隔年
		歴史探究入門１	2前			1		○			3	1					オムニバス
		歴史探究入門２	2後			1		○			3	1					オムニバス
		歴史探究演習１	3前	○	2				○		3	1					
		歴史探究演習２	3後	○	2				○		3	1					
		歴史探究演習３	4前	○	2				○		3	1					
		歴史探究演習４	4後	○	2				○		3	1					
		卒業論文	4通	○		6				○	3	1					
		小計（42科目）	－	－	8	78	0	－			3	2	0	0	0	2	
	多文化･思想コース	聖書の世界１	1前			2		○								1	
		聖書の世界２	1後			2		○			1						
		アジア文化論１	2前			2		○			1						
		アジア文化論２	2後			2		○			1						
		イスラーム文化論１	2前			2		○								1	集中講義
		イスラーム文化論２	2後			2		○								1	集中講義
		キリスト教史１	2前			2		○			1						
		キリスト教史２	2後			2		○			1						
		ヨーロッパ思想史１	2前	○		2		○				1					
		ヨーロッパ思想史２	2後	○		2		○				1					
		異文化コミュニケーション論１	2前			2		○			1						
		異文化コミュニケーション論２	2後			2		○			1						
		英語文学１	2前	○		2		○			1						
		英語文学２	2後	○		2		○			1						
		欧米文化論１	2前			2		○			1						
		欧米文化論２	2後			2		○			1						
		児童文学１	2前			2		○			1						隔年
		児童文学２	2後			2		○			1						隔年
		地域文化論１	2前	○		2		○				1					
		地域文化論２	2後	○		2		○				1					
		比較宗教思想１	2前	○		2		○			1						
		比較宗教思想２	2後	○		2		○			1						
		文化交流論１	2前			2		○				1					
		文化交流論２	2後			2		○				1					
		文学研究１	2前	○		2		○			1						
		文学研究２	2後	○		2		○			1						
		倫理思想史１	2前			2		○				1					隔年
		倫理思想史２	2後			2		○				1					隔年
		ビジュアルアート表現１	2前			2		○								1	
		ビジュアルアート表現２	2後			2		○								1	
		ポピュラー文化論	2後	○		2		○			1						隔年
		現代哲学	3前			2		○				1					
		生命倫理学	3後			2		○				1					
		文学・文化特講１	3前			2		○			1						
		文学・文化特講２	3後			2		○			1						
		多文化・思想入門１	2前			1		○			2	2					オムニバス
		多文化・思想入門２	2後			1		○			2	2					オムニバス
		多文化・思想演習１	3前	○	2				○		2	2					
		多文化・思想演習２	3後	○	2				○		2	2					

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
専門科目（コース別）		多文化・思想演習３	4前	○	2				○		2	2					
		多文化・思想演習４	4後	○	2				○		2	2					
		卒業論文	4通	○		6				○	2	2					
		小計（42科目）	－	－	8	78	0	－			3	2	0	0	0	3	
	キャリア英語コース	英文法１	1前		2			○								1	
		英文法２	1後		2			○								1	
		通訳実践	1前			2				○		1					
		プリゼンテーション・スキルズ１	2前			2		○								1	
		プリゼンテーション・スキルズ２	2後			2		○								1	
		英語の発音１	2前			2		○								1	
		英語の発音２	2後			2		○								1	
		英語学１	2前			2		○								1	
		英語学２	2後			2		○								1	
		検定試験準備コースⅡ１	2前			2		○								1	
		検定試験準備コースⅡ２	2後			2		○								1	
		言語コミュニケーション論１	2前			2		○								1	隔年･集中講義
		言語コミュニケーション論２	2後			2		○								1	隔年･集中講義
		通訳１	2前			2		○								1	
		通訳２	2後			2		○								1	
		コミュニケーションの心理学１	3前	○		2		○			1						
		コミュニケーションの心理学２	3後	○		2		○			1						
		ビジネス英語１	3前			2		○								1	
		ビジネス英語２	3後			2		○								1	
		メディア英語１	3前			2		○			1						
		メディア英語２	3後			2		○			1						
		リテラシーとコンピテンシー１	3前	○		2		○				1					
		リテラシーとコンピテンシー２	3後	○		2		○				1					
		海外キャリア研修	3後			2				○		1					
		検定試験準備コースⅢ	3通		2				○			1					メディア
		翻訳１	3前	○		2		○				1					
		翻訳２	3後	○		2		○				1					
		ジャパン・スタディーズ	3前			2		○				1					隔年
		キャリア英語入門１	2前			1		○			1	3					オムニバス
		キャリア英語入門２	2後			1		○			1	3					オムニバス
		キャリア英語演習１	3前	○	2				○		1	3					
		キャリア英語演習２	3後	○	2				○		1	3					
		キャリア英語演習３	4前	○	2				○		1	3					
		キャリア英語演習４	4後	○	2				○		1	3					
		卒業論文	4通	○		6				○	1	3					
		小計（35科目）	－	－	14	58	0	－			1	3	0	0	0	8	
		国際関係史１	1前			2		○			1						隔年
		国際関係史２	1後			2		○			1						隔年
		マーケティング論１	2前			2		○								1	集中講義
		マーケティング論２	2後			2		○								1	集中講義
		金融論１	2前			2		○								1	
		金融論２	2後			2		○								1	
		経済史１	2前			2		○			1						
		経済史２	2後			2		○			1						
		現代企業論	2後			2		○								1	
		国際経済論１	2前			2		○								1	
		国際経済論２	2後			2		○								1	
		国際政治論１	2前	○		2		○			1						隔年

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
国際社会コース	国際政治論２	2後	○		2		○			1						隔年
	国際法１	2前	○		2		○			1						
	国際法２	2後	○		2		○			1						
	地域統合論１	2前			2		○			1						隔年
	地域統合論２	2後			2		○			1						隔年
	アニメ文化経済論	2後			2		○			1						隔年
	国際機構論１	3前			2		○			1						隔年
	国際機構論２	3後			2		○			1						隔年
	国際人権論１	3前			2		○			1						隔年
	国際人権論２	3後			2		○			1						隔年
	地域経営論１	3前	○		2		○					1				
	地域経営論２	3後	○		2		○					1				
	地域調査	3前			2		○					1				
	地球環境経済論１	3前	○		2		○			1						
	地球環境経済論２	3後	○		2		○			1						
	中小企業論	3前			2		○								1	
	平和学１	3前			2		○								1	集中講義
	平和学２	3後			2		○								1	集中講義
	国際社会入門１	2前			1		○			3						オムニバス・共同（一部）
	国際社会入門２	2後			1		○			3						オムニバス・共同（一部）
	国際社会演習１	3前	○	2				○		3						
	国際社会演習２	3後	○	2				○		3						
	国際社会演習３	4前	○	2				○		3						
	国際社会演習４	4後	○	2				○		3						
	卒業論文	4通	○		6				○	3						
	小計（37科目）	－	－	8	68	0	－			4	0	1	0	0	5	
地域経営コース	コミュニティデザイン１	1前	○	2			○					1				
	コミュニティデザイン２	1後	○	2			○					1				
	地域文化論１	2前			2		○				1					
	地域文化論２	2後			2		○				1					
	伝統文化・町並み景観論	2前			2		○					1				隔年
	地域共生社会論	2前	○		2		○			1			1			オムニバス
	福祉まちづくり論	2前			2		○						1			
	非営利組織経営	2後			2		○					1				隔年
	広報・広告コミュニケーション論	2後	○		2		○			1						隔年
	観光ビジネス論	2後			2		○					1				隔年
	マーケティング論１	2前			2		○								1	
	マーケティング論２	2後			2		○								1	
	社会起業論１	2前	○	2			○			1		1				オムニバス
	社会起業論２	2後	○	2			○			1		1				オムニバス
	簿記会計	2後			2		○								1	
	まちづくりPBL１	2前			1		○			1		1	1			オムニバス
	まちづくりPBL２	2後			1		○			1		1	1			オムニバス
	地域調査	3前			2		○					1				
	地域福祉１	3前			2		○			1						
	地域福祉２	3後			2		○			1						
	ファンドレイジング	3後			2		○			1		1				オムニバス
	ソーシャルベンチャー起業実践論１	3前			2		○			1						
	ソーシャルベンチャー起業実践論２	3後			2		○			1						
	地域経営論１	3前	○	2			○					1				
	地域経営論２	3後	○	2			○					1				
	企業経営論１	3前		2			○								1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
		企業経営論２	3後		2			○								1	
		地域経営演習１	3前	○	2				○		1		1	1			
		地域経営演習２	3後	○	2				○		1		1	1			
		地域経営演習３	4前	○	2				○		1		1	1			
		地域経営演習４	4後	○	2				○		1		1	1			
		卒業論文	4通	○		6				○	1		1	1			
		小計（32科目）	－	－	24	42	0	－			1	0	1	1	0	3	
	情報メディアコース	デジタルジャーナリズム論	1後	○		2		○			1						
		情報メディア論	1前	○		2		○			1						
		Web技術	2前			2		○								1	
		アナウンス・ナレーション実習１	2前			2				○						1	
		アナウンス・ナレーション実習２	2後			2				○						1	
		アニメ文化経済論	2後			2		○			1						隔年
		コピーライティング研究	2後			2		○								1	
		コンテンツプロデュース論	2後			2		○			1						隔年
		スマートフォンアプリ開発１	2前			2		○								1	
		スマートフォンアプリ開発２	2後			2		○								1	
		デジタルコンテンツ概論	2後	○		2		○			1						
		デジタルコンテンツ制作１	2後	○		2		○			1						隔年
		デジタルコンテンツ制作２	2後	○		2		○			1						隔年
		ポピュラー文化論	2後	○		2		○			1						隔年
		メディア産業論	2前	○		2		○			1						
		映像制作１	2前			2		○								1	集中講義
		映像制作２	2後			2		○								1	集中講義
		海外メディア事情（海外取材・研修）	2後			2				○	1						隔年･集中講義
		広報・広告コミュニケーション論	2後	○		2		○			1						隔年
		情報セキュリティ	2後			2		○								1	
		情報メディア特論１（国内取材・研修）	2後			2				○	1						隔年･集中講義
		情報メディア特論２（国内メディア研究）	2後			2				○	1						
		情報メディア特論３（eスポーツと社会）	2後			2		○			1						
		情報法	3前			2		○			1						隔年
		著作権法	3前			2		○			1						隔年
		情報メディアPBL１	2前			1				○	1						
		情報メディアPBL２	2後			1				○	1						
		情報メディア演習１	3前	○	2				○		3						
		情報メディア演習２	3後	○	2				○		3						
		情報メディア演習３	4前	○	2				○		3						
		情報メディア演習４	4後	○	2				○		3						
		卒業論文	4通	○		6				○	3						
		小計（32科目）	－	－	8	58	0	－			3	0	0	0	0	5	
	小計（191科目）		－	－	70	308	0	－			14	6	1	1	0	24	
教職課程		教育原理	2後				2	○								1	
		教職入門	1後				2	○				1					
		教育制度論	2前				2	○				1					
		発達と学習の教育心理学	2後				2	○			1						
		特別支援教育概論	3前				1	○								1	集中講義
		カリキュラム論	3前				2	○				1					
		道徳教育指導論	3前				2	○								1	
		総合的な学習の指導法	2前				1	○								1	
		特別活動論	2後				2	○								1	
		教育の方法・技術とICTの活用	3後				2	○			1						
		生徒・進路指導論	3後				2	○								1	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
	教育相談	3前				2	○			1						
	教育実習（中・高）	4前･後				4			○		1					標準外
	教育実習事前事後指導	3～4通				1	○			1	1					共同（一部）
	教職実践演習	4後				2		○		1	1					オムニバス･共同（一部）
	小計（15科目）	－	－	0	0	29	－			1	1	0	0	0	5	
合計（370科目）		－	－	88	663	29	－			14	6	1	1	0	61	

学位又は称号	学士（文学）	学位又は学科の分野	文学関係

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

○基盤科目（次の条件を満たしつつ、48単位以上修得）
必修18単位（うち基礎演習１（2単位）、基礎演習２（2単位）、キャリア開発１（2単位）、キャリア開発２（2単位）は必履修）、E群 言語とコミュニケーションについて、キャリア英語コースは英語32単位を必修、キャリア英語コース以外のコースは英語、ドイツ語、中国語いずれかの言語を8単位（英語は英語Ⅰ読む･書くと英語Ⅱ読む・書くもしくは英語Ⅰ聴く・話すと英語Ⅱ聴く・話す、ドイツ語はドイツ語Ⅰ文法とドイツ語Ⅱ文法、中国語は中国語Ⅰ文法と中国語Ⅱ文法）、日本語非母語話者はレベルに応じ48単位を上限に日本語を修得のこと。

○専門科目（主専攻32単位以上を含めて60単位以上修得）
主専攻に加えて副専攻を履修する場合、副専攻としては24単位以上修得

○卒業要件単位：124単位以上

○履修登録の上限:1学期24単位

○コース科目の必修･選択必修：

各コースとも、次の組み合わせのいずれかを選択必修とする。
・歴史探究入門１・２
・多文化･思想入門１・２
・キャリア英語入門１・２
・国際社会入門１・２
・まちづくりPBL１・２
・情報メディアPBL１・２

【歴史探究コース】
基盤科目である「日本史概説」「歴史学」「考古学１」「考古学２」から4単位選択必修、コース科目である「日本近現代史１」「日本近現代史２」「アジア史概説」「アジア史」「西洋史概説」「西洋史」「キリスト教史１」「キリスト教史２」「アメリカ社会と歴史１」「アメリカ社会と歴史２」「アジア近現代史１」「アジア近現代史２」から8単位選択必修、コース科目である「歴史探究演習1」「歴史探究演習２」「歴史探究演習３」「歴史探究演習４」（計8単位）必修

【多文化･思想コース】
基盤科目である「文学１」「文学２」「文化人類学１」「文化人類学２」「哲学１」「哲学２」から4単位選択必修、コース科目である「欧米文化論１」「欧米文化論２」「アジア文化論１」「アジア文化論２」「イスラーム文化論１」「イスラーム文化論２」「地域文化論１」「地域文化論２」「倫理思想史１」「倫理思想史２」「比較宗教思想１」「比較宗教思想２」「文学研究１」「文学研究２」「児童文学１」「児童文学２」から4単位選択必修、コース科目である「多文化･思想演習１」「多文化･思想演習２」「多文化･思想演習３」「多文化･思想演習４」（計8単位）必修

【キャリア英語コース】
コース科目である「検定試験準備コースⅢ」「英文法１」「英文法２」「キャリア英語演習１」「キャリア英語演習２」「キャリア英語演習３」「キャリア英語演習４」14単位必修、コース科目である「翻訳１」「翻訳２」「コミュニケーションの心理学１」「コミュニケーションの心理学２」「リテラシーとコンピテンシー１」「リテラシーとコンピテンシー２」「英語学１」「英語学２」「検定試験準備コースⅡ１」「検定試験準備コースⅡ２」から4単位選択必修

【国際社会コース】
基盤科目である「経済学１」「経済学２」「政治学１」「政治学２」「日本国憲法１」「日本国憲法２」から4単位選択必修、コース科目である「地球環境経済論１」「地球環境経済論２」「国際政治論１」「国際政治論２」「国際経済論１」「国際経済論２」「国際法１」「国際法２」から6単位選択必修、コース科目である「国際社会演習１」「国際社会演習２」「国際社会演習３」「国際社会演習４」（計8単位）必修

【地域経営コース】
基盤科目である「経営学１」「経営学２」の2科目必修、コース科目である「コミュニティデザイン１」「コミュニティデザイン２」「社会起業論１」「社会起業論２」「企業経営論１」「企業経営論２」「地域経営論1」「地域経営論2」「地域経営演習１」「地域経営演習２」「地域経営演習３」「地域経営演習４」の24単位必修、コース科目である「地域調査」「地域共生社会論」「地域福祉１」「地域福祉２」「ファンドレイジング」「非営利組織経営」「ソーシャルベンチャー起業実践論１」「ソーシャルベンチャー起業実践論２」から8単位選択必修

【情報メディアコース】
基盤科目である「時事問題研究１」「時事問題研究２」から1科目選択必修、基盤科目である「情報技術資格対策（ITパスポート）」を必履修、コース科目である「メディア産業論」「デジタルコンテンツ概論」「情報メディア論」「デジタルジャーナリズム論」から4単位選択必修、コース科目である「デジタルコンテンツ制作１」「デジタルコンテンツ制作２」「映像制作１」「映像制作２」「スマートフォンアプリ開発１」「スマートフォンアプリ開発２」「アナウンスナレーション実習１」「アナウンスナレーション実習２」から1科目選択必修、コース科目である「情報メディア演習１」「情報メディア演習２」「情報メディア演習３」「情報メディア演習４」（計8単位）必修

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（既設　人文学部英語文化コミュニケーション学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
	A群 宗教と思想	キリスト教学１	1前	2			○			1					
		キリスト教学２	1後	2			○			1					
		哲学１	1･2･3･4前		2		○					1			
		哲学２	1･2･3･4後		2		○					1			
		共生の哲学１	2前		2		○			1					
		共生の哲学２	2後		2		○			1					
		文学１	1･2･3･4前		2		○			3		1			隔年･オムニバス
		文学２	1･2･3･4後		2		○			3		1			隔年･オムニバス
		小計（8科目）	－	4	12	0	－			4	0	1	0	0	兼0
	B群 人間行動と歴史	心理学１	1･2･3･4前		2		○			1					
		心理学２	1･2･3･4後		2		○			1					
		文化人類学１	1･2･3･4前		2		○				1				
		文化人類学２	1･2･3･4後		2		○				1				
		日本史概説	1･2･3･4前		2		○				1				
		歴史学	1･2･3･4後		2		○				1				
		考古学１	1･2･3･4前		2		○								兼1
		考古学２	1･2･3･4後		2		○								兼1
		小計（8科目）	－	0	16	0	－			1	2	0	0	0	兼1
	C群 人間と社会	政治学１	1･2･3･4前		2		○			1					
		政治学２	1･2･3･4後		2		○			1					
		経済学１	1･2･3･4前		2		○			1					
		経済学２	1･2･3･4後		2		○			1					
		経営学１	1･2･3･4前		2		○								兼1
		経営学２	1･2･3･4後		2		○								兼1
		日本国憲法１	1･2･3･4前		2		○			1					
		日本国憲法２	1･2･3･4後		2		○			1					
		法学１	1･2･3･4前		2		○								兼1
		法学２	1･2･3･4後		2		○								兼1
		社会学１	1･2･3･4前		2		○								兼1　集中
		社会学２	1･2･3･4後		2		○								兼1　メディア
		人文地理学	2･3･4前		2		○								兼1
		自然地理学	2･3･4後		2		○								兼1　集中
		小計（14科目）	－	0	28	0	－			3	0	0	0	0	兼5
	D群 情報とコンピュータ･サイエンス	コンピュータリテラシー	1前・後	2			○			1					兼1
		情報技術資格対策（Word2019）	1･2･3･4前・後		2		○								兼1　集中
		情報技術資格対策（Excel2019）	1･2･3･4前・後		2		○								兼1　集中
		情報技術資格対策（ITパスポート）	2前		4		○			1					
		データサイエンス入門	2･3･4前		2		○			1					
		情報技術資格対策（デジタルコンテンツ制作）	2･3･4前		2		○			1					隔年
		AIリテラシー	2･3･4後		2		○			1					
		小計（7科目）	－	2	14	0	－			2	0	0	0	0	兼2
		ＫＥＥＰ　Ａ１（英語読む・書く）Foundations	1前		4		○			1					
		ＫＥＥＰ　Ａ１（英語読む・書く）General	1前		4		○								兼1
		ＫＥＥＰ　Ａ１（英語読む・書く）Intermediate	1前		4		○								兼1
		ＫＥＥＰ　Ａ１（英語読む・書く）Advanced	1前		4		○				1				
		ＫＥＥＰ　Ａ２（英語読む・書く）Foundations	1後		4		○			1	1				
		ＫＥＥＰ　Ａ２（英語読む・書く）General	1後		4		○								兼1
		ＫＥＥＰ　Ａ２（英語読む・書く）Intermediate	1後		4		○								兼1
		ＫＥＥＰ　Ａ２（英語読む・書く）Advanced	1後		4		○				1				
		ＫＥＥＰ　Ｂ１（英語聴く・話す）Foundations	1前		4		○				1				
		ＫＥＥＰ　Ｂ１（英語聴く・話す）General	1前		4		○					1			兼1
		ＫＥＥＰ　Ｂ１（英語聴く・話す）Intermediate	1前		4		○								兼1
		ＫＥＥＰ　Ｂ１（英語聴く・話す）Advanced	1前		4		○					1			
		ＫＥＥＰ　Ｂ２（英語聴く・話す）Foundations	1後		4		○				1				
		ＫＥＥＰ　Ｂ２（英語聴く・話す）General	1後		4		○					1			兼1
		ＫＥＥＰ　Ｂ２（英語聴く・話す）Intermediate	1後		4		○								兼1
		ＫＥＥＰ　Ｂ２（英語聴く・話す）Advanced	1後		4		○					1			
		中国語Ⅰ―文法１	1前		4		○			1					
		中国語Ⅰ―文法２	1後		4		○			1					
		中国語Ⅰ―読む・書く１	1前		2		○								兼1
		中国語Ⅰ―読む・書く２	1後		2		○								兼1
共通		中国語Ⅰ―聴く・話す１	1前		2		○								兼1

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（既設　人文学部英語文化コミュニケーション学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
連基礎科目	E群 言語とコミュニケーション	中国語Ⅰ―聴く・話す２	1後		2		○								兼1
		中国語Ⅱ―文法１	2前		2		○								兼1
		中国語Ⅱ―文法２	2後		2		○								兼1
		中国語Ⅱ―読む・書く１	2前		2		○								兼1
		中国語Ⅱ―読む・書く２	2後		2		○								兼1
		中国語Ⅱ―聴く・話す１	2前		2		○								兼1
		中国語Ⅱ―聴く・話す２	2後		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅰ―文法１	1前		4		○					1			
		ドイツ語Ⅰ―文法２	1後		4		○					1			
		ドイツ語Ⅰ―読む・書く１	1前		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅰ―読む・書く２	1後		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅰ―聴く・話す１	1前		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅰ―聴く・話す２	1後		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅱ―文法１	2前		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅱ―文法２	2後		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅱ―読む・書く１	2前		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅱ―読む・書く２	2後		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅱ―聴く・話す１	2前		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅱ―聴く・話す２	2後		2		○								兼1
		フランス語Ⅰ―読む・書く１	1前		2		○								兼1
		フランス語Ⅰ―読む・書く２	1後		2		○								兼1
		フランス語Ⅰ―聴く・話す１	1前		2		○								兼1
		フランス語Ⅰ―聴く・話す２	1後		2		○								兼1
		フランス語Ⅱ―読む・書く１	2前		2		○								兼1
		フランス語Ⅱ―読む・書く２	2後		2		○								兼1
		フランス語Ⅱ―聴く・話す１	2前		2		○								兼1
		フランス語Ⅱ―聴く・話す２	2後		2		○								兼1
		日本語Ⅰ―読む・書く	1･2前		4		○					1			
		日本語Ⅰ―聴く・話す	1･2前		4		○								兼1
		日本語Ⅱ―読む・書く	1･2後		4		○					1			
		日本語Ⅱ―聴く・話す	1･2後		4		○								兼1
		日本語Ⅲ―読む・書く	1･2前		2		○					1			
		日本語Ⅲ―聴く・話す	1･2前		2		○					1			
		日本語Ⅳ―読む・書く	1･2後		2		○					1			
		日本語Ⅳ―聴く・話す	1･2後		2		○					1			
		小計（56科目）	－	0	160	0	－			2	3	3	0	0	兼13
	F群 スポーツと健康	スポーツ実習１	1前	1					○	1					
		スポーツ実習２	1後	1					○	1					
		スポーツ実習３	2前		1				○						兼1
		スポーツ実習４	2後		1				○						兼1
		スポーツとリベラルアーツ	2･3･4後		2		○			9	2	1			
		小計（5科目）	－	2	4	0	－			10	2	1	0	0	兼1
	G群 思考と実践	基礎演習	1前	2				○		14	6	1			
		ボランティア論	1前	2			○			1					
		ボランティア	1･2･3･4前･後		1～2				○				1		
		地域学入門	1後	1			○				1				
		サービスラーニング	1･2･3前･後		1～2				○	2	1				
		サービスラーニング（卒）１	4前		2				○	2	1				
		サービスラーニング（卒）２	4後		2				○	2	1				
		インターンシップ	1･2･3･4･前･後		1～2				○	1	1	1			
		キャリア開発入門	2後		1		○			1					
		キャリア開発１	3前		2		○			1					
		キャリア開発２	3後		2		○			1					
		チャペル・アッセンブリ・アワー１	1前		1		○			1					
		チャペル・アッセンブリ・アワー２	1後		1		○			1					
		チャペル・アッセンブリ・アワー３	2前		1		○			1					
		チャペル・アッセンブリ・アワー４	2後		1		○			1					
		チャペル・アッセンブリ・アワー５	3前		1		○			1					
		チャペル・アッセンブリ・アワー６	3後		1		○			1					
		チャペル・アッセンブリ・アワー７	4前		1		○			1					
		チャペル・アッセンブリ・アワー８	4後		1		○			1					
		基礎数学１	1･2･3･4前		2		○								兼1

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（既設　人文学部英語文化コミュニケーション学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
			基礎数学２	1･2･3･4後		2		○								兼1
			小計（21科目）	－	5	27	0	－			15	6	1	1	0	兼1
	小計（119科目）			－	13	261	0	－			17	7	3	1	0	兼23
共通専門科目		ＨＧ群	地域学１	2前		2		○				1				
			地域学２	2後		2		○				1				
			地域学研究	4通		4		○			2	1				
			教育活動アクティブワーク	2前		2				○	1					
			小計（4科目）	－	0	10	0	－			3	1	0	0	0	兼0
		ＨＥ群	英語コミュニケーション・スキルズ Ａ１（Intermediate）	2前		4		○								兼1
			英語コミュニケーション・スキルズ Ａ１（Advanced）	2前		4		○					1			
			英語コミュニケーション・スキルズ Ａ２（Intermediate）	2後		4		○								兼1
			英語コミュニケーション・スキルズ Ａ２（Advanced）	2後		4		○					1			
			英語コミュニケーション・スキルズ Ｂ１（Intermediate）	2前		4		○								兼1
			英語コミュニケーション・スキルズ Ｂ１（Advanced）	2前		4		○				1				
			英語コミュニケーション・スキルズ Ｂ２（Intermediate）	2後		4		○								兼1
			英語コミュニケーション・スキルズ Ｂ２（Advanced）	2後		4		○				1				
			検定試験準備コース(TOEIC)Ｉ１	1前		2		○								兼1
			検定試験準備コース(TOEIC)Ｉ２	1後		2		○								兼1
			検定試験準備コース（英語検定２級）	1前		2		○								兼1
			観光と留学の英語１	2前		2		○					1			
			観光と留学の英語２	2後		2		○					1			
			小計（13科目）	－	0	42	0	－			0	1	1	0	0	兼4
		ＨＦ群	留学生と学ぶ日本語表現	1前		2		○					1			
			日本語表現Ⅰ	2前		2		○								兼1
			日本語表現Ⅱ	2後		2		○								兼1
			日本語能力試験対策クラスⅠ	2前		2		○					1			
			日本語能力試験対策クラスⅡ	2後		2		○					1			
			日本語教育学概論１	2前		2		○					1			
			日本語教育学概論２	2後		2		○					1			
			日本語学１	2前		2		○								兼1
			日本語学２	2後		2		○								兼1
			日本事情１	2前		2		○					1			
			日本事情２	2後		2		○					1			
			フランス語Ⅲ－読む・書く１	3前		2		○								兼1
			フランス語Ⅲ－読む・書く２	3後		2		○								兼1
			フランス語Ⅲ－聴く・話す１	3前		2		○								兼1
			フランス語Ⅲ－聴く・話す２	3後		2		○								兼1
			ドイツ語Ⅲ－読む・書く１	3前		2		○								兼1
			ドイツ語Ⅲ－読む・書く２	3後		2		○								兼1
			ドイツ語Ⅲ－聴く・話す１	3前		2		○								兼1
			ドイツ語Ⅲ－聴く・話す２	3後		2		○								兼1
			中国語Ⅲ－読む・書く１	3前		2		○								兼1
			中国語Ⅲ－読む・書く２	3後		2		○								兼1
			中国語Ⅲ－聴く・話す１	3前		2		○								兼1
			中国語Ⅲ－聴く・話す２	3後		2		○								兼1
			言語学１	3前		2		○				1				
			言語学２	3後		2		○				1				
			小計（25科目）	－	0	50	0	－			0	1	1	0	0	兼8
	小計（42科目）			－	0	102	0	－			3	3	2	0	0	兼12
	入門科目	各コース共通	コミュニケーション入門	1後	2			○			3	4				
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			3	4	0	0	0	兼0
	基幹科目	各コース共通	英文法１	1前	2			○				1				兼1
			英文法２	1後	2			○				1				兼1
			講読１	2前		2		○			1					
			講読２	2後		2		○			1					
			文化交流論１	2前		2		○				1				
			文化交流論２	2後		2		○				1				
			小計（6科目）	－	4	8	0	－			1	2	0	0	0	兼1
			英語学１	2前	2			○				1				
			英語学２	2後	2			○				1				
			英語の発音１	2前		2		○								兼1

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（既設　人文学部英語文化コミュニケーション学科）

科目区分				授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
	英語教育コース	開展科目	中学校・高等学校の教員をめざす	英語の発音２	2後		2		○								兼1	
				英語文学１	2前		2		○			1						
				英語文学２	2後		2		○			1						
				文学研究Ａ１	2前		2		○			1						
				文学研究Ａ２	2後		2		○			1						
				文学研究Ｂ１	2前		2		○			1						
				文学研究Ｂ２	2後		2		○			1						
				言語コミュニケーション論１	2前		2		○								兼1	隔年･集中
				言語コミュニケーション論２	2後		2		○								兼1	隔年･集中
				異文化コミュニケーション論１	2前		2		○			1						
				異文化コミュニケーション論２	2後		2		○			1						
				コミュニケーションの心理学１	2前		2		○			1						
				コミュニケーションの心理学２	2後		2		○			1						
				英語教育学概論	2前	2			○								兼1	
				英語教材研究論	2後	2			○								兼1	
				メディア英語１	3前		2		○			1						
				メディア英語２	3後		2		○			1						
				英語文化圏研究１	3前		2		○			1						隔年
				英語文化圏研究２	3後		2		○			1						隔年
				アメリカ社会と歴史１	3前		2		○			1						隔年
				アメリカ社会と歴史２	3後		2		○			1						隔年
				英語科教科教育法１	3前	2			○								兼1	
				英語科教科教育法２	3後	2			○								兼1	
				英語教採準備コース	3後		2		○								兼1	
				英語科授業研究	4前	2			○								兼1	
				小計（28科目）	－	14	42	0	－			4	1	0	0	0	兼5	
			小学校の教員をめざす（本学における中・高の免許状＋玉川大学通信教育部との連携	英語学１	2前	2			○				1					
				英語学２	2後	2			○				1					
				英語の発音１	2前		2		○								兼1	
				英語の発音２	2後		2		○								兼1	
				英語文学１	2前		2		○			1						
				英語文学２	2後		2		○			1						
				文学研究Ａ１	2前		2		○			1						
				文学研究Ａ２	2後		2		○			1						
				文学研究Ｂ１	2前		2		○			1						
				文学研究Ｂ２	2後		2		○			1						
				言語コミュニケーション論１	2前		2		○								兼1	隔年･集中
				言語コミュニケーション論２	2後		2		○								兼1	隔年･集中
				異文化コミュニケーション論１	2前		2		○			1						
				異文化コミュニケーション論２	2後		2		○			1						
				コミュニケーションの心理学１	2前		2		○			1						
				コミュニケーションの心理学２	2後		2		○			1						
				英語教育学概論	2前	2			○								兼1	
				英語教材研究論	2後	2			○								兼1	
				メディア英語１	3前		2		○			1						
				メディア英語２	3後		2		○			1						
				英語文化圏研究１	3前		2		○			1						隔年
				英語文化圏研究２	3後		2		○			1						隔年
				アメリカ社会と歴史１	3前		2		○			1						隔年
				アメリカ社会と歴史２	3後		2		○			1						隔年
				英語科教科教育法１	3前	2			○								兼1	
				英語科教科教育法２	3後	2			○								兼1	
				英語教採準備コース	3後		2		○								兼1	
				英語科授業研究	4前	2			○								兼1	
				小計（28科目）	－	14	42	0	－			4	1	0	0	0	兼4	
			本学児童英語教育プログラ	英語の発音１	2前		2		○								兼1	
				英語の発音２	2後		2		○								兼1	
				文学研究Ａ１	2前		2		○			1						
				文学研究Ａ２	2後		2		○			1						
				文学研究Ｂ１	2前		2		○			1						
				文学研究Ｂ２	2後		2		○			1						
				児童文学１	2前		2		○			1						隔年

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（既設　人文学部英語文化コミュニケーション学科）

科目区分				授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
学科専門科目	キャリアコミュニケーション・コース		ム修了証の取得をめざす	児童文学２	2後		2		○			1						隔年
				児童英語教育概論１	2前	2			○				1					
				児童英語教育概論２	2後	2			○				1					
				児童英語教育実践１	2前	2			○								兼1	
				児童英語教育実践２	2後	2			○								兼1	
				児童英語指導実習論	3通	2			○				1				兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
				小計（13科目）	－	10	16	0	－			2	1	0	0	0	兼2	
		演習科目	各コース共通	入門演習	1後	2				○		3	4					
				コミュニケーション演習１	2前	2				○		3	4					
				コミュニケーション演習２	2後	2				○		3	4					
				コミュニケーション演習３	3前	2				○		3	4					
				コミュニケーション演習４	3後	2				○		3	4					
				コミュニケーション演習５	4前		2			○		3	4					
				コミュニケーション演習６	4後		2			○		3	4					
				小計（7科目）	－	10	4	0	－			3	4	0	0	0	兼0	
			各コース共通	卒業論文	4通		6				○	3	4					
				小計（1科目）	－	0	6	0	－			3	4	0	0	0	兼0	
		入門科目	各コース共通	コミュニケーション入門	1後	2			○			3	4					
				小計（1科目）	－	2	0	0	－			3	4	0	0	0	兼0	
		基幹科目	各コース共通	英文法１	1前	2			○				1				兼1	
				英文法２	1後	2			○				1				兼1	
				講読１	2前		2		○			1						
				講読２	2後		2		○			1						
				文化交流論１	2前		2		○				1					
				文化交流論２	2後		2		○				1					
				小計（6科目）	－	4	8	0	－			1	2	0	0	0	兼1	
		展開科目	キャリアコミュニケーション	通訳実践	1前		2				○		1					
				検定試験準備コース（英語検定準1級）	1後		2		○								兼1	
				検定試験準備コース（TOEIC）Ⅱ１	2前		2		○								兼1	
				検定試験準備コース（TOEIC）Ⅱ２	2後		2		○								兼1	
				ビジネス英語１	2前		2		○								兼1	
				ビジネス英語２	2後		2		○								兼1	
				通訳（入門）１	2前		2		○								兼1	
				通訳２	2後		2		○								兼1	
				翻訳（入門）１	2前		2		○			1						
				翻訳２	2後		2		○			1						
				プリゼンテーション・スキルズ１	2前		2		○								兼1	
				プリゼンテーション・スキルズ２	2後		2		○								兼1	
				リテラシーとコンピテンシー１	2前		2		○				1					
				リテラシーとコンピテンシー２	2後		2		○				1					
				海外キャリア研修	2後		2				○		1					
				観光キャリア英語１	3前		2		○				1					
				観光キャリア英語２	3後		2		○				1					
				メディア英語１	3前		2		○			1						
				メディア英語２	3後		2		○			1						
				グローバル・イシューズ１	3前		2		○				1					
				グローバル・イシューズ２	3後		2		○				1					
				国際経済論１	2前		2		○								兼1	
				国際経済論２	2後		2		○								兼1	
				まちづくり論１	3前		2		○								兼8	オムニバス
				まちづくり論２	3後		2		○								兼8	オムニバス
				小計（25科目）	－	0	50	0	－			2	3	0	0	0	兼22	
		演習科目	各コース共通	入門演習	1後	2				○		3	4					
				コミュニケーション演習１	2前	2				○		3	4					
				コミュニケーション演習２	2後	2				○		3	4					
				コミュニケーション演習３	3前	2				○		3	4					
				コミュニケーション演習４	3後	2				○		3	4					
				コミュニケーション演習５	4前		2			○		3	4					
				コミュニケーション演習６	4後		2			○		3	4					
				小計（7科目）	－	10	4	0	－			3	4	0	0	0	兼0	
			各コース共通	卒業論文	4通		6				○	3	4					
				小計（1科目）	－	0	6	0	－			3	4	0	0	0	兼0	

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（既設　人文学部英語文化コミュニケーション学科）

科目区分				授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
文学・文化コース		入門科目	各コース共通	コミュニケーション入門	1後	2			○			3	4					
				小計（1科目）	－	2	0	0	－			3	4	0	0	0	兼0	
		基幹科目	各コース共通	英文法１	1前	2			○				1				兼1	
				英文法２	1後	2			○				1				兼1	
				講読１	2前		2		○			1						
				講読２	2後		2		○			1						
				文化交流論１	2前		2		○				1					
				文化交流論２	2後		2		○				1					
				小計（6科目）	－	4	8	0	－			1	2	0	0	0	兼1	
		展開科目		言語コミュニケーション論１	2前		2		○								兼1	隔年･集中
				言語コミュニケーション論２	2後		2		○								兼1	隔年･集中
				異文化コミュニケーション論１	2前		2		○			1						
				異文化コミュニケーション論２	2後		2		○			1						
				海外キャリア研修	2後		2				○		1					
				リテラシーとコンピテンシー１	2前		2		○				1					
				リテラシーとコンピテンシー２	2後		2		○				1					
				メディア英語１	3前		2		○			1						
				メディア英語２	3後		2		○			1						
				英語文学１	2前		2		○			1						
				英語文学２	2後		2		○			1						
				英語文化圏研究１	3前		2		○			1						隔年
				英語文化圏研究２	3後		2		○			1						隔年
				アメリカ社会と歴史１	3前		2		○			1						隔年
				アメリカ社会と歴史２	3後		2		○			1						隔年
			グローバル・スタディーズ/異文化理解	グローバル・イシューズ１	3前		2		○				1					
				グローバル・イシューズ２	3後		2		○				1					
				カレント・イシューズ１	3前		2		○					1				
				カレント・イシューズ２	3後		2		○					1				
				ジャパン・スタディーズ１	3前		2		○				1					
				ジャパン・スタディーズ２	3後		2		○				1					
				日本文化論１	2前		2		○					1				隔年･集中
				日本文化論２	2後		2		○					1				隔年･集中
				日本近現代史１	2前		2		○								兼1	
				日本近現代史２	2後		2		○								兼1	
				国際協力論１	3前		2		○								兼1	集中
				国際協力論２	3後		2		○								兼1	集中
				アジア史概説	2前		2		○								兼1	
				アジア史	2後		2		○								兼1	
				ドイツ語文化圏研究１	2前		2		○								兼1	
				ドイツ語文化圏研究２	2後		2		○								兼1	
				イスラーム文化圏研究１	2前		2		○								兼1	集中
				イスラーム文化圏研究２	2後		2		○								兼1	集中
				ヨーロッパ文化論１	2前		2		○								兼1	
				ヨーロッパ文化論２	2後		2		○								兼1	
				小計（35科目）	－	0	70	0	－			3	3	2	0	0	兼7	
				英語文学１	2前		2		○			1						
				英語文学２	2後		2		○			1						
				文学研究Ａ１	2前		2		○			1						
				文学研究Ａ２	2後		2		○			1						
				文学研究Ｂ１	2前		2		○			1						
				文学研究Ｂ２	2後		2		○			1						
				児童文学１	2前		2		○			1						隔年
				児童文学２	2後		2		○			1						隔年
				英語の発音１	2前		2		○								兼1	
				英語の発音２	2後		2		○								兼1	
				現代文学・文化論１	2前		2		○			1						
				現代文学・文化論２	2後		2		○			1						
				アメリカ現代社会１	2前		2		○								兼1	
				アメリカ現代社会２	2後		2		○								兼1	
				プリゼンテーション・スキルズ１	2前		2		○								兼1	
				プリゼンテーション・スキルズ２	2後		2		○								兼1	
			文学と	ヨーロッパ文化論１	2前		2		○								兼1	

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（既設　人文学部英語文化コミュニケーション学科）

科目区分				授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
			文学と表現	ヨーロッパ文化論２	2後		2		○								兼1	
				キリスト教史１	2前		2		○								兼1	
				キリスト教史２	2後		2		○								兼1	
				音楽・音楽史１	2前		2		○								兼1	
				音楽・音楽史２	2後		2		○								兼1	
				映像制作１	2前		2		○								兼1	集中
				映像制作２	2後		2		○								兼1	集中
				視覚芸術論１	2前		2		○								兼1	
				視覚芸術論２	2後		2		○								兼1	
				死生学１	2前		2		○								兼1	
				死生学２	2後		2		○								兼1	
				メディア産業論	2前		2		○								兼1	
				アニメ文化経済論	2後		2		○								兼1	
				コピーライティング研究	2後		2		○								兼1	
				広報・広告コミュニケーション論	2後		2		○								兼1	
				デジタルコンテンツ概論	2前		2		○								兼1	
				コンテンツプロデュース論	2後		2		○								兼1	
				小計（34科目）	－	0	68	0	－			2	0	0	0	0	兼11	
		演習科目	各コース共通	入門演習	1後	2				○		3	4					
				コミュニケーション演習１	2前	2				○		3	4					
				コミュニケーション演習２	2後	2				○		3	4					
				コミュニケーション演習３	3前	2				○		3	4					
				コミュニケーション演習４	3後	2				○		3	4					
				コミュニケーション演習５	4前		2			○		3	4					
				コミュニケーション演習６	4後		2			○		3	4					
				小計（7科目）	－	10	4	0	－			3	4	0	0	0	兼0	
			各コース共通	卒業論文	4通		6				○	3	3					
				小計（1科目）	－	0	6	0	－			3	4	0	0	0	兼0	
	小計（111科目）				－	40	186	0	－			4	4	2	0	0	兼42	
教職課程科目		教育の基礎的理解に関する科目		教職入門	1後			2	○				1					
				教育原理	2後			2	○								兼1	
				教育制度論	2前			2	○				1					
				発達と学習の教育心理学	2後			2	○			1						
				特別支援教育概論	3前			1	○								兼1	集中
				カリキュラム論	3前			2	○				1					
				小計（6科目）	－	0	0	11	－			1	1				兼2	
		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		道徳教育指導論	3前			2	○								兼1	
				総合的な学習の指導法	2前			1	○								兼1	
				特別活動論	2後			2	○								兼1	
				教育の方法･技術とICTの活用	3後			2	○			1						
				生徒・進路指導論	3後			2	○								兼1	
				教育相談	3前			2	○			1						
				小計（6科目）	－	0	0	11	－			1	0	0	0	0	兼4	
		教育実践に関する科目		教育実習（中･高）	4前･後		4				○		1					
				教育実習事前事後指導	3～4通			1	○			1	1					オムニバス
				教職実践演習	4後			2		○		1	1					オムニバス
				小計（3科目）	－	0	4	3	－			1	1	0	0	0	兼0	
	小計（15科目）				－	0	4	25	－			1	1	0	0	0	兼5	
合計（287科目）					－	53	553	25	－			17	7	3	1	0	兼70	

学位又は称号	学士（文学）	学位又は学科の分野	文学関係

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（既設　人文学部英語文化コミュニケーション学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

共通基礎科目から48単位以上、共通専門科目、学科専門科目から60単位以上、自由科目から16単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。
124単位には以下のとおり必修単位および選択必修単位がある。
〇共通基礎科目については、「キリスト教学1･2（各2単位）」「コンピュータリテラシー（2単位）」「KEEP A1･2（各4単位）」「KEEP B1･2（各4単位）」「スポーツ実習1･2（各1単位）」「基礎演習（2単位）」「ボランティア論（2単位）」「地域学入門（1単位）」の29単位が必修（うち、「基礎演習」は必履修科目）
〇共通専門科目については、HE群から16単位上選択必修（この内8単位以上は英語コミュニケーション･スキルズ科目から修得のこと）。但し、共通基礎科目E群におけるKEEP科目の修得レベルにより、修得済みレベルより上位レベルのKEEP科目から16単位修得に代えることができる。
〇学科専門科目については、コース毎に以下の修得条件を設けている。
・英語教育コース　中学校教諭一種免許状（英語）･高等学校教諭一種免許状取得（英語）または本学児童英語教育プログラムにおいて39単位以上修得
・キャリアコミュニケーション･コース　「キャリアコミュニケーション」領域科目から20単位以上選択必修
・文学･文化コース　「グローバル･スタディーズ/異文化理解」領域科目から16単位以上選択必修または「文学と表現」領域科目から16単位上選択必修
いずれのコースにおいても「コミュニケーション入門（2単位）」「英文法1･2（各2単位）」「入門演習（2単位）」「コミュニケーション演習1・2・3・4（各2単位）」の16単位が必修
※上記の他、更に以下のとおり選択必修とする。
（1）以下の科目から4単位以上
「卒業論文（6単位）」「コミュニケーション演習5（2単位）」「コミュニケーション演習6（2単位）」「歴史学演習5（2単位）」「歴史学演習6（2単位）」「文化論演習5（2単位）」「文化論演習6（2単位）」「現代社会演習5（2単位）」「現代社会演習6（2単位）」「情報メディア演習5（2単位）」「情報メディア演習6（2単位）」「ソーシャルマネジメント演習5（2単位）」「ソーシャルマネジメント演習6（2単位）」「サービスラーニング1（卒）（2単位）」「サービスラーニング2（卒）（2単位）」「地域学研究（4単位）」
（2）以下の科目から2単位以上
「インターンシップ（1～2単位）」「ボランティア（1～2単位）」「サービスラーニング（1～2単位）」「通訳実践（2単位）」「留学 異文化研究（1～16単位）」「現代メディア特論1（国内取材･研修）（2単位）」「情報メディア特論2（国内メディア研究）（2単位）」「他大学専門科目（沖縄キリスト教学院大学への留学）（1～60単位）」「情報メディアPBL1（2単位）」「情報メディアPBL2（2単位）」「歴史学フィールドワーク1（2単位）」「歴史学フィールドワーク2（2単位）」「歴史学フィールドワーク3（2単位）」「フィールド･トレーニング1（2単位）」「フィールド･トレーニング2（2単位）」「フィールド･トレーニング事前事後指導1（1単位）」「フィールド･トレーニング事前事後指導2（1単位）」「海外メディア事情（海外取材･研修）（2単位）」「海外キャリア研修（2単位）」「海外福祉研修（2単位）」
（履修科目の登録の上限:24単位（1学期））

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（既設　人文学部国際文化学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
	A群 宗教と思想	キリスト教学１	1前	2			○			1						
		キリスト教学２	1後	2			○			1						
		哲学１	1･2･3･4前		2		○					1				
		哲学２	1･2･3･4後		2		○					1				
		共生の哲学１	2前		2		○			1						
		共生の哲学２	2後		2		○			1						
		文学１	1･2･3･4前		2		○			3		1				隔年･オムニバス
		文学２	1･2･3･4後		2		○			3		1				隔年･オムニバス
		小計（8科目）	－	4	12	0	－			4	0	1	0	0	兼0	
	B群 人間行動と歴史	心理学１	1･2･3･4前		2		○			1						
		心理学２	1･2･3･4後		2		○			1						
		文化人類学１	1･2･3･4前		2		○				1					
		文化人類学２	1･2･3･4後		2		○				1					
		日本史概説	1･2･3･4前		2		○				1					
		歴史学	1･2･3･4後		2		○				1					
		考古学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		考古学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		小計（8科目）	－	0	16	0	－			1	2	0	0	0	兼1	
	C群 人間と社会	政治学１	1･2･3･4前		2		○			1						
		政治学２	1･2･3･4後		2		○			1						
		経済学１	1･2･3･4前		2		○			1						
		経済学２	1･2･3･4後		2		○			1						
		経営学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		経営学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		日本国憲法１	1･2･3･4前		2		○			1						
		日本国憲法２	1･2･3･4後		2		○			1						
		法学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	
		法学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		社会学１	1･2･3･4前		2		○								兼1	集中
		社会学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	メディア
		人文地理学	2･3･4前		2		○								兼1	
		自然地理学	2･3･4後		2		○								兼1	集中
		小計（14科目）	－	0	28	0	－			3	0	0	0	0	兼5	
	D群 情報とコンピュータ･サイエンス	コンピュータリテラシー	1前・後	2			○			1					兼1	
		情報技術資格対策（Word2019）	1･2･3･4前・後		2		○								兼1	集中
		情報技術資格対策（Excel2019）	1･2･3･4前・後		2		○								兼1	集中
		情報技術資格対策（ITパスポート）	2前		4		○			1						
		データサイエンス入門	2･3･4前		2		○			1						
		情報技術資格対策（デジタルコンテンツ制作）	2･3･4前		2		○			1						隔年
		AIリテラシー	2･3･4後		2		○			1						
		小計（7科目）	－	2	14	0	－			2	0	0	0	0	兼2	
共通		ＫＥＥＰ Ａ１（英語読む・書く）Foundations	1前		4		○			1						
		ＫＥＥＰ Ａ１（英語読む・書く）General	1前		4		○								兼1	
		ＫＥＥＰ Ａ１（英語読む・書く）Intermediate	1前		4		○								兼1	
		ＫＥＥＰ Ａ１（英語読む・書く）Advanced	1前		4		○				1					
		ＫＥＥＰ Ａ２（英語読む・書く）Foundations	1後		4		○			1	1					
		ＫＥＥＰ Ａ２（英語読む・書く）General	1後		4		○								兼1	
		ＫＥＥＰ Ａ２（英語読む・書く）Intermediate	1後		4		○								兼1	
		ＫＥＥＰ Ａ２（英語読む・書く）Advanced	1後		4		○				1					
		ＫＥＥＰ Ｂ１（英語聴く・話す）Foundations	1前		4		○				1					
		ＫＥＥＰ Ｂ１（英語聴く・話す）General	1前		4		○					1			兼1	
		ＫＥＥＰ Ｂ１（英語聴く・話す）Intermediate	1前		4		○								兼1	
		ＫＥＥＰ Ｂ１（英語聴く・話す）Advanced	1前		4		○					1				
		ＫＥＥＰ Ｂ２（英語聴く・話す）Foundations	1後		4		○				1					
		ＫＥＥＰ Ｂ２（英語聴く・話す）General	1後		4		○					1			兼1	
		ＫＥＥＰ Ｂ２（英語聴く・話す）Intermediate	1後		4		○								兼1	
		ＫＥＥＰ Ｂ２（英語聴く・話す）Advanced	1後		4		○					1				
		中国語Ⅰ―文法１	1前		4		○			1						
		中国語Ⅰ―文法２	1後		4		○			1						
		中国語Ⅰ―読む・書く１	1前		2		○								兼1	
		中国語Ⅰ―読む・書く２	1後		2		○								兼1	
		中国語Ⅰ―聴く・話す１	1前		2		○								兼1	

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（既設　人文学部国際文化学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
連基礎科目	E群 言語とコミュニケーション	中国語Ⅰ―聴く・話す２	1後		2		○								兼1
		中国語Ⅱ―文法１	2前		2		○								兼1
		中国語Ⅱ―文法２	2後		2		○								兼1
		中国語Ⅱ―読む・書く１	2前		2		○								兼1
		中国語Ⅱ―読む・書く２	2後		2		○								兼1
		中国語Ⅱ―聴く・話す１	2前		2		○								兼1
		中国語Ⅱ―聴く・話す２	2後		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅰ―文法１	1前		4		○					1			
		ドイツ語Ⅰ―文法２	1後		4		○					1			
		ドイツ語Ⅰ―読む・書く１	1前		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅰ―読む・書く２	1後		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅰ―聴く・話す１	1前		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅰ―聴く・話す２	1後		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅱ―文法１	2前		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅱ―文法２	2後		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅱ―読む・書く１	2前		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅱ―読む・書く２	2後		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅱ―聴く・話す１	2前		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅱ―聴く・話す２	2後		2		○								兼1
		フランス語Ⅰ―読む・書く１	1前		2		○								兼1
		フランス語Ⅰ―読む・書く２	1後		2		○								兼1
		フランス語Ⅰ―聴く・話す１	1前		2		○								兼1
		フランス語Ⅰ―聴く・話す２	1後		2		○								兼1
		フランス語Ⅱ―読む・書く１	2前		2		○								兼1
		フランス語Ⅱ―読む・書く２	2後		2		○								兼1
		フランス語Ⅱ―聴く・話す１	2前		2		○								兼1
		フランス語Ⅱ―聴く・話す２	2後		2		○								兼1
		日本語Ⅰ―読む・書く	1･2前		4		○					1			
		日本語Ⅰ―聴く・話す	1･2前		4		○								兼1
		日本語Ⅱ―読む・書く	1･2後		4		○					1			
		日本語Ⅱ―聴く・話す	1･2後		4		○								兼1
		日本語Ⅲ―読む・書く	1･2前		2		○					1			
		日本語Ⅲ―聴く・話す	1･2前		2		○					1			
		日本語Ⅳ―読む・書く	1･2後		2		○					1			
		日本語Ⅳ―聴く・話す	1･2後		2		○					1			
		小計（56科目）	－	0	160	0		－		2	3	3	0	0	兼13
	F群 スポーツと健康	スポーツ実習１	1前	1					○	1					
		スポーツ実習２	1後	1					○	1					
		スポーツ実習３	2前		1				○						兼1
		スポーツ実習４	2後		1				○						兼1
		スポーツとリベラルアーツ	2･3･4後		2		○			9	2	1			
		小計（5科目）	－	2	4	0		－		10	2	1	0	0	兼1
	G群 思考と実践	基礎演習	1前	2				○		14	6	1			
		ボランティア論	1前	2			○			1					
		ボランティア	1･2･3･4前･後		1～2				○				1		
		地域学入門	1後	1			○				1				
		サービスラーニング	1･2･3前･後		1～2				○	2	1				
		サービスラーニング（卒）１	4前		2				○	2	1				
		サービスラーニング（卒）２	4後		2				○	2	1				
		インターンシップ	1･2･3･4･前･後		1～2				○	1	1	1			
		キャリア開発入門	2後		1		○			1					
		キャリア開発１	3前		2		○			1					
		キャリア開発２	3後		2		○			1					
		チャペル・アッセンブリ・アワー１	1前		1		○			1					
		チャペル・アッセンブリ・アワー２	1後		1		○			1					
		チャペル・アッセンブリ・アワー３	2前		1		○			1					
		チャペル・アッセンブリ・アワー４	2後		1		○			1					
		チャペル・アッセンブリ・アワー５	3前		1		○			1					
		チャペル・アッセンブリ・アワー６	3後		1		○			1					
		チャペル・アッセンブリ・アワー７	4前		1		○			1					
		チャペル・アッセンブリ・アワー８	4後		1		○			1					
		基礎数学１	1･2･3･4前		2		○								兼1

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（既設　人文学部国際文化学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
		基礎数学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		小計（21科目）	－	5	27	0	－			15	6	1	1	0	兼1	
	小計（119科目）		－	13	261	0	－			17	7	3	1	0	兼23	
共通専門科目	ＨＧ群	地域学１	2前		2		○				1					
		地域学２	2後		2		○				1					
		地域学研究	4通		4		○			2	1					
		教育活動アクティブワーク	2前		2				○	1						
		小計（4科目）	－	0	10	0	－			3	1	0	0	0	兼0	
	ＨＥ群	英語コミュニケーション・スキルズ Ａ１（Intermediate）	2前		4		○								兼1	
		英語コミュニケーション・スキルズ Ａ１（Advanced）	2前		4		○					1				
		英語コミュニケーション・スキルズ Ａ２（Intermediate）	2後		4		○								兼1	
		英語コミュニケーション・スキルズ Ａ２（Advanced）	2後		4		○					1				
		英語コミュニケーション・スキルズ Ｂ１（Intermediate）	2前		4		○								兼1	
		英語コミュニケーション・スキルズ Ｂ１（Advanced）	2前		4		○				1					
		英語コミュニケーション・スキルズ Ｂ２（Intermediate）	2後		4		○								兼1	
		英語コミュニケーション・スキルズ Ｂ２（Advanced）	2後		4		○				1					
		検定試験準備コース(TOEIC)Ｉ１	1前		2		○								兼1	
		検定試験準備コース(TOEIC)Ｉ２	1後		2		○								兼1	
		検定試験準備コース（英語検定２級）	1前		2		○								兼1	
		観光と留学の英語１	2前		2		○					1				
		観光と留学の英語２	2後		2		○					1				
		小計（13科目）	－	0	42	0	－			0	1	1	0	0	兼4	
	ＨＦ群	留学生と学ぶ日本語表現	1前		2		○					1				
		日本語表現Ⅰ	2前		2		○								兼1	
		日本語表現Ⅱ	2後		2		○								兼1	
		日本語能力試験対策クラスⅠ	2前		2		○					1				
		日本語能力試験対策クラスⅡ	2後		2		○					1				
		日本語教育学概論１	2前		2		○					1				
		日本語教育学概論２	2後		2		○					1				
		日本語学１	2前		2		○								兼1	
		日本語学２	2後		2		○								兼1	
		日本事情１	2前		2		○					1				
		日本事情２	2後		2		○					1				
		フランス語Ⅲ－読む・書く１	3前		2		○								兼1	
		フランス語Ⅲ－読む・書く２	3後		2		○								兼1	
		フランス語Ⅲ－聴く・話す１	3前		2		○								兼1	
		フランス語Ⅲ－聴く・話す２	3後		2		○								兼1	
		ドイツ語Ⅲ－読む・書く１	3前		2		○								兼1	
		ドイツ語Ⅲ－読む・書く２	3後		2		○								兼1	
		ドイツ語Ⅲ－聴く・話す１	3前		2		○								兼1	
		ドイツ語Ⅲ－聴く・話す２	3後		2		○								兼1	
		中国語Ⅲ－読む・書く１	3前		2		○								兼1	
		中国語Ⅲ－読む・書く２	3後		2		○								兼1	
		中国語Ⅲ－聴く・話す１	3前		2		○								兼1	
		中国語Ⅲ－聴く・話す２	3後		2		○								兼1	
		言語学１	3前		2		○				1					
		言語学２	3後		2		○				1					
		小計（25科目）	－	0	50	0	－			0	1	1	0	0	兼8	
	小計（42科目）		－	0	102	0	－			3	3	2	0	0	兼12	
	入門科目	国際文化入門	1後	2			○			9	2	1	0	0		オムニバス
		小計（1科目）	－	2	0	0	－			9	2	1	0	0	兼0	
	基幹科目	日本近現代史１	2前		2		○				1					
		日本近現代史２	2後		2		○				1					
		アジア史概説	2前		2		○			1						
		アジア史	2後		2		○			1						
		西洋史概説	2前		2		○			1						
		西洋史	2後		2		○			1						
		小計（6科目）	－	0	12	0	－			2	1	0	0	0	兼0	
		科学史１	1前		2		○								兼1	隔年･集中
		科学史２	1後		2		○								兼1	隔年･集中
		国際関係史１	1前		2		○			1						隔年

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（既設　人文学部国際文化学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
歴史探究コース	展開科目	国際関係史２	1後		2		○			1						隔年
		日本思想史１	2前		2		○				1					
		日本思想史２	2後		2		○				1					
		キリスト教史１	2前		2		○			1						
		キリスト教史２	2後		2		○			1						
		倫理思想史１	2前		2		○					1				
		倫理思想史２	2後		2		○					1				
		音楽･音楽史１	2前		2		○								兼1	
		音楽･音楽史２	2後		2		○								兼1	
		経済史１	2前		2		○			1						
		経済史２	2後		2		○			1						
		日本と世界の現代史	2後		2		○				1					
		近代日本史料論	2前		2		○				1					
		アジア近現代史１	2前		2		○				1					
		アジア近現代史２	2後		2		○				1					
		歴史学フィールドワーク１	2･3･4前		2		○			2	1					オムニバス
		歴史学フィールドワーク２	2･3･4前		2		○			2	1					オムニバス
		歴史学フィールドワーク３	2･3･4前		2		○			2	1					オムニバス
		ヨーロッパ思想史１	3前		2		○					1				
		ヨーロッパ思想史２	3後		2		○					1				
		アメリカ社会と歴史１	3前		2		○								兼1	隔年
		アメリカ社会と歴史２	3後		2		○								兼1	隔年
		小計（25科目）	－	0	50	0	－			4	1	1	0	0	兼3	
	演習科目	入門演習	1後	2				○		9	2	1				
		歴史学演習１	2前	2				○		2	1					
		歴史学演習２	2後	2				○		2	1					
		歴史学演習３	3前	2				○		2	1					
		歴史学演習４	3後	2				○		2	1					
		歴史学演習５	4前		2			○		2	1					
		歴史学演習６	4後		2			○		2	1					
		小計（7科目）	－	10	4	0	－			9	2	1	0	0	兼0	
		卒業論文	4通		6				○	2	1					
		小計（1科目）	－	0	6	0	－			2	1	0	0	0	兼0	
多文化理解コース	入門科目	国際文化入門	1後	2			○			9	2	1				オムニバス
		小計（1科目）	－	2	0	0	－			9	2	1	0	0	兼0	
	基幹科目	日本文化論１	2前		2		○					1				隔年･集中
		日本文化論２	2後		2		○					1				隔年･集中
		アジア文化論１	2前		2		○			1						
		アジア文化論２	2後		2		○			1						
		ヨーロッパ文化論１	2前		2		○			1						
		ヨーロッパ文化論２	2後		2		○			1						
		小計（6科目）	－	0	12	0	－			2	0	1	0	0	兼0	
	展開科目	科学史１	1前		2		○								兼1	隔年･集中
		科学史２	1後		2		○								兼1	隔年･集中
		地域文化論１	2前		2		○				1					
		地域文化論２	2後		2		○				1					
		アジア民俗学１	2前		2		○				1					隔年
		アジア民俗学２	2後		2		○				1					隔年
		ドイツ語文化圏研究１	2前		2		○			1						
		ドイツ語文化圏研究２	2後		2		○					1				
		フランス語文化圏研究１	2前		2		○								兼1	メディア
		フランス語文化圏研究２	2後		2		○								兼1	メディア
		イスラーム文化圏研究１	2前		2		○								兼1	集中
		イスラーム文化圏研究２	2後		2		○								兼1	集中
		倫理思想史１	2前		2		○					1				
		倫理思想史２	2後		2		○					1				
		英語文化圏研究１	3前		2		○								兼1	隔年
		英語文化圏研究２	3後		2		○								兼1	隔年
		現代文学・文化論１	2前		2		○								兼1	
		現代文学・文化論２	2後		2		○								兼1	
		文化交流論１	2前		2		○								兼1	
		文化交流論２	2後		2		○								兼1	

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（既設　人文学部国際文化学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
学科専門科目	ス		異文化コミュニケーション論１	2前		2		○								兼1	
			異文化コミュニケーション論２	2後		2		○								兼1	
			言語コミュニケーション論１	2前		2		○								兼1	隔年･集中
			言語コミュニケーション論２	2後		2		○								兼1	隔年･集中
			比較宗教思想１	2前		2		○			1						
			比較宗教思想２	2後		2		○			1						
			ヨーロッパ思想史１	3前		2		○					1				
			ヨーロッパ思想史２	3後		2		○					1				
			地誌	2後		2		○								兼1	
			現代哲学１	3前		2		○					1				
			現代哲学２	3後		2		○					1				
			生命倫理学１	3前		2		○					1				
			生命倫理学２	3後		2		○					1				
			小計（33科目）	－	0	66	0		－		2	1	1	0	0	兼8	
		演習科目	入門演習	1後	2				○		9	2	1				
			文化論演習１	2前	2				○		1	1	1				
			文化論演習２	2後	2				○		1	1	1				
			文化論演習３	3前	2				○		1	1	1				
			文化論演習４	3後	2				○		1	1	1				
			文化論演習５	4前		2			○		1	1	1				
			文化論演習６	4後		2			○		1	1	1				
			小計（7科目）	－	10	4	0		－		9	2	1	0	0	兼0	
			卒業論文	4通		6				○	1	1	1				
			小計（1科目）	－	0	6	0		－		1	1	1	0	0	兼0	
	国際社会コース	入門科目	国際文化入門	1後	2			○			9	2	1				オムニバス
			小計（1科目）	－	2	0	0		－		9	2	1	0	0	兼0	
		基幹科目	国際政治論１	2前		2		○			1						
			国際政治論２	2後		2		○			1						
			国際経済論１	2前		2		○								兼1	
			国際経済論２	2後		2		○								兼1	
			国際法１	2前		2		○			1						
			国際法２	2後		2		○			1						
			小計（6科目）	－	0	12	0		－		2	0	0	0	0	兼1	
		展開科目	国際関係史１	1前		2		○			1						隔年
			国際関係史２	1後		2		○			1						隔年
			経済史１	2前		2		○			1						
			経済史２	2後		2		○			1						
			マーケティング論１	2前		2		○								兼1	
			マーケティング論２	2後		2		○								兼1	
			地域統合論１	2前		2		○			1						隔年
			地域統合論２	2後		2		○			1						隔年
			金融論１	2前		2		○								兼1	隔年
			金融論２	2後		2		○								兼1	隔年
			地域産業論１	2前		2		○								兼1	
			地域産業論２	2後		2		○								兼1	
			現代企業論	2前		2		○								兼1	隔年
			時事問題研究１	2前		2		○			1						
			時事問題研究２	2後		2		○			1						
			国際人権論１	3前		2		○			1						隔年
			国際人権論２	3後		2		○			1						隔年
			国際機構論１	3前		2		○			1						隔年
			国際機構論２	3後		2		○			1						隔年
			国際協力論１	3前		2		○								兼1	集中
			国際協力論２	3後		2		○								兼1	集中
			平和学１	3前		2		○								兼1	集中
			平和学２	3後		2		○								兼1	集中
			環境経済学１	3前		2		○			1						
			環境経済学２	3後		2		○			1						
			中小企業論	3前		2		○								兼1	隔年･集中
			社会福祉調査の基礎	3前		2		○								兼1	
			プリゼンテーションスキルズ１	2前		2		○								兼1	
			プリゼンテーションスキルズ２	2後		2		○								兼1	

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（既設　人文学部国際文化学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
			小計（29科目）	－	0	58	0	－			4	0	0	0	0	兼8	
		演習科目	入門演習	1後	2				○		9	2	1				
			現代社会演習１	2前	2				○		3						
			現代社会演習２	2後	2				○		3						
			現代社会演習３	3前	2				○		3						
			現代社会演習４	3後	2				○		3						
			現代社会演習５	4前		2			○		3						
			現代社会演習６	4後		2			○		3						
			小計（7科目）	－	10	4	0	－			9	2	1	0	0	兼0	
			卒業論文	4通		6				○	3						
			小計（1科目）	－	0	6	0	－			3	0	0	0	0	兼0	
	情報メディアコース	入門科目	国際文化入門	1後	2			○			9	2	1				オムニバス
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			9	2	1	0	0	兼0	
		基幹科目	情報メディア論	1前		2		○			1						
			デジタルジャーナリズム論	1後		2		○			1						
			メディア産業論	2前		2		○			1						
			デジタルコンテンツ概論	2後		2		○			1						
			時事問題研究１	2前		2		○			1						
			時事問題研究２	2後		2		○			1						
			小計（6科目）	－	0	12	0	－			2	0	0	0	0	兼0	
		展開科目	Web技術	2前		2		○								兼1	
			情報セキュリティ	2後		2		○								兼1	
			アニメ文化経済論	2後		2		○			1						隔年
			デジタルコンテンツ制作１	2後		2		○			1						隔年
			デジタルコンテンツ制作２	2後		2		○			1						隔年
			映像制作１	2前		2		○								兼1	集中
			映像制作２	2後		2		○								兼1	集中
			コンテンツマネジメント	2後		2		○			1						隔年
			コンテンツプロデュース論	2後		2		○			1						隔年
			スマートフォンアプリ開発１	2前		2		○								兼1	
			スマートフォンアプリ開発２	2後		2		○								兼1	
			アナウンス・ナレーション実習１	2前		2				○						兼1	
			アナウンス・ナレーション実習２	2後		2				○						兼1	
			コピーライティング研究	2後		2		○								兼1	
			広報・広告コミュニケーション論	2後		2		○			1						隔年
			情報メディア特論１（国内取材・研修）	2後		2				○	1						隔年･集中
			海外メディア事情（海外取材・研修）	2後		2				○	1						隔年･集中
			情報メディア特論２（国内メディア研究）	2後		2				○	1						
			情報メディア特論３（eスポーツと社会）	2後		2		○			1						隔年
			視覚芸術論１	2前		2		○								兼1	
			視覚芸術論２	2後		2		○								兼1	
			情報メディアPBL１	2前		2				○	1						
			情報メディアPBL２	2後		2				○	1						
			マーケティング論１	2前		2		○								兼1	集中
			マーケティング論２	2後		2		○								兼1	集中
			著作権法	3前		2		○			1						隔年
			情報法	3前		2		○			1						隔年
			メディア英語１	3前		2		○								兼1	
			メディア英語２	3後		2		○								兼1	
			小計（29科目）	－	0	58	0	－			3	0	0	0	0	兼8	
		演習科目	入門演習	1後	2				○		9	2	1				
			情報メディア演習１	2前	2				○		3						
			情報メディア演習２	2後	2				○		3						
			情報メディア演習３	3前	2				○		3						
			情報メディア演習４	3後	2				○		3						
			情報メディア演習５	4前		2			○		3						
			情報メディア演習６	4後		2			○		3						
			小計（7科目）	－	10	4	0	－			9	2	1	0	0	兼0	
			卒業論文	4通		6				○	3						
			小計（1科目）	－	0	6	0	－			3	0	0	0	0	兼0	
	小計（155科目）			－	36	274	0	－			9	2	2	0	0	兼23	
	各教科の指導		社会科･公民科教科教育法	3前		2		○								兼1	

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（既設　人文学部国際文化学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
教職課程科目	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	社会科･地理歴史科教科教育法	3後		2		○								兼1	
		社会科･公民科指導法	3後		2		○								兼1	
		社会科･地理歴史科指導法	4前		2		○								兼1	
		小計（4科目）	－	0	8	0		－		0	0	0	0	0	兼3	
	教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	2後			2	○								兼1	
		教職入門	1後			2	○								兼1	
		教育制度論	2前			2	○								兼1	
		発達と学習の教育心理学	2後			2	○								兼1	
		特別支援教育概論	3前			1	○								兼1	集中
		カリキュラム論	3前			2	○								兼1	
		小計（6科目）	－	0	0	11		－		0	0	0	0	0	兼4	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育指導論	3前			2	○								兼1	
		総合的な学習の指導法	2前			1	○								兼1	
		特別活動論	2後			2	○								兼1	
		教育の方法･技術とICTの活用	3後			2	○								兼1	
		生徒・進路指導論	3後			2	○								兼1	
		教育相談	3前			2	○								兼1	
		小計（6科目）	－	0	0	11		－		0	0	0	0	0	兼5	
	教育実践に関する科目	教育実習（中･高）	4前･後		4				○						兼1	
		教育実習事前事後指導	3～4通			1	○								兼2	オムニバス
		教職実践演習	4後			2		○							兼2	オムニバス
		小計（3科目）	－	0	4	3		－		0	0	0	0	0	兼2	
	小計（19科目）		－	0	4	25		－		0	0	0	0	0	兼10	
合計（335科目）			―	49	641	25		－		10	2	2	0	0	兼58	

学位又は称号	学士（文学）	学位又は学科の分野	文学関係

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（既設　人文学部国際文化学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

共通基礎科目から48単位以上、共通専門科目、学科専門科目から50単位以上、自由科目から26単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。

○共通基礎科目については、「キリスト教学1･2（各2単位）」「コンピュータリテラシー（2単位）」「外国語初習レベル16単位」「スポーツ実習1･2（各1単位）」「基礎演習（2単位）」「ボランティア論（2単位）」「地域学入門（1単位）」の29単位が必修（うち、「基礎演習」は必履修科目）

○学科専門科目については、コース毎に以下の条件を設けている。

・歴史探究コース　基幹科目について、日本近現代史1･2（各2単位）の組み合わせ、アジア史概説･アジア史（各2単位）の組み合わせ、西洋史概説･西洋史（各2単位）の組み合わせのうち、いずれか1つの組み合わせを選択必修、歴史学演習1･2･3･4（各2単位）が必修、歴史探究コース科目全体から必修を含めて20単位以上選択必修

・多文化理解コース　基幹科目について、日本文化論1･2（各2単位）の組み合わせ、アジア文化論1･2（各2単位）の組み合わせ、ヨーロッパ文化論1･2（各2単位）の組み合わせのうち、いずれか1つの組み合わせを選択必修、文化論演習1･2･3･4（各2単位）が必修、多文化理解コース科目全体から必修を含めて20単位以上選択必修

・国際社会コース　基幹科目について、国際政治論1･2（各2単位）の組み合わせ、国際経済論1･2（各2単位）の組み合わせ、国際法1･2（各2単位）の組み合わせのうち、いずれか1つの組み合わせを選択必修、現代社会演習1･2･3･4（各2単位）が必修、国際社会コース科目全体から必修を含めて20単位以上選択必修

・情報メディアコース　基幹科目について、情報メディア論（2単位）、デジタルジャーナリズム論（2単位）、メディア産業論（2単位）、デジタルコンテンツ概論（2単位）から4単位以上選択必修、基幹科目のうち、時事問題研究1（2単位）、時事問題研究2（2単位）のいずれかを選択必修、情報技術資格対策（ITパスポート）（4単位）を必履修、情報メディア演習1･2･3･4（各2単位）が必修、情報メディアコース科目全体から必修を含めて20単位以上選択必修

上記に加えて各コースともに、国際文化入門と入門演習が必修

※上記の他、更に以下のとおり選択必修とする。

（1）以下の科目から4単位以上

「卒業論文（6単位）」「コミュニケーション演習5（2単位）」「コミュニケーション演習6（2単位）」「歴史学演習5（2単位）」「歴史学演習6（2単位）」「文化論演習5（2単位）」「文化論演習6（2単位）」「現代社会演習5（2単位）」「現代社会演習6（2単位）」「情報メディア演習5（2単位）」「情報メディア演習6（2単位）」「ソーシャルマネジメント演習5（2単位）」「ソーシャルマネジメント演習6（2単位）」「サービスラーニング1（卒）（2単位）」「サービスラーニング2（卒）（2単位）」「地域学研究（4単位）」

（2）以下の科目から2単位以上

「インターンシップ（1～2単位）」「ボランティア（1～2単位）」「サービスラーニング（1～2単位）」「通訳実践（2単位）」「留学 異文化研究（1～16単位）」「情報メディア特論1（国内取材･研修）（2単位）」「情報メディア特論2（国内メディア研究）（2単位）」「他大学専門科目（沖縄キリスト教学院大学への留学）（1～60単位）」「情報メディアPBL1（2単位）」「情報メディアPBL2（2単位）」「歴史学フィールドワーク1（2単位）」「歴史学フィールドワーク2（2単位）」「歴史学フィールドワーク3（2単位）」「フィールド･トレーニング1（2単位）」「フィールド･トレーニング2（2単位）」「フィールド･トレーニング事前事後指導1（1単位）」「フィールド･トレーニング事前事後指導2（1単位）」「海外メディア事情（海外取材･研修）（2単位）」「海外キャリア研修（2単位）」「海外福祉研修（2単位）」

（履修科目の登録の上限:24単位（1学期））

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（既設　人文学部共生社会学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
	A群 宗教と思想	キリスト教学１	1前	2			○			1					
		キリスト教学２	1後	2			○			1					
		哲学１	1･2･3･4前		2		○					1			
		哲学２	1･2･3･4後		2		○					1			
		共生の哲学１	2前		2		○			1					
		共生の哲学２	2後		2		○			1					
		文学１	1･2･3･4前		2		○			3		1			隔年･オムニバス
		文学２	1･2･3･4後		2		○			3		1			隔年･オムニバス
		小計（8科目）	－	4	12	0	－			4	0	1	0	0	兼0
	B群 人間行動と歴史	心理学１	1･2･3･4前		2		○			1					
		心理学２	1･2･3･4後		2		○			1					
		文化人類学１	1･2･3･4前		2		○				1				
		文化人類学２	1･2･3･4後		2		○				1				
		日本史概説	1･2･3･4前		2		○				1				
		歴史学	1･2･3･4後		2		○				1				
		考古学１	1･2･3･4前		2		○								兼1
		考古学２	1･2･3･4後		2		○								兼1
		小計（8科目）	－	0	16	0	－			1	2	0	0	0	兼1
	C群 人間と社会	政治学１	1･2･3･4前		2		○			1					
		政治学２	1･2･3･4後		2		○			1					
		経済学１	1･2･3･4前		2		○			1					
		経済学２	1･2･3･4後		2		○			1					
		経営学１	1･2･3･4前		2		○								兼1
		経営学２	1･2･3･4後		2		○								兼1
		日本国憲法１	1･2･3･4前		2		○			1					
		日本国憲法２	1･2･3･4後		2		○			1					
		法学１	1･2･3･4前		2		○								兼1
		法学２	1･2･3･4後		2		○								兼1
		社会学１	1･2･3･4前		2		○								兼1 集中
		社会学２	1･2･3･4後		2		○								兼1 メディア
		人文地理学	2･3･4前		2		○								兼1
		自然地理学	2･3･4後		2		○								兼1 集中
		小計（14科目）	－	0	28	0	－			3	0	0	0	0	兼5
	D群 情報とコンピュータ･サイエンス	コンピュータリテラシー	1前・後	2			○			1					兼1
		情報技術資格対策（Word2019）	1･2･3･4前・後		2		○								兼1 集中
		情報技術資格対策（Excel2019）	1･2･3･4前・後		2		○								兼1 集中
		情報技術資格対策（ITパスポート）	2前		4		○			1					
		データサイエンス入門	2･3･4前		2		○			1					
		情報技術資格対策（デジタルコンテンツ制作）	2･3･4前		2		○			1					隔年
		AIリテラシー	2･3･4後		2		○			1					
		小計（7科目）	－	2	14	0	－			2	0	0	0	0	兼2
		ＫＥＥＰ Ａ１（英語読む・書く）Foundations	1前		4		○			1					
		ＫＥＥＰ Ａ１（英語読む・書く）General	1前		4		○								兼1
		ＫＥＥＰ Ａ１（英語読む・書く）Intermediate	1前		4		○								兼1
		ＫＥＥＰ Ａ１（英語読む・書く）Advanced	1前		4		○				1				
		ＫＥＥＰ Ａ２（英語読む・書く）Foundations	1後		4		○			1	1				
		ＫＥＥＰ Ａ２（英語読む・書く）General	1後		4		○								兼1
		ＫＥＥＰ Ａ２（英語読む・書く）Intermediate	1後		4		○								兼1
		ＫＥＥＰ Ａ２（英語読む・書く）Advanced	1後		4		○				1				
		ＫＥＥＰ Ｂ１（英語聴く・話す）Foundations	1前		4		○				1				
		ＫＥＥＰ Ｂ１（英語聴く・話す）General	1前		4		○					1			兼1
		ＫＥＥＰ Ｂ１（英語聴く・話す）Intermediate	1前		4		○								兼1
		ＫＥＥＰ Ｂ１（英語聴く・話す）Advanced	1前		4		○					1			
		ＫＥＥＰ Ｂ２（英語聴く・話す）Foundations	1後		4		○				1				
		ＫＥＥＰ Ｂ２（英語聴く・話す）General	1後		4		○					1			兼1
		ＫＥＥＰ Ｂ２（英語聴く・話す）Intermediate	1後		4		○								兼1
		ＫＥＥＰ Ｂ２（英語聴く・話す）Advanced	1後		4		○					1			
		中国語Ⅰ―文法１	1前		4		○			1					
		中国語Ⅰ―文法２	1後		4		○			1					
		中国語Ⅰ―読む・書く１	1前		2		○								兼1
		中国語Ⅰ―読む・書く２	1後		2		○								兼1
共		中国語Ⅰ―聴く・話す１	1前		2		○								兼1

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（既設　人文学部共生社会学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考
通基礎科目	E群 言語とコミュニケーション	中国語Ⅰ―聴く・話す２	1後		2		○								兼1
		中国語Ⅱ―文法１	2前		2		○								兼1
		中国語Ⅱ―文法２	2後		2		○								兼1
		中国語Ⅱ―読む・書く１	2前		2		○								兼1
		中国語Ⅱ―読む・書く２	2後		2		○								兼1
		中国語Ⅱ―聴く・話す１	2前		2		○								兼1
		中国語Ⅱ―聴く・話す２	2後		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅰ―文法１	1前		4		○					1			
		ドイツ語Ⅰ―文法２	1後		4		○					1			
		ドイツ語Ⅰ―読む・書く１	1前		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅰ―読む・書く２	1後		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅰ―聴く・話す１	1前		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅰ―聴く・話す２	1後		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅱ―文法１	2前		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅱ―文法２	2後		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅱ―読む・書く１	2前		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅱ―読む・書く２	2後		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅱ―聴く・話す１	2前		2		○								兼1
		ドイツ語Ⅱ―聴く・話す２	2後		2		○								兼1
		フランス語Ⅰ―読む・書く１	1前		2		○								兼1
		フランス語Ⅰ―読む・書く２	1後		2		○								兼1
		フランス語Ⅰ―聴く・話す１	1前		2		○								兼1
		フランス語Ⅰ―聴く・話す２	1後		2		○								兼1
		フランス語Ⅱ―読む・書く１	2前		2		○								兼1
		フランス語Ⅱ―読む・書く２	2後		2		○								兼1
		フランス語Ⅱ―聴く・話す１	2前		2		○								兼1
		フランス語Ⅱ―聴く・話す２	2後		2		○								兼1
		日本語Ⅰ―読む・書く	1･2前		4		○					1			
		日本語Ⅰ―聴く・話す	1･2前		4		○								兼1
		日本語Ⅱ―読む・書く	1･2後		4		○					1			
		日本語Ⅱ―聴く・話す	1･2後		4		○								兼1
		日本語Ⅲ―読む・書く	1･2前		2		○					1			
		日本語Ⅲ―聴く・話す	1･2前		2		○					1			
		日本語Ⅳ―読む・書く	1･2後		2		○					1			
		日本語Ⅳ―聴く・話す	1･2後		2		○					1			
		小計（56科目）	－	0	160	0	－			2	3	3	0	0	兼13
	F群 スポーツと健康	スポーツ実習１	1前	1					○	1					
		スポーツ実習２	1後	1					○	1					
		スポーツ実習３	2前		1				○						兼1
		スポーツ実習４	2後		1				○						兼1
		スポーツとリベラルアーツ	2･3･4後		2		○			9	2	1			
		小計（5科目）	－	2	4	0	－			10	2	1	0	0	兼1
	G群 思考と実践	基礎演習	1前	2				○		14	6	1			
		ボランティア論	1前	2			○			1					
		ボランティア	1･2･3･4前･後		1～2				○				1		
		地域学入門	1後	1			○				1				
		サービスラーニング	1･2･3前･後		1～2				○	2	1				
		サービスラーニング（卒）１	4前		2				○	2	1				
		サービスラーニング（卒）２	4後		2				○	2	1				
		インターンシップ	1･2･3･4･前･後		1～2				○	1	1	1			
		キャリア開発入門	2後		1		○			1					
		キャリア開発１	3前		2		○			1					
		キャリア開発２	3後		2		○			1					
		チャペル・アッセンブリ・アワー１	1前		1		○			1					
		チャペル・アッセンブリ・アワー２	1後		1		○			1					
		チャペル・アッセンブリ・アワー３	2前		1		○			1					
		チャペル・アッセンブリ・アワー４	2後		1		○			1					
		チャペル・アッセンブリ・アワー５	3前		1		○			1					
		チャペル・アッセンブリ・アワー６	3後		1		○			1					
		チャペル・アッセンブリ・アワー７	4前		1		○			1					
		チャペル・アッセンブリ・アワー８	4後		1		○			1					
		基礎数学１	1･2･3･4前		2		○								兼1

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（既設　人文学部共生社会学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
		基礎数学２	1･2･3･4後		2		○								兼1	
		小計（21科目）	－	5	27	0	－			15	6	1	1	0	兼1	
	小計（119科目）		－	13	261	0	－			17	7	3	1	0	兼23	
共通専門科目	ＨＧ群	地域学１	2前		2		○				1					
		地域学２	2後		2		○				1					
		地域学研究	4通		4		○			2	1					
		教育活動アクティブワーク	2前		2				○	1						
		小計（4科目）	－	0	10	0	－			3	1	0	0	0	兼0	
	ＨＥ群	英語コミュニケーション・スキルズ Ａ１（Intermediate）	2前		4		○								兼1	
		英語コミュニケーション・スキルズ Ａ１（Advanced）	2前		4		○					1				
		英語コミュニケーション・スキルズ Ａ２（Intermediate）	2後		4		○								兼1	
		英語コミュニケーション・スキルズ Ａ２（Advanced）	2後		4		○					1				
		英語コミュニケーション・スキルズ Ｂ１（Intermediate）	2前		4		○								兼1	
		英語コミュニケーション・スキルズ Ｂ１（Advanced）	2前		4		○				1					
		英語コミュニケーション・スキルズ Ｂ２（Intermediate）	2後		4		○								兼1	
		英語コミュニケーション・スキルズ Ｂ２（Advanced）	2後		4		○				1					
		検定試験準備コース(TOEIC)Ｉ１	1前		2		○								兼1	
		検定試験準備コース(TOEIC)Ｉ２	1後		2		○								兼1	
		検定試験準備コース（英語検定２級）	1前		2		○								兼1	
		観光と留学の英語１	2前		2		○					1				
		観光と留学の英語２	2後		2		○					1				
		小計（13科目）	－	0	42	0	－			0	1	1	0	0	兼4	
	ＨＦ群	留学生と学ぶ日本語表現	1前		2		○					1				
		日本語表現Ⅰ	2前		2		○								兼1	
		日本語表現Ⅱ	2後		2		○								兼1	
		日本語能力試験対策クラスⅠ	2前		2		○					1				
		日本語能力試験対策クラスⅡ	2後		2		○					1				
		日本語教育学概論１	2前		2		○					1				
		日本語教育学概論２	2後		2		○					1				
		日本語学１	2前		2		○								兼1	
		日本語学２	2後		2		○								兼1	
		日本事情１	2前		2		○					1				
		日本事情２	2後		2		○					1				
		フランス語Ⅲ－読む・書く１	3前		2		○								兼1	
		フランス語Ⅲ－読む・書く２	3後		2		○								兼1	
		フランス語Ⅲ－聴く・話す１	3前		2		○								兼1	
		フランス語Ⅲ－聴く・話す２	3後		2		○								兼1	
		ドイツ語Ⅲ－読む・書く１	3前		2		○								兼1	
		ドイツ語Ⅲ－読む・書く２	3後		2		○								兼1	
		ドイツ語Ⅲ－聴く・話す１	3前		2		○								兼1	
		ドイツ語Ⅲ－聴く・話す２	3後		2		○								兼1	
		中国語Ⅲ－読む・書く１	3前		2		○								兼1	
		中国語Ⅲ－読む・書く２	3後		2		○								兼1	
		中国語Ⅲ－聴く・話す１	3前		2		○								兼1	
		中国語Ⅲ－聴く・話す２	3後		2		○								兼1	
		言語学１	3前		2		○				1					
		言語学２	3後		2		○				1					
		小計（25科目）	－	0	50	0	－			0	1	1	0	0	兼8	
	小計（42科目）		－	0	102	0	－			3	3	2	0	0	兼12	
	入門科目	ソーシャルマネジメント入門	1前	2			○			3	1		1			オムニバス
	小計（1科目）		－	2	0	0	－			3	1	0	1	0	兼0	
	基幹科目	社会福祉１	1前	2			○			1						
		社会福祉２	1後	2			○			1						
		社会起業論１	2前	2			○			1						
		社会起業論２	2後	2			○				1					
		まちづくり論１	3前	2			○								兼8	オムニバス
		まちづくり論２	3後	2			○								兼8	オムニバス
	小計（6科目）		－	12	0	0	－			1	1	0	0	0	兼16	
	展開科目１	キリスト教社会福祉思想史１	1前		2		○			1						
		キリスト教社会福祉思想史２	1後		2		○			1						
		心理学と心理的支援	1前		2		○								兼1	
		ソーシャルワークの基盤と専門職１	1後		2		○			1						

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（既設　人文学部共生社会学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
学科専門科目	ソーシャルビジネス・コース	社会福祉関連科目	ソーシャルワークの基盤と専門職２	2前		2		○			1						
			ソーシャルワークの理論と方法１	2後		2		○			1						
			ソーシャルワークの理論と方法２	3前		2		○			1						
			ソーシャルワークの理論と方法３	3後		2		○			1						
			地域福祉１	2前		2		○			1						
			地域福祉２	2後		2		○			1						
			高齢者福祉	2前		2		○			1						
			障害者福祉	2前		2		○			1						
			児童・家庭福祉	2後		2		○								兼1	
			死生学１	2前		2		○			1						
			死生学２	2後		2		○			1						
			社会保障１	3前		2		○				1					
			社会保障２	3後		2		○				1					
			権利擁護を支える法制度	3後		2		○								兼1	
			貧困に対する支援	3前		2		○				1					
			保健医療と福祉	2前		2		○				1					
		小計（20科目）		－	0	40	0	－			3	1	0	0	0	兼3	
		展開科目２	地域産業論１	2前		2		○								兼1	
			地域産業論２	2後		2		○								兼1	
			マーケティング論１	2前		2		○								兼1	集中
			マーケティング論２	2後		2		○								兼1	集中
			現代企業論	2前		2		○								兼1	隔年
			非営利組織論１	3前		2		○				1					
			非営利組織論２	3後		2		○				1					
		ソーシャルビジネス関連科目	国際福祉論	3前		2		○								兼1	
			社会福祉調査の基礎	3前		2		○			1						
			福祉サービスの組織と経営	3後		2		○			1						
			国際人権論１	3前		2		○								兼1	隔年
			国際人権論２	3後		2		○								兼1	隔年
			国際協力論１	3前		2		○								兼1	集中
			国際協力論２	3後		2		○								兼1	集中
			平和学１	3前		2		○								兼1	集中
			平和学２	3後		2		○								兼1	集中
			環境経済学１	3前		2		○								兼1	
			環境経済学２	3後		2		○								兼1	
			中小企業論	3前		2		○								兼1	隔年
			国際経済論１	2前		2		○								兼1	
			国際経済論２	2後		2		○								兼1	
		小計（21科目）		－	0	42	0	－			2	1	0	0	0	兼8	
		演習科目	入門演習	1後	2				○		3	1		1			
			ソーシャルマネジメント演習１	2前	2				○		3	1					
			ソーシャルマネジメント演習２	2後	2				○		3	1					
			ソーシャルマネジメント演習３	3前	2				○		3	1					
			ソーシャルマネジメント演習４	3後	2				○		3	1					
			ソーシャルマネジメント演習５	4前		2			○		3	1					
			ソーシャルマネジメント演習６	4後		2			○		3	1					
			フィールド・トレーニング事前事後指導１	3前	1			○				1					
			フィールド・トレーニング事前事後指導２	3後	1			○				1					
			フィールド・トレーニング１	3後	2					○		1					
			フィールド・トレーニング２	4前		2				○		1					
		小計（11科目）		－	14	6	0	－			3	1	0	1	0	兼0	
			海外福祉研修	3後	0	2	0			○	1			1			
		小計（1科目）		－	0	2	0	－			1	0	0	1	0	兼0	
			卒業論文	4通		6				○	3	1					
		小計（1科目）		－	0	6	0	－			3	1	0	0	0	兼0	
		入門科目	ソーシャルマネジメント入門	1前	2			○			3	1		1			オムニバス
		小計（1科目）		－	2	0	0	－			3	1	0	1	0	兼0	
		基幹科目	社会福祉１	1前	2			○			1						
			社会福祉２	1後	2			○			1						
			社会起業論１	2前	2			○			1						
			社会起業論２	2後	2			○				1					
		小計（4科目）		－	8	0	0	－			1	1	0	0	0	兼0	

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（既設　人文学部共生社会学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
	ソーシャルワーク・コース	展開科目	キリスト教社会福祉思想史１	1前		2		○			1						
			キリスト教社会福祉思想史２	1後		2		○			1						
			心理学と心理的支援	1前	2			○								兼1	
			ソーシャルワークの基盤と専門職１	1後	2			○			1						
			ソーシャルワークの基盤と専門職２	2前	2			○			1						
			ソーシャルワークの理論と方法１	2後	2			○			1						
			ソーシャルワークの理論と方法２	3前	2			○			1						
			ソーシャルワークの理論と方法３	3後	2			○			1						
			ソーシャルワークの理論と方法４	4前	2			○						1			
			倫理思想史１	2前		2		○								兼1	
			倫理思想史２	2後		2		○								兼1	
			死生学１	2前		2		○			1						
			死生学２	2後		2		○			1						
			地域福祉１	2前	2			○			1						
			地域福祉２	2後	2			○			1						
			高齢者福祉	2前	2			○			1						
			障害者福祉	2前	2			○			1						
			児童・家庭福祉	2後	2			○								兼1	
			医学概論	2前	2			○								兼1	
			保健医療と福祉	2前	2			○				1					
			生命倫理学１	3前		2		○								兼1	
			生命倫理学２	3後		2		○								兼1	
			社会福祉調査の基礎	3前	2			○			1						
			社会保障１	3前	2			○				1					
			社会保障２	3後	2			○				1					
			貧困に対する支援	3前	2			○				1					
			福祉サービスの組織と経営	3後	2			○			1						
			刑事司法と福祉	3前	2			○								兼1	
			権利擁護を支える法制度	3後	2			○								兼1	
			非営利組織論１	3前		2		○				1					
			非営利組織論２	3後		2		○				1					
			まちづくり論１	3前		2		○								兼8	オムニバス
			まちづくり論２	3後		2		○								兼8	オムニバス
			国際人権論１	3前		2		○								兼1	隔年
			国際人権論２	3後		2		○								兼1	隔年
			平和学１	3前		2		○								兼1	集中
			平和学２	3後		2		○								兼1	集中
		小計（37科目）		－	42	32	0	－			3	1	0	1	0	兼24	
		演習科目	入門演習	1後	2				○		3	1		1			
			ソーシャルマネジメント演習１	2前	2				○		3	1					
			ソーシャルマネジメント演習２	2後	2				○		3	1					
			ソーシャルマネジメント演習３	3前	2				○		3	1					
			ソーシャルマネジメント演習４	3後	2				○		3	1					
			ソーシャルマネジメント演習５	4前		2			○		3	1					
			ソーシャルマネジメント演習６	4後		2			○		3	1					
		小計（7科目）		－	10	4	0	－			3	1	0	1	0	兼0	
		専門技術演習科目	ソーシャルワーク演習１	2前	2				○					1			
			ソーシャルワーク演習２	2後	2				○					1			
			ソーシャルワーク演習３	3前	2				○					1			
			ソーシャルワーク演習４	3後	2				○		1						
			ソーシャルワーク演習５	4前	2				○					1			
		小計（5科目）		－	10	0	0	－			1	0	0	1	0	兼0	
			海外福祉研修	3後		2				○	1			1			
		小計（1科目）		－	0	2	0	－			1	0	0	1	0	兼0	
			卒業論文	4通		6				○	3	1					
		小計（1科目）		－	0	6	0	－			3	1	0	0	0	兼0	
	小計（73科目）			―	80	108	0	－			3	1	0	1	0	兼29	
	社会福祉士国		ソーシャルワーク実習指導１	2後			1	○						1			
			ソーシャルワーク実習指導２	3前			1	○						1			
			ソーシャルワーク実習指導３	3後			1	○						1			
			ソーシャルワーク実習指導４	4前			1	○						1			
			ソーシャルワーク実習１	3前			2			○				1			

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（既設　人文学部共生社会学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
家試験受験資格科目	ソーシャルワーク実習２	3後			2			○				1			
	ソーシャルワーク実習３	4前			2			○				1			
	特別実習Ａ	4前			2			○	3						
	特別実習Ｂ	4前			1			○	3						
	国家試験対策講座１	3後			2	○			3	1		1		兼1	集中･オムニバス
	国家試験対策講座２	4前			2	○								兼1	
	国家試験対策講座３	4前			1	○						1			集中
	国家試験対策講座４	4後			2	○								兼1	
	小計（13科目）	－	0	0	20	－			3	1		1		兼1	
児童厚生二級指導員資格科目	児童館･放課後児童クラブの機能と運営	2前			2	○			1						
	児童館･放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅰ	2前			2	○								兼1	集中
	児童厚生員･児童館実習指導Ⅰ	2通			1	○			1	1				兼1	オムニバス
	児童館実習Ⅰ	2前			2			○	1						
	小計（4科目）	－	0	0	7	－			1	1	0	0	0	兼2	
合計（251科目）		－	93	471	27	－			4	1	2	1	0	兼60	

学位又は称号	学士（文学）	学位又は学科の分野	文学関係

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（既設　人文学部共生社会学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

共通基礎科目から40単位以上、共通専門科目、学科専門科目から60単位以上、自由科目から24単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。
○共通基礎科目については、「キリスト教学1･2（各2単位）」、「コンピュータリテラシー（2単位）」、「KEEP A（英語読む･書く）1･2」から8単位もしくは「KEEP B（英語聴く･話す）1･2（各4単）」から8単位（外国人留学生は「日本語Ⅰ・Ⅱ-読む･書く（各4単位）から8単位もしくは「日本語Ⅰ・Ⅱ-聴く･話す（各4単位）から8単位でも可））、「スポーツ実習1･2（各1単位）」、「基礎演習（2単位）」、「ボランティア論（2単位）」、「地域学入門（1単位）」の21単位が必修（うち、「基礎演習」は必履修科目）
○学科専門科目については、コース毎に以下の条件を設けている。
○ソーシャルワーク･コース
「心理学と心理的支援（2単位）」「ソーシャルワークの基盤と専門職1･2（各2単位）」「ソーシャルワークの理論と方法1･2･3･4（各2単位）」「地域福祉1・2（各2単位）」「高齢者福祉（2単位）」「障害者福祉（2単位）」「児童･家庭福祉（2単位）」「医学概論（2単位）」「保健医療と福祉（2単位）」「社会福祉調査の基礎（2単位）」「社会保障1・2（各2単位）」「貧困に対する支援（2単位）」「福祉サービスの組織と経営（2単位）」「刑事司法と福祉（2単位）」「権利擁護を支える法制度（2単位）」「ソーシャルワーク演習1･2･3･4･5（各2単位）」を修得すること。
○ソーシャルビジネス･コース
･「まちづくり論1・2（各2単位）」を必修
･展開科目1 社会福祉関連科目から12単位以上及び展開科目2 ソーシャルビジネス関連科目から12単位以上修得のこと。
･「フィールド･トレーニング事前事後指導1（1単位）」「フィールド･トレーニング事前事後指導2（1単位）」「フィールド･トレーニング1（2単位）」を修得のこと。

なお、いずれのコースにおいても、以下の通り必修となる。
「ソーシャルマネジメント入門（2単位）」「社会福祉1・2（各2単位）」「社会起業論1・2（各2単位）」「共生の哲学1・2（各2単位）」「入門演習（2単位）」「ソーシャルマネジメント演習1・2・3・4（各2単位）」

※上記の他、更に以下のとおり選択必修とする。
（1）以下の科目から4単位以上
「卒業論文（6単位）」「コミュニケーション演習5（2単位）」「コミュニケーション演習6（2単位）」「歴史学演習5（2単位）」「歴史学演習6（2単位）」「文化論演習5（2単位）」「文化論演習6（2単位）」「現代社会演習5（2単位）」「現代社会演習6（2単位）」「情報メディア演習5（2単位）」「情報メディア演習6（2単位）」「ソーシャルマネジメント演習5（2単位）」「ソーシャルマネジメント演習6（2単位）」「サービスラーニング1（卒）（2単位）」「サービスラーニング2（卒）（2単位）」「地域学研究（4単位）」
（2）以下の科目から2単位以上
「インターンシップ（1～2単位）」「ボランティア（1～2単位）」「サービスラーニング（1～2単位）」「通訳実践（2単位）」「留学 異文化研究（1～16単位）」「情報メディア特論1（国内取材･研修）（2単位）」「情報メディア特論2（国内メディア研究）（2単位）」「他大学専門科目（沖縄キリスト教学院大学への留学）（1～60単位）」「情報メディアPBL1（2単位）」「情報メディアPBL2（2単位）」「歴史学フィールドワーク1（2単位）」「歴史学フィールドワーク2（2単位）」「歴史学フィールドワーク3（2単位）」「フィールド･トレーニング1（2単位）」「フィールド･トレーニング2（2単位）」「フィールド･トレーニング事前事後指導1（1単位）」「フィールド･トレーニング事前事後指導2（1単位）」「海外メディア事情（海外取材･研修）（2単位）」「海外キャリア研修（2単位）」「海外福祉研修（2単位）」

（履修科目の登録の上限:24単位（1学期））

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		キリスト教学１	○	キリスト教学は、欧米をはじめとする多くの文化の背景をなすとともに、人権、共生、平和等の普遍的価値観の源泉の一つでありつづけてきたキリスト教の世界観、人間観、社会観を学ぶことを目的とする。このキリスト教学1においては、キリスト教が、その母胎とするユダヤ教から譲り受け、自らの聖書の一部とした旧約聖書に焦点を当ててゆく。日本人にとっては、異質ともいえる一神教の世界観に触れることを通して、異文化を理解することの意義を学ぶとともに、自らの生きる文化的特性を見つめ直す機会を提供する	
		キリスト教学２	○	この授業では、キリスト教学1の学びを前提にしたうえで、キリスト教独自の部分を構成する新約聖書について学んでゆく。とりわけ、イエスの生涯と教えを記した文書「福音書」に焦点をあてて、キリスト教的世界観、人間観、社会観を理解してゆく。イエスの活動は、神の愛の中に人々を招き入れてゆく「神の国運動」と称されることがあるが、その運動の特質について理解するとともに、それが後世に、とりわけ、人権、平和、共生といった事柄に関わる社会事業（活動）に与えた影響について考察を深めてゆく。	
		チャペル・アッセンブリ・アワー１		「神を敬い、隣人に仕える」というキリスト教精神を掲げる本学にとって、この授業は、キリスト教教育の要としての、また、本学の教育全体を方向付ける役割を担っている。本授業は前半・後半の二つの時間によって構成される。前半を礼拝（チャペル）として用い、聖書を通して「平和」、「人権」、「共生」という、人類にとって大切な価値観を学んでゆく。その後のアッセンブリアワーにおいては、それらの価値観に基いた社会に向けての実践活動の在り様を、学んでゆく。	
		チャペル・アッセンブリ・アワー２		「神を敬い、隣人に仕える」というキリスト教精神を掲げる本学にとって、この授業は、キリスト教教育の要としての、また、本学の教育全体を方向付ける役割を担っている。本授業は前半・後半の二つの時間によって構成される。前半を礼拝（チャペル）として用い、聖書を通して「平和」、「人権」、「共生」という、人類にとって大切な価値観を学んでゆく。その後のアッセンブリアワーにおいては、それらの価値観に基いた社会に向けての実践活動の在り様を、学んでゆく。	
		チャペル・アッセンブリ・アワー３		「神を敬い、隣人に仕える」というキリスト教精神を掲げる本学にとって、この授業は、キリスト教教育の要としての、また、本学の教育全体を方向付ける役割を担っている。本授業は前半・後半の二つの時間によって構成される。前半を礼拝（チャペル）として用い、聖書を通して「平和」、「人権」、「共生」という、人類にとって大切な価値観を学んでゆく。その後のアッセンブリアワーにおいては、それらの価値観に基いた社会に向けての実践活動の在り様を、学んでゆく。	
		チャペル・アッセンブリ・アワー４		「神を敬い、隣人に仕える」というキリスト教精神を掲げる本学にとって、この授業は、キリスト教教育の要としての、また、本学の教育全体を方向付ける役割を担っている。本授業は前半・後半の二つの時間によって構成される。前半を礼拝（チャペル）として用い、聖書を通して「平和」、「人権」、「共生」という、人類にとって大切な価値観を学んでゆく。その後のアッセンブリアワーにおいては、それらの価値観に基いた社会に向けての実践活動の在り様を、学んでゆく。	
		チャペル・アッセンブリ・アワー５		「神を敬い、隣人に仕える」というキリスト教精神を掲げる本学にとって、この授業は、キリスト教教育の要としての、また、本学の教育全体を方向付ける役割を担っている。本授業は前半・後半の二つの時間によって構成される。前半を礼拝（チャペル）として用い、聖書を通して「平和」、「人権」、「共生」という、人類にとって大切な価値観を学んでゆく。その後のアッセンブリアワーにおいては、それらの価値観に基いた社会に向けての実践活動の在り様を、学んでゆく。	
		チャペル・アッセンブリ・アワー６		「神を敬い、隣人に仕える」というキリスト教精神を掲げる本学にとって、この授業は、キリスト教教育の要としての、また、本学の教育全体を方向付ける役割を担っている。本授業は前半・後半の二つの時間によって構成される。前半を礼拝（チャペル）として用い、聖書を通して「平和」、「人権」、「共生」という、人類にとって大切な価値観を学んでゆく。その後のアッセンブリアワーにおいては、それらの価値観に基いた社会に向けての実践活動の在り様を、学んでゆく。	
		チャペル・アッセンブリ・アワー７		「神を敬い、隣人に仕える」というキリスト教精神を掲げる本学にとって、この授業は、キリスト教教育の要としての、また、本学の教育全体を方向付ける役割を担っている。本授業は前半・後半の二つの時間によって構成される。前半を礼拝（チャペル）として用い、聖書を通して「平和」、「人権」、「共生」という、人類にとって大切な価値観を学んでゆく。その後のアッセンブリアワーにおいては、それらの価値観に基いた社会に向けての実践活動の在り様を、学んでゆく。	
		チャペル・アッセンブリ・アワー８		「神を敬い、隣人に仕える」というキリスト教精神を掲げる本学にとって、この授業は、キリスト教教育の要としての、また、本学の教育全体を方向付ける役割を担っている。本授業は前半・後半の二つの時間によって構成される。前半を礼拝（チャペル）として用い、聖書を通して「平和」、「人権」、「共生」という、人類にとって大切な価値観を学んでゆく。その後のアッセンブリアワーにおいては、それらの価値観に基いた社会に向けての実践活動の在り様を、学んでゆく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Ａ群　宗教と思想	キリスト教音楽１		本授業では、「讃美歌21」（編：日本キリスト教団賛美歌委員会、日本基督教団出版局、1997。）を中心軸として世界各国の賛美歌・国内で従来より伝承されてきた賛美歌および新しい創作賛美歌を概ね10曲取り上げ、混声四部合唱の実践演習を行う。発声・美しいハーモニーのスキルを向上させる。他方、テキストの内容・テキストに引用された聖書箇所の内容・黒人霊歌の場合にはその楽曲成立における歴史的背景を学び、考察を行う。授業内のデスカッションやレポート作成により、旧約聖書における神とは？新約聖書における主イエス・キリストとは？聖霊とは？について認識と学びを深める。「讃美歌と何か」「信仰とは何か」を問題定義として個々の学生が熟考することを目標とする。また、授業履修生は、本学聖歌隊を担っており、キャロリングを通して本学拠点地域に暮す人々との交流活動を行う。	
		キリスト教音楽２		本授業では、「讃美歌21」（編：日本キリスト教団賛美歌委員会、日本基督教団出版局、1997。）を中心軸として世界各国の賛美歌・国内で従来より伝承されてきた賛美歌および新しい創作賛美歌を概ね10曲取り上げ、混声四部合唱の実践演習を行う。発声・美しいハーモニーのスキルを向上させる。他方、テキストの内容・テキストに引用された聖書箇所の内容・黒人霊歌の場合にはその楽曲成立における歴史的背景を学び、考察を行う。授業内のデスカッションやレポート作成により、旧約聖書における神とは？新約聖書における主イエス・キリストとは？聖霊とは？について認識と学びを深める。「讃美歌と何か」「信仰とは何か」を問題定義として個々の学生が熟考することを目標とする。また、授業履修生は、本学聖歌隊を担っており、キャロリングを通して本学拠点地域に暮す人々との交流活動を行う。	
		キリスト教音楽３		本授業では、「讃美歌21」（編：日本キリスト教団賛美歌委員会、日本基督教団出版局、1997。）を中心軸として世界各国の賛美歌・国内で従来より伝承されてきた賛美歌および新しい創作賛美歌を概ね10曲取り上げ、混声四部合唱の実践演習を行う。発声・美しいハーモニーのスキルを向上させる。他方、テキストの内容・テキストに引用された聖書箇所の内容・黒人霊歌の場合にはその楽曲成立における歴史的背景を学び、考察を行う。授業内のデスカッションやレポート作成により、旧約聖書における神とは？新約聖書における主イエス・キリストとは？聖霊とは？について認識と学びを深める。「讃美歌と何か」「信仰とは何か」を問題定義として個々の学生が熟考することを目標とする。また、授業履修生は、本学聖歌隊を担っており、キャロリングを通して本学拠点地域に暮す人々との交流活動を行う。	
		キリスト教音楽４		本授業では、「讃美歌21」（編：日本キリスト教団賛美歌委員会、日本基督教団出版局、1997。）を中心軸として世界各国の賛美歌・国内で従来より伝承されてきた賛美歌および新しい創作賛美歌を概ね10曲取り上げ、混声四部合唱の実践演習を行う。発声・美しいハーモニーのスキルを向上させる。他方、テキストの内容・テキストに引用された聖書箇所の内容・黒人霊歌の場合にはその楽曲成立における歴史的背景を学び、考察を行う。授業内のデスカッションやレポート作成により、旧約聖書における神とは？新約聖書における主イエス・キリストとは？聖霊とは？について認識と学びを深める。「讃美歌と何か」「信仰とは何か」を問題定義として個々の学生が熟考することを目標とする。また、授業履修生は、本学聖歌隊を担っており、キャロリングを通して本学拠点地域に暮す人々との交流活動を行う。	
		キリスト教音楽５		本授業では、「讃美歌21」（編：日本キリスト教団賛美歌委員会、日本基督教団出版局、1997。）を中心軸として世界各国の賛美歌・国内で従来より伝承されてきた賛美歌および新しい創作賛美歌を概ね10曲取り上げ、混声四部合唱の実践演習を行う。発声・美しいハーモニーのスキルを向上させる。他方、テキストの内容・テキストに引用された聖書箇所の内容・黒人霊歌の場合にはその楽曲成立における歴史的背景を学び、考察を行う。授業内のデスカッションやレポート作成により、旧約聖書における神とは？新約聖書における主イエス・キリストとは？聖霊とは？について認識と学びを深める。「讃美歌と何か」「信仰とは何か」を問題定義として個々の学生が熟考することを目標とする。また、授業履修生は、本学聖歌隊を担っており、キャロリングを通して本学拠点地域に暮す人々との交流活動を行う。	
		キリスト教音楽６		本授業では、「讃美歌21」（編：日本キリスト教団賛美歌委員会、日本基督教団出版局、1997。）を中心軸として世界各国の賛美歌・国内で従来より伝承されてきた賛美歌および新しい創作賛美歌を概ね10曲取り上げ、混声四部合唱の実践演習を行う。発声・美しいハーモニーのスキルを向上させる。他方、テキストの内容・テキストに引用された聖書箇所の内容・黒人霊歌の場合にはその楽曲成立における歴史的背景を学び、考察を行う。授業内のデスカッションやレポート作成により、旧約聖書における神とは？新約聖書における主イエス・キリストとは？聖霊とは？について認識と学びを深める。「讃美歌と何か」「信仰とは何か」を問題定義として個々の学生が熟考することを目標とする。また、授業履修生は、本学聖歌隊を担っており、キャロリングを通して本学拠点地域に暮す人々との交流活動を行う。	
		キリスト教音楽７		本授業では、「讃美歌21」（編：日本キリスト教団賛美歌委員会、日本基督教団出版局、1997。）を中心軸として世界各国の賛美歌・国内で従来より伝承されてきた賛美歌および新しい創作賛美歌を概ね10曲取り上げ、混声四部合唱の実践演習を行う。発声・美しいハーモニーのスキルを向上させる。他方、テキストの内容・テキストに引用された聖書箇所の内容・黒人霊歌の場合にはその楽曲成立における歴史的背景を学び、考察を行う。授業内のデスカッションやレポート作成により、旧約聖書における神とは？新約聖書における主イエス・キリストとは？聖霊とは？について認識と学びを深める。「讃美歌と何か」「信仰とは何か」を問題定義として個々の学生が熟考することを目標とする。また、授業履修生は、本学聖歌隊を担っており、キャロリングを通して本学拠点地域に暮す人々との交流活動を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		キリスト教音楽８		本授業では、「讃美歌21」（編：日本キリスト教団賛美歌委員会、日本基督教団出版局、1997。）を中心軸として世界各国の賛美歌・国内で従来より伝承されてきた賛美歌および新しい創作賛美歌を概ね10曲取り上げ、混声四部合唱の実践演習を行う。発声・美しいハーモニーのスキルを向上させる。他方、テキストの内容・テキストに引用された聖書箇所の内容・黒人霊歌の場合にはその楽曲成立における歴史的背景を学び、考察を行う。授業内のデスカッションやレポート作成により、旧約聖書における神とは？新約聖書における主イエス・キリストとは？聖霊とは？について認識と学びを深める。「讃美歌と何か」「信仰とは何か」を問題定義として個々の学生が熟考することを目標とする。また、授業履修生は、本学聖歌隊を担っており、キャロリングを通して本学拠点地域に暮す人々との交流活動を行う。	
		哲学１		この授業では、哲学とはどのような学問であるのかについて入門的な解説を行う。紀元前六世紀頃に古代ギリシアで始まった哲学は、今もなお刺激的な問いをわれわれに投げかけている。この授業では、哲学の歴史そのものではなく、歴史の中で提出されてきたさまざまな哲学的問題を紹介することで、哲学的に考えることの面白さを伝えたい。「私と他人が見ている世界は本当に「同じ」世界なのか」、「確実な知識は存在するか」、「人間は自由な意志をもっているか」など、よく考えるとなかなか答えが出そうにない問題について、考察の手がかりとなるような議論を紹介する。その際、それぞれの哲学的問題に対して、著名な哲学者たちがどのような回答を行ってきたのかについても解説する。ときに抽象度の高い内容となることが予想されるが、具体例などを交えながら可能なかぎり分かりやすい解説を行いたい。	
		哲学２		科学技術や産業社会の発展に伴って、私たちは以前には考えられることのなかったさまざまな倫理的問題に直面している。例えば、脳死の問題は、われわれに死とは何かについての再考を迫り、環境破壊は、人間中心の世界観の限界を示しつつある。こうした生命や自然に関する倫理的問題を考察するのが、応用倫理学と呼ばれる学問分野である。この授業では、応用倫理学に関する概説を行うことで、現代社会が直面する諸問題についての知識を深めることを目指す。さらに、生命や自然に関する具体的な問題を考えることを通じて、倫理学の発想や考え方についてもおおまかな理解を得ることを狙いとする。授業では、最初に生命倫理、動物倫理、環境倫理という三つのテーマについて解説するし、自然と人間のあいだのあるべき関係性について検討する。	
		文学１		ヨーロッパや北米という地域、そして聖書やキリスト教を題材とした文学作品から１つのテーマ（例、旅など）を選び、そのテーマに関連する作品を、それぞれ研究分野・地域が異なる教員がとりあげ、講義を行う。紹介される文学作品を、文字、映像、音声というかたちで鑑賞するとともに、扱われるテーマについて理解を深めることをねらう。授業の最後に毎回コメントペーパーを執筆することで、理解を深めるとともに、与えられたテーマに対して、簡潔にポイントを押さえたコメントを書くスキルを養う。 （オムニバス方式/全15回） （1 金山愛子/4回） 西洋古典、イギリス文学 （6 下田尾治郎/3回） キリスト教文学 （20 井西弘樹/3回） ドイツ語圏文学 （4 荒木陽子/5回） 北米文学、環境文学、イントロダクション	隔年･オムニバス
		文学２		ヨーロッパや北米という地域、そして聖書やキリスト教を題材とした文学作品から１つのテーマ（例、旅など）を選び、そのテーマに関連する作品を、それぞれ研究分野・地域が異なる教員がとりあげ、講義を行う。紹介される文学作品を、文字、映像、音声というかたちで鑑賞するとともに、扱われるテーマについて理解を深めることをねらう。授業の最後に毎回コメントペーパーを執筆することで、理解を深めるとともに、与えられたテーマに対して、簡潔にポイントを押さえたコメントを書くスキルを養う。 （オムニバス方式/全15回） （1 金山愛子/4回） 西洋古典、イギリス文学 （6 下田尾治郎/3回） キリスト教文学 （20 井西弘樹/3回） ドイツ語圏文学 （4 荒木陽子/5回） 北米文学、環境文学、イントロダクション	隔年･オムニバス
		心理学１		人間の心の働きに関する科学的な知識を学び、クリティカルに考察して、明瞭かつ効果的に文章でまとめて報告する。指定テキストも用いて解説し、発展的な課題や発問を提示し、その回答も適宜提出する。授業では暗黙知や素朴な信念と科学的な知識とを常に対比させながら、素朴心理、知覚、記憶、合理的思考、感情、顔と表情、ストレス、睡眠等のテーマを扱う。学習の到達目標と評価基準、並びに学習成果に関するフィードバック方法は、シラバスと授業ガイダンス等で確認する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Ｂ群　人間行動と歴史	心理学２		人間の心の働きに関する科学的な知識を学び、クリティカルに自分でも考えて、明瞭かつ効果的に文章でまとめて報告する。指定テキストに準じて解説された学術情報だけでなく、発展的な課題や発問の回答も適宜提出する。授業では暗黙知と素朴な信念と科学的な知識とを常に対比させながら、人格、本能、認知発達、認知バイアス、ヒューリスティックス、ステレオタイプ等のテーマを扱う。学習の到達目標と評価基準、並びに学習成果に関するフィードバック方法は、シラバスと授業ガイダンス等で確認する。	
		文化人類学１		文化人類学は、自分とは何かという問から始まり、私たち人間にとって文化とは何かを考えるための学問である。現代社会では、異なる地域や国々に生きる人々との交流がますます盛んになってきているが、異なる文化を背景に生活してきた人間同士が、お互いを理解し合うのは難しい問題である。異なる文化を理解するために、その背景を理解することが必要である。そこで、本講義では、それぞれの文化を支えている言語と文化の関係や人は他者とどのような関係を取り結ぶのかなど、様々な事例を通して、人類学の理論を中心に学ぶ。	
		文化人類学２		前期に引き続き、本講義では人間にとって文化とは何かについて考える。人はどのようにして自分と他者を分けるのか、世界をどのようにして分類して認識するのか。こうしたことを考えるための材料を、生まれてから死ぬまでの人生儀礼に沿って提供する。そして、人はどのようにして人生を乗り越えてきたのか、適応してきたのか。学生が生まれてから死ぬまでの人生、宗教や信仰、儀礼と、それを支える世界観について学び考え、そこから学生自身が自分を見つめ直せるようにする。	
		日本史概説		日本の歴史を（１）東アジアとの関係（２）現在の新潟県地域という視角からとらえなおす講義を行う。以上の２つの視点を大事にしながら、原始・古代／中世／近世／近代・現代の日本列島の歴史をみていく。	
		歴史学		歴史学とは何を解明する学問であるのか、そして、どのように研究をおこなうのかということを理解することを目標とする。歴史学は過去にあった事実は何かを真摯に考え、そこから現在のあり方を見直していく学問である。しかし、そうであるからこそ、史実とは何か、そこに研究者の問題意識や願望の投影となっていないかが厳しく問われる。歴史学の歴史（史学史）のなかで、この点をめぐってどのような議論があったのかをたどる。	
		考古学１		考古学は、ヒトが残した物的証拠である考古資料によってヒトの営みを復元する、広い意味での歴史学である。日本における考古学の歩み、調査・研究方法、関係する法令や行政との関りについて解説し、考古学の成果による日本の歴史概説によってその理解を深める。	
		考古学２		先史時代の歴史復元に考古学は有効なツールであり、特に地域史の検証には不可欠である。そこで、考古学的な調査による歴史復元や地域史研究の事例をいくつか取り上げ、その調査の経過、成果、問題点、展望等の検討・整理をとおして考古学の理解を深める。	
		政治学１		様々な意味で変革期をむかえている現在の社会において、政治の役割が高まってきている。その政治を分析するための基礎的な力を身につけることをこの講義の目的とする。そのためには先ず第一に政治が自分たちの未来と直結していることを自覚してもらいたい。その上で政治的な議論をするのに必要な、教養、分析能力、ならびにしっかりとした価値観を身に付けて欲しいと考えている。そのために本講義では、先ず国家、権力、権威、正当性といった基本的な概念の確認をおこなったうえで、政治学の基礎を学習していく。主な内容としては機能主義的国家観と近代初期までの政治社会に対する思想を取り上げていく予定である。また受講生の自主的な参加を促進するために、できるだけ論争的な問題を取り上げたり、時事問題の簡単な説明をおこなうなどして政治に対する関心を高めたいと考えている。	
		政治学２		本講義では現実の政治を分析する力を身につけることを目標としたい。具体的には(1)政治的対立の背景にある基本的な政治思想を理解できるようになること、(2)政治の動態的過程を分析することができるようになること、(3)現代の日本の政治状況を説明できるようになること、を目指す。その結果、現代の政治の問題点とその解決方法を自分の言葉で議論できるようになってもらいたい。また政治は必然的に人々の対立を扱うことになる。そこで最初にその対立の思想的な背景を取り上げる。政治制度をめぐる対立、進歩主義と保守主義の対立、自由と平等の複雑な関係、効率と公正のバランスなどを題材にする予定である。次に対立をはらむ政治がどのような実体となるのかを分析する。ここでは政治システムならびに政治過程を取り上げる予定である。最後に近代日本に見られる主要な政治的対立を見ていくことで、現代の政治状況を考えてみたい。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	C群　人間と社会	私たちの暮らしと行政		本講義は、国の最重要課題の一つである地方創生の実現に向けて、新潟県における国の唯一の総合経済官庁である財務省関東財務局新潟財務事務所がコーディネーターとなり、県内に所在する国の機関等が連携して行うものである。毎回各機関の職員がリレー方式で登壇し、各所管行政の仕組みと役割や主要施策について、主に市民生活にどのようにかかわっているかという観点から分かりやすく解説する。本講義は、受講生が国の行政の仕組みや役割、主要施策について理解することを通して、主権者として国家・社会の形成に主体的に参加する力を習得し、当大学が目指す地域社会に貢献できる人材の育成に資することを目標とする。	
		経済学１		本講義は、マクロ経済学という分野の基本的な概念、視角、考え方を学ぶことを通じて行うことになる。地域経済の活発、アジア経済の現状、世界的財政危機問題、もちろん少子・高齢化問題を深刻化になる日本経済を再建するための政策などおよびそれらの関連性を学んで行く。それらの基本と関係構築を理解することができる能力をみにつけることを目指したい。このような多くとなる基本知識の学習によって、国際感覚を備えた教養を培うことができる。	
		経済学２		本講義は、ミクロ経済学という分野の基本的な概念、与えられた情報、考え方を学ぶことを通じて、国民経済を構成する個別経済主体である消費者・生産者に関する各々の行動および相反関係を考察します。さらに「世界経済って、私達の日常生活と何の関係があるか」に対して、やさしく解説する。それらの基本と経済学関係構築を理解することができる能力をみにつけることを目指したい。このような多くとなる基本知識の学習によって、賢い生活者そして国際人としての国際感覚を備えた教養を培うことができる。	
		経営学１		経営学１，２では、経営学の各専門領域の基礎的な内容を講義する。前期開設科目である経営学１では、企業の重要な経営資源の一つといわれる人的資源にフォーカスを当て、主として社員の選抜・採用、配置の問題、人材育成と評価、さらには給与や昇進、処遇の問題など「人的資源管理」の基礎的な項目を一通り修得する。本講義を履修することで、組織のマネジメントとは何かを理解し、組織デザインや組織構造などの組織マネジメントの大枠を学習する。	地域経営コース必修
		経営学２		経営学１，２では、経営学の各専門領域の基礎的な内容を講義する。後期開設科目である経営学２では、主として環境のマネジメントの問題として、経営戦略論とマーケティング論の基本を学習する。戦略とは何かであったり、市場（マーケット）から企業活動を考えるための大枠などを学んでいく。本講義を履修することで、環境のマネジメントとは何かを理解し、経営戦略論・マーケティング論の基礎を身に付けることで、企業が競争環境の中でどのように組織をマネジメントしていったらよいのかに関する概論を学習する。	地域経営コース必修
		日本国憲法１		本講義は、日本国憲法を頂点とした日本の国内法に関する枠組みを学んだ後、日本国憲法がこの国のかたちをどのように定めているのか（統治の仕組み）について理解を深める。講義では、できるだけ具体的な事例を用いながら、未解決の社会問題の本質に触れるつもりである。授業を通じて社会における法の役割や、政治問題などに関心をもってもらう機会を提供する。	
		日本国憲法２		本講義は、人権が人によって獲得されたものとの立場をとる日本国憲法の個別具体的な人権規定について学んでいきたい。その際、相互の異なる人権が衝突し、一方の人権が制約される場合があり、そこで日本国憲法を始めとする日本の国内法がどのような調整をしているのかについても検討する。講義を通じて、人権と道徳の違い、人権は優しさといった曖昧な概念ではない、人権の性質として対国家性があるといったことなども扱う。	
		法学１		身近に起こりうる事件･紛争を題材とし,法律実務上,どのような解決になるのかを学ぶ。また,その際,適用される民法や刑法などの法規(実体法)や訴訟に至った場合の経過･規律(訴訟法)についても,同様に学ぶ。一般論･抽象論の学習を先行させ,それを事案に適用するといった進行を回避し,事案を検討した結果,生ずる疑問や素朴な感想をてこにして,逆に,法律･法理･法体系などの理解に繋げる。本講においては,知識の羅列･暗記などは求めず,思考を重んじる。	
		法学２		身近に起こりうる事件･紛争を題材とし,法律実務上,どのような解決になるのかを学ぶ。また,その際,適用される民法や刑法などの法規(実体法)や訴訟に至った場合の経過･規律(訴訟法)についても,同様に学ぶ。一般論･抽象論の学習を先行させ,それを事案に適用するといった進行を回避し,事案を検討した結果,生ずる疑問や素朴な感想をてこにして,逆に,法律･法理･法体系などの理解に繋げる。本講においては,知識の羅列･暗記などは求めず,思考を重んじる。	
		私たちの暮らしと労働法制		本科目は，厚生労働省新潟労働局による寄付講義である。働き方にかかわる法制度，社会保険制度及び労働行政の実際等について学習する。これらの学習を通して，学生生活のアルバイトにおけるトラブルを防止し，またトラブルが発生した際の対処方法などを習得する。また，卒業後のキャリア形成や働き方を考えるための基礎的な知識を習得するとともに，自身の進路選択の参考とできるようにする。	
		時事問題研究１		時事問題全般に対する理解を深め、ニュースの流通構造を考察することを目的とする。講義では政治、経済、社会、環境、国際関係といった多様なテーマを扱い、ニュース時事能力検定準2級レベルの理解度を目標とする。公式テキストや問題集を活用、時事問題の背景となる歴史的な視点についても解説し、ニュースの情報流通やソーシャルメディアの影響についても考察する。授業では講義に加えて模擬試験やディスカッションを実施し、時事問題に対する実践的な対応力を養う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		時事問題研究２		時事問題に対するより高度な理解と分析力を養い、ニュースの情報流通や社会的影響について深く考察することを目的とする。政治、経済、社会、環境、国際関係などの多様なテーマを扱い、ニュース時事能力検定2級レベルの理解度を目標とする。公式テキストや問題集を活用しつつ、実際のニュースやケーススタディを取り入れた授業を展開する。模擬試験やディスカッションを通じて、時事問題を多角的に分析し、自分の意見を論理的に発信する力を養う。	
		社会学１		本講義は現実に生起する社会的諸事象を社会学的視点から客観的に把握できる力を身につけることを目標とする。ここで社会学的視点として、社会学的想像力（C.W.ミルズ）に定位し、日常生活で日々繰り返される営為の自明性を問うこと（自明性の暴露）と措定する。具体的には家族、労働、メディア、政治と私たちとの関係をラベリング論、社会構築論、機能論（R.K.マートン）、ジェンダー論等を用いて明らかにし、社会学的な考え方を取得する。以上を学んだ後に併せて、実際に問題の定式化と、それを検証するための社会調査論についての基本的知識を修得する。	集中講義
		社会学２		本講義は基本的に「社会学1」で社会学の基本的な視点として「社会学的想像力（C.W.ミルズ）に基づいて、日常生活で日々繰り返される営為の自明性を問うこと（自明性の暴露）」を学んだ人を対象とし、地域社会、家族、女性、マスメディア、環境問題等を素材として、それぞれの領域において解決が迫られている具体的課題に対してジェンダー論、社会構築主義、受益圏・受苦圏論、環境リスク論からアプローチを試みる。最終的には各自が具体的な社会的課題を措定し、本講義で学んだアプローチを用いてその解決策に取り組むことを目的とする。	メディア
		人文地理学		国内外の地域を探究する際に有用な、地理学の分析方法や地域のとらえ方を理解し、大学で専門分野を深く学び、さらに社会生活を営んでいくための知的基盤とすることが、この科目の目標である。本来、人文地理学は非常に幅広い学問分野だが、この授業科目では、まず初めの３回で地図の歴史や地理学の特徴を確認した上で、都市、環境、地域の３つのテーマに分けて４回ずつ、それぞれ自然・社会・文化的要素の関連に注目しながら講義する。	
		自然地理学		自然地理学における基本的な概念及び考え方について、具体的事例を通して講義する。気候、地形、植生、土壌、水文などの自然環境を構成する各要素について理解し、特に人間生活との関わりについて考える。また、自然環境の空間的、時間的な変化について認識する。さらには、環境が、自然と人間との相互作用で成り立っていることを理解する。それらをふまえて環境問題と災害への自然地理的なアプローチについて考察する。	集中講義
		地誌		地誌とは地理学の一分野で、世界の諸地域に関して人文・社会・自然の要素を総合して「地域性」を把握するものである。この講義では、大学で専門分野を深く学び、さらに社会生活を営んでいくための基礎的知識や視点を習得することを目標とし、日本周辺の各国・地域を取り上げて説明する。具体的には、講義担当者の調査研究の経験に基づき、「中国各地の歴史・自然・人々の暮らし」「東アジアとロシア極東の歴史と社会」「東南アジアの経済発展とその影響」の３テーマについて４～６回ずつ講義する。	
		教養スペシャル・トピックスＡ		本講義では、人文社会科学に関連する分野で、カリキュラムに体系的に組み込むことがかなわないトピックや将来的にカリキュラムに組み込むためのパイロット講義や寄付講座等、必ずしも毎年開講することを条件としないトピックを扱う。異文化理解や日本や世界の情勢等に関するアップトゥデイトなトピックを扱い、受講生が新しい価値観や考え方に触れることで視野と知見を広め、人間的な成長や専門分野への洞察を深めることを目的とする。授業開講形式は対面型やオンライン形式など、内容に応じて決定する。	
		教養スペシャル・トピックスＢ		本講義では、人文社会科学に関連する分野で、カリキュラムに体系的に組み込むことがかなわないトピックや将来的にカリキュラムに組み込むためのパイロット講義や寄付講座等、必ずしも毎年開講することを条件としないトピックを扱う。異文化理解や日本や世界の情勢等に関するアップトゥデイトなトピックを扱い、受講生が新しい価値観や考え方に触れることで視野と知見を広め、人間的な成長や専門分野への洞察を深めることを目的とする。授業開講形式は対面型やオンライン形式など、内容に応じて決定する。	
		教養スペシャル・トピックスＣ		本講義では、人文社会科学に関連する分野で、カリキュラムに体系的に組み込むことがかなわないトピックや将来的にカリキュラムに組み込むためのパイロット講義や寄付講座等、必ずしも毎年開講することを条件としないトピックを扱う。異文化理解や日本や世界の情勢等に関するアップトゥデイトなトピックを扱い、受講生が新しい価値観や考え方に触れることで視野と知見を広め、人間的な成長や専門分野への洞察を深めることを目的とする。授業開講形式は対面型やオンライン形式など、内容に応じて決定する。	
		教養スペシャル・トピックスＤ		本講義では、人文社会科学に関連する分野で、カリキュラムに体系的に組み込むことがかなわないトピックや将来的にカリキュラムに組み込むためのパイロット講義や寄付講座等、必ずしも毎年開講することを条件としないトピックを扱う。異文化理解や日本や世界の情勢等に関するアップトゥデイトなトピックを扱い、受講生が新しい価値観や考え方に触れることで視野と知見を広め、人間的な成長や専門分野への洞察を深めることを目的とする。授業開講形式は対面型やオンライン形式など、内容に応じて決定する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		教養スペシャル・トピックスＥ		本講義では、人文社会科学に関連する分野で、カリキュラムに体系的に組み込むことがかなわないトピックや将来的にカリキュラムに組み込むためのパイロット講義や寄付講座等、必ずしも毎年開講することを条件としないトピックを扱う。異文化理解や日本や世界の情勢等に関するアップトゥデイトなトピックを扱い、受講生が新しい価値観や考え方に触れることで視野と知見を広め、人間的な成長や専門分野への洞察を深めることを目的とする。授業開講形式は対面型やオンライン形式など、内容に応じて決定する。	
		教養スペシャル・トピックスＦ		本講義では、人文社会科学に関連する分野で、カリキュラムに体系的に組み込むことがかなわないトピックや将来的にカリキュラムに組み込むためのパイロット講義や寄付講座等、必ずしも毎年開講することを条件としないトピックを扱う。異文化理解や日本や世界の情勢等に関するアップトゥデイトなトピックを扱い、受講生が新しい価値観や考え方に触れることで視野と知見を広め、人間的な成長や専門分野への洞察を深めることを目的とする。授業開講形式は対面型やオンライン形式など、内容に応じて決定する。	
	Ｄ群　情報とコンピュータ・サイエンス	コンピュータリテラシー		本授業では、インターネットとコンピュータを大学在学中に活用するための、実用的な利用法を学ぶ。コンピュータを安全に活用するために必要となる基本的なセキュリティ、インターネットを活用するために必要となる基礎知識やマナー、これからの学習活動に必要となるデータ活用方法などをドキュメント支援ツール(文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト)を用いながら座学とハンズオンにて実践的に学習する。本授業の到達目標は、次のように定める。(1)各種ドキュメント作成ツールの基本テクニックを習得し実践できる。(2)電子メールやSNSなどのコミュニケーション手段を正しく利用でき、ウイルス脅威への対策を講じることができる。(3)SNSなどによるフィッシング詐欺や闇バイトなどの勧誘手段を学び、これらの行為に騙されない知識を持つ。これらを目標とする。	
		情報技術資格対策（Word）		マイクロソフト オフィス スペシャリスト（MOS）の資格取得のための科目となっている。事務支援ツール(文書作成ソフト）に関する知識などについて、今後の大学での学修に必要な基礎的知識と技術、社会に出てからも必要な基礎的事務知識の習得と資格取得を図る。	集中講義
		情報技術資格対策（Excel）		マイクロソフト オフィス スペシャリスト（MOS）の資格取得のための科目となっている。事務支援ツール(表計算ソフト）に関する知識などについて、今後の大学での学修に必要な基礎的知識と技術、社会に出てからも必要な基礎的事務知識の習得と資格取得を図る。	集中講義
		情報技術資格対策（ITパスポート）		本授業は、IPA情報処理通信機構が定める国家試験である「ITパスポート」の試験合格を目標とするものである。近年、ITは私たちの社会の隅々まで深く浸透し、どのようなビジネスにおいてもITなくして成立しません。つまり、どのような業種・職種でも、事務系・技術系、文系・理系を問わず、ITの基礎知識を持ち合わせていなければ、企業の戦力にはなりえません。そこで、本授業はITパスポート試験の最新シラバスに準じて、以下の項目について知識の定着を目指す。(1) 新しい技術（AI、ビッグデータ、IoT など）や新しい手法の概要に関する知識。(2)経営全般（経営戦略、マーケティング、財務、法務、プロジェクトマネジメントなど）の知識。(3)IT（デバイス、セキュリティ、ネットワークなど）の知識。等を習得し試験合格を目指す。	情報メディアコース必履修
		データサイエンス入門		本授業では、文部科学省が提唱する「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」におけるリテラシーレベルに相当する知識及び技術を習得する講座である。リテラシーレベルは、データと社会との関係性を学ぶ「導入」、データを読み解き、扱うための基礎的な能力を学ぶ「基礎」、データやAIを利活用する際の倫理的・法的・社会的な留意点などを学ぶ「心得」などにより構成されている（出典：文部科学省）。講座ではこれらの知識をもれなくかつ分かりやすく講義を行い、今後急速に発展するAI・ビックデータ主流の時代に向けて学ぶ。本授業では、(1)現在の社会システムにおいて、AIがどのシーンで活用されているのか説明できる。(2)AIの特徴を理解し社会で利用する際に的確に運用できる基礎知識を持つ。(3)AI時代の構成員である自覚と責任を持てるようになる。このような目標を掲げ取り組む。	
		情報技術資格対策（デジタルコンテンツ制作）		本授業は、イラスト・マンガ・アニメーション制作に欠かせないツール「CLIP STUDIO PAINT」の知識を測る検定である「CLIP STUDIO PAINTクリエイター検定」の初歩クラス“ベーシック”の検定合格を目指す。これは、「CLIP STUDIO PAINT」ユーザー対象に基本的な機能活用能力の他、デジタル制作全般の基礎知識に関すもので、今まで描けなかったものが描ける、思い描いた通りの作品制作を楽しめるチカラが身につくなど、技術の向上だけでなく、創作の幅や今後の活躍の場を広げる。	メディア
		AIリテラシー		本授業は、同時期に開講している「データサイエンス入門」の上位講座として、AIに特化した内容である。生成AIの登場で、これまで以上にAIの利用範囲が広角となることを受け、「どのように付き合っていくのか」、「何に気を付けるのか」などの座学の他、AIプログラムで必要となる情報の収集・補正・解析・可視化など個々のPCを活用したハンズオンと、テーマの成果発表など、実社会での運用をイメージした授業を行う。本授業では、(1)AIの本質を理解し実社会での運用を説明できる。(2)解析に必要となる情報の種類やデータ構造、最適な解析手法を選択できる。(3)社会での問題に敏感になり、解決手法を思考できるようになる。このような目標を掲げ取り組む。	メディア

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基盤科目		サイバーセキュリティ入門		本授業は、サイバー空間における様々な脅威、犯罪の手口を学び、第一に自身が犯罪被害に遭わないことを目指すとともに、サイバーパトロール要領（違法・有害情報の発見方法、ＩＨＣ通報等）を学び、サイバー空間の安全確保に寄与することを目指している。また、サイバー犯罪の被害防止のための広報啓発について考え、注意喚起の方法等を対象者（高齢者、年少者）に合わせて、創意工夫し、広報啓発資料の制作・発表を行う。制作した広報啓発資料を活用して、実際に防犯講話で発表（希望制）を行い、地域社会全体のサイバーセキュリティ水準の向上に寄与する。	
		英語Ⅰ読む・書く		英語Iは様々なテーマをとおして４技能を上達させるコースである。このコースでは特に読む・書くの２技能に焦点をあてる。このコースはグローバル化が進む社会に対応できる英語の基本を、大学初年次の前期に養うようデザインされている。英語でのコミュニケーション力を向上させ、英語を使う自信を深め、流暢さと正確さを身につけることを目的とする。	
		英語Ⅱ読む・書く		英語Ⅱは様々なテーマをとおして４技能を上達させるコースである。このコースでは特に読む・書くの２技能に焦点をあてる。このコースはグローバル化が進む社会に対応できる英語の基本を、大学初年次の後期に養うようデザインされている。英語でのコミュニケーション力を向上させ、英語を使う自信を深め、流暢さと正確さを身につけることを目的とする。	
		英語Ⅰ聴く・話す		英語Iは様々なテーマをとおして４技能を上達させるコースである。このコースでは特に聴く・話すの２技能に焦点をあてる。このコースはグローバル化が進む社会に対応できる英語の基本を、大学初年次の前期に養うようデザインされている。英語でのコミュニケーション力を向上させ、英語を使う自信を深め、流暢さと正確さを身につけることを目的とする。	
		英語Ⅱ聴く・話す		英語Ⅱは様々なテーマをとおして４技能を上達させるコースである。このコースでは特に聴く・話すの２技能に焦点をあてる。このコースはグローバル化が進む社会に対応できる英語の基本を、大学初年次の後期に養うようデザインされている。英語でのコミュニケーション力を向上させ、英語を使う自信を深め、流暢さと正確さを身につけることを目的とする。	
		英語Ⅲ読む・書く		英語Ⅲは様々なテーマをとおして４技能を上達させるコースである。このコースでは特に読む・書くの２技能に焦点をあてる。語学技能の上位科目であり、授業はすべて英語で行う。このコースはグローバル化が進む社会に対応できる英語の応用的な力を、大学２年次の前期に養うようデザインされている。英語でのコミュニケーション力をより向上させ、英語を使う自信を深め、流暢さと正確さを身につけることを目的とする。	
		英語Ⅳ読む・書く		英語Ⅳは様々なテーマをとおして４技能を上達させるコースである。このコースでは特に読む・書くの２技能に焦点をあてる。語学技能の上位科目であり、授業はすべて英語で行う。このコースはグローバル化が進む社会に対応できる英語の応用的な力を、大学２年次の後期に養うようデザインされている。英語でのコミュニケーション力をより向上させ、英語を使う自信を深め、流暢さと正確さを身につけることを目的とする。	
		英語Ⅲ聴く・話す		英語Ⅲは様々なテーマをとおして４技能を上達させるコースである。このコースでは特に聴く・話すの２技能に焦点をあてる。語学技能の上位科目であり、授業はすべて英語で行う。このコースはグローバル化が進む社会に対応できる英語の応用的な力を、大学２年次の前期に養うようデザインされている。英語でのコミュニケーション力をより向上させ、英語を使う自信を深め、流暢さと正確さを身につけることを目的とする。	
		英語Ⅳ聴く・話す		英語Ⅳは様々なテーマをとおして４技能を上達させるコースである。このコースでは特に聴く・話すの２技能に焦点をあてる。語学技能の上位科目であり、授業はすべて英語で行う。このコースはグローバル化が進む社会に対応できる英語の応用的な力を、大学２年次の後期に養うようデザインされている。英語でのコミュニケーション力をより向上させ、英語を使う自信を深め、流暢さと正確さを身につけることを目的とする。	
		中国語Ⅰ文法		基礎的な中国語の文法事項についての講義を行う。また、作文･読解などの作業も行い、実践的な中国語運用能力をつけることを目指す。レベル的には、中国語検定準4級程度の内容を想定して授業を進める。	
		中国語Ⅱ文法		基礎的な中国語の文法事項についての講義を行う。また、作文･読解などの作業も行い、実践的な中国語運用能力をつけることを目指す。レベル的には、中国語検定4級から3級程度の内容を想定して授業を進める。	
		中国語Ⅰ読む・書く		中国語入門の授業である。本講義はテキストに沿って、中国語の基礎を学ぶ。声調（中国語の発音表記符号）からスタートして中国語の発音、語彙、文法などの基礎知識をマスターしていく。ピンインと声調の習得に多くの時間を充当し、テキスト文を正確に、流暢に音読できるようにする。また既習の単語や文はピンインと漢字で書けるようにする。学習目標は、基礎単語が500語・日常挨拶語80で、中国語検定準４級の合格レベルである。平易な記述文が理解でき、短い文章が書けるようになる。また、日常生活レベルでのあいさつや対応ができるようになる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		中国語Ⅱ読む・書く		本講義は中国語の発音をしっかり身につけることを目標に、音読を重点におき、テキスト文を正確に、流暢に音読できるようにする。また既習の単語や文はピンイン符号と漢字で書けるようにする。「中国語の文を読んで正しく理解する力」と「中国語の文を聞いて、それを正しく書き取る力」を伸ばしていく。学習目標は、常用語が1,000語で、中国語検定４級の合格レベルである（希望すれば３級受験が可能なレベル）。日常使用する文章が理解でき、平易なレポート程度の文章が書けるようになる。また、日常生活レベルでの会話ができるようになる。	
		中国語Ⅰ聴く・話す		この授業では、中国語の発音の基礎ーピンインと声調をしっかり身に付けさせることを最重要点として学んでいく。ピンインが書ける上にまた聞き取れ、正しく発音できるように練習を重ねる。教員との一対一の練習及び視聴覚教材を通して、中国語の発音に慣れ、正しく発音できるようにする。自分と周りについて簡単に紹介できると同時に日常生活中での簡単な挨拶や相槌ができるようにする。中国の文化を紹介し、異文化への理解に繋げ、中国語のコミュニケーション能力を養う基礎を作る。	
		中国語Ⅱ聴く・話す		「中国語Ⅰ一聴く・話す」に引き続き、ピンイン・声調を重視し中国語の発音に慣れ、使いこなせる単語の量を増やしていく。中国語で自己紹介でき、テキストに基づいて頻出する挨拶や簡単な日常会話を正しく発音することができ、尚且つより流暢に話せるように取り組んでいく。中国有名な漢詩を取り入れ、中国語で漢詩の韻の美しさを感じれるよう取り組む。教員との一対一の会話、グループ練習及び留学生との交流などを通して簡単な日常会話ができ、初級段階の中国語のコミュニケーションが楽しめるレベルに達せるようにする。	
		中国語Ⅲ文法		文法についての知識と語彙の量を増やすことに重点を置いて授業を行う。「習った単語や文法をしっかり覚え、正しく理解し、使えるようになること」が目標である。語彙や文法解説を中心に学び、基本的な構文を理解し、簡単な文章を読み、文章を読解する能力の基礎を身に付ける。また中国文化に対する理解を深めるために，中国文化の紹介も行う。文法研究に必要な基礎力を養成する。学習目標は、常用語が2,000語で、中国語検定３級の合格レベルである。平易な新聞記事が理解でき、簡単なレポート程度の文章が書けるようになる。また、日常生活に困らない程度の会話能力を身につける。	
		中国語Ⅳ文法		本講義は文法についての知識と語彙の量を増やすことに重点を置いて授業を行う。 「習った単語や文法をしっかり覚え、正しく理解し、使えるようになること」を目標とし、練習を重ねていく。語彙や文法解説を中心に学び、基本的な構文を理解し、簡単な文章を読み、文章を読解する能力の基礎を身に付ける。また中国文化に対する理解を深めるために，中国文化の紹介も行う。文法研究に必要な基礎力を養成する。学習目標は、常用語が2,000語で、中国語検定３級の合格レベルである。平易な新聞記事が理解でき、簡単なレポート程度の文章が書けるようになる。また、日常生活に困らない程度の会話能力を身につける。	
		中国語Ⅲ読む・書く		常用語2,000語、中国語検定３級が合格できるレベルに到達することを学習目標とし、この授業を通して平易な新聞記事が理解でき、簡単なレポート程度の文章が書けるようになることを目指す。愛言社『聴く中国語』の「NEWS FOCUS」を教材として使用し、中国・世界・日本の「今」のニュースを中国語で読み解く。授業時に使用する教材を配布し、各自日本語に訳した後、単語の意味や訳し方を確認しながら文の内容を見ていく。１回の授業につき、１つの読み物を読むというペースで進めていき、５回につき１回小テストを行い、どのくらい身に付いたか確認する。	
		中国語Ⅳ読む・書く		常用語2,000語、中国語検定３級が合格できるレベルに到達することを学習目標とし、この授業を通して平易な新聞記事が理解でき、簡単なレポート程度の文章が書けるようになることを目指す。前期同様、愛言社『聴く中国語』の「NEWS FOCUS」を教材として使用し、中国・世界・日本の「今」のニュースを中国語で読み解く。授業時に使用する教材を配布し、各自日本語に訳した後、単語の意味や訳し方を確認しながら文の内容を見ていく。１回の授業につき、１つの読み物を読むというペースで進めていき、５回につき１回小テストを行い、どのくらい身に付いたか確認する。	
		中国語Ⅲ聴く・話す		「中国語Ⅲ一聴く・話す」は、中国語を「話す」時、語彙の声調を重視しながら、イントネーションにも重点を置き強化していく。自分自身のこと、家族のこと及び大学生活など日常生活の出来事について、場面設定の会話練習を通して、既習語彙と文法を生かし、いかに中国語で自然に簡単なコミュニケーションがとれる方法を習得する。同時に視聴覚資料など通じて中国の風俗習慣などを紹介し、異文化への理解を深め、言語の学習に役立てたい。中国人留学生との交流機会を設け、中国語を用いた交流を実践することで中国語を話す自信をつけさせ、聞く能力と話す能力を鍛える。	
		中国語Ⅳ聴く・話す		「中国語Ⅳ一聴く・話す」は前期に引き続き、中国語の発音と会話のイントネーションを重視しながら、「話せる」範疇を拡大していく。テーマごとの会話練習を通して、買い物、道案内、料理注文、旅行などについて中国語で簡単な会話ができ、母国語話者の中国人と自然にコミュニケーションが取れるように話題を増やして学んだものを定着させる。習得した文法を用いて自分自身のことだけではなく、自分の身の回りのことについても質問したり、簡単に説明することができ、自分の意見が少し言えるように練習を重ねる。映像などを活用して中国の文化、社会変化などを紹介し、グローバル社会への理解を深め、さらなる高いコミュニケーション能力を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	E群　言語とコミュニケーション	ドイツ語Ⅰ文法		ドイツ語はヨーロッパの経済や文化の中心地であるドイツのほか、スイスやオーストリアなどで使用されている言語である。この授業では、ドイツ語文法の学習を行う。ドイツ語の文法は原則がしっかりしているので、ゲームのルールを覚えるような気持ちで学習を進めてほしい。また、ドイツ語の発音は日本人の私たちにとって比較的容易である。授業は教科書に従って進めていく。学期の途中に何度か小テストを行うことで理解度をチェックする。アルファベットの発音から始めて、動詞の人称変化、名詞、人称代名詞など基本的な文法について順番に学習していく。さらに、ドイツの文化についても適宜紹介の機会を設けることとしたい。語学の学習は段階的に積み上げていくものなので、宿題などを通した復習をしっかりするよう心がけてほしい。	
		ドイツ語Ⅱ文法		ドイツ語Ⅰ文法に引き続き、ドイツ語文法の学習を行う。前置詞、助動詞、過去形、現在完了形などを中心に文法事項の学習を行う。ドイツ語Ⅰ文法の内容をある程度理解していることが前提となるため、その都度復習を行うようにしてほしい。また、ドイツ語Ⅰ文法と同様に、学期中に何度か小テストを行う。さらに、ドイツの文化についても適宜紹介の機会を設けることとしたい。ドイツ語という外国語の学習をとおして母語に対する言語感覚を養い、またドイツを中心としたヨーロッパの出来事に対して関心を持てるようになってほしい。	
		ドイツ語Ⅰ読む・書く		ヨーロッパ標準枠A1.1レベル、あるいは、ドイツ語検定５級レベルを目指す。この授業は、ドイツ語を読み、書くことを学習する。初めてドイツ語に触れる学習者が対象なので、最初はドイツ語の発音とドイツ語独特の読み方に慣れるために、音読に重点を置く。ドイツ語文法で学習した動詞の現在人称変化、冠詞や名詞の格変化程度までの文法項目を範囲として、文法の基礎的知識の定着を図るとともに、語彙の学習も並行して行う。折に触れドイツの地誌や生活を紹介しながら、ドイツ文化全般についての興味関心を喚起する。	
		ドイツ語Ⅱ読む・書く		ヨーロッパ標準枠A1.2レベル、あるいは、ドイツ語検定4級レベルを目指す。この授業は、ドイツ語を読み、書くことを学習する。初めてドイツ語に触れる学習者が対象なので、最初はドイツ語の発音とドイツ語独特の読み方に慣れるために、音読に重点を置く。ドイツ語文法で学習した冠詞や名詞の格変化程度までの文法項目を範囲として、文法の基礎的知識の定着を図るとともに、語彙の学習も並行して行う。日常会話や旅行で使える表現を読み、自分の場合に合わせて、新たにドイツ語作文をする。折に触れドイツの地誌や生活を紹介しながら、ドイツ文化全般についての興味関心を喚起する。	
		ドイツ語Ⅰ聴く・話す		この授業では、ドイツ語の四技能のうち、特に聴くことと話すことに主眼を置いた練習を行う。会話練習を中心とする授業なので、教員やクラスメートとのドイツ語による会話に積極的に取り組む姿勢が求められる。また、授業の進度に合わせて小テストを行うことで、知識の着実な定着を目指す。ドイツ語Ⅰでは、最初にアルファベットの発音から簡単な挨拶の仕方を学んだあと、出身国や趣味などについての簡単な自己紹介の仕方や、数字の発音などについて学習する予定である。	
		ドイツ語Ⅱ聴く・話す		この授業では、ドイツ語の四技能のうち、特に聴くことと話すことに主眼を置いた練習を行う。会話練習を中心とする授業なので、教員やクラスメートとのドイツ語による会話に積極的に取り組む姿勢が求められる。また、授業の進度に合わせて小テストを行うことで、知識の着実な定着を目指す。ドイツ語Ⅱでは、料理に関する表現や、家族の紹介、ショッピングの際の会話などについて実践的に学ぶことで、会話能力をさらに伸ばしていくことを目指す。	
		ドイツ語Ⅲ文法		「ドイツ語I/Ⅱ-文法」の既習者を対象とした週１回の授業。「ドイツ語I/II」で学んだ内容を確認しながら、さらに複雑な文法事項の習得を目標として、実践的な語学力向上を目指す。使いこなせる語彙数の目標は４００～５００語とし、独語検定３級合格レベルのドイツ語力を身につける。初級の基本的な文法を最後まで丁寧に学習する。前期は主に完了形、受動態、関係詞の学習が中心となる。文法力、語彙力を高める問題演習や音声教材を取り入れながら初級文法の知識の定着を図る。さらにドイツに関する最新の情報を随時紹介し、ドイツへの理解を深めていく。	
		ドイツ語Ⅳ文法		「ドイツ語Ⅲ-文法」の既習者を対象とした週１回の授業。前期で学んだ内容を確認しながら、さらに新しい文法事項の習得を目指す。使いこなせる語彙数の目標は５００～６００語とし、独語検定３級合格レベルのドイツ語力を身につける。後期は主に接続法を中心に学習し、さらに初級の基本的な文法事項を完全にマスターすることを目指す。基礎文法終了後はドイツ語サイトの簡単な記事や短い物語などを用いてドイツ語原文に直接触れ、基本的な文法構造を実践的に学習する。さらにドイツに関する最新の情報を随時紹介し、ドイツへの理解を深めていく。	
		ドイツ語Ⅲ読む・書く		ヨーロッパ標準枠A2.1のレベルを目指す。あるいは、使いこなせる語彙数が400～500で、ドイツ語検定３級の合格を目標とする。インターネット上の簡単な記事やドイツ事情に関する平易なドイツ語文を読むことによって、実践的な読解力養成を目指す。また、音読の復習や語彙力のトレーニングも随時行う。ドイツ語の総合的な基礎力を確実なものとする。1年次に修得した文法項目をさらに正確に理解すること、ドイツ語の原文に目を通し、内容の大意をつかむことできるようになること、それによって必要な情報を手に入れられるようになることを学習する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		ドイツ語Ⅳ読む・書く		ヨーロッパ標準枠A2.2のレベルを目指す。あるいは、使いこなせる語数が400～500以上で、ドイツ語検定３級以上の合格が目標である。インターネット上の簡単な記事やドイツ事情に関する平易なドイツ語文を読むことによって、実践的な読解力養成を目指す。また、音読の復習や語彙力のトレーニングも随時行う。ドイツ語の総合的な基礎力を確実なものとする。1年次に修得した文法項目をさらに正確に理解すること、ドイツ語の原文に目を通し、内容の大意をつかむことできるようになること、それによって必要な情報を早く、的確に手に入れられるようになることを学習する。	
		ドイツ語Ⅲ聴く・話す		この授業では、ドイツ語の四技能のうち、特に聴くことと話すことに主眼を置いた練習を行う。会話練習を中心とする授業なので、教員やクラスメートとのドイツ語による会話に積極的に取り組む姿勢が求められる。また、授業の進度に合わせて小テストを行うことで、知識の着実な定着を目指す。ドイツ語Ⅲでは、時刻に関する表現や、現在完了形などの過去についての表現、さらに自分がこれからやりたいことなど、より高度な表現の学習を行う。また、それにともに、より多くの語彙の学習を目指す。	
		ドイツ語Ⅳ聴く・話す		この授業では、ドイツ語の四技能のうち、特に聴くことと話すことに主眼を置いた練習を行う。会話練習を中心とする授業なので、教員やクラスメートとのドイツ語による会話に積極的に取り組む姿勢が求められる。また、授業の進度に合わせて小テストを行うことで、知識の着実な定着を目指す。ドイツ語Ⅳでは、旅行に関する表現や、さまざまな助動詞の使い方、レストラン、ホテル、銀行など特定の場面での会話などについて学ぶ予定である。また、それとともにより多くの語彙の学習を目指す。	
		日本語Ⅰ読む・書く		日本語IからIVの「読む・書く」は、「読む」活動と「書く」活動を中心に、日本語非母語話者が大学での学びに十分な言語構造的能力（語彙・文法・発音・文字・表記）、社会文化能力、語用論的能力をつけることを目的とする。「I」は、基本的な表記・語彙・文法の定着をはかり、自らに直接的に関係がある領域に関する文章を理解したり産出したりする力を育成する。また、受講者同士の交流を通して、日本語表現に慣れ、十全的参加をしながら初歩的な日本語の読み書きを身につけることを目指す。	
		日本語Ⅱ読む・書く		日本語IからIVの「読む・書く」は、「読む」活動と「書く」活動を中心に、日本語非母語話者が大学での学びに十分な言語構造的能力（語彙・文法・発音・文字・表記）、社会文化能力、語用論的能力をつけることを目的とする。「II」は、「I」の次の段階となり、身近で個人的に関心のある話題について理解したり産出したりする力を育成する。また、受講者同士の交流を通して、日本語表現に慣れ、十全的参加をしながら初歩的な日本語の読み書きを身につけることを目指す。	
		日本語Ⅰ聴く・話す		日本語IからIVの「聴く・話す」は、「聴く」活動と「話す」活動を中心に、日本語非母語話者が大学での学びに十分な言語構造的能力（語彙・文法・発音・文字・表記）、社会文化能力、語用論的能力をつけることを目的とする。「I」は、基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、自分に直接的に関係がある領域に関する情報のやりとりができるようになることを目指す。また、受講者同士の交流を通して、日本語表現に慣れ、十全的参加をしながら初歩的な日本語の読み書きを身につけることを目指す。	
		日本語Ⅱ聴く・話す		日本語IからIVの「聴く・話す」は、「聴く」活動と「話す」活動を中心に、日本語非母語話者が大学での学びに十分な言語構造的能力（語彙・文法・発音・文字・表記）、社会文化能力、語用論的能力をつけることを目的とする。「Ⅱ」は、「I」の段階が終わった学生に対して、日常生活でよく接する場面の会話ができるようになることを目指し、身近で個人的に関心のある話題について理解したり産出したりする力を育成する。また、受講者同士の交流を通して、日本語表現に慣れ、十全的参加をしながら初歩的な日本語の読み書きを身につけることを目指す。	
		日本語Ⅲ読む・書く		日本語IからIVの「読む・書く」は、「読む」活動と「書く」活動を中心に、日本語非母語話者が大学での学びに十分な言語構造的能力（語彙・文法・発音・文字・表記）、社会文化能力、語用論的能力をつけることを目的とする。「Ⅲ」は、日本語による学術的文章の書き方の基礎を習得することを目的とする。モード（形式や目的）に応じた文章構成全体を学び、それに従って文章を書く力を身につける。また、様々なタイプの説明文を読み、内容を正確に理解する力を養う。授業では多様な背景を持つ学生同士が交流する機会を設け、意見交換や共同作業を通じて相互理解を深めるとともに、異文化間コミュニケーション能力の向上を図る。	
		日本語Ⅳ読む・書く		日本語IからIVの「読む・書く」は、「読む」活動と「書く」活動を中心に、日本語非母語話者が大学での学びに十分な言語構造的能力（語彙・文法・発音・文字・表記）、社会文化能力、語用論的能力をつけることを目的とする。「IV」は「Ⅲ」に引き続き、日本語による学術的文章の書き方を習得することを目的とする。モード（形式や目的）に応じた文章構成全体を学び、それに従って文章を書く力を身につける。また、様々なタイプの説明文を読み、内容を正確に理解する力を養う。授業では多様な背景を持つ学生同士が交流する機会を設け、意見交換や共同作業を通じて相互理解を深めるとともに、異文化間コミュニケーション能力の向上を図る。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		日本語Ⅲ聴く・話す		日本語IからIVの「聴く・話す」は、「聴く」活動と「話す」活動を中心に、日本語非母語話者が大学での学びに十分な言語構造的能力（語彙・文法・発音・文字・表記）、社会文化能力、語用論的能力をつけることを目的とする。「Ⅲ」は、専門的な内容のスピーチやまとまった話を聞き、そのテーマや構成を理解する力を養い、情報を整理し伝える能力を向上させる。内容に基づいた話し合いを通じ、自分の経験や意見を適切に述べる力を育成し、相互理解と異文化間コミュニケーション能力を高める。さらに、プレゼンテーションの技法を学ぶ。	
		日本語Ⅳ聴く・話す		日本語IからIVの「聴く・話す」は、「聴く」活動と「話す」活動を中心に、日本語非母語話者が大学での学びに十分な言語構造的能力（語彙・文法・発音・文字・表記）、社会文化能力、語用論的能力をつけることを目的とする。「IV」は、これからのキャリアを考える活動を通じて、自分自身を説明する力を養う活動に重点を置く。併せて、専門的な内容のスピーチを聞き取り、文章全体のテーマや構成を理解する力を向上させる。また、プロジェクトを通じて、聴き手としての態度を身につけることを目指す。活動は個人、ペア、グループ形式で進め、多角的な視点を養い、異文化間コミュニケーション能力の向上を図る。さらに、プレゼンテーションの技法を深める。	
		フランス語Ⅰ総合		前期はまずフランス語の基礎を学ぶことを目的とし、言語の仕組みを丁寧に学習する。基礎的な表現を学び、日常生活での基本的な語彙を習得する。また、フランス社会や文化についても触れ、現代フランスの社会問題、日常的な習慣や生活の様子を紹介する。多様な文化や生活様式、伝統行事などを学ぶことで、言語学習の背景にある社会的・文化的な事象を読み解くための知識を涵養する。学生はフランスの歴史や重要な文化的側面に関する理解を深め、現代のフランス社会を知るための視野を広げる。	
		フランス語Ⅱ総合		後期は前期で習得した基礎的な知識を発展させるべく、引き続き言語の仕組みを学習して技能の向上を目指す。文学・音楽・映画などの作品に親しみその内容を原文で鑑賞するとともに、作品の中で描かれる社会問題や作品を支える思想を学び分析を試みる。これにより、学生はフランス文化や社会の深層を理解し、国際的な視野を持つための知識を得る。学生同士のディスカッションを通じて、理解を整理するとともに情報発信できる教養を涵養する。	
		コリア語Ⅰ総合		本授業では、韓国語を初めて学習する人を対象に、文字と発音、基礎的な文法、簡単な日常表現を習得させる。まず、ハングル（韓国語の文字）の構造や発音規則を学び、練習を通じて正確な発音を身につける。その後、挨拶や自己紹介など日常生活でよく使われる基本的な表現を学習する。また、助詞の使い方や文章の基本構造を理解し、短い文を作る練習を行う。さらに、言語学習を通じて韓国の社会や文化にも触れることで、両国に対する理解を深める。これらを通じて、韓国語学習の基礎を固め、日常生活の場面で簡単なコミュニケーションを取れるようになることを目指す。	
		コリア語Ⅱ総合		本授業では、コリア語Ⅰ総合を修了した学習者を対象に、総合1で学んだ基礎文法をさらに発展させ、使用頻度の高い語彙や文法を習得させる。文法においては、存在文や疑問文、現在形と過去形の語尾活用を中心に学び、これらを用いた簡単な会話練習を行うことで、韓国語の表現力を高める。また、数字の学習を通じて、時間の表現、買い物、レストランでの注文、カレンダーの読み方、時間の約束など日常生活に必要なスキルを身につける。さらに、韓国の文化や慣習に触れることで、韓国の社会への理解も深める。これらを通じて、基礎文法を強化し、日常生活での実用的なコミュニケーションが可能になることを目指す。	
	F群	科学史１		社会のあるべき姿を考える際に、しばしば見落とされがちになるのが現代社会において科学技術が果たす役割、具体的には近代科学技術のいろいろな意味での背景と、望ましい姿に関する客観的で深い理解である。その理解増進のためには科学哲学、科学社会学そして本科目「科学史」等のアプローチ方法がある。「科学史１」では序論に続き、事例研究として天文学史を取り上げて、一見すると単純な誤りで学び直す必要を感じられない古い考え方を疑似体験し再考することで、現代の我々の思考方法を単純に過去に投影するのではなく、できるだけ当時の人々の立場から考え直すことの重要性を学ぶ。すなわち現代の我々が無意識に背負っている一種の偏見を明るみに出す挑戦である。この一種の逆転の発想に続いて、西欧の文化やその後の発展を決定づけた近代科学史の概要と特徴を学ぶ。同時に、西欧近代科学の背後にあるギリシア以来の哲学の重要性を認識し、近代科学の飛躍的発展に寄与したキリスト教の考え方の概要を、参加者間の対話を重視した講義形式で学ぶ。	
		科学史２		「科学史２」では「科学史１」の学びの上に、実際の歴史的事例を通じてギリシア以来の哲学、特に近代科学の発想に大きな影響を与えた哲学者プラトンとアリストテレスの考え方を学ぶ。続く歴史的概観および物理学史の中でアウスグティヌス、12世紀ルネサンスにおけるトマス・アクィナスの影響について考える。さらに17世紀における物理学展開の中で、一見すると負の存在に感じられるキリスト教が、実は飛躍のための決定的な役割を果たしたことを学ぶ。化学史および生物学史におけるアリストテレスの影響力を再認識し、また生物・社会進化論の考察を通じて、キリスト教が果たした役割を検討する。加えて18、19世紀以降の社会と科学技術の関係の変質を踏まえて巨大科学技術、産業化科学、そして現代における科学の在り方すなわち環境倫理、情報倫理そして生命倫理の諸問題を考察する。最後に、明治期日本の西欧近代科学技術受容の歴史から現代日本に引き継がれた諸問題を自分自身の問題として考え、今後のあるべき姿を考察するきっかけとする。参加者間の対話を重視した講義形式で実施する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	自然科学と社会	基礎数学１		数学における自然数・整数・実数および四則演算を集合論の立場から振り返り、より深い理解の獲得を目指す。特に少数、分数で表現された割合の概念と歩合計算を暗記ではなく論理的に理解し数的現象を解釈できる力の獲得することが目標である。講義形式は分野ごとに数学的概念と方略を説明し、その後理解の定着を促すため演習を行う。また初回にアセスメントテストを行い、算数障害といった認知的に数学に脆弱性を抱えている可能性が考えられる学生には、それぞれの学力に応じた個別カリキュラムを組み到達目標を決め実施し、学期末テストやレポート課題で評価を行う。	
		基礎数学２		基礎数学１で理解を深めた数学的知識の上に、文字式を導入した代数と幾何に関する数学を理解していくことが目標である。文字式は中学から高校の数学程度の内容を主に扱うが、将来学生がデータサイエンスを学ぶための基盤となる数学的知識も取り上げる。講義形式は分野ごとに数学的概念と方略を説明し、その後理解の定着を促すため演習を行う。また初回にアセスメントテストを行い、算数障害といった認知的に数学に脆弱性を抱えている可能性が考えられる学生には、それぞれの学力に応じた個別カリキュラムを組み到達目標を決め実施し、学期末テストやレポート課題で評価を行う。	
		社会と数理１		本授業では、基礎数学の上位講座として、実社会で使う数理データ、統計に関する知識と理解力を深めることを目的とする。具体的には、ロジカルシンクの基礎となる“図解”に着目し、目的とする問題の関係性、大小、組織構造、ヒエラルキーなど、文章より構造を理解し、あらゆる構図の図を作成できるようにする。授業では、図解の例題を学生に出し、それぞれ自由に図で表現。それぞれの書き方を発表させ、他との違いや正解例などを紹介し、学生の気づきを促す。さらに、これらの手法が、実社会でどのシーンで使われるのかを説明し、社会人として必須のスキルであることを理解させる。	
		社会と数理２		本授業では、「社会と数理１」の上位講座として、図を用いて表現するまでの、そのエビデンスとなる元データの集め方やクレンジング手法などPCハンズオン型の講義を行う。到達目標は、さまざまなデータの読み方やデータの作成方法、統計処理の手法を学び、適切なグラフや図を使って、相手に内容が簡潔で分かりやすく、かつ効果的なプレゼンテーション力を身に着けさせる。最終的には、ロジカルシンクに従った報告書やプレゼンテーション資料を作成可能な人材を養成する。	
	Ｇ群	スポーツ実習１		いろいろな身体運動やスポーツ種目の実践を通して、基礎体力の充実、行動力の養成、コミュニケーションの形成をはかるとともに、生涯スポーツとして日常生活に身体運動を積極的に取り入れ、自分自身で健康を管理していける実践力の育成を目指す。	
		スポーツ実習２		いろいろな身体運動やスポーツ種目の実践を通して、基礎体力の充実、行動力の養成、コミュニケーションの形成をはかるとともに、生涯スポーツとして日常生活に身体運動を積極的に取り入れ、自分自身で健康を管理していける実践力の育成を目指す。	
		スポーツ実習３		本授業は生涯スポーツとして適正の高い卓球を教材として取り上げて実施する．基本的な技術であるフォアハンドストローク，バックハンドストロークの習得を行い技能習得のプロセスも学習する．さらに卓球競技の最大の特徴であるボールの回転について理解し，ボールに回転をかける技術，回転のかかったボールを返球する技術を身につける．そして，シングルス，ダブルスのルールとゲームの進め方を理解して将来において自ら実践できるようにすることを目的とする．	
		スポーツ実習４		本授業は生涯スポーツとして適正の高いバドミントンを教材として取り上げて実施する．基本的な技術であるフォアハンドストローク，バックハンドストロークの習得を行い技能習得のプロセスも学習する．さらにバドミントン競技の最大の特徴である配球ついて理解し，コートの任意の位置から意図した位置にシャトルを打ち出すための技術を身につける．そして，シングルス，ダブルスのルールとゲームの進め方を理解して将来において自ら実践できるようにすることを目的とする．	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
H群　思考と実践	スポーツと健康	スポーツとリベラルアーツ		スポーツが社会のさまざまな側面とどのように結びついているかを探求し、現代社会におけるスポーツの役割を再評価することを目的とする。スポーツをテーマに、メディア、政治、法律、環境、歴史、倫理、地域社会、テクノロジーなどとの関連性を多角的に考察する。講義やディスカッション、映像ドキュメンタリーの研究を通じて、スポーツが個人と社会に与える影響を批判的に分析し、スポーツを文化的・社会的文脈の中で理解するスキルを養う。地域との連携やeスポーツを含む新たな分野にも焦点を当て、社会的意義を実践的に学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） （9 一戸信哉/5回） 全体統括、スポーツがメディアにおいてどのように取り上げられ、社会に影響を与えているかを考察する。 （8 富川尚/1回） スポーツが国際政治や外交関係において果たす役割と、その影響について学ぶ。 （13 藤本晃嗣/1回） スポーツに関連する法律やルールの歴史と現状、法的課題を理解する。 （7 房文慧/1回） スポーツイベントが環境に与える影響と、持続可能な運営方法について考える。 （5 丸畠宏太/1回） スポーツの歴史的な発展と社会的意義を、特定の時代や地域を通じて学ぶ。 （19 金 耿昊/1回） スポーツの歴史的な発展と社会的意義を、特定の時代や地域を通じて学ぶ。 （12 加藤裕康/2回（うち1回外部講師招聘）） eスポーツの発展と社会的影響、課題について最新の事例を基に学ぶ。 （20 井西弘樹/1回） スポーツにおける倫理的問題や公平性について批判的に考察する。 （10 伊藤 学/2回（うち1回外部講師招聘）） テクノロジーがスポーツのパフォーマンスや運営に与える影響を探る。	オムニバス
		基礎演習１		基礎演習１では大学での学びに必要な基礎的リテラシーと技術を実践的に養成する。書籍や新聞記事、WEB情報等を素材に用い、様々な調査手法を学ぶことにより以下の技術を習得することを目標とする。①日本語リテラシーを向上させ、情報を読みとり、情報を正しく伝える簡潔な文章が書ける。②本学の教育の特徴であるリベラルアーツ教育や人権について理解する。③地域について関心のあるテーマについて様々な調査方法を使って調べることができる。④ポスター、レジュメ、スライド等を使用したプレゼンテーションができる。⑤自分の考えをもってディスカッションに参加することができる。⑥文献検索の手法を習得し、レポート執筆のマナーと倫理を踏まえて短いレポートを執筆できる。	
		基礎演習２		基礎演習２では大学での学びに必要な基礎的リテラシーと技術の定着を図る。書籍や新聞記事、WEB情報等を素材に用い、様々な調査手法を学ぶことにより以下の技術を習得することを目標とする。①日本語リテラシーを向上させ、新聞記事等において事実と意見を読み分け、概要を的確にまとめることができる。ファクトチェックの手法を学ぶ。②本学の教育の特徴である地域活動の場となる地域を知る。③プレゼンテーションやレポート執筆に必要な文献検索や調査方法、資料作成方法を習得する。④ポスター、レジュメ、スライド等を使用した効果的なプレゼンテーションができる。未知の分野でも関心をもって発表を聞き、既知の知識を元に質問ができる。⑤ディスカッションに参加し、相手の意見を引き出し積極的に対話することができる。⑥レポート執筆のマナーと倫理を踏まえて、構成力のあるレポートを執筆できる。⑦主専攻となる学問分野について理解を深める。	
		地域とボランティア		災害復興、地域活性化のとりくみを始めとして生活困窮者や構造的差別に苦しむ人々の支援においてボランティアが果たす役割は重要性を増しています。「ボランティア」は「無償の活動」のような狭い意味で用いられることが多いのですが、もっとも重要なのは「ボランタリー＝自発的に」行われる、利他的な行動だということです。そしてそれは「地域」を活動の場として実践されます。この大学がある新発田市にはどのような歴史があり、どのような人々が暮らしているのでしょうか。この授業はボランティアと地域を知るための入門科目です。	
		ボランティア		ボランティア活動の単位を認定するしくみで、1日につき1枚の活動記録とレポートの提出をもって認定する。同一の活動場所である必要はない。また、年度をまたいで実施しても構わない。45時間以上1単位、90時間以上2単位となる。	標準外
		留学 異文化研究		海外で語学の集中学習を希望する学生のために、夏期休暇または春期休暇を利用したプログラムと長期間参加できるプログラムを提供している。留学出発前に留学の心構えや諸手続き、渡航にあたっての注意事項等についてオリエンテーションを実施、帰国後提出される現地での学習成果とレポートを基に単位認定審査を行う。	標準外
		フィールド･ワーク		リベラルアーツの学びを地域・世界を舞台にした社会活動の中で実践していく自主研究科目である。活動の前に指導教員等と計画を立て、大学で学んだ知識や技能を地域社会の課題解決のために活用し、その経験を学内の学びに還元できるよう、学生自身が主体的に取り組むことが求められる。活動後は報告書を提出し、その内容と学修量に応じて単位が認定される。履修にあたっては、指導教員等に活動計画書を提出し、学内での活動許可を得てから活動を開始すること。	標準外

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Ｉ群　キャリアと実践	インターンシップ		（１）官公庁や民間企業において就業体験をすることにより、それぞれの勉学を進める契機とする。具体的には、社会現実に対する認識、大学で学んだことが現場ではどのように適用できるかについての理解、問題意識の向上など。また、職業選択を考える契機及び就職活動への動機付けとする。 （２）近隣の学校の協力を得て、教育体験活動に取り組む。本活動は、座学で修得した知識に加え、その知識を踏まえた経験を積むことで、実践知を培うことを目的とする。	標準外
		キャリア開発入門		２年生を対象とした「キャリア開発入門」では、「自分を知る」をテーマに進路選択に重要な「自己分析」について講義やワークを通して学ぶ。自分の進路について、大学生に相応しい言葉で考え、表現できることを目標とする。適性検査（キャリア・マップ）の結果、講義・活動等から自分の「適性」や「強み」について考え、その後の大学生活のあり方やキャリア・プランに活かす。自分はどのような人間か、適性検査の結果はどのように出ていたか、今までどのような経験をしてきたか、敬和学園大学で今後どのような活動をしていきたいか等を毎回の授業で考え、作成した成果（キャリア設計図）を最後に全員が発表する。	
		キャリア開発１		進路選択が目の前にせまっている３年生を対象に、「社会人」として「キャリア」を着実に重ねるために必要な知識や情報を習得し、キャリア・プランの実践に活かしていく事を目標とする。毎回各分野に詳しい外部講師を招き、チェーンレクチャーで授業を行う。授業では適性検査の結果等を活用した自己分析、職業選択に必要な「業種」・「職種」の研究、インターンシップ制度についての解説等の他、応募書類の作成方法、筆記試験対策、面接のロールプレイ等実践的な就職活動準備も併せて実施する。	
		キャリア開発２		進路選択が目の前にせまっている３年生を対象に、「社会人」として「キャリア」を着実に重ねるために必要な知識や情報を習得し、キャリア・プランの実践に活かしていく事を目標とする。毎回各分野に詳しい外部講師を招き、チェーンレクチャーで授業を行う。授業では適性検査の結果等を活用した自己分析、職業選択に必要な「業種」・「職種」の研究、インターンシップ制度についての解説等の他、応募書類の作成方法、筆記試験対策、面接のロールプレイ等実践的な就職活動準備も併せて実施する。	
		SPI対策１		AIテクノロジーの発達は加速度的に進んでいっている現在において、数字で表されたデータを適切に解釈し目的に役立てる能力を学生が獲得していることの必要性の声が日々高まっている。例えば2018年11月30日の『日本経済新聞』において「文系学生も数学を。経団連が改善案　大学教育見直しを提言」という記事が紹介されている。そこで本講義は、就職試験で要求される数学の学力の獲得だけでなく、卒業後もデータ科学を学び実践的に活用できるようにするために必要になってくる数学的な学力の獲得を目指すことが目的である。講義形式は最初に各分野のポイントを解説し、演習を通じて数学的学力の獲得を目指し講義を行う。	
		SPI対策２		AIテクノロジーの発達は加速度的に進んでいっている現在において、数字で表されたデータを適切に解釈し目的に役立てる能力を学生が獲得していることの必要性の声が日々高まっている。例えば2018年11月30日の『日本経済新聞』において「文系学生も数学を。経団連が改善案　大学教育見直しを提言」という記事が紹介されている。そこで本講義は、「SPI対策1」で時間的に扱うことができなかった分野を取り上げることが目的である。「SPI対策１」同様、文系大学の学生でも就職試験で求められる数学的学力の獲得を目指すと共に、社会人になってから更に高度な数学的知識の獲得やAIテクノロジーを使いこなすために必要となってくる数学的素養の獲得がもう一つの目的である。	
		ビジネスマナー講座（秘書検定対策）１		秘書検定２級受験を前提の履修とし、合格を目標とする。また幅広い分野のビジネスマナーの習得と社会人としての常識を身につけることを目指す。ビジネスマナー講座（秘書検定対策）２とあわせて１年を通してビジネスマナーを身につける。社会人としての心構えや人間関係、挨拶や敬語などの言葉遣い、電話応対にビジネス文書など幅広い分野を習得できる秘書検定は、いわば社会人検定とも言える。基本的には検定試験の受験対策であるが、コミュニケーション能力の重要性など検定以外の社会で役立つ内容を幅広く学ぶ。組織のなかで働く職場常識を履修でき、自信を持って就活にも臨める。また、学年を超えたグループワークの実施で履修者の横の繋がりも深め、モチベーションアップを図る。授業の感想の紹介、質問に回答しながら双方向で授業を作り上げる。	
		ビジネスマナー講座（秘書検定対策）２		秘書検定２級受験を前提の履修とし、合格を目標とする。また幅広い分野のビジネスマナーの習得と社会人としての常識を身につけることを目指す。ビジネスマナー講座（秘書検定試験対策）１と同じ教科書を使ってその続きを行う。引き続き秘書検定の内容を基本に、社会に出てからも役立つ内容を盛り込み、ロールプレイングで学修する。授業の感想の紹介、質問に回答しながら双方向で授業を作り上げる。就職活動で重視される面接試験対策にも対応する。11月に行われる秘書検定２級の受験対策を中心に、受験終了後は臨機応変に社会に出て役立つビジネスマナーを学ぶ。	
		検定試験準備コース（TOEIC）Ｉ１		この授業では今までに修得した基礎的な語彙や文法を復習し、リーディング、リスニング力を向上させTOEICの450点レベルを目標にする。TOEICの教材を通して問題形式に慣れ、ビジネスやニュース、電話でのやり取りやホテルでの会話などの練習問題を通して様々な分野で使われる単語、言い回しに慣れ、それに関する日常的な会話や文章を聞きとったり、読む力をつけることを目指す。またリスニングやリーディングに必要とされる文法、構文を確認する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		検定試験準備コース（TOEIC）Ｉ２		この授業では今までに修得した基礎的な語彙や文法を復習し、リーディング、リスニング力を向上させTOEICの500点レベルを目標にする。TOEICの教材を通して問題形式に慣れ、ビジネスやニュース、電話でのやり取りやホテルでの会話などの練習問題を通して様々な分野でよく使われる単語、言い回しに慣れ、それに関する日常的な会話や文章を聞きとったり、読む力をつけることを目指す。またリスニングやリーディングに必要とされる文法、構文を確認する。	
		観光と留学の英語１		（英文）This content-based course focuses on providing students with the language needed in different travel situations.It will expose students to real-life scenarios by taking the role of both traveler and worker, catering to those who want to travel, and those who want to work in the hospitality industry. （和訳）コンテントベースのコースは、さまざまな旅行の状況で必要な言語を学生に提供することに焦点を当てている。ロールプレイなどの活動をとおし、受講生は旅行者と観光業の従業員の両方の役割を体験し会話の練習を行う。このコースは、海外旅行を希望する学生や、サービス業で働きたい学生に強く勧める。	
		観光と留学の英語２		（英文）This course focuses on the preparation to study abroad. This intermediate-level, content-based course will prepare students to inquire and determine options for studying English abroad.Students will do independent research and actual application processes necessary for studying abroad. Students will also be taught necessary skills to correspond with the institutions of their choice. In class, students will discuss their findings, practice model conversations, focus on vocabulary and learn the target language through role-plays.Students will also create portfolios and make presentations at the end of the semester. （和訳）このコースは海外留学の準備に必要な英語能力の向上に焦点を当てる。中級レベルのコンテントベースのコースで、学生が海外で英語を学ぶための選択肢を調べ、決定する準備をする。受講者は、留学に必要な調査と実際の申請プロセスを模擬的に行う。希望する教育機関に問い合わせをするのに必要なスキルを学び、分かったことについて話し合い、会話の練習をし、語彙に焦点を当ててロールプレイをとおして目標言語を学ぶ。また、学生は学期末までにポートフォリオを作成し、その発表を行う。	
		検定試験準備コース（中国語）		中国語検定試験３級に合格できる語学力を身につけることを目標とする。 前半は中国語検定試験４級の内容を、後半は３級の内容を中心に講義を行い、各級で扱われている文法や単語の使い方・意味などを学ぶことに重点を置く。また、練習問題などを通して試験の問題形式に慣れるよう練習を重ねる。主に講義形式で授業を行うが、実際に過去に出題された問題を解き、どのくらい理解できているか確認する時間も設ける。 （オムニバス方式/全15回） （74 丸山恵子/8回） 中国語検定試験４級の内容を中心に講義を行い、各級で扱われている文法や単語の使い方・意味などを学ぶことに重点を置く。また、練習問題などを通して試験の問題形式に慣れるよう練習を重ねる。主に講義形式で授業を行うが、実際に過去に出題された問題を解き、どのくらい理解できているか確認する時間も設ける。 講者の状況によっては、HSK（漢語水平考試）の試験対策を行う場合もある。 （71 徐偉/7回） 中国語検定試験3級の内容を中心に講義を行い、各級で扱われている文法や単語の使い方・意味などを学ぶことに重点を置く。また、練習問題などを通して試験の問題形式に慣れるよう練習を重ねる。主に講義形式で授業を行うが、実際に過去に出題された問題を解き、どのくらい理解できているか確認する時間も設ける。	オムニバス
		児童英語教育概論１		児童英語教育概論１は前期に開講する。小学校での英語科指導において必要とされる指導力と教材開発力を併せ持った人材の育成を目的とする。学習のユニバーサルデザインや子どもの学びの原理を理解し、全ての子どもが「できた！」と感じられる授業を組み立てられるようになること、「英語指導力」だけでなく、子どもの学びを理解する事を目的とする。多重知能理論、多感覚を使う学びと多様な学び方、モンテッソーリ教育の概論を中心に学ぶ。また、概論の応用として、絵本を活用した指導案を考える。	
		児童英語教育概論２		児童英語教育概論２は後期に開講する。小学校での英語科指導において必要とされる指導力と教材開発力を併せ持った人材の育成を目的とする。学習のユニバーサルデザインや子どもの学びの原理を理解し、全ての子どもが「できた！」と感じられる授業を組み立てられるようになること、「英語指導力」だけでなく、子どもの学びを理解する事を目的とする。学習のユニバーサルデザイン、シンセティックフォニックスの概論を中心に学ぶ。また、概論の応用として、絵本を活用した指導案を考える。	
		児童英語教育実践１		児童英語教育実践１は前期に開講する。小学校における英語教育のあり方を考察し、児童に対する英語の指導法を習得することをテーマとする。模擬授業形式の発表をすることで、指導力・英語運用能力を向上させる。　この講義では、小学校における英語教育の意義を学び、カリキュラム・レッスンプランの作成及び教材研究を行い、模擬授業を行うことで、児童英語指導者としての実践力を育成する。作成したレッスンプランを使って、地域の小学校で実際に授業を行い、より実践的な「授業力」を養成する。学生自身の「英語運用能力」とともに、様々な場で必要とされる「プレゼンテーション能力」を養成する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目（コース共通）	ＨＥ群　言語と教育	児童英語教育実践２		児童英語教育実践２は後期に開講する。小学校における英語教育のあり方を考察し、児童に対する英語の指導法を習得することをテーマとする。模擬授業形式の発表をすることで、指導力・英語運用能力を向上させる。　この講義では、小学校における英語教育の意義を学び、カリキュラム・レッスンプランの作成及び教材研究を行い、模擬授業を行うことで、児童英語指導者としての実践力を育成する。作成したレッスンプランを使って、地域の小学校で実際に授業を行い、より実践的な「授業力」を養成する。学生自身の「英語運用能力」とともに、様々な場で必要とされる「プレゼンテーション能力」を養成する。	
		児童英語指導実習論		前期・後期を通して15回の授業を演習方式で行う。複数の教員（大岩・坂井）が教材研究と実習前指導を担当する。小学校における英語教育のあり方を考察し、児童に対する英語の指導法を習得することをテーマとする。小学校における英語活動の基礎的な知識を習得すること、児童英語活動に必要な教材選択と教材作成の方法を理解すること、児童英語活動のための基礎的指導力を習得することを到達目標とする。 （オムニバス方式/全15回） （17 大岩彩子/5回） ガイダンス、実習前指導１、実習前指導２、実習前指導３、最終報告会事前指導 （32 坂井邦晃/10回） 小学校における英語教育の現状と課題１、小学校における英語教育の現状と課題２、教材研究１、教材研究２、教材研究３、教材研究４、教材研究５、教材研究６、教材研究７、教材研究８	オムニバス･一部集中講義
		留学生と学ぶ日本語表現		本科目では、受講者同士が意見を交換しながら、文章作成のアイディアを深める活動を行い、文章の基本的な「型」を習得することを目的とする。この授業は、日本で生まれ育った学生、留学生、外国にルーツを持つ学生など、多様な背景を持つ者が受講する。受講者同士の交流を通じて相互理解を深め、異文化間コミュニケーション能力を養うことを目指すとともに、状況や目的に応じた文章作成の基礎を学ぶ。日本語非母語話者向けの授業の一貫であり、日本語母語話者には非母語話者を支援する積極的な姿勢が求められる。	
		日本語学１		日本語学は日本語の姿を科学的に捉える学問である。すなわち，日本語を審美的あるいは規範的観点からみるのではなく，客観的にありのままの姿を捉え，そこにひそむ日本語特有の性質や他言語とも共通する普遍的な性質をみつけてゆく。「日本語学１」では，日本語を含む言語一般の性質をみたうえで，現代語を中心に日本語の音声の問題をとりあげる。そして続いて仮名（ひらがな・カタカナ）と漢字を中心に，各文字の成り立ちや表記法の問題を考える。	
		日本語学２		日本語学は日本語の姿を科学的に捉える学問である。すなわち，日本語を審美的あるいは規範的観点からみるのではなく，客観的にありのままの姿を捉え，そこにひそむ日本語特有の性質や多言語とも共通する普遍的な性質をみつけてゆく。「日本語学２」では，「日本語学１」の内容を受けて，語彙・文法を中心に学ぶ。まず，語とは何か，語を形作る単位は何か，という問題を考えたうえで，その，語を形作る単位の種類と組み合わせを学ぶ。そして，そのことをふまえながら，中学・高校で学んだ活用の問題を，批判的観点を取り入れながらみてゆく。さらに，意味の問題を分析法を実践しながら考える。最後に，日本語の構文の成り立ちについて，複数の観点からとらえてゆく。	
		日本語教育学概論１		本科目は、日本語教育学の理論的・基礎的な部分を学び、この分野を俯瞰的に捉える力を養うことを目的とする。主な内容として、言語政策、第二言語習得理論といった基本的な理論や、初級日本語文法の基礎知識を扱う。また、話し合いやグループワークを通じて、異文化間コミュニケーション能力を向上させることも重視する。教材分析や模擬授業などの実践的な方法については一部を取り扱う。理論の理解を深めることを主眼に置き、これを基盤として日本語教育学の全体像を把握することを目指す。	
		日本語教育学概論２		本科目は、「日本語教育学概論1」で学んだ理論を踏まえて、日本語教育学における実践的な知識や方法を学び、具体的な教授行動がとれるようになることを目的とする。主な内容として、中級以上の日本語文法に関する知識やや４技能（読む・書く・聞く・話す）別の教材研究等を扱う。また、話し合いやグループワークを通じて、異文化間コミュニケーション能力を向上させることも重視する。実践的な活動を通じて、学んだ理論を応用し、日本語教育における現場対応力を養成する。	
		日本語能力試験対策クラスⅠ		本科目では、日本語能力試験（Ｎ３～Ｎ１）の合格を目指し、試験形式に慣れることと、必要な言語知識（文字・語彙・文法）を身につけることを目的とする。また、自分の日本語運用力の課題を把握し、自主学習の基礎を築く力を養う。授業では、文字・語彙・文法の知識学習、及び、聴解・読解といった内容理解の確認をバランスよく進める。試験問題への適応力を高めるだけでなく、受講者が自立した学習者として成長できるようサポートする。	
		日本語能力試験対策クラスⅡ		本科目では、日本語能力試験（Ｎ３～Ｎ１）の合格を目指し、試験形式に慣れることと、必要な言語知識（文字・語彙・文法）を身につけることを目的とする。また、自分の日本語運用力の課題を把握し、自主学習の基礎を築く力を養う。授業では、受講生の不足している部分に重点を置き、言語知識（文字・語彙・文法）、聴解、読解の各分野において弱点を効果的に克服できるよう支援する。試験問題への適応力を高めるだけでなく、受講者が自立した学習者として成長できるようサポートする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		日本語表現Ⅰ		本科目は、日本語の表現力を向上させることを目的とし、以下の到達目標を掲げている。①雑誌、新聞記事、論文、小説など多様な文章を読み、その内容を正確に理解する力を養うこと、②理解した内容を客観的に記述する力と、自分の意見を正確に表現する文章を書く力を身につけること、③留学生と日本人学生の交流を通じて相互理解を深め、異文化間コミュニケーション力を高めること、④グループ討議や全体での口頭発表、個別のレポート作成を通じて、論理的・批判的思考力を養い、自分の意見を確立すること。授業では、文献読解から意見文の作成、ピア活動による意見文の検討、修正を繰り返す一連の学習プロセスを重視する。また、協働学習やグループ活動を通じて、他者と協力しながら成果を上げる社会的スキルの発達も図る。受講者は授業時間内外で積極的に学習に取り組み、期末には個人レポートを完成させることを求められる。	
		日本語表現Ⅱ		本科目は、以下の4つの目標を達成することを目的とする。①日本語の文献を多く読み、その内容を正確に理解する力を養うこと、②文献を要約し、考察を加えた上で、学術場面で使用される適切な表現を用いて自己の意見を記述する力を身につけること、③留学生と日本人学生が交流し、相互理解と異文化間コミュニケーション能力を高めること、④グループ討議、全体での口頭発表、個人レポート作成といった課題を通じて、論理的・批判的思考力を養い、自分の意見を明確に表現できるようになること。授業では、文献の読解、要約、発表、ディスカッション、意見文の作成という一連の活動を繰り返し行い、受講者同士の協働学習を重視する。受講者は授業外の予習や復習を含め、積極的に学習に取り組むことが求められる。最終的には、これらの学びを統合し、期末レポートを完成させることで成果をまとめる。	
		日本事情１		本科目は、日本について、言語・文化・社会・歴史など多様な切り口から学び、新たな視座を得ることを目的とする。「日本」に関する基本的な文章や素材を用いながら、様々なアプローチで日本を捉え、多面的かつ複眼的に事象を考察する。授業では、テーマに基づいた発表や、グループワーク、ワークショップなどを行い、他者の観点に触れる機会を提供する。これにより、論理的・批判的思考力を養い、幅広い視野で物事を捉えられる力を身につけることを目指す。授業への出席と活動への積極的な参加が重要であり、実体験を通じて学びを深める科目である。	
		日本事情２		本科目は、他者との対話を通じて自分自身の新たな一面に気づき、異なる考え方を理解する力を養うことを目的とする。受講者同士の交流を重視し、テーマに基づいた話し合いや成果物の作成、グループ発表などを行う。また、ワークショップやシミュレーション・ゲームを通じて、多様な疑似体験を提供する。これらの活動を通じて、他者とのコミュニケーションを深めるとともに、自分の考え方を見直す機会を得ることを目指す。授業への出席と活動への積極的な参加が重要であり、実体験を通じて学びを深める科目である。	
	ＨＨ群　思考と実践	教育活動アクティブワーク		他者と協力して２泊３日の野外教育活動プログラムを自分たちで作成し、それらを自分たちで運営して、最後に省察する。団体行動に求められる社会性や集団作りのノウハウや、活動プログラムを創出・工夫するスキルは社会教育や学校教育のリーダーに必須の能力・資質である。対話とコミュニケーションを重んじ、他者と協力して活動する貴重な体験になる。学習の到達目標と評価基準、並びに学習成果に関するフィードバック方法は、シラバスと授業ガイダンス等で確認する。	
		地域学１		講師の企業理念や経営方針，そしてそれらの理念や経営哲学をどのように実践し、展開しているのか、講師の方が経営あるいは主催している企業・個人が地域や消費者とどのように関わっているのか、各企業のこれまでの歩み等についてご講演いただく。翌週に講師の方の仕事場を訪問して、社会や地域を見る目を養う。そうした場での実体験を通して、現実の問題や課題などを理論と照らし合わせて解決の道を探ってゆく。各企業の抱える課題をどのようにしたら改善できるのか、学生がその課題の解決策を見出す「課題解決学習」を行い、地域の企業から地域についての理解を深める。この授業を通した講師の方々と学生たちとの絆を通して地域社会の活性化を図り、学生が地域と関わる社会人になることを目指す。	
		地域学２		講師の企業理念や経営方針，そしてそれらの理念や経営哲学をどのように実践し、展開しているのか、講師の方が経営あるいは主催している企業・個人が地域や消費者とどのように関わっているのか、各企業のこれまでの歩み等についてご講演いただく。翌週に講師の方の仕事場を訪問して、社会や地域を見る目を養う。そうした場での実体験を通して、現実の問題や課題などを理論と照らし合わせて解決の道を探ってゆく。各企業の抱える課題をどのようにしたら改善できるのか、学生がその課題の解決策を見出す「課題解決学習」を行い、地域の企業から地域についての理解を深める。この授業を通した講師の方々と学生たちとの絆を通して地域社会の活性化を図り、学生が地域と関わる社会人になることを目指す。	
		英語教育学概論		本授業は、「英語教育の理論と実践を学ぶ」をテーマとする。授業においては、英語教育の理論を使って教育現場を分析できるようになるとともに、実際の教育現場と照らし合わせて自身の教育方針を描くことができることを目標とする。授業では、まず英語教育とは何かについてその役割や方法について学び、その後、英語教育学の諸学説を現実の教育現場に照らし合わせながら理解を深めていく。そして、英語教育の実際として、ケース研究により教育事例を学ぶとともに、近年の教育課題について多文化教育やICT（情報通信技術）の活用などから迫っていく。授業は講義形式で行い、受講生は毎回小レポートを提出して内容の理解を深める。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	ＨＪ群　教職課程指導法	英語教材研究論		本授業は、「英語教育学概論」を基礎として、後期に履修する科目である。本授業のテーマは、「英語教材の開発と評価を学ぶ」である。授業においては、英語教材の理論と実践を理解し、効果的な教材を開発・評価できるようになることを目標とする。授業では、まず英語教材の基本的な概念と種類について学び、その後、教材開発のプロセスや評価方法について深く掘り下げていく。そして、実際の教育現場で使用されている教材の分析や、自身で教材を開発する実践的な演習を行う。授業は講義形式で行い、受講生は毎回小レポートを提出して内容の理解を深める。	
		英語科教科教育法１		本授業は、「英語教育の方法論と実践的アプローチを学ぶ」をテーマとする。授業においては、英語教育の方法論を理解し、教育現場で効果的に活用できるようになることを目標とする。授業では、まず英語教育の基本的な理論と方法について学び、その後、具体的な指導法や教材の開発、評価方法について深く掘り下げていく。そして、実際の教育現場における指導法の適用例や課題についてケーススタディを通じて学ぶ。授業は講義形式で行い、受講生は毎回小レポートを提出して内容の理解を深める。	
		英語科教科教育法２		本授業は、「英語科教科教育法１」の発展編として、より高度な英語教育の方法論と実践的アプローチを学ぶことをテーマとする。授業においては、英語教育の先進的な理論と実践を理解し、教育現場での応用力を高めることを目標とする。授業では、まず「英語科教育法１」で学んだ基礎を振り返り、その上で新たな指導法や評価方法、教材開発の最新動向について学ぶ。そして、実際の教育現場における高度な指導法の適用例や課題について、ケーススタディや実践演習を通じて深く掘り下げていく。授業は講義形式で行い、受講生は毎回小レポートを提出して内容の理解を深める。	
		社会科・公民科教科教育法		中学校・高等学校における公民学習は，今この社会についての内容を直接学ぶことで，現代社会の構造や特質についての認識の成長を図るとともに，現代民主主義社会に参画できる市民の育成をめざす教科である。また，社会の課題が複雑さを増し，選挙権年齢が18歳になるなど，社会参加・政治参加の必要性が高まっている。本授業は，こうした公民科を取り巻く動向を捉えつつ，中学校社会科公民的分野および高等学校公民科の目標・内容・方法を論じるとともに，優れた授業・評価事例の検討を通して，中等学校段階の公民授業の指導計画・学習評価の設計方法を学ぶものである。	
		社会科・公民科指導法		授業とは何か。子どもが授業の中でその活動の主人公になったとき授業が授業となる。生徒たちが夢中になって問いの追求に取り組む時、深い学習が生まれる。柔らかくしなやかな関係性が築かれた授業空間の中で、生徒同士、また生徒と授業者との間に心の触れ合いが豊かに生起する。一度それを経験すると誰しも授業が病みつきになる。そんな授業の存在は、日本の教育の希望に他ならない。授業に対する子どもたちの感想によって自身の変革を迫られ「授業を変えないと子供は救われない」と訴えた林竹二の教育思想・授業論を手がかりにして「子どもたちだけでは到達できない高みにまで、しかも子どもが自分の手や足を使ってよじ登っていくのを助ける仕事」としての授業の創り方を実践的に学ぶ。	
		社会科・地理歴史科教科教育法		戦後民主主義教育の中核的教科として1947年に誕生した社会科は、1989年の学習指導要領改訂により小学校低学年社会科廃止、高校社会科の地理歴史科と公民科に再編されたが、それら諸教科が民主主義社会の主権者・形成者育成を目指す教科であることは今日まで一貫して変わりはない。その歴史を踏まえつつ、中等社会科・高校地理歴史科の目標・内容・学習評価・学習指導の基礎・基本について概観すると共に、それらの学習指導上の今日の教育動向や課題について考察を深める。特に、資質・能力の育成に重点を置く今日の社会科授業の在り方について解説する。その上で、中学校社会科、高校地理歴史科の授業を構想し、説明でき、且つそれを批判的に検討する力を育てることを目指す。なお、本講義の中に１単位時間程度の授業参観と授業分析検討の機会を設けることを予定している。	
		社会科・地理歴史科指導法		本講義では、先ず、３年次「社会科・地理歴史科教科教育法」の学習内容・学習経験を踏まえて、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の優れた授業構成論や実践記録から、授業構想・単元構想の基本を学ぶことを目標とする。次に、教材研究・単元構想・模擬授業実践・授業評価・授業改善の一連のPDCAサイクルを実践的に学ぶことを通して、中学校社会科・高校地理歴史科の学習指導の基礎的・基本的な力を養うことを目指す。そのために、今日学習指導で求められている個別的な学びとグループでの協働的学びの活動等を組織して、中学校３分野、高校地理歴史科の「地理総合」「歴史総合」等の複数の指導事例を具体的に取り上げて学ぶことを重視する。なお、受講者自身が教育実習で取り組んだ単元・教材・授業実践記録を事例に取り上げ、具体的実践と社会科指導理論との往還により学びを深めることを目指す。	
		国際関係史１		近年の国際社会はグローバリゼーションの進展等により、かつてないような大変革期を迎えているように見える。こうした変化を歴史的に理解できるようになることをこの講義の目標にする。当然こういった大きな問題を扱う際にはできるだけ長い歴史的視野を持つ必要がある。そこで本講義では人類史としての国際関係史の概観を理解した上で、現代の国際関係を見る上で必要な基礎知識が身に付くように心掛ける。そこで　本講義では近代以前の国際関係も視野に入れて国際関係の発達過程を概説的に追っていくことにする。現在の国際関係の基底には約400年前のヨーロッパに始まる近代国民国家システムがあるが、それも時代の産物であり、今後変化していく可能性がある。そうした視点を持ちつつ、古代、中世の国際関係の歴史を簡単に見た上で、近代以降の国際関係の発達を四つの時代に区分しつつ概観する。	隔年

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		国際関係史２		国際社会の大変革を理解するためには２０世紀以降急激に進んだ国際社会の組織化という現象を把握する必要がある。そこで本講義では第一次世界大戦以後の国際社会の組織化の発展過程を理解することを目標にする。そのことを通して現在の国際関係のあり方に対する理解も深まることを期待している。そもそも「国際社会の組織化」の動きは第一次世界大戦の反省から徐々に進められ、第二次世界大戦後に本格的なものとなった。その動きは米ソ対立を基調とした冷戦によって覆い隠され、あまり目立たない時期もあったが、着実に進められてきたことも事実である。本講義では戦争がもたらす惨劇にも目を向けながら、国際社会が組織化される過程を分析していきたい。	隔年
		アジア近現代史１		19世紀末の清末時期から中華民国期半ばまでの国民国家の形成過程について解説･講義を行い、中国における普遍教育･徴兵制･国民経済の形成についての理解を深めることを目指す。	
		アジア近現代史２		中華民国期半ばから中華人民共和国成立時期までの国民国家の形成過程について解説･講義を行い、中国における普遍教育･徴兵制･国民経済の形成についての理解を深めることを目指す。	
		アジア史概説	○	唐朝の崩壊時期から19世紀までの東アジアの歴史についての概説の講義を行う。講義を通じて、中華世界が如何なる歴史的段階を経て成立してきたかを理解し、また中華的世界秩序を前提とした東アジア地域間相互の交流がどのようになされてきたかを理解する事を目指す。	
		アジア史	○	長江文明･黄河文明の成立時期から、唐代までの東アジアの歴史についての概説の講義を行う。講義を通じて、中華世界が如何なる歴史的段階を経て成立してきたかを理解し、また中華的世界秩序を前提とした東アジア地域間相互の交流がどのようになされてきたかを理解する事を目指す。	
		アジア文化論１		主に中国を中心とした東アジアにおける衣食住の生活文化について、解説･講義を行う。生活文化への理解を通して、アジアにおける民族問題や歴史的な課題を理解する事を目指す。	
		アジア文化論２		主に中国を中心とした空想上の動物について、解説･講義を行う。ヨーロッパと異なる、動植物と神･妖怪などの存在の境界の曖昧さを理解し、アジアにおける自然･人間の関係性の特徴を理解する事を目指す。	
		アメリカ社会と歴史１	○	アメリカ社会と歴史１では、アメリカの歴史を人々と社会という視点から考察し、アメリカの植民地時代から南北戦争期を学ぶ。授業の目標は、施政者に残された史料で作り上げられた歴史観にとどまらず、同時代の民衆と、地域によって異なるアメリカの姿を有機的に考えながら、アメリカ社会を理解していくことである。また、アメリカ社会への理解を通じて、私たちが生きる現代の日本や国際社会をどのように考えていけば良いのかというところまで理解を深め、広げることを目指す。植民地時代から南北戦争期までを概観しながら、二つの異なる性質を持つ植民地の成立、独立による統合、南北戦争による危機的分断の中に通底するアメリカが目指してきた「二つの民主主義解釈」を学び、アメリカ社会を多元的に見る目を養う。政治史・外交史と連動しながら、思想・社会・文化・民族・宗教などアメリカの多様性を形作る要因への理解を深める。	隔年
		アメリカ社会と歴史２	○	アメリカ社会と歴史２では、アメリカの歴史を人々と社会という視点から考察し、南北戦争後の産業革命期から現代までのアメリカ社会を学ぶ。南北戦争以前に作られた政治的・思想的枠組みが分裂と再統合を経て、近代社会構築に与えた影響に焦点をあて、アメリカ社会がたどった歴史的道程を追う。授業の目標は、施政者に残された史料で作り上げられた歴史観にとどまらず、同時代の民衆と、地域によって異なるアメリカの姿を有機的に考えながら、アメリカ社会を理解していくことである。また、アメリカ社会への理解を通じて、私たちが生きる現代の日本や国際社会をどのように考えていけば良いのかというところまで理解を深め、広げることを目指す。世紀転換期に産業化、都市化、移民などの問題を内包しつつ、大国・超大国として世界を牽引する役割を担ったアメリカ社会を学び、現代の国際社会を理解するための重大な鍵となる知識を涵養する。	隔年
		アメリカ社会と歴史３		アメリカ社会と歴史３のテーマは　「アメリカのキリスト教史」である。　日本のアメリカ研究の中で決定的に欠落してきたと考えられている視点として、宗教があげられる。アメリカ社会の理解については、合理主義的で物質主義的な消費社会に支えられている側面が強調されがちであるが、宗教という視点なしにアメリカの政治・社会・文化を語ることは不可能と言っても過言ではない。また、日本のキリスト教がアメリカのキリスト教宣教に多大な影響を受けた歴史を考える時、本学が掲げるキリスト教主義について、その潮流を理解する上でも、アメリカのキリスト教史を学ぶことには大切な意味があると言えるであろう。この授業では、アメリカのキリスト教の歴史を植民地時代から現代まで概観し、現在のアメリカの社会や政治にどのような影響が見られるかについて議論を行う。とりわけ政党政治とキリスト教の関わりについても深く考えていく。	隔年
		アメリカ社会と歴史４		アメリカ社会と歴史４のテーマは「アメリカの民族史・移民史」とする。社会における多様性の受容ということが謳われて久しく、また日本においても「包摂」という言葉が近年よく使われるようになったが、個人体験を振り返っても、異なる存在を受け入れることは容易ではない。移民国家と呼ばれるアメリカが、民主主義と平等を高らかに謳いながら、受容と反発を繰り返しつつ、徐々に理想へ近づこうとしてきた歴史には、私たちが個人としても社会としても学ぶべき要素が溢れている。この授業ではアメリカ社会の植民地時代から現代を、人種・民族・移民という切り口で概観し、現在のアメリカの社会や政治にどのような影響が見られるかについて議論を行う。またマイノリティに対する不利益の構造化についても深く考察する。	隔年

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		イスラーム文化論１		イスラームは全世界に20億人以上の信仰者を持ち、日本でも着実に信仰者の数を増やしている宗教である。本科目ではそのようなイスラームという宗教について、他の宗教との比較を意識しながらその教義と歴史について講義するとともに、幅広い実践の在り方を取り上げ、その多様性について理解を深める。芸術や食、ジェンダーといった文化に関するテーマだけでなく、政治・経済・社会など多様な領域のテーマを取り上げるほか、中東・（日本を含む）アジア・ヨーロッパなど地域による違いに目を向ける。	集中講義
		イスラーム文化論２		本科目は現代におけるイスラームの様々な実践の在り方、イスラームに関する言説について検討する。現代におけるイスラーム復興を受け、イスラームは個人や国家のアイデンティティのシンボルとして、現代世界の様々な局面に現れている。現象について取り上げた上で、政治・経済・社会・文化など様々な領域における新しい実践の形について講義する。さらに、イスラームにおける「穏健派と過激派」「宗派対立」といった言説について、実際の政治の展開にも目を向けながらその実像を検討する。	集中講義
		キリスト教史１		この講義では、西欧世界を理解する上で欠くことのできない要因であるキリスト教の視角から、西欧世界の歴史を概観する。前期配当のこの講義では、キリスト教の誕生前後から16世紀の宗教改革前夜までを扱う。西欧世界におけるキリスト教の拡大・定着過程、さらにはその発展の中に見られる戦争観・平和観にも着目する。とくに十字軍をめぐる問題は、今日の西欧世界の思考・行動を理解する上でも不可欠のテーマであり。この講義ではとくに重点を置く。単にキリスト教の歴史を紐解くに留まらず、宗教と人間の営みとの関係の考察から、広く現代的な問題を考えるための材料を提供するのが、この講義の狙いである。	
		キリスト教史２		後期配当のこの講義では、前期のキリスト教史1を受けて、キリスト教の歴史を広くヨーロッパ史、さらには世界史の文脈で概観する。扱う時代は、16世紀の宗教改革開始前後からフランス革命前夜の18世紀にかけてが中心だが、必要に応じて19，20世紀の話題にも目を向ける。宗教改革前後から、統一世界であるはずの西欧キリスト教世界は、世俗権力と結びつきながら多元的に分離していく。世俗権力の命令と宗教的信念が衝突するときどうするかという大問題もまた、このあたりから歴史の全面にあらわれてくる。その文脈で、フランス革命とキリスト教、ナチス・ドイツとキリスト教といった、現代世界の宗教のあり方が問われるテーマにも触れる。西欧の歴史をキリスト教の視点から概観するだけでなく、宗教が関わる今日的問題を考えるヒントを与えることも、この講義の重要な課題である。	
		ヨーロッパ思想史１	○	この授業では、古代から中世に至るまでの代表的哲学者たちについて、その生涯と学説の紹介を行う。西洋哲学は、紀元前六世紀頃に古代ギリシアで始まったとされるが、その核心には、私たちにとっての「当たり前」を疑う姿勢があると言える。歴史に名を残すような哲学者たちは、当時常識とみなされていた事柄を果敢に問い直そうとした人々であった。そうした哲学者たちの学説を学ぶことは、私たちがみずからの価値観や世界観について振り返る上でさまざまなヒントを与えてくれるはずである。この授業では、古代ギリシアにおける哲学の誕生から中世哲学までの流れを追う。ときに抽象度の高い内容となることが予想されるが、具体例などを交えながら可能なかぎり分かりやすい解説を行いたい。	
		ヨーロッパ思想史２	○	この授業では、近世から現代に至るまでの代表的哲学者たちについて、その生涯と学説の紹介を行う。ヨーロッパの哲学は、「われ思う、ゆえにわれあり」という言葉で有名なデカルトの登場以降、新たな時代に入った。合理論や経験論、ドイツ観念論や現象学など、その展開は百花繚乱の趣があるほど多様である。この時代の哲学者たちの思想は、われわれ現代人の世界観の基礎をなすものであり、私たちがみずからの価値観や世界観について振り返る上でさまざまなヒントを与えてくれるはずである。授業では、代表的な哲学者の思想を時系列に即して紹介していく。ときに抽象度の高い内容となることが予想されるが、具体例などを交えながら可能なかぎり分かりやすい解説を行いたい。	
		欧米文化論１		この講義では、文化を生活様式や風俗・習慣、文学、芸術といった狭義の文化に限定せず、広く人間の営みとその背後にある価値体系とらえ、文化と政治・経済・社会との相互関係にも目を向ける。考察の中心となる時代は近現代であり、西洋史、アメリカ史の各論・特論的な性格をもつ。前期配当の欧米文化論1では、ユダヤ人と欧米世界、アメリカとマイノリティ、ジェンダー、戦争・軍事の文化といった、政治や外交、人権問題とも密接に関わるテーマをおもに扱う。また、常に欧米以外の地域における同様の文化現象にも目を配り、異文化交流・衝突も意識しつつ、文化史的視点から現代世界を見る目を養う。	
		欧米文化論２		文化を広く人間の営みとその背後にある価値体系とらえること、文化と政治・経済・社会との相互関係にも目を向けること、考察の中心となる時代が近現代であり、西洋史、アメリカ史の各論・特論的な性格をもつことは、前期配当の欧米文化論1と同じである。後期配当のこの講義では、作家や文化人の活動を通じてみた近代世界の諸相、芸術文化の社会の底辺への拡大に見る市民社会・大衆社会の発展、エリート教育の文化とその変容、アメリカ文学と新大陸の社会、欧米人が見た非欧米世界など、狭義の文化史に近いテーマを取り上げながらも、政治や社会の動きに常に目を配り、また大きな歴史の流れの中にこれらの文化を位置づけるよう心がける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	歴史探究コース	音楽･音楽史１		この科目は、ピアノ作品を中心として、西洋音楽全般に関し、鑑賞を含めて広く学ぶことを目的としている。ピアノが 発明された時代を出発点として、西洋音楽史全体の歴史的変遷を概観する。この科目では古典派までの音楽を対象とし、主 な項目はピアノの歴史、バロックの鍵盤作品、オペラ、ピアノソナタ、交響曲、協奏曲、バロックから古典派の作曲家についてである。実際のピアノ演奏や映像、CD等で音楽作品を鑑賞し、それに対して自分自身の意見を述べたり、記述することができるようになることも目標である。	
		音楽･音楽史２		この科目は、ピアノ作品を中心として、西洋音楽全般に関し、鑑賞を含めて広く学ぶことを目的としている。19世紀ロマン派の音楽、さらに20世紀以降の音楽について歴史的変遷を概観する。主な項目はロマン派の音楽、歌曲、連弾・２台ピアノ、日本のピアノ教育、ロマン派以降の作曲家についてである。実際のピアノ演奏や映像、CD等で音楽作品を鑑賞し、それに対して自分自身の意見を述べたり、記述することができるようになることも目標である。	
		経済史１		本講義では、他の国の経済発展と比較しつつ、日本経済の成長を中心とした講義を行う。日本経済における繁栄を支えた原動力、およびその衰退を生成する要因を分析し、過去200年以上続いていた世界経済繁栄の中心がいかに絶えず移動しているかを理解することができるように学ぶ。経済史を理解するうえでの基礎を説明したあと、近代的経済成長を開始した江戸時代中期から、明治維新期における経済改革、その後の近代経済成長への移行といった経済発展の過程を取り上げ、日本経済成長の初期条件を産業革命期からの他の国の発展と比較して明らかにして行く。	
		経済史２		先進諸国の経済発展と比較しつつ、日本経済の成長を中心とした講義を行う。日本経済における繁栄を支えた原動力、およびその衰退を生成する要因を分析し、過去200年以上続いていた世界経済繁栄の中心がいかに絶えず移動しているかを理解することができるよう学習する。 本講義では、日本経済が近代経済成長への移行およびその転換を完成した19世紀を経て、近代経済成長を遂げた20世紀をフォローします。特に他国と対照しながら、日本経済の成長プロセスと問題点を検証し、21世紀に日本経済のすすむべき方向性を考える。	
		西洋史概説	○	この講義では古代から現代までの西洋史の表層を網羅的に概観することはせず、全時代を貫くテーマを設定し、そのテーマを歴史的に説明するのにふさわしい西洋史上の出来事、現象をトピック的に取り上げ、現代世界の歴史的成り立ちと将来の課題を考えることを課題とする。具体的には、さしあたり以下の3つのテーマを年度ごとに設定する。①国民国家の歴史的考察：今日でも国家の在り方のスタンダードと目される国民国家がなぜ西欧世界から発展してきたのか。②戦争と平和の西洋史：西欧世界で戦争・平和のあり方・考え方は時代によってどう変化してきたか。③自由・民主主義の歴史的考察：今日グローバル・スタンダードとされる自由・民主主義・人権といった考え方は、西欧世界でいかに形成されてきたか。	
		西洋史	○	この講義では過去200年あまりの西洋近現代史を、①1800年前後25年あまりの革命と動乱の時代、②1815年前後から1870年代までの国民国家と市民社会発展の時代、③1880年代から20世紀中葉までの帝国主義と世界大戦の時代、④20世紀後半の冷戦の時代の4つの時代におおよそ分け、年度ごとに異なる時代を扱う。講義では通史的概説よりも、ナショナリズム、帝国主義、人種主義、オリエンタリズム、全体主義、総力戦、核兵器と平和、ジェノサイドといった、現代にも関わる各時代の特徴・問題点を掘り下げることを重視する。近現代はグローバル化が徹底してゆく時期であることに鑑み、西欧世界・非西欧世界の関係性を常に念頭に置きながら講義を進める。	
		日本近現代史１	○	日本近現代史では、10代の青年を対象に刊行された日本近現代史の歴史像（通史）を確認します。またその歴史像をふまえながら、私たちがいま暮らしている新潟県地域の歴史もみていきます。そのことを通して、いまを生きる私たちの社会がどのようにして現在に至るのかを一緒に考えたいと思っています。前期は明治時代から1945年までの「大日本帝国の時代」を対象とします。	
		日本近現代史２	○	日本近現代史では、10代の青年を対象に刊行された日本近現代史の歴史像（通史）を確認します。またその歴史像をふまえながら、私たちがいま暮らしている新潟県地域の歴史もみていきます。そのことを通して、いまを生きる私たちの社会がどのようにして現在に至るのかを一緒に考えたいと思っています。後期は1945年から現在までの「国際社会と日本」を対象とします。	
		日本思想史１		日本思想史では、日本に暮らす人々が、それぞれの時代の中で何を考えてきたのかをみていきます。古代・中世・近世・近代と現在に近づくにつれて、人びとの思想の幅は広がり、書き残されたものも増えていきます。それらの思索は現在へとどのようにつながっていくのか。過去のさまざまな思想のありかたを通して、学ぶことができればと思います。前期は原始・古代から近世のはじまりまでを対象にします。	
		日本思想史２		日本思想史では、日本に暮らす人々が、それぞれの時代の中で何を考えてきたのかをみていきます。古代・中世・近世・近代と現在に近づくにつれて、人びとの思想の幅は広がり、書き残されたものも増えていきます。それらの思索は現在へとどのようにつながっていくのか。過去のさまざまな思想のありかたを通して、学ぶことができればと思います。後期は近世・近代の思想を対象にします。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		倫理思想史１		私たちは常になんらかの善を求めて生きている。例えば、何かを食べたいと思うのは、それが私にとって空腹を満たす善いことだからであり、困っているひとを助けようとすることもまたそれが善いことに思われるからだ。だが、このように私たちの身近にあふれる善という価値とは、そもそも何なのだろうか。このように考え始めると、途端に分からなくなるだろう。事実、倫理学と呼ばれる学問は、この問題をめぐってさまざまな解釈を提示し、議論を行ってきた。この授業では、2000年以上の伝統を誇る西洋の倫理学のなかから代表的な理論（徳倫理学、義務論、功利主義など）を紹介することで、「善とは何か」という問題が、豊かな内容を有するものであることを紹介したい。	隔年
		倫理思想史２		人間はこれまで、互いに寄り集まり、社会をかたちづくることによって、さまざまな困難を克服してきた。だが、社会や共同体は、それを構成する人々に利益をもたらすだけでなく、さまざまな不利益をももたらす。そうした不利益をできるかぎり取り除き、誰もが生きやすい「公正な」社会を目指すことは、私たちにとってきわめて重要な課題であると言える。だが、そもそも公正な社会とは、どのような仕方で実現されるのだろうか。この点を考える際の手がかりとなるのが、正義論である。この授業では、正義論の歴史を概観することで、社会のあるべき姿について検討したい。最初に古代ギリシアにおける正義論について概観したあとで、現代の正義論の代表的論客であるジョン・ロールズの思想と、それに対する批判的応答であるリバタリアニズムや共同体主義などの考え方を紹介する。	隔年
		歴史学フィールドワーク１		この授業では、学生が歴史の舞台となった地域を訪れて見聞を深める活動を滞りなく行えるよう、担当教員の指導の下に入念に下準備をする。活動の成果はレポートとして提出させ、班ごとの口頭発表の場を設ける。 （共同方式/全15回） （5 丸畠宏太、11 土居智典/15回） 全体ガイダンス、実習地についての歴史概観、調査・研究方法、レポート作成についての手の手ほどき、フィールドワーク先での学生への知識補充と活動サポート。以上をすべての回で土居と協力しながら行う。いくつかの班に分けて学生を活動させるので、各班の担当を土居と分担する。	共同･隔年
		歴史学フィールドワーク２		この授業では、学生が歴史の舞台となった地域を訪れて見聞を深める活動を滞りなく行えるよう、担当教員の指導の下に入念に下準備をする。活動の成果はレポートとして提出させ、班ごとの口頭発表の場を設ける。 （共同方式/全15回） （11 土居智典、19 金耿昊/15回） 全体ガイダンス、実習地についての歴史概観、調査・研究方法、レポート作成についての手の手ほどき、フィールドワーク先での学生への知識補充と活動サポート。以上をすべての回で土居と協力しながら行う。いくつかの班に分けて学生を活動させるので、各班の担当を金と分担する。	共同･隔年
		歴史学フィールドワーク３		この授業では、学生が歴史の舞台となった地域を訪れて見聞を深める活動を滞りなく行えるよう、担当教員の指導の下に入念に下準備をする。活動の成果はレポートとして提出させ、班ごとの口頭発表の場を設ける。 （共同方式/全15回） （19 金耿昊、5 丸畠宏太/15回） 全体ガイダンス、実習地についての歴史概観、調査・研究方法、レポート作成についての手の手ほどき、フィールドワーク先での学生への知識補充と活動サポート。以上をすべての回で丸畠と協力しながら行う。いくつかの班に分けて学生を活動させるので、各班の担当を金と分担する。	共同･隔年
		歴史探究入門１		この授業はチェーンレクチャの講義形式で行う。学期当たりの授業回数は7回である。 歴史探究コース専攻を念頭に置く学生を主な対象に、近現代史を中心にした本学の歴史の学びを日本史、アジア史、ヨーロッパ史、アメリカ史の専門家が各専門分野の入門的授業を行い、受講者にコース学習の具体的イメージを与えて、歴史への関心を刺激することを目指す。 （オムニバス方式/全7回） （5 丸畠宏太/２回） ヨーロッパ史の視点から、歴史学の課題や歴史認識問題など、今日歴史を学ぶことの意義を考える。 （3 山崎由紀/1回） アメリカ史の視点から、歴史学の課題や歴史認識問題など、今日歴史を学ぶことの意義を考える。 （11 土居智典/２回） アジア史の視点から、歴史学の課題や歴史認識問題など、今日歴史を学ぶことの意義を考える。 （19 金耿昊/２回） 日本史の視点から、歴史学の課題や歴史認識問題など、今日歴史を学ぶことの意義を考える。	オムニバス

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		歴史探究入門２		前期配当の歴史探究入門１に続く後期配当のこの授業もまた、チェーンレクチャの講義形式で行う。学期当たりの授業回数は7回である。歴史探究コース専攻を念頭に置く学生を主な対象に、近現代史を中心にした本学の歴史の学びを日本史、アジア史、ヨーロッパ史、アメリカ史の専門家が各専門分野の入門的授業を行い、受講者にコース学習の具体的イメージを与えて、歴史への関心を刺激することを目指す。 （オムニバス方式/全7回） （5 丸畠宏太/２回） ヨーロッパ史を中心に、時事問題を歴史的に掘り下げる目を養う。 （3 山崎由紀/２回） アメリカ史を中心に、時事問題を歴史的に掘り下げる目を養う。 （11 土居智典/１回） アジア史を中心に、時事問題を歴史的に掘り下げる目を養う。 （19 金耿昊/２回） 日本史を中心に、時事問題を歴史的に掘り下げる目を養う。	オムニバス
		歴史探究演習１	○	専門演習第一段階のこの授業では、まずゼミ生各自の問題関心を確認することからはじめ、続いて研究に必要な文献や資料の状況、その検索の仕方などを学ぶ。つぎに、各教員の専門領域で必読の基本的文献を輪読し、ゼミ生共通の基礎的土壌を作り上げる。演習１では、各学生の興味・関心を引き出すことに留意しながらも、本格的歴史探究のための基礎力養成を重視する。	
		歴史探究演習２	○	専門演習２学期目に当たるこの演習では、共通の読書からヒントを得た各自の問題関心に従い、教員の指導の下に文献を収集して研究を重ね、それぞれのテーマで報告する。報告の場でのゼミ生との討論と教員からの指摘を元に、各報告者は引き続き教員から個別に指導を受け、学期の締めくくりとなるゼミ・レポートを作成する。	
		歴史探究演習３	○	この演習では、本格的な歴史研究に不可欠な歴史資料について、その種類、入手方法、読み方などの基礎を学ぶ。また、専門的な研究文献を読むことによって、歴史資料が実際の研究でどのように使われているかを学び、より本格的な歴史研究の方法を身につける。これまでに身につけてきた語学力を生かしたいゼミ生には、教師は学生の希望に応じて、英語、ドイツ語、中国語、古典日本語などで書かれた資料の解読を個別指導する。また、卒業論文を執筆する学生には、この演習の時間を中間報告の場として提供する。	
		歴史探究演習４	○	２年４学期続く演習授業の最終段階であるこの演習では、学生各自が温めてきた自分独自のテーマで教員の指導の下に文献を収集し、本格的な研究論文や歴史資料を駆使しながら、個別報告の準備を進める。演習の場での報告は２年間のゼミ活動の総決算としてゼミ・レポートに仕上げるが、入念な計画と多くの文献解読を通じてオリジナリティあふれる論文を完成する意欲を持った学生には、これを卒業論文として指導する。	
		卒業論文	○	歴史探究コースの卒業論文は、これまでの学びの集大成として、教員の指導の下に書く学生が自分のテーマを深く掘り下げて作品にすることを目指す。①テーマの選定と問題意識の明確化・具体化、②基本文献の検索・収集・解読、③当該分野の研究動向の把握、④史料の収集と解読、⑤中間報告での質疑応答、⑥中間報告での質疑応答を元にした加筆修正、⑦学術論文の形式にも留意しながらの論文作成。以上の作業を、指導教員からの個別指導を繰り返しながら進める。	
		聖書の世界１		欧米の思想や文化の背景を理解するためには聖書の知識が求められる。本科目では聖書の中の旧約聖書に関する基礎的な知識を講義形式で学習し、受講者が自分とは異なる社会や文化的背景を持つ人々に対する理解を深めることを目的とする。授業では旧約聖書に関する基本的な知識と、旧約聖書を取り巻く周辺世界の歴史的事項とを連関させながら学習する。	
		聖書の世界２		この授業においては、新約聖書中の「福音書」以降の文書群、とりわけ「使徒言行録」とパウロ書簡に焦点を当てて学んでゆく。それらの文書群を読み解くことを通して、キリスト教を、民族宗教であるユダヤ教内の小グループから、世界宗教へと押し出してゆく最初のきっかけを与えたパウロの生涯と宗教思想について、考察してゆく。また、「信仰義認」論に代表されるパウロの宗教思想が後代の歴史に与えた影響についても検討してゆく。学生たちの理解を助けるべく、適宜、動画等の教材を用いてゆく。	
		アジア文化論１		主に中国を中心とした東アジアにおける衣食住の生活文化について、解説･講義を行う。生活文化への理解を通して、アジアにおける民族問題や歴史的な課題を理解する事を目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		アジア文化論２		主に中国を中心とした空想上の動物やについて、解説･講義を行う。ヨーロッパと異なる、動植物と神･妖怪などの存在の境界の曖昧さを理解し、アジアにおける自然･人間の関係性の特徴を理解する事を目指す。	
		イスラーム文化論１		イスラームは全世界に20億人以上の信仰者を持ち、日本でも着実に信仰者の数を増やしている宗教である。本科目ではそのようなイスラームという宗教について、他の宗教との比較を意識しながらその教義と歴史について講義するとともに、幅広い実践の在り方を取り上げ、その多様性について理解を深める。芸術や食、ジェンダーといった文化に関するテーマだけでなく、政治・経済・社会など多様な領域のテーマを取り上げるほか、中東・（日本を含む）アジア・ヨーロッパなど地域による違いに目を向ける。	集中講義
		イスラーム文化論２		本科目は現代におけるイスラームの様々な実践の在り方、イスラームに関する言説について検討する。現代におけるイスラーム復興を受け、イスラームは個人や国家のアイデンティティのシンボルとして、現代世界の様々な局面に現れている。現象について取り上げた上で、政治・経済・社会・文化など様々な領域における新しい実践の形について講義する。さらに、イスラームにおける「穏健派と過激派」「宗派対立」といった言説について、実際の政治の展開にも目を向けながらその実像を検討する。	集中講義
		キリスト教史１		この講義では、西欧世界を理解する上で欠くことのできない要因であるキリスト教の視角から、西欧世界の歴史を概観する。前期配当のこの講義では、キリスト教の誕生前後から16世紀の宗教改革前夜までを扱う。西欧世界におけるキリスト教の拡大・定着過程、さらにはその発展の中に見られる戦争観・平和観にも着目する。とくに十字軍をめぐる問題は、今日の西欧世界の思考・行動を理解する上でも不可欠のテーマであり。この講義ではとくに重点を置く。単にキリスト教の歴史を紐解くに留まらず、宗教と人間の営みとの関係の考察から、広く現代的な問題を考えるための材料を提供するのが、この講義の狙いである。	
		キリスト教史２		後期配当のこの講義では、前期のキリスト教史1を受けて、キリスト教の歴史を広くヨーロッパ史、さらには世界史の文脈で概観する。扱う時代は、16世紀の宗教改革開始前後からフランス革命前夜の18世紀にかけてが中心だが、必要に応じて19，20世紀の話題にも目を向ける。宗教改革前後から、統一世界であるはずの西欧キリスト教世界は、世俗権力と結びつきながら多元的に分離していく。世俗権力の命令と宗教的信念が衝突するときどうするかという大問題もまた、このあたりから歴史の全面にあらわれてくる。その文脈で、フランス革命とキリスト教、ナチス・ドイツとキリスト教といった、現代世界の宗教のあり方が問われるテーマにも触れる。西欧の歴史をキリスト教の視点から概観するだけでなく、宗教が関わる今日的問題を考えるヒントを与えることも、この講義の重要な課題である。	
		ヨーロッパ思想史１	○	この授業では、古代から中世に至るまでの代表的哲学者たちについて、その生涯と学説の紹介を行う。西洋哲学は、紀元前六世紀頃に古代ギリシアで始まったとされるが、その核心には、私たちにとっての「当たり前」を疑う姿勢があると言える。歴史に名を残すような哲学者たちは、当時常識とみなされていた事柄を果敢に問い直そうとした人々であった。そうした哲学者たちの学説を学ぶことは、私たちがみずからの価値観や世界観について振り返る上でさまざまなヒントを与えてくれるはずである。この授業では、古代ギリシアにおける哲学の誕生から中世哲学までの流れを追う。ときに抽象度の高い内容となることが予想されるが、具体例などを交えながら可能なかぎり分かりやすい解説を行いたい。	
		ヨーロッパ思想史２	○	この授業では、近世から現代に至るまでの代表的哲学者たちについて、その生涯と学説の紹介を行う。ヨーロッパの哲学は、「われ思う、ゆえにわれあり」という言葉で有名なデカルトの登場以降、新たな時代に入った。合理論や経験論、ドイツ観念論や現象学など、その展開は百花繚乱の趣があるほど多様である。この時代の哲学者たちの思想は、われわれ現代人の世界観の基礎をなすものであり、私たちがみずからの価値観や世界観について振り返る上でさまざまなヒントを与えてくれるはずである。授業では、代表的な哲学者の思想を時系列に即して紹介していく。ときに抽象度の高い内容となることが予想されるが、具体例などを交えながら可能なかぎり分かりやすい解説を行いたい。	
		異文化コミュニケーション論１		本講義は「文化」や「コミュニケーション」という我々が何気なく使っている言葉の広がりを学びながら、「異/文化/コミュニケーション」とは何かを理解することを目指す。学生には異文化コミュニケーション実践とその報告を随時求める。「文化」、「自文化」、「他文化」、そして「コミュニケーション」、「自己」、「アイデンティティ」といった基礎的概念の理解をはかり、異文化コミュニケーションにおける障壁を検証し、異文化コミュニケーションとは何なのかを考える。教科書の他に、理解を助けるために異なる文化の交差を描く映像資料を使う。	
		異文化コミュニケーション論２		異文化コミュニケーション論１で学んだ内容を整理したうえで、深層文化（氷山モデル、島モデル）、言語コミュニケーション、ジェスチャーから時間・空間までを含む多様な非言語コミュニケーション、留学とカルチャーショックなどについて、身近なトピックを使い、適宜実習を取り入れながら学ぶ。教科書の他に、映像資料を用いて、異文化コミュニケーションの難しさを再確認する。国際的視点を身につけ、コミュニケーション能力を高めたい。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		英語文学１	○	本講義では、イギリスを中心とした英語文学作品を歴史やテーマに沿って紹介し、作品そのものと作品に描かれた人間像や社会の有り様を歴史的・社会的なコンテクストの中で理解することを目標とする。文学は社会を映す鏡であり、また時代の思想をリードする鑑でもあるという観点から、どのような社会状況から特定の文学作品が生まれたのか、また文学作品において社会や文化、人間はどのように描かれているのかを考察する。さらに、時代によって異なる英語表現や、詩や戯曲、小説というジャンルに特有な英語表現についても理解を深める。ブックレポート執筆を通して、テクストから適切なテーマを読みとり、そのテーマに沿って作品を論じる訓練をする。	
		英語文学２	○	本講義は主としてアメリカ合衆国を中心に北米英語圏の代表的作家、文学作品を歴史に沿って紹介すること、そして作家や文学作品をそれらが生み出された時代の社会・文化的背景に位置づけるべく基礎知識を提供することを目的としている。また、合衆国の歴史をベースに、同時期にイギリス以外の英語圏、特にカナダでどのような文学が書かれていたのかも紹介する。批評家の意見に従うのではなく、それを知ったうえで、自らの視点で出典を「読みなおす」ことで幅広い教養を身につけたい。	
		欧米文化論１		この講義では、文化を生活様式や風俗・習慣、文学、芸術といった狭義の文化に限定せず、広く人間の営みとその背後にある価値体系とらえ、文化と政治・経済・社会との相互関係にも目を向ける。考察の中心となる時代は近現代であり、西洋史、アメリカ史の各論・特論的な性格をもつ。前期配当の欧米文化論1では、ユダヤ人と欧米世界、アメリカとマイノリティ、ジェンダー、戦争・軍事の文化といった、政治や外交、人権問題とも密接に関わるテーマをおもに扱う。また、常に欧米以外の地域における同様の文化現象にも目を配り、異文化交流・衝突も意識しつつ、文化史的視点から現代世界を見る目を養う。	
		欧米文化論２		文化を広く人間の営みとその背後にある価値体系とらえること、文化と政治・経済・社会との相互関係にも目を向けること、考察の中心となる時代が近現代であり、西洋史、アメリカ史の各論・特論的な性格をもつことは、前期配当の欧米文化論1と同じである。後期配当のこの講義では、作家や文化人の活動を通じてみた近代世界の諸相、芸術文化の社会の底辺への拡大に見る市民社会・大衆社会の発展、エリート教育の文化とその変容、アメリカ文学と新大陸の社会、欧米人が見た非欧米世界など、狭義の文化史に近いテーマを取り上げながらも、政治や社会の動きに常に目を配り、また大きな歴史の流れの中にこれらの文化を位置づけるよう心がける。	
		児童文学１		児童文学１では,絵本や昔話という子どもが幼い頃に触れる文学素材を扱い、絵本を文学として評価するためのいくつかの基準を理解し、良い本を選び出す評価基準を獲得することを目標とする。19世紀から今日までの絵本から作家や画家の特色を捉え、作家が子どもたちにどのような地平を見せたいと考え、どのように伝えているのか、子どもにはどのような安心感が必要なのかを考える。また、「声の文化」（オラリティー）から「文字の文化」（リテラシー）への移行の後を留めている昔話では、昔話の形式を理解するとともに、昔話に表れた風土や人間観・世界観を理解することも目標とする。授業ではブックトークや絵本展示など、読書活動普及のための活動も行う。講義を聞くだけでなく、主体的能動的に係わることが必要な授業である。	隔年
		児童文学２		児童文学２では、子どもの文学としての物語の面白みや役割をファンタジー作品や神話を軸に考えます。主に英語圏や日本を中心とした物語やファンタジーと世界の神話に親しみ、その定義を考え、代表的な作家や作品の特色を捉えること、および作品や神話に描かれたテーマや宇宙観、子ども観、人間観を理解することを目標とする。作品の部分的な翻訳も試み、子どもにとって分かりやすい文章の書き方を考察する。授業ではブックトークやビブリオバトルなど、読書活動普及のための活動も行う。できるだけ多くの作品を読み、主体的能動的に係わることが必要な授業である。	隔年
		地域文化論１	○	今日の現代社会において、わたしたちは、「生と死」やそれに関わる医療をめぐって、家族生活を基軸にしながら、出産から成長、そして死まで、延命治療の選択や高齢化社会をどう生きるかなど、さまざまな問題に直面し家族や地域の手助けや協力を得て困難を乗り越えながら、人びとともに生きている。そこで、前半は家族や結婚そして出産のあり方を根本的に問うところから、現代社会のあり様について考えてゆく。後半は家族における人間の成長から、異なる世代がどう支えあっていけばよいのか、その社会のあり方を文化人類学の比較文化論の手法を用いて考える。また、生物的な活力に満ちた働き盛りや文化の中心を占める人たちだけが生きやすいのではなく、老年や女性や外国人やアウトサイダーも活き活きと包まれる社会をどう創っていけばよいのか、地域文化を発信するゲストスピーカーも迎え、日本の下町社会のあり様や工夫からも学んでゆく。	
		地域文化論２	○	前期の学びを展開し、各地域社会の文化のあり様が鏡となって、自文化をより理解し、自分たちの生活や生き方を見直す機会にする。また、受講する学生が、自分たちの周りで起きている社会の諸問題に関心をもち、他者に配慮する意識をもつことができるようにする。そのために、さまざまな地域文化を知り、異なる文化を比較したり、異なる文化が接触したりする場を考察してゆく。私たちの価値観や社会の仕組みだけが正しいのではないことを知って、社会をよりよくしていこうとする学びをする。そのために、国内だけでなく諸外国の文化・社会のあり方を、私たちに近い他者・アジアとの比較も含めて考える。阿賀北の地域文化に精通するゲストスピーカーも迎え、グループワークやディスカッションを通して理解を深めてゆく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	多文化・思想コース	比較宗教思想１	○	この授業においては、人々の生や道徳にとって大きな指針を提供するとともに、世界の歴史や文化形成についても大きな影響を与え続けてきた宗教についての理解を深めることを目的とする。始めに、宗教とは何かとの定義づけ、ならびに諸宗教の類型についての考察を行う。その後に、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教といった一神教について、アジアを代表する宗教の一つとしての仏教、その展開について、また、神道を始めとする日本固有の宗教について、更には、神仏習合という日本独特の宗教形態の在り様について、順を追って検討してゆく。学生の理解を深めるべく、動画視聴等を適宜、用いてゆく。	
		比較宗教思想２	○	宗教の営みは多様な様相を呈し、各々、固有な仕方で展開し、今日に至っているが、その一方で、諸宗教は、共通項として認識することのできる諸側面を有している。「祈り」「儀礼」「神話」「戒律」「巡礼」といったものがそれにあたる。この授業においては、それらの共通する諸側面を考察することを通して、「宗教」という営みについての理解を深めると同時に、異なる文化に生きる人々とのコミュニケーションの可能性についても検討してゆく。学生たちの理解を深めるべく、適宜、動画とを視聴してゆく。	
		文化交流論１		本講義では「文化」という概念を様々な立場から分析する。考古学、文化人類学、社会学、精神分析学、哲学などの分野における文化についての理論的な議論を紹介する。ヴィア・ゴードン・チャイルド、エドワード・T・ホール、エミール・デュルケーム、ジークムント・フロイト、スラヴォイ・ジジェクをはじめとする主要な思想家の著作からの抜粋を熟読する。「文化」という概念の複雑さを理解し、文化の還元主義、本質主義、普遍主義などの哲学的論争に対する意識を高めることを目標とする。	
		文化交流論２		日本文化を数世紀の文化交流の所産と捉え、本講義では日本史における文化的変化や異国との交流の様々な事例を紹介しながら、文化交流論の広範な問題を吟味する。トピックは弥生時代の農業革命、『古事記』、日本とシルクロード、隠れキリシタン、田沼意次の時代、大塩平八郎の乱、三島事件などを含む。日本における文化交流の事例紹介に加えて、ユヴァル・ハラリ、アラン・バディウ、宇野弘蔵、渋沢栄一、宮本常一、坂口安吾、テオドール・アドルノ、柄谷行人など、文化交流論と関連する思想についても考察する。	
		文学研究１	○	欧米、オセアニアの詩や演劇、小説、随筆、伝記等さまざまなジャンルの文学作品や文学に関わる素材をとりあげ、原典講読や講義、映像鑑賞、ワークショップ等を通してテクストを読む技法を学ぶ。語りの視点やイメージや表象、比喩表現、行間を読むこと、伏線と伏線の回収等の文学的技法や作者について、作品が作り出す地理的、社会的、歴史的、宗教的、文化的背景、登場人物のエスニシティ、階級、ジェンダーについての知識と理解を深め、単にストーリーを楽しむだけでない、より深く文学テクストを読む手法を学ぶ。さらに、文学作品の分析を効果的に言語化し、説得力のあるレポートを執筆することを目標とします。	
		文学研究２	○	欧米、オセアニアの詩や演劇、小説、随筆、伝記等さまざまなジャンルの文学作品や文学に関わる素材をとりあげ、原典講読や講義、映像、ワークショップ等を通してテクストを読む技法を学ぶ。語りの視点やイメージや表象、比喩表現、行間を読むこと、伏線と伏線の回収等の文学的技法について、作品が作り出す地理的、社会的、歴史的、宗教的、文化的背景、登場人物のエスニシティ、階級、ジェンダーについての知識と理解を深め、単にストーリーを楽しむだけでない、より深く文学テクストを読む手法を学ぶ。さらに、文学作品の分析を効果的に言語化し、説得力のあるレポートを執筆することを目標とします。	
		倫理思想史１		私たちは常になんらかの善を求めて生きている。例えば、何かを食べたいと思うのは、それが私にとって空腹を満たす善いことだからであり、困っているひとを助けようとすることもまたそれが善いことに思われるからだ。だが、このように私たちの身近にあふれる善という価値とは、そもそも何なのだろうか。このように考え始めると、途端に分からなくなるだろう。事実、倫理学と呼ばれる学問は、この問題をめぐってさまざまな解釈を提示し、議論を行ってきた。この授業では、2000年以上の伝統を誇る西洋の倫理学のなかから代表的な理論（徳倫理学、義務論、功利主義など）を紹介することで、「善とは何か」という問題が、豊かな内容を有するものであることを紹介したい。	隔年
		倫理思想史２		人間はこれまで、互いに寄り集まり、社会をかたちづくることによって、さまざまな困難を克服してきた。だが、社会や共同体は、それを構成する人々に利益をもたらすだけでなく、さまざまな不利益をももたらす。そうした不利益をできるかぎり取り除き、誰もが生きやすい「公正な」社会を目指すことは、私たちにとってきわめて重要な課題であると言える。だが、そもそも公正な社会とは、どのような仕方で実現されるのだろうか。この点を考える際の手がかりとなるのが、正義論である。この授業では、正義論の歴史を概観することで、社会のあるべき姿について検討したい。最初に古代ギリシアにおける正義論について概観したあとで、現代の正義論の代表的論客であるジョン・ロールズの思想と、それに対する批判的応答であるリバタリアニズムや共同体主義などの考え方を紹介する。	隔年

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		ビジュアルアート表現１		現在、世界は、SNS、CMなどのビジュアル･インフォメーションに溢れている。簡単に言えば、私達は、大量の写真を見る機会にさらされている。また、インスタグラムのように、写真を使った自己表現やコミュニケーションも日常化している。この授業｢ビジュアルアート表現１，２｣は、写真の特性を基本から学び、さらに、写真撮影術とプレゼンテーション術を学ぶことにより、社会の中での立ち位置を確認する事に重きを置いている。前期｢ビジュアルアート表現１｣は、写真を使った自己紹介から始まり、スマホを使った写真の表現方法、整理術、バックアップ、WEB写真の検索方法、批評的な見方を学ぶ。最後に、自分で選んだ風景写真を額装して提出する。※基本、前期＆後期連続しての受講を希望する。	
		ビジュアルアート表現２		現在、世界は、SNS、CMなどのビジュアル･インフォメーションに溢れている。簡単に言えば、私達は、大量の写真を見る機会にさらされている。また、インスタグラムのように、写真を使った自己表現やコミュニケーションも日常化している。この授業｢ビジュアルアート表現１，２｣は、写真の特性を基本から学び、さらに、写真撮影術とプレゼンテーション術を学ぶことにより、社会の中での立ち位置を確認する事に重きを置いている。後期｢ビジュアルアート表現2｣は、主にプレゼンテーション技術を身につけるための実践的な授業を進める。最後に、自分で選んだ人物写真を額装して提出する。※基本、前期＆後期連続しての受講を希望する。	
		ポピュラー文化論	○	マンガやアニメ、ゲームといったメディアが形成するポピュラー・カルチャーに対する社会的な関心は年々高まっている。そこにはどのような社会が成立しているのだろうか。こうしたメディア社会の現象は、ビデオゲーム一つをとってみても、単一の要因だけでは理解できない。多くの人が集まる都市には、消費者の欲望を刺激するさまざまな余暇産業が入り込み、伝統的共同体とはまったく異なる人間関係が生成している。本講義では、近代以降の社会の変遷を踏まえつつ、特に余暇産業の一つであるゲームセンターと、情報社会を象徴するものの一つであるビデオゲームを題材に取り上げ、それを消費する若者を通して、現代社会に生きる私たち人間を考察する。そして、ビデオゲームというメディアから何が見えるのか、メディアと文化の関係を読み解く。なお講義は、映像や写真を用いて視覚的に理解できるよう構成し、メディアと密接な関係にある現代社会を分析するための、基本的な概念、視点、理論について解説する。	隔年
		現代哲学		この授業では、20世紀に活躍した哲学者について、その生涯や学説の紹介を行う。20世紀はさまざまな思想的潮流を生み出した時代であった。ドイツでは現象学や批判理論、フランスでは実存主義やポスト構造主義、アメリカでは分析哲学などの流れが台頭し、数多くの哲学者たちがそれぞれ独創的な主張を展開した。この授業では、これら20世紀の思想的潮流のなかからいくつかを選び出し、その流れに属する哲学者の生涯や思想について解説を行いたい。	
		生命倫理学		この授業では、生命倫理の諸問題について紹介および解説を行う。科学技術や産業社会の発展に伴って、私たちは以前には考えられなかったさまざまな倫理的問題に直面している。そのような問題の例としては、脳死の問題や人工妊娠中絶の是非、遺伝子技術の使用法、さらには安楽死の問題などが挙げられる。こうした問題はわたしたちが人生のなかで直面しうる問題であるだけに、一定の知識を備えておくほうが望ましいと言える。また、こうした問題を考えるための前提となる倫理学の基礎理論の解説を行うほか、できるだけ最新の情報を伝えるために新聞などのメディアも利用したい。	
		文学・文化特講１		小説や詩、戯曲、映像、音楽などたの多様な文学・文化テクストや、それらを作り出した作家の自伝を、各セメスターひとつ選び授業をすすめます。分析対象とするテクストの批評や、そのテクストが描かれた社会・歴史的背景を踏まえて学び、考察していきます。既に文学・文化について、何らかの授業を履修した経験がある学生が、研究対象のテクストを「読むために」自分で資料を収集し、分析し、文章にまとめることを目指すために設定された授業です。	
		文学・文化特講２		小説や詩、戯曲、映像、音楽などたの多様な文学・文化テクストや、それらを作り出した作家の自伝を、各セメスターひとつ選び授業をすすめます。分析対象とするテクストの批評や、そのテクストが描かれた社会・歴史的背景を踏まえて学び、考察していきます。既に文学・文化について、何らかの授業を履修した経験がある学生が、研究対象のテクストを「読むために」自分で資料を収集し、分析し、文章にまとめることを目指すために設定された授業です。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		多文化・思想入門１		文学・文化研究、文化人類学、哲学、思想、宗教などの専門教員の講義をオムニバス的に経験し３年次以降の専門の学びに結び付けることが目標である。本科目の履修を通して、当該の学問分野においては、実際には文献・資料調査のために、大学外の図書館、文書館、博物館等を訪問、利用することが多いこともご理解いただく。そして、本科目ではその際に必要となる準備（計画書の執筆や旅行の準備）を含めて、能動的に3・4年次の研究をすすめるための基礎的な知識・スキルを身に着けることを目指す。 （オムニバス方式/全8回） （18 長坂康代/2回） イントロダクション、人類学･民俗学とは何かⅠ （6 下田尾治郎/2回） 通過儀礼、現代に生きる神話、宗教における時間観念もしくはキリスト教の平和（戦争）観 （20 井西弘樹/2回） 哲学とは何か、ソクラテス、プラトン （4 荒木陽子/2回） 文献調査の方法、文献調査実践	オムニバス
		多文化・思想入門２		文学・文化研究、文化人類学、哲学、思想、宗教などの専門教員の講義をオムニバス的に経験し３年次以降の専門の学びに結び付けることが目標です。本科目の履修を通して、当該の学問分野においては、実際には文献・資料調査のために、大学外の図書館、文書館、博物館等を訪問、利用することが多いこともご理解いただきます。そして、本科目ではその際に必要となる準備（計画書の執筆や旅行の準備）を含めて、能動的に3・4年次の研究をすすめるための基礎的な知識・スキルを身に着けることを目指します。 （オムニバス方式/全8回） （18 長坂康代/2回） 人類学･民俗学とは何かⅡ、フィールドワークとは何か （6 下田尾治郎/2回） 神仏習合、キリスト教の土着化（ケルト文化、そしてマリア観音）、クリスマスツリーの起源と神学的意味 （20 井西弘樹/2回） 哲学的問題を考える、デカルト、パスカル （4 荒木陽子/2回） 文学作品講読、映像研究、「聖地」巡礼	オムニバス
		多文化･思想演習１	○	文学、文化、哲学、思想、宗教などの領域からテクスト（書籍のみならず事象も含む）を定め、そのテクストに関して、学生一人一人が問いを立て、調査・分析を試みる。分析の結果は自分の言葉で口頭発表（10分程度）する。学生はただその場にいるだけではなく、傾聴し、建設的な指摘を行うことができる良いオーディエンスとなることを意識するようにトレーニングを行う。発表者はオーディエンスからのレスポンスを受けて推敲し、参考文献を含めて2000字程度のレポートにまとめることを目指ざす。	
		多文化･思想演習２	○	文学、文化、哲学、思想、宗教などの領域からテクスト（書籍のみならず事象も含む）を定め、そのテクストに関して、学生一人一人が問いを立て、調査・分析を試みる。学生は発表会の設定（段取り）を自分たちで行い、分析の結果を自分の言葉で口頭発表（15分程度）する。ただその場にいるだけではなく、傾聴し、建設的な指摘を行うことができる良いオーディエンスとなることを意識するようにトレーニングを行う。発表者はオーディエンスからのレスポンスを受けて推敲し、参考文献を含めて2500字程度のレポートにまとめることを目指ざす。	
		多文化･思想演習３	○	文学、文化、哲学、思想、宗教などの領域から、教員自身が学習用に定めるテクストの他に、学生自身がテクスト（書籍のみならず事象も含む）を定め、そのテクストに関して、一人一人が問いを立て、調査・分析を試みる。学生は発表会の設定（段取り）を自分たちで行い、分析の結果を自分の言葉で口頭発表（20分程度）する。発表にあたってはオーディエンスに伝わりやすい、レジュメおよびパワーポイントの作成を必須とする。ただその場にいるだけではなく、傾聴し、建設的な指摘を行うとともに、他人の発表について「批評」ができる良いオーディエンスとなることを意識するようにトレーニングを行う。発表者はオーディエンスからのレスポンスを受けて推敲し、参考文献を含めて3000字程度のレポートにまとめることを目指ざす。	
		多文化･思想演習４	○	文学、文化、思想、宗教などの領域から、教員が学習用に定めるテクストの他に、学生自身がテクスト（書籍のみならず事象も含む）を定め、そのテクストに関して、一人一人が問いを立て、調査・分析を試みる。学生は発表会の設定（段取り）を自分たちで行い、分析の結果を自分の言葉で口頭発表（20分程度）する。発表にあたってはオーディエンスに伝わりやすい、レジュメおよびパワーポイント（図像、チャート等を含む）の作成を必須とする。ただその場にいるだけではなく、傾聴し、建設的な指摘を行うとともに、他人の発表について「批評」ができる良いオーディエンスとなることを意識するようにトレーニングを行う。発表者はオーディエンスからのレスポンスを受けて発表内容を推敲し、参考文献を含めて5000字程度のレポートにまとめることを目指ざす。レポートやレジュメは誤字脱字の無い出版可能なレベルに編集することを求める。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		卒業論文	○	4年間の学びの集大成として、教員の指導の下、執筆要領に沿って卒業論文を執筆する。執筆した論文は、卒業論文発表会での口頭発表、および学生論集への出版を目指す。執筆に至るまでの調査、研究の方法については4年間のゼミで学ぶ。	
		英文法１		高校までに学習する英文法の知識を補いながら、大学で英語の4技能を最大限に活用して様々な学習活動を行うための文法知識の基礎固めをする。文法はコンピュータで言うCPUのようなもので、適確な言語処理のためには知識の量が十分にあり、かつ内容が定期的に更新される必要がある。また、文法に注意が向いているうちは、円滑に言語を運用することは難しい。このような文法観のもと、豊富な練習問題等をとおして文法知識の定着を図り、ネイティブスピーカーはどのような感覚で文法事項を用いているのか、最近の用例をもとに新しい知識を紹介する。mustとhave toは言い換え可能な同義表現なのか、cakeとa cakeはどう違うかなど、簡単な例であっても、ネイティブの文法感覚について正しく理解することが求められる。	
		英文法２		「英文法1」の内容を発展させ、大学での英語学習に必要な文法知識の基礎固めを続けながら、大学中級から上級レベルの英文法の知識を学び、ネイティブスピーカーの文法感覚についてさらに理解を深める。海外で出版された、英語で書かれた文法テキストの使用を想定しており、現代英語の豊富な用例と練習問題をとおして理解と定着を促すとともに、基本的な文法用語についても英語で分かるようにする。ある程度難易度の高い英文を文法や構造に注意し分析的に読んだり、学習した文法事項を用いて自己表現をしたりする機会を設け、2年次からの教養英語や専門英語に対応できるよう備える。このような発展的な文法練習に加え、文法に反映される人間の認知や社会の在り方など、言語学的な観点からの文法の見方についても紹介する。	
		通訳実践		高校までに学習する基本的な英語を用い、日本語・英語間の初歩的な通訳法を訓練する科目である。日常生活の様々な場面や、地域の観光スポットなどで外国人をサポートするような、コミュニティ通訳やボランティア通訳に活かせる技術の習得を想定しており、とくに日本語から英語に通訳するスキルを重点的に訓練する。飲食店、病院、観光地など具体的な通訳の場面を設定し、頻出表現を着実に身に付け、典型的なダイアログをアレンジして応用の利くやり取りを英語で行えるようにする。通訳実務者によるワークショップへの参加や、学外で通訳に役立つ英語を学ぶ機会を設け、実践をとおして通訳の基礎スキルを身に付けられるよう授業を計画する。	
		プリゼンテーション・スキルズ１		（英文）“Presentation Skills 1”is a course that will improve students' presentation skills. Students will learn how to design and present their own ideas clearly and effectively, giving them confidence and experience that will help them in the future. This course will focus on presentation design, presentation content, and presentation delivery. By the end of this course, students should understand what makes a good presenation, learn how to make well designed presentations that connect to an audience, have more confidence in their own ideas and presenting them, be able to use English words and phrases often found in presentations, and be able to use PC software to make clear, concise, and attractive looking presentations.（和訳）「プリゼンテーション・スキルズ１」は、学生のプレゼンテーションスキルを向上させるためのコースである。受講生は自身の考えを明確かつ効果的に表現・発表する方法を学び、それらが将来に役立つ自信と経験につながることを目標とする。このコースでは、プレゼンテーションのデザイン、内容、そして発表の技術に焦点を当てる。このコースの終了時には、受講者は良いプレゼンテーションの要素を理解し、オーディエンスに響くようデザインする方法を学び、自信を高め、プレゼンテーションでよく使われる英語の単語やフレーズを使えるようになり、PCソフトウェアを活用して明確で簡潔、かつ魅力的なプレゼンテーションを作成できるようになることを目指す。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		プリゼンテーション・スキルズ２		（英文）"Presentation Skills 2" is to increase speaking skills, to make an argument using supporting statements and research, and to give an academic presentation. Students will gain confidence in speaking and expressing their own ideas and opinions on topics given by the teacher, as well as topics chosen by the students. Students will also conduct research and make a presentation of the results of that research. This is a projects based course and students will work together to increase their language, research, and presentation skills. By the end of this course students should be able to find accurate information that can be proved to be true, express ideas in discussion,use listening and note taking strategies to understand presented arguments, form an opinion based on research, and make an academic presentation.（和訳）「プリゼンテーション・スキルズ２」は、スピーキングスキルを向上させ、主張や研究を用いて学術的なプレゼンテーションを行うことを目的としたコースである。学生は教員が提示するトピックや自身で選んだトピックについて考えや意見を表現する自信を高める。また、受講生は決まったトピックに関してリサーチを行い、その結果をプレゼンテーションとして発表する。このコースはプロジェクトベースであり、受講生は協働的に言語能力、研究能力、プレゼンテーションスキルを向上させる。コースの終了時には、受講生は正確な情報を見つけ、ディスカッションで考えを表現し、提示された論点を理解するためのリスニングおよびノートテイキングを行い、研究に基づいた意見を形成し、学術的なプレゼンテーションを行うことができるようになることを目指す。	
		英語の発音１		「英語の発音１」の授業では、音声でのコミュニケーションに必要な、発音に関する基礎的な知識を学び、英語の母音と子音のそれぞれの音を正確に聞き取り、発音できるようになることを目指す。授業では英語の母音、子音に焦点を当て、それぞれの音の特徴や発音記号を学ぶ。音声教材を使い母音、子音、また学習した音が使われている文を繰り返し聞き、リスニング力の向上を目指し、正確に発音できるように音読練習を毎回行う。また適宜リスニング小テストを行う。	
		英語の発音２		「英語の発音２」の授業では、音声でのコミュニケーションに必要な英語のアクセント、リズム、イントネーションに関する基礎的な知識を学び、正確に文を聞き取り発音できるようになることを目標にする。授業では聞き取りのポイントになるアクセント、音の連結や同化、脱落等の変化、リズム、イントネーションの日本語との違いや特徴を学び。音声教材を使い聞き取りの練習や音読の練習を通して正確に聞き取り発音できることを目指す。また会話文が自然なリズムやイントネーションで読めるようにペアやグループで練習しコミュニケーションスキルの向上を図る。	
		英語学１		本講義では、国際的なコミュニケーションにおける主要な媒介言語である英語について、その言語学的な特質を探っていく。多くの受講者の母語であろう日本語と比較すると、文字、発音、語順等、英語とは顕著な違いがあることに気がつく。一方で、両言語に共通する表現や発想も存在し、言語間の違いを超えた普遍原理が働いていることも研究で分かっている。このような気付きにもとづく「英語らしさ」の観察から始めて、「英語学1」では自然言語としての英語の諸特徴を理解し、音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論まで網羅的に学ぶ。教職の必修科目であるため、様々なテーマの中で英語の音声・文法、歴史的変遷および国際語としての特徴に触れ、言語学的観点から英語の理解が深まるよう配慮する。	
		英語学２		本講義では、国際的なコミュニケーションにおける主要な媒介言語である英語について、その言語学的な特質を探っていく。今や英語は母語話者中心の言語ではなく、多様な背景をもつ人々により用いられている。英語を取り巻くこのようなグローバルな実態を把握すべく、「英語学2」では様々な地域で用いられている英語変種の特徴を理解し、そこから派生して英語の歴史、社会言語学、さらにはコミュニケーションの理論である語用論まで発展的に学ぶ。教職の必修科目であるため、様々なテーマの中で英語の音声・文法、歴史的変遷および国際語としての特徴に触れ、言語学的観点から英語の理解が深まるよう配慮する。	
		検定試験準備コースⅡ１		検定試験準備コースⅡ１は、TOEIC 500点以上のスコア（もしくは英検2級）を有する学生を対象に開講し、学期末のTOEIC IPテストで各自が設定した目標スコア（600点以上を推奨）の達成を目指す。講義では、リスニングとリーディングのスキルをバランスよく身につけ、TOEIC特有の「出題形式」「頻出単語」「頻出文法」や、時間配分のコツや解答テクニックといった「攻略法」、そして問題集を効果的に活用する「勉強法」について学ぶ。学んだ知識をアウトプットする場として、グループワークも随時取り入れる。課外の課題は、毎週行われる「単語テスト」の準備と、復習でおこなう音読活動を基本とする。音読に関しては、音声ファイルをGoogle Classroomに提出し、講師からフィードバックを受ける。発音矯正やリスニング力向上に活かしてもらいたい。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		検定試験準備コースⅡ２		検定試験準備コースⅡ２は、TOEIC 500点以上のスコア（もしくは英検2級）を有する学生を対象に開講し、学期末のTOEIC IPテストで各自が設定した目標スコア（600点以上を推奨）の達成を目指す。講義では、リスニングとリーディングのスキルをバランスよく身につけ、TOEIC特有の「出題形式」「頻出単語」「頻出文法」や、時間配分のコツや解答テクニックといった「攻略法」、そして問題集を効果的に活用する「勉強法」について学ぶ。学んだ知識をアウトプットする場として、グループワークも随時取り入れる。課外の課題は、毎週行われる「単語テスト」の準備と、復習でおこなう音読活動を基本とする。音読に関しては、音声ファイルをGoogle Classroomに提出し、講師からフィードバックを受ける。発音矯正やリスニング力向上に活かしてもらいたい。	
		言語コミュニケーション論１		生き生きとした口語英語にふれ、英語を読むこと、聞くこと、表現することの醍醐味を味わい、思考や感動を通して、英語を自己の内奥に蓄積していくことを目指します。英語圏のオーセンティックな素材を教材化し、「読む・書く・聞く・話す」にバランスの取れた英語の学びを行います。易しい英語や簡潔な文に込められた深い意味内容、言語の背景にある英語圏の文化を学びながら、英語に親しみます。言語と文化、言語と社会、言語と社会の結びつきについても考察を深めていきます。	隔年･集中講義
		言語コミュニケーション論２		生き生きとした口語英語にふれ、英語を読むこと、聞くこと、表現することの醍醐味を味わい、思考や感動を通して、英語を自己の内奥に蓄積していくことを目指します。英語圏のオーセンティックな素材を教材化し、「読む・書く・聞く・話す」にバランスの取れた英語の学びを行います。易しい英語や簡潔な文に込められた深い意味内容、言語の背景にある英語圏の文化を学びながら、英語に親しみます。言語と文化、言語と社会、言語と社会の結びつきについても考察を深めていきます。	隔年･集中講義
		通訳１		本科目は、英語学習者を対象に、特に通訳という技術に興味のある者を対象にしている。通訳者が技術向上のために行う様々な訓練法を紹介し、1言語を別言語に変換する初歩的能力の習得を目指す。本科目では逐次通訳の実戦を通じて、英語力強化の手法としての通訳訓練法を体験的に修得する。これにより、英語４技能のうち、学生自身で決めた1つ以上の技能の向上と、総合的英語力の向上を目指す。評価は授業参加度と筆記試験で行う。	
		通訳２		通訳１で学んだ通訳の基礎技術を最大限に活用し、英語を日本語に逐次通訳する訓練を行う。これにより、各自が設定した英語4技能のいずれかについて、達成度を測る。世界各国のニュースを取り上げた市販のニュースリスニング教材を使用し、ネイティブスピーカーの話すスピードにも慣れて行く。また、時事ニュースへの関心を高めるため、各学生が毎回興味あるニュースを取り上げ、授業の最初に発表を行う。前期の4技能に、流暢さを5つ目の技能として加え、さらに英語力の向上を目指す。評価は授業参加度と筆記試験で行う。	
		コミュニケーションの心理学１	○	社会人基礎力や学士力としてコミュニケーションのスキルを高めることが求められている。根拠を踏まえて論理的に思考し、他者と協調していく汎用能力に関する基礎的な知識に関する課題に毎回取り組む。授業では毎回３～４名の違ったメンバーで、アウトプット情報を話し合って深く学ぶ。主なトピックスは、心理学で知られた研究知見に基づく社会的スキル、メタ認知、傾聴、質疑のスキル、コーチングを採りあげる。学習の到達目標と評価基準、並びに学習成果に関するフィードバック方法は、シラバスと授業ガイダンス等で確認する。	
		コミュニケーションの心理学２	○	社会人基礎力や学士力としてコミュニケーションのスキルを高めることが求められている。根拠を踏まえて論理的に思考し、他者と協調していく汎用能力に関する基礎的な知識に関する課題に毎回取り組む。授業では毎回３～４名の違ったメンバーで、アウトプット情報を話し合って深く学ぶ。主なトピックスは、心理学で知られた研究知見に基づいた言葉と思考、非言語的情報、協同と集団思考、グループダイナミクスを採りあげる。学習の到達目標と評価基準、並びに学習成果に関するフィードバック方法は、シラバスと授業ガイダンス等で確認する。	
	キャリア英語コ	ビジネス英語１		（英文）Business English 1 is an integrated course that focuses on businesses and business issues in the 21st century, which includes business planning and implementation, social awareness in business, and personal business goals. Students will be able to express ideas and opinions freely, both written and oral, using appropriate language commonly found in international business situations.（和訳）「ビジネス英語1」は、21世紀のビジネスやビジネスに関する課題に焦点を当てたコースである。このコースでは、ビジネスの計画と実施、ビジネスにおける意識、模擬ビジネスプラン設定などが含まれる。受講者が国際的なビジネスで一般的に使用される適切な言語を用いて自身の考えや意見を自由に表現できるようになることを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	コース	ビジネス英語２		（英文）This course is a continuation of Business English 1 from the previous semester. Business English 2 is an integrated course that focuses on English used specifically in business contexts. The goal is to introduce students to concepts in business, and help them to express ideas and opinions freely, both written and oral, using appropriate language commonly found in international business situations.（和訳）「ビジネス英語２」は、「ビジネス英語１」に続く、後期開講のコースである。21世紀のビジネスやビジネスに関する課題に焦点を当てたコースである。このコースでは、ビジネスの計画と実施、ビジネスにおける意識、模擬ビジネスプラン設定などが含まれる。受講者が国際的なビジネスで一般的に使用される適切な言語を用いて自身の考えや意見を自由に表現できるようになることを目標とする。	
		メディア英語１		インターネットの普及により、情報を受け取る場所の地域差は非常に少なくなってきたことが指摘されています。しかしながら、その内容については英語での情報が９割を占めるとも言われています。つまり、インターネットによる情報の恩恵を最大に受けるためには、英語による情報収集能力を身につけることが不可欠と言えるでしょう。本講座では「メディア」の中でもとりわけインターネットを重視し、インターネットによって配信される世界中のニュース記事（テキスト）や音声・画像ニュースを教材として、刻々動く社会を体感しながら英語力を身につけることを目指します。様々な情報を取捨選択する能力を身につけることも必要です。授業では、信頼できる新聞社や通信社、テレビ局やラジオ局の報道を教材として使います。	
		メディア英語２		インターネットの普及により、情報を受け取る場所の地域差は非常に少なくなってきたことが指摘されています。しかしながら、その内容については英語での情報が９割を占めるとも言われています。つまり、インターネットによる情報の恩恵を最大に受けるためには、英語による情報収集能力を身につけることが不可欠と言えるでしょう。本講座では「メディア」の中でもとりわけインターネットを重視し、インターネットによって配信される世界中のニュース記事（テキスト）や音声・画像ニュースを教材として、刻々動く社会を体感しながら英語力を身につけることを目指します。様々な情報を取捨選択する能力を身につけることも必要です。授業では、信頼できる新聞社や通信社、テレビ局やラジオ局の報道を教材として使います。	
		リテラシーとコンピテンシー１	○	講義形式とグループワークをベースに発表する・書く等の手段でアウトプットする経験を積むことを重点に置く。教育基本法の第一条に教育の目的は「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない」とされている。この教育は、学校教育だけでなく、家庭教育、社会教育、生涯学習などが含まれている。しかし、学校で教育を受け、生きていく中でこのような法律の目的を意識している人は多くはないであろう。文科省が目指してきた「生きる力」だけでなく、OECDが定義するコンピテンシーについても理解を深め、コンピテンシーを「自分事」として考え、成果を自分の言葉で言語化する経験を積むことを目標とする。「リテラシーとコンピテンシー１」では、人とのコミュニケーションに着目したテーマを中心に取り組んでいく。	
		リテラシーとコンピテンシー２	○	講義形式とグループワークをベースに発表する・書く等の手段でアウトプットする経験を積むことを重点に置く。教育基本法の第一条に教育の目的は「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない」とされている。この教育は、学校教育だけでなく、家庭教育、社会教育、生涯学習などが含まれている。しかし、学校で教育を受け、生きていく中でこのような法律の目的を意識している人は多くはないであろう。文科省が目指してきた「生きる力」だけでなく、OECDが定義するコンピテンシーについても理解を深め、コンピテンシーを「自分事」として考え、成果を自分の言葉で言語化する経験を積むことを目標とする。「リテラシーとコンピテンシー２」では、地域社会、国、人間と科学の発達に着目したテーマを中心に取り組んでいく。	
		海外キャリア研修		英語力を将来の職業に活かしたり、異文化環境で働いたりすることに興味や意欲をもつ学生を対象とした、海外で実施するサービスラーニングの授業である。授業は事前学習、実地研修、事後学習の3段階で構成され、事前学習では現地で役立つ英語の練習のほか、研修先の社会・文化事情を学び研修に備える。研修中は日系企業等を訪問する機会があり、また、各自で設定したグローバルな課題やテーマについて情報を収集し、研修レポートや事後プレゼンに備えることが求められる。研修に参加する明確な目的意識、プログラムの立案に関わる積極性、渡航準備を計画的に進められる主体性が重要である。	
		検定試験準備コースⅢ		eラーニングを活用した自律学習により、コースで求める英語レベルの達成や各自のキャリアビジョンに即した英語資格の取得に向けて計画的に英語力を向上させる。3年次ガイダンスでの指導教員による助言のもと、各自の進路の見通しに合わせた英語力の到達目標を設定し、年間学習計画を作成する。目標に合う適切なeラーニングコースを継続的に受講し、定期的に学習状況の点検を受け、効率よく学習を進めるための自己調整に努める必要がある。学習履歴と成績表（合格証やスコアシートなど）にもとづき単位が認定されるため、検定試験等の受験時期から逆算し段階的に英語力の伸長が見込まれるよう、計画的に学習に取り組むこと。	メディア

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目（コース別）		翻訳１	○	本講義では、日本の小説とその映画版を教材として、日本語から英語への翻訳活動を行う。毎週、学生には翻訳作業が課され、様々な翻訳サンプルと比べ、翻訳に至る過程とテーマの背景にある現象を分析する。語彙、用語、文法、語用論、社会言語学、記号論などの観点から、可能な翻訳表現を多角的に検討する。実際、翻訳が成功するためには、翻訳家は様々な選択をせざるを得ない。「翻訳1」をとおして、学生は翻訳者としてどの選択が最適であるか判断する能力を身に付けることができる。	
		翻訳２	○	本講義では、翻訳の実用面を中心に扱う。特定の技術分野を選び（例えば酒造り）、その分野に関する様々な種類のテキストを翻訳する。テキストの種類には、例えば科学の教科書、操作説明書、事業報告書、宣伝材料、新聞記事、企業によるプレゼンテーション、特許が含まれる。毎週、同様の分野について様々な種類のテキストを翻訳していくことで、学生がその分野の「専門家」になる疑似体験をする。実際の翻訳業では、翻訳家として成功するためには特定分野の高い専門性が重要とされる。「翻訳II」では、そのような専門家になる過程をシミュレーションすることになる。	
		ジャパン･スタディーズ		This class gives an overview of the major philosophical traditions in Japan, and some of the influential philosophers who worked within thesetraditions. It starts with the ancient religion of Shinto and moves onto Buddhism and Confucianism, finishing with modernity. The aim is to explore themain and unique ideas present in each of these philosophical systems, and to provide a historical context for each of the philosophers being dealtwith. Each class will involve bilingually reading extracts from core philosophical texts and discussing their content. 本講義では、日本における主要な哲学の伝統およびその中で活躍した有力な哲学者の思想について概説する。古代の神道から始め、仏教、儒教、さらには近代思想を扱う。目標はそれらの思想制度において重要かつユニークな考えを検討し、関連する哲学史の文脈を理解することである。授業内の活動には、主要なテキストの抜粋を日英対訳形式で読み、内容についてディスカッションすることが含まれる。	隔年
		キャリア英語入門１		2年次以降の専門科目および3年次以降の演習で扱う内容の導入科目であり、英語を社会やキャリアと結び付けていくための様々な観点を紹介する。 （オムニバス方式／全8回） （2 益谷真／2回） 心理に関連する学問分野について、英語学習や社会とのつながりにも触れながら、その概要を説明する。 （15 江口和美／2回） 教育に関連する学問分野について、英語学習や社会とのつながりにも触れながら、その概要を説明する。 （17 大岩彩子／2回） 児童教育に関連する学問分野について、英語学習や社会とのつながりにも触れながら、その概要を説明する。 （16 Ó MUIREARTAIGH Rossa／2回） 思想・翻訳に関連する学問分野について、英語学習や社会とのつながりにも触れながら、その概要を説明する。	オムニバス
		キャリア英語入門２		2年次以降の専門科目および3年次以降の演習で扱う内容の導入科目であり、英語を社会やキャリアと結び付けていくための様々な観点を紹介する。 （オムニバス方式／全8回） （2 益谷真／2回） 心理に関連する学問分野について、具体的な研究や実践例を紹介しながら、前期よりも詳細に説明する。 （15 江口和美／2回） 教育に関連する学問分野について、具体的な研究や実践例を紹介しながら、前期よりも詳細に説明する。 （17 大岩彩子／2回） 児童教育に関連する学問分野について、具体的な研究や実践例を紹介しながら、前期よりも詳細に説明する。 （16 Ó MUIREARTAIGH Rossa／2回） 思想・翻訳に関連する学問分野について、具体的な研究や実践例を紹介しながら、前期よりも詳細に説明する。	オムニバス
		キャリア英語演習１	○	キャリア英語コース主専攻の学生を対象とする、少人数での輪読、ディスカッション、地域での実践などによる学びを想定した演習形式の授業である。各演習のテーマに関する基本事項を理解し、著者（発表者）の考えや指導教員の見解を踏まえ、受講生同士で意見を交わし提案し合うことで、自分の主張の立ち位置に気付き、知識を課題解決に応用しようとする態度を養うことを目的とする。副専攻コース科目や英語スキル科目の学びを演習に活かし、複眼的な視点で物事を考察し、英語を用いて調べ発表することができる能力を身に付けてもらいたい。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		キャリア英語演習２	○	キャリア英語コース主専攻の学生を対象とする、少人数での輪読、ディスカッション、小規模の調査、地域での実践等を想定した演習形式の授業である。各演習のテーマと直接関係する学問分野の基本的な用語や調査・研究方法を理解し、プレゼンテーション、パイロット調査（または地域プロジェクト）の計画・実施、レポートの作成をとおしてその分野の作法を実践的に習得することを目的とする。キャリア系科目や英語スキル科目の学びを演習に活かし、自分が行う調査や活動と社会との関連性に気付き、英語を用いて調べ発表することができる能力が身に付くよう、積極的な参加が求められる。	
		キャリア英語演習３	○	キャリア英語コース主専攻の学生を対象とする、演習形式の授業である。3年次までに習得した英語運用能力、専門知識、学問分野の基礎を活かし、演習のテーマに関して自分が興味をもつ事柄を見出し、その関心のもと能動的に演習に参加することが求められる。具体的には、各学生による文献調査のプレゼンテーション、アクション・リサーチの計画と実践、海外も視野に入れた学外でのサービス・ラーニング等による学習が想定される。卒業年次の演習であるため、様々な学習活動をとおしてキャリア英語コースで得た知識や技能がさらに深まり、内在化されるよう、指導教員とよく相談し主体的に取り組むこと。	
		キャリア英語演習４	○	キャリア英語コース主専攻の学生を対象とする、演習形式の授業である。4年次前期までに習得した専門科目や演習での学びを活かし、各自で設定したテーマについて主体的に学習活動を進めることが期待される。具体的な学習活動には、各学生による文献調査のプレゼンテーション、アクション・リサーチの計画と実践、海外も視野に入れた学外でのサービス・ラーニング等が含まれる。卒業年次における最後の演習であるため、大学生活で得た学びの総括となるよう、指導教員が指定する方法やフォーマットに従い、各自のテーマに対する考察を発表しまとめること。活動にあたっては積極的に英語を用い、また、学びの成果が卒業後のキャリアプランにもつながるよう、意欲と見通しをもって演習に臨むこと。	
		卒業論文	○	コース科目やキャリア英語演習をとおして学んだ英語運用能力、専門知識および基礎的な研究スキルを活かし、各自のテーマに関する定期的な調査報告とディスカッションを踏まえ、自分のリサーチ・クエスチョンの答えに至る過程を卒業論文にまとめる。3年次までに抱いた興味・関心や問題意識を明確にし、指導教員の支援のもと独創性や社会的意義のある研究テーマを設定し、より高度な研究・分析スキルを学ぶとともに、自らの主張を特定の学問分野の慣習に従って論理的に説明できるようになることを目指す。文献調査、報告、執筆などの卒業論文を作成する様々な過程で、積極的に英語を用いることが期待される。	
		国際関係史１		近年の国際社会はグローバリゼーションの進展等により、かつてないような大変革期を迎えているように見える。こうした変化を歴史的に理解できるようになることをこの講義の目標にする。当然こういった大きな問題を扱う際にはできるだけ長い歴史的視野を持つ必要がある。そこで本講義では人類史としての国際関係史の概観を理解した上で、現代の国際関係を見る上で必要な基礎知識が身に付くように心掛ける。そこで　本講義では近代以前の国際関係も視野に入れて国際関係の発達過程を概説的に追っていくことにする。現在の国際関係の基底には約400年前のヨーロッパに始まる近代国民国家システムがあるが、それも時代の産物であり、今後変化していく可能性がある。そうした視点を持ちつつ、古代、中世の国際関係の歴史を簡単に見た上で、近代以降の国際関係の発達を四つの時代に区分しつつ概観する。	隔年
		国際関係史２		国際社会の大変革を理解するためには２０世紀以降急激に進んだ国際社会の組織化という現象を把握する必要がある。そこで本講義では第一次世界大戦以後の国際社会の組織化の発展過程を理解することを目標にする。そのことを通して現在の国際関係のあり方に対する理解も深まることを期待している。そもそも「国際社会の組織化」の動きは第一次世界大戦の反省から徐々に進められ、第二次世界大戦後に本格的なものとなった。その動きは米ソ対立を基調とした冷戦によって覆い隠され、あまり目立たない時期もあったが、着実に進められてきたことも事実である。本講義では戦争がもたらす惨劇にも目を向けながら、国際社会が組織化される過程を分析していきたい。	隔年
		マーケティング論１		この講義では、マーケティングの基本概念や戦略について学びます。市場調査や消費者行動、4P（製品、価格、流通、プロモーション）の基礎を理解し、事例を通じて実践的な知識を深めます。また、市内の企業を訪問し、現場で実際に行われているマーケティング戦略を学ぶことで、理論と実務の結びつきを体験します。これにより、マーケティングの役割と重要性を実感し、実社会で活用できる基礎力を養うことを目指します	集中講義
		マーケティング論２		この講義では、デジタルマーケティングの基本概念と最新動向を学びます。SNSや検索エンジン、電子メール、ウェブ広告など、デジタルチャネルを活用したマーケティング手法を理解し、消費者行動のデータ分析やターゲティングの実践例を探求します。また、実際にデジタルマーケティングを実施している企業の担当者を招き、現場での経験や課題についてディスカッションを行うことで、理論と実務の両面から学びを深めます。	集中講義

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		金融論１		貨幣の誕生にまでさかのぼり、基礎知識としての金融市場と金融システムについて講義する。また、銀行、証券・保険会社等の金融機関の役割、企業の資金調達やリスク管理など企業金融、貯蓄・投資・借入行動などの企業金融、消費者の金融取引を理解し、現代人に不可欠な金融リテラシーを高める。さらに、企業の金融行動や家計の貯蓄・消費行動が経済全体に及ぼす影響（インフレーション・デフレーション）についての理解を深め、我が国の金融政策、超高齢社会における消費者の資産管理（金融ジェロントロジー）についても講義を進める。授業形態は、パワーポイントによる対面での講義を実施する。	
		金融論２		金融論1の内容を踏まえ、金融論2では金融取引と金融機関・金融市場を理解する。また債券の価格と利回り、金融資産の基礎的価値評価、貯蓄と資産選択、リスク資産の価格などについて学習し、企業の資金調達と財務戦略、リスク・ヘッジなどの金融の理解を深める。さらに、グローバル経済における国際金融における日本の位置づけを踏まえたうえで、金融安定化をめざす日銀の金融政策の実際とマクロ経済との関係、実体経済における金融政策の効果と課題についても講義を進める。授業形態は、パワーポイントによる対面での講義形式で実施する。	
		経済史１		本講義では、他の国の経済発展と比較しつつ、日本経済の成長を中心とした講義を行います。日本経済における繁栄を支えた原動力、およびその衰退を生成する要因を分析し、過去200年以上続いていた世界経済繁栄の中心がいかに絶えず移動しているかを理解することができるように学びます。経済史を理解するうえでの基礎を説明したあと、近代的経済成長を開始した江戸時代中期から、明治維新期における経済改革、その後の近代経済成長への移行といった経済発展の過程を取り上げ、日本経済成長の初期条件を産業革命期からの他の国の発展と比較して明らかにして行く。	
		経済史２		先進諸国の経済発展と比較しつつ、日本経済の成長を中心とした講義を行う。日本経済における繁栄を支えた原動力、およびその衰退を生成する要因を分析し、過去200年以上続いていた世界経済繁栄の中心がいかに絶えず移動しているかを理解することができるよう学習する。 本講義では、日本経済が近代経済成長への移行およびその転換を完成した19世紀を経て、近代経済成長を遂げた20世紀をフォローする。特に他国と対照しながら、日本経済の成長プロセスと問題点を検証し、21世紀に日本経済のすすむべき方向性を考える。	
		現代企業論		現代社会における企業の役割やあり方を、多様な個別企業のケースを取り上げながら解説する。講義はスライドを活用して進めるほか、必要に応じて動画や視聴覚教材を取り入れ、多角的な理解を深めることを目指す。また、講義で得た知識が実社会とどのように結びつくのかを考察し、創造力を働かせてイメージする姿勢が重要である。さらに、議論や質問を通じて学びを深める場を設け、主体的な学習を促す。本授業は、理論と実践を結びつけながら、企業活動の本質を多面的に学ぶことを目的とする。	
		国際経済論１		この講義では，国際経済情勢を理解する上で重要な国際貿易の基礎理論について学ぶ。また貿易と密接に関係する経済成長，経済発展に関する基礎的な知識も学ぶ。授業は講義形式で行う。国際貿易についての基礎的な理論や用語の理解を目的として，授業計画は，次のようなテーマ一覧に沿って進められる。輸出入関税の仕組みと効果，貿易の利益，貿易の余剰分析や貿易政策の効果，比較優位理論，貿易と経済成長の関係，雁行経済発展論，輸入代替化，自由貿易協定や経済連携協定など国際貿易協定と経済統合の類型，国際収支表について学習する。このような国際貿易と経済発展に関する基礎的な理解に基づいて，国際貿易に関するニュースや国際情勢を自分なりに理解し，考察できる力を養うことを目的とする。	
		国際経済論２		この講義では，国際経済情勢を理解する上で重要な国際金融の基礎理論について学ぶ。また現在の国際経済秩序に関する知識も学ぶ。授業は講義形式で行う。国際金融についての基礎的な理論や用語の理解を目的として，授業計画は，次のようなテーマ一覧に沿って進められる。外国為替の仕組み，外国為替制度の仕組みとその歴史，外国為替レートの変動要因，国際収支と外国為替相場，国際通貨体制，アジアの域内貿易の深化とアジアの成長パターンの変化，グローバル・インバランスと資本主義の金融化，戦争・経済制裁と国際経済への影響・分断などについて学習する。このような国際金融の基礎と国際経済情勢の基礎的な理解に基づいて，国際経済に関するニュースや国際情勢を自分なりに理解し，考察できる力を養うことを目的とする。	
		国際政治論１	○	「平和な世界の確立」という問題意識を持ちつつ、国際政治の「現在」に対する理解を深めることが本講義の目的である。そのためには「力をめぐる闘争」といった様相を見せる国際政治の現実をふまえたうえで、平和な社会を維持する方法を模索していく必要がある。そこでこの講義では「力の政治」の実体を分析した上で「国際社会の組織化」の可能性を探っていきたいと考えている。そこで本講義ではまず国際社会が持っている基本構造を確認したうえで、国際政治を見るための基本的な視点をいくつか提示していく。具体的には「力の政治」、「国際的道義」、「国益」等を取り上げる予定である。その上で「国際社会の組織化」がどのように可能になるのか理論的に考察していきたい。また適宜時事問題を取り上げて、若干の解説をしようと考えている。	隔年

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	国際社会コース	国際政治論２	○	本講義では国際政治論１の内容をふまえつつ、より具体的な国際政治上の諸問題を考察することで、現在の国際政治が抱える課題を分析する能力を身につけることを目標にする。そのためには受講生が各国の対外政策のぶつかり合いという様相をみせる国際政治の実体を理解した上で、国際社会の組織化の現状を説明できるようになる必要があると考えている。そこで本講義では国際政治が展開される主要舞台である大国間の外交交渉を中心に見ていく予定である。まず最初に対外政策と外交の違いを理解した上で、主要国の対外政策の特徴を取り上げる。その基礎知識をふまえた上で、第一次世界大戦後の国際制度交渉を比較的詳しく分析する予定である。最後に現在の国際社会が抱える課題に対する国際政治的取り組みについて簡単に取り上げたいと考えている。	隔年
		国際法１	○	本講義は、国際法が国際社会の生成・発展とともに伝統的国際法から現代国際法へと転換した点を詳細に検討する。この転換を理解することで、国際社会のあり方や関わり方への理解を深められるようにし、日本の国際社会への政策の転換も検討する。なお、現代国際法の特徴として挙げられる、武力行使禁止原則、国家平等権、人民の自決権、国際社会の一般的利益の保護については重点的に学んでいく。	
		国際法２	○	本講義は、国際法の法源である条約と慣習法がどのように関係しながら、国際社会のルール形成に貢献したきたのかを、次の分野で検討する。すなわち、国家機関、国際海洋法、国際空法、国際宇宙法、国際環境法などである。そして、これらの分野での国際法規範がどのように変容し、遵守されているのかを検討するとともに、日本の国内法にそれらがどのように影響を与えているのかについても検討する。	
		地域統合論１		この講義はEUに典型的にみることができる国際地域統合現象を取り上げる。地域統合は1990年代から勢いづき、この動きに無縁な国家は世界中に存在しなくなった一方、近年はＢｒｅｘｉｔに代表される試練にさらされるようになっている。そこでこの講義を通じて、時代の流れの中でなぜ地域統合が必要になっているのか、また問題となっているのかを理解したうえで、自分の将来に関係することとして地域統合が成功する秘訣と失敗する原因を探求してもらいたいと考えている。そこで本講義では、近年注目されるようになっている「東アジア共同体」構想がどのような背景から議論されるようになっているかを確認したうえで、国民国家を超える地域統合体の設立が持つ意味を分析する。そして最も進んだ地域統合体であるＥＵがどのように誕生することになったのかをその統合運動に関わった主要人物に焦点を当てて詳しく見ていく予定である。	隔年
		地域統合論２		国際地域統合では必然的に国家を超えた地域の運営が必要になってくる。その方法は多くの国際組織が試行錯誤を繰り返しながら模索している最中であり、EUもその発展に伴って運営方法を発達させてきている。国際社会のあり方にも大きな影響を与え続けている統合組織の制度的発展を理解することで今後の世界のあり方を考えるヒントをつかんでもらいたいと考えている。そこで本講義では、特に制度的発展に着目しながら、EUの現代までの歴史をたどっていきたいと考えている。EUの超国家的な運営方式は国連改革にあたって参考にされるなど、様々な国際組織に強い影響を与え続けている。受講生には理想的な国際関係像を描く際にEUのプラス面やマイナス面を参考にしてもらいたい。	隔年
		アニメ文化経済論		「アニメ」は、ジャパニーズ・アニメーションとして世界で評価されてきた。その一方、日本のアニメはマンガとともに、世界から問題視されてきた。本講義では、こうしたアニメの歴史を文化や経済の観点から分析していく。	隔年
		国際機構論１		国際機構の歴史は19世紀後半にまで遡るが、今日の国際社会で最も強い影響力をもっているのは、国際の平和と安全の維持を目的とする「国際連合」である。しかし、戦後60年を過ぎた現代において、国際連合を取り巻く環境は激変し、数多くの問題が集積している。本講義では、こうした問題を理解するために、国際機構の歴史的・理論的背景を確かめつつ、国際連盟と国際連合の基礎的な知識を学習する。	隔年
		国際機構論２		本講義は、現代の国際社会の自由貿易体制の推進に大きな役割を果たしてきた世界貿易機関（WTO）について学ぶ。より具体的には、第二次世界大戦前の自由貿易、GATT体制による自由貿易。WTOの成立過程、国際機構としてのWTO、WTOが定める自由貿易における基本的規律（最恵国待遇と内国民待遇）、農業貿易、WTO成立後の国際社会などを扱い、国際貿易環境の現状と問題点を示す。	隔年
		国際人権論１		未曾有の惨事を招いた第二次世界大戦の原因が日本やドイツといった国家による人権蹂躙にあることが、戦後国際社会で認識され、国際的な人権保障体制の確立が求められるようになった。その結果、国際連合は、「国際人権章典」を定めるなどして、国際的な人権保障が国際社会の平和にとって必要不可欠であると認識されるにいたった。本講義は、こうした過程と国際人権保障を支えるルール（国際人権法）を学習する。	隔年

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		国際人権論２		国際人権条約は、締約国が国際人権基準を遵守しているかどうかを監視するための履行監視機関を有している。この機関の判断は、現代国際法の発展に寄与するとともに、日本も含めた各国の人権状況の向上にも役立っている。そこで、この講義では、履行監視機関の判断を人権カタログごとに紹介する。そのうえで、これに関連する日本の人権状況を紹介し、受講生に日本の人権状況を見直す機会を提供する。	隔年
		地域経営論１	○	本科目では、地域経営の視点から都市計画の歴史や現代の都市計画の枠組み、都市を構成する様々な要素、近代以降の国際社会との文化・技術交流等について学ぶ。特に「市民参加・官民連携」に着目し、行政主導の都市計画から市民参加、官民連携によるまちづくりへと推移してきた歴史を知り、現在の市民参加・官民連携で行われるまちづくりの理念や手法、関連法制度、連携体制等について重点的に学習する。併せて、市民参加・官民連携のまちづくりが進められている現場を実際に見学・体験し、その理念や手法を実践的に学ぶ。「地域経営の視点から、都市計画の歴史や現代の枠組み、都市の構成要素を理解している」「市民参加・官民連携のまちづくりの理念や手法、関連法制度、多様な連携体制を理解している」「知識を活用し、市民参加・官民連携の視点から地域社会の課題解決について議論を行うことができる」を到達目標とする。授業形態は講義形式とし、グループワーク・ディスカッションを積極的に採用する。	
		地域経営論２	○	本科目では、地域経営の視点から都市計画の歴史や現代の都市計画の枠組み、都市を構成する様々な要素、近代以降の国際社会との文化・技術交流等について学ぶ。特に「市民参加・官民連携」に着目し、行政主導の都市計画から市民参加、官民連携によるまちづくりへと推移してきた歴史を知り、現在の市民参加・官民連携で行われるまちづくりの理念や手法、関連法制度、連携体制等について重点的に学習する。併せて、市民参加・官民連携のまちづくりが進められている現場を実際に見学・体験し、その理念や手法を実践的に学ぶ。「地域経営の視点から、都市計画の歴史や現代の枠組み、都市の構成要素を理解している」「市民参加・官民連携のまちづくりの理念や手法、関連法制度、多様な連携体制を理解している」「知識を活用し、市民参加・官民連携の視点から地域社会の課題解決について議論を行うことができる」を到達目標とする。授業形態は講義形式とし、グループワーク・ディスカッションを積極的に採用する。	
		地域調査		本科目では、地域調査の基本的知識について、社会調査の基本的サイクルである「仮説の構築」「調査の企画」「調査の実施」「調査結果の検証」「仮説の検証・修正」を軸に学ぶ。具体的には、社会調査の歴史や社会調査の分類、統計的調査の種類、調査票を作成する際の注意点等について学習する。「社会調査の基本的事項を正しく理解し、調査の基礎的な技法を身に付けている」「データを基に、量的・質的両面から社会調査の基礎的な技法を用いて分析ができる」「統計情報や文章資料を正確に読み解くことで、地域課題を発見し、その解決に必要な情報を多角的に分析できる」を到達目標とする。授業形態は講義形式とし、グループワーク・ディスカッションを積極的に採用する。	
		地球環境経済論１	○	今地球は、気候変動・地球温暖化をはじめ、さまざまな広域的な環境問題の危機に直面している。地球環境問題の原因は人間の経済活動にあることに「疑う余地がない」。一方、人間を含む地球に生存する生命が環境問題の危機に晒されている。人間の経済活動は、自然資源や生態系を過剰に利用することにより、地球環境に大きな損害を被らせる。地球環境の危機を回避するため、経済成長と環境保全の両立を図らなければならない。本講義では、環境と経済の関連に着目し、地球環境問題総論、持続可能な発展論の系譜とその新展開、持続可能な開発目標(SDGs)と地球温暖化の仕組みと原因および地球温暖化に関する国際的枠組み(COP)、国際的な取り組みを中心として解説する。	
		地球環境経済論２	○	人間の経済活動は、自然資源や生態系を過剰に利用することにより、地球環境に大きな損害を被らせる。地球環境の危機を回避するため、経済成長と環境保全の両立を図らなければならない。但し公害問題（酸性雨・大気汚染等）の発生は地球環境問題の原点である。地球環境経済論1を掘り下げて、公害問題（公害の越境移動）に対する地域・国際的な取り組み、地球の水資源問題、排水抑制と節水の環境的・経済的効果、ゴミ問題と経済学的アポローチ、 廃棄の汚染抑制と分別の資源化などミクロ的側面から分析して人間社会と地球の循環システムが調和した社会を目指すものを総合的に検討・提示する。	
		中小企業論		本講義では、まず「中小企業」の基礎概念を学び、大企業との関係性において規定されることの多い中小企業の特質について解説する。また、外国企業や日本企業の具体的な事例を取り上げ、それぞれの違いについて多角的に説明する。国や地域の違いが企業経営や戦略に与える影響を考察し、創造力を働かせながらその理解を深めることを重視する。受講生が卒業後、国内外の企業においてグローバル化に対応できる力を養うことを目的とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		平和学１		平和学は「平和をいかに創るか」という実践とのつながりの深い学問として発展してきた。「平和」の対語は「戦争」というより、「暴力」というさらに広い範囲になる。それゆえ、平和の構築に向けて、政治学、経済学、社会学、法学、哲学、心理学などさまざまな学問領域を総合的に活用する、学際的なアプローチが必要である。講義では平和学の目からは世界と自分たちの現実がどう見えるのかを中心に、映像資料やグループ討論なども取り入れて、多角的に学びあえる場をつくっていきたい。	集中講義
		平和学２		「非暴力トレーニング」を集中的に実施する。各回ごとに、ふりかえりのために簡単なコメントペーパーを書いてもらう。参加者の顔を見ながら臨機応変に内容を決めるが、以下の内容には触れる予定である。1.イントロダクション　2.アイスブレーキング①　3.アイスブレーキング②　4.ブラインドウォーク　5.紛争とは何か　6.映像資料：暴力の現実　7.非暴力トレーニングの誕生　8.非暴力トレーニング①　9.非暴力トレーニング②　10.非暴力トレーニング③　11.非暴力トレーニング④　12.非暴力トレーニング⑤　13.非暴力トレーニング⑥　14.非暴力トレーニング⑦　15.ふりかえり	集中講義
		国際社会入門１		2年次以降の専門科目の導入編である。社会科学を構成する法学、政治学、経済学等の基本知識を学び、社会問題に対して複眼的にかつ総合補完的にアプローチする方法を考え、自分の目的や興味に沿って学習と研究を進める前に基本的枠組みを理解するのが講義の主旨となる。複雑な社会問題を的確に把握・解明するとともに、新しい解決策立案能力と世界に発信できる国際感覚を養う。 （オムニバス方式/全7回） （13 藤本晃嗣/2回）国際法と人権/国際社会とジェンダー （8 富川尚/2回）国際政治とは/国際社会の理想と現実 （7 房文慧/2回）生きるための経済とは/地球環境経済と国際社会 （13 藤本晃嗣、8 富川尚、7 房文慧/1回）（共同） 社会科学の学習と国際社会感覚の養い	オムニバス・共同（一部）
		国際社会入門２		2年次以降の専門科目および3年次以降の演習で扱う内容の導入科目であり、具体的な研究や実践例を紹介しながら、前期よりもさらに詳細に説明しデスカションを中心に行う。 （オムニバス方式/全7回） （13 藤本晃嗣/2回） 国際法と人権/国際社会とジェンダー （8 富川尚/2回） 国際政治とは/国際社会の理想と現実 （7 房文慧/2回） 生きるための経済とは/地球環境経済と国際社会 （13 藤本晃嗣、8 富川尚、7 房文慧/1回）（共同） 社会科学の学習と国際社会感覚の養い	オムニバス・共同（一部）
		国際社会演習１	○	国際社会演習１は、国際社会に関しての基礎理論を把握することができ、異なる考えや意見を受け入れる力を身につけ、国際社会や地域社会において他者を尊重し協働することができるようになることを目的とする。受講生は法学、政治学、経済学のいずれかの専門知識を特に学ぶことができる。	
		国際社会演習２	○	国際社会演習2は、国際社会演習1と連続で履修することで、国際社会に関しての基礎理論への理解を深めて行くことができ、異なる考えや意見を受け入れる力を身につけ、国際社会や地域社会において他者を尊重し協働することができるようになることを目的とする。受講生は、法学、政治学、経済学のいずれかの専門知識に対する理解をより一層深めることとなる。	
		国際社会演習３	○	国際社会演習１・２で学んだ専門知識を確認しつつ、それに基づく分析能力の一層の向上を図り、受講生が具体的な研究テーマを定めて卒業論文・卒業制作の準備を進められるよう促していく。卒業論文・卒業制作のテーマや採用する主要な分析手法について、演習の場での発表や討論、教員による指導を通じて、内容を固めていく。また、卒業論文・卒業制作に必要な先行研究の渉猟とその正確な読み込み具合については教員が確認を行っていく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要					
（人文学部国際教養学科）					
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		国際社会演習４	○	国際社会演習３で決定できた研究テーマと分析手法に基づき、受講生が卒業論文・卒業制作を進められるように環境を整える。中間発表の場を設けること等を通じ、円滑な進捗を図るとともに、内容・まとめ方等について教員が指導を行う。この演習の前半では、演習での中間発表、討論を通じて、受講生は自身の思考を深められる機会を持つことができる。後半では、卒業論文・卒業制作の構成・展開に関して、教員の指導を受けて卒業論文・卒業制作を完結する。	
		卒業論文	○	国際社会コースにおいて、いままで社会、歴史、文化および情報メディアに関する基礎的な教養およびさまざまな専門知識を学習してきた学生の皆さんに、２１世紀におけるさまざまな社会問題、地域問題を集中的に議論してもらっている。さらに各種となるフィールド型サービスラーニングを積極的に取り入れ、地域社会の課題発見とその課題解決に向けた具体的な取り組みを個別やグループで考え、実践に移す手段を身につけ、地域社会および国際社会を創造的に担う力を育む人材を養うことができることを目指している。このような学習を通して、各専門知識を活かし、自分の学習目的や興味に沿って学習と研究を進め卒業レポート、卒業論文を作成し完成する。皆さんに各視点から異なる考えや意見を受け入れる力を身につけ、国際社会や地域社会において他者を尊重し協働することができるよう進歩するのが、私達教員一同の願いとなる。	
		コミュニティデザイン１	○	本科目では、協働の場づくりや仕組みづくりをデザインの力で支援し、地域の社会的・空間的な課題を解決する「コミュニティ・デザイン」の理念や思考技術を学ぶ。また、コミュニティ・デザインの具体的な手法について様々なまちづくり事例を通して学ぶとともに、グループワークを通して地域課題の解決手法を実践的に学習する。「コミュニティ・デザインの手法と理念を理解している」「実社会と空間を連関して思考することができる」「地域課題を発見し解決するために、まちづくりの観点から多面的に考察できる」を到達目標とする。グループワーク・ディスカッションを積極的に採用する。	
		コミュニティデザイン２	○	本科目では、協働の場づくりや仕組みづくりをデザインの力で支援し、地域の社会的・空間的な課題を解決する「コミュニティ・デザイン」の理念や思考技術を学ぶ。また、コミュニティ・デザインの具体的な手法について様々なまちづくり事例を通して学ぶとともに、グループワークを通して地域課題の解決手法を実践的に学習する。「コミュニティ・デザインの手法と理念を理解している」「実社会と空間を連関して思考することができる」「地域課題を発見し解決するために、まちづくりの観点から多面的に考察できる」を到達目標とする。グループワーク・ディスカッションを中心に行う。	
		地域文化論１		今日の現代社会において、わたしたちは、「生と死」やそれに関わる医療をめぐって、家族生活を基軸にしながら、出産から成長、そして死まで、延命治療の選択や高齢化社会をどう生きるかなど、さまざまな問題に直面し家族や地域の手助けや協力を得て困難を乗り越えながら、人びとともに生きている。そこで、前半は家族や結婚そして出産のあり方を根本的に問うところから、現代社会のあり様について考えてゆく。後半は家族における人間の成長から、異なる世代がどう支えあっていけばよいのか、その社会のあり方を文化人類学の比較文化論の手法を用いて考える。また、生物的な活力に満ちた働き盛りや文化の中心を占める人たちだけが生きやすいのではなく、老年や女性や外国人やアウトサイダーも活き活きと包まれる社会をどう創っていけばよいのか、地域文化を発信するゲストスピーカーも迎え、日本の下町社会のあり様や工夫からも学んでゆく。	
		地域文化論２		前期の学びを展開し、各地域社会の文化のあり様が鏡となって、自文化をより理解し、自分たちの生活や生き方を見直す機会にする。また、受講する学生が、自分たちの周りで起きている社会の諸問題に関心をもち、他者に配慮する意識をもつことができるようにする。そのために、さまざまな地域文化を知り、異なる文化を比較したり、異なる文化が接触したりする場を考察してゆく。私たちの価値観や社会の仕組みだけが正しいのではないことを知って、社会をよりよくしていこうとする学びをする。そのために、国内だけでなく諸外国の文化・社会のあり方を、私たちに近い他者・アジアとの比較も含めて考える。阿賀北の地域文化に精通するゲストスピーカーも迎え、グループワークやディスカッションを通して理解を深めてゆく。	
		伝統文化・町並み景観論		本科目では、地域経営を考える上で重要な地域資源として、地域固有の「伝統文化」「町並み景観」に着目し、その社会的・文化的価値や現状の課題、保全・継承の理念及び手法、地域経営への活用手法について学ぶ。具体的には、主に日本の特徴的な伝統文化・町並み景観の事例を基に、それぞれの社会的・文化的価値や関連法制度、保全・継承並びに地域経営への活用の理念や手法について学ぶ。併せて、伝統文化・町並み景観の保全・継承・活用の現場を実際に見学・体験し、現状の課題や解決の方法論を実践的に学ぶ。「地域固有の伝統文化・町並み景観の社会的・文化的価値と現状の課題を理解している」「伝統文化・町並み景観の保全・継承並びに地域経営への活用手法を把握している」「知識を活用し、伝統文化・町並み景観の保全・継承・活用に関する議論を行うことができる」を到達目標とする。授業形態は講義形式とグループワーク・ディスカッションを取り入れる。	隔年

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		地域共生社会論	○	2年次以降の専門科目及び3年次以降の演習、その他の科目全般における導入科目の位置づけの科目であり、地域経営やまちづくりの基礎となる共生社会の実現に向けた思想や哲学、制度、政策など様々な観点からともに生きることの意義と実践スキルについて説明する。 （オムニバス方式/全15回） （22 池田しのぶ/8回） 地域社会におけるボランティア活動の様々な実践事例に触れながら共生社会実現におけるボランティア活動の持つ意義と実践スキル及び課題について説明する。 （14 趙晤衍/7回） 社会福祉全般、とりわけ地域福祉の視点からまちづくりや地域住民の地域課題への主体的な参加による課題解決による共生社会実現のあり方について説明する。	オムニバス
		福祉まちづくり論		わが国における福祉サービスは高齢、障がい、児童などさまざまな制度がそれぞれ別の法律によって規定され提供されています。かつて社会から隔絶された病院や施設などで暮らしていた人々が、いま、徐々に私たちとともに地域で暮らす住民となり「共生社会」の一員となってきています。この授業では、わが国の福祉の歴史をふりかえりながら、高齢、障がい、児童などの福祉サービスとその対象者を理解しながら、どのように共生社会を形成していくのかを考えます。	
		非営利組織経営		本科目では、非営利組織の理念や歴史的展開、組織形態、関連法制度、マネジメント等の基礎知識を学ぶ。さらに、県内外の特徴的な非営利組織の活動事例を基に、活動テーマごとの理論や地域社会における役割、マネジメント手法について具体的に学習する。併せて、非営利組織の活動現場を実際に見学し、地域課題解決の組織づくりをテーマとしたグループワークを行うことで、非営利組織の経営を実践的に学ぶ。「非営利組織の概念や経営手法を理解している」「非営利組織による社会的課題の解決事例を把握し、その手法を理解している」「非営利組織の社会的意義や経営手法の知識を基に、地域の社会課題について議論を行うことができる」を到達目標とする。授業形態は講義形式とし、グループワーク・ディスカッションを積極的に採用する。	隔年
		広報・広告コミュニケーション論	○	広告、広報、宣伝は、はっきりと区別せずに使われることが多い言葉である。しかし、これらの言葉は、歴史的・学術的には異なる意味をもって成立したものだ。本講義では、広告、広報、宣伝とは何かを整理し、それぞれの理論と事例を見ていく。	隔年
		観光ビジネス論		本科目では、地域資源を活用した観光関連ビジネスについて、その理念や展開手法を学ぶ。国内外の特徴的な観光ビジネスの事例を基に、テーマごとの理論や地域資源の活用手法、地域との連携手法、観光公害のリスク等について具体的に学習する。併せて、観光ビジネスの現場を実際に見学・体験し、地域資源の活用手法や地域との連携手法等を実践的に学ぶ。「観光関連ビジネスと地域資源のつながりを理解している」「観光関連ビジネスにおける利害関係者とその関わりを理解している」「基礎知識を基に、地域資源を活用した観光ビジネスについて議論を行うことができる」を到達目標とする。授業形態は講義形式とし、グループワーク・ディスカッションを積極的に採用する。	隔年
		マーケティング論１		この講義では、マーケティングの基本概念や戦略について学びます。市場調査や消費者行動、4P（製品、価格、流通、プロモーション）の基礎を理解し、事例を通じて実践的な知識を深めます。また、市内の企業を訪問し、現場で実際に行われているマーケティング戦略を学ぶことで、理論と実務の結びつきを体験します。これにより、マーケティングの役割と重要性を実感し、実社会で活用できる基礎力を養うことを目指します	
		マーケティング論２		この講義では、デジタルマーケティングの基本概念と最新動向を学びます。SNSや検索エンジン、電子メール、ウェブ広告など、デジタルチャネルを活用したマーケティング手法を理解し、消費者行動のデータ分析やターゲティングの実践例を探求します。また、実際にデジタルマーケティングを実施している企業の担当者を招き、現場での経験や課題についてディスカッションを行うことで、理論と実務の両面から学びを深めます。	
		社会起業論１	○	2年次以降の地域経営やまちづくり関連科目の共通事項として求められる社会課題の解決及び緩和における地域住民の組織化とその組織の継続的な活動のための活動資金確保や組織の運営・経営など様々な手法が求められる。社会課題解決に必要な社会資源の開発と組織の立ち上げの意義や様々な実践事例の分析と研究等について学ぶようにする。 （オムニバス方式全15回） （14 趙晤衍/7回） ムハマドユヌスのソーシャルビジネス、渋谷栄一の社会的企業、欧米のソーシャルエンタープライズ、韓国の社会的企業の座学や実践事例をもとに起業家精神やそのスキルについて学ぶようにする。 （21 久保有朋/8回） まちに残された歴史的遺産、文化的財産を「まち遺産」と捉え、その保存継承・活用推進を通した歴史的景観など伝統文化の保全を景観・観光・防災・伝統文化を軸としたまちづくりのあり方をソーシャルビジネスの視点とスキルから学ぶようにする。	オムニバス

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	地域経営コース	社会起業論２	○	2年次以降の地域経営やまちづくり関連科目の共通事項として求められる社会課題の解決及び緩和における地域住民の組織化とその組織の継続的な活動のための活動資金確保や組織の運営・経営など様々な手法が求められる。社会課題解決に必要な社会資源の開発と組織の立ち上げの意義や様々な実践事例の分析と研究等について学ぶようにする。 （オムニバス方式全15回） （14 趙晤衍/7回） ムハマドユヌスのソーシャルビジネス、渋谷栄一の社会的企業、欧米のソーシャルエンタープライズ、韓国の社会的企業の座学や実践事例をもとに起業家精神やそのスキルについて学ぶようにする。 （21 久保有朋/8回） まちに残された歴史的遺産、文化的財産を「まち遺産」と捉え、その保存継承・活用推進を通した歴史的景観など伝統文化の保全を景観・観光・防災・伝統文化を軸としたまちづくりのあり方をソーシャルビジネスの視点とスキルから学ぶようにする。	オムニバス
		簿記会計		本科目は、企業活動を記録するためのビジネス言語と呼ばれる簿記・会計に必要な技術や手法の基本を学ぶ。簿記によって作成される様々な計算書は、企業経営や企業評価のために必須のものとして広く使われ、そのための簿記の処理方法（仕訳）や財務諸表の構造の理解と日商簿記検定3級の内容の主要部分について学ぶ。	
		まちづくりPBL１		3年次以降の専門演習、その他の科目全般における地域課題発見とその解決に必要な基礎的知識の学習や様々な地域活動を視野に入れたサービスラーニング活動の導入に必要な知識と基本的なスキルについて学ぶ。 （オムニバス方式/全8回） （21 久保有朋/3回） 新潟市認定の景観形成推進組織として設立された新潟市花街地区の伝統文化と歴史的景観の保全等による地域活性化を目的としたまちづくり活動の事例研究やその実践活動への参加を通した地域課題の発見と解決法の基礎ついて学ぶようにする。 （14 趙晤衍/3回） 粟島浦村における地域活性化プロジェクトおよび新発田市川東地区の耕作放棄地を活用した農福連携プロジェクト、新発田市内に拠点を置くフードバンクしばたが行っている活動への見学や参加を通した地域課題の発見と解決方法の基礎について学生主体の取り組みとして学ぶようにする。 （22 池田しのぶ/2回） 毎年行われている新発田市五十公野山もりづくりボランティア活動への参加、その他年間を通じて新発田市内の各種団体から依頼されている様々なボランティア活動への積極的な参加を通したボランティア活動と地域課題の関係について地域共生社会の視点から学ぶようにする。	オムニバス
		まちづくりPBL２		3年次以降の専門演習、その他の科目全般における地域課題発見とその解決に必要な基礎的知識の学習や様々な地域活動を視野に入れたサービスラーニング活動の導入に必要な知識と基本的なスキルについて学ぶ。 （オムニバス方式/全8回） （21 久保有朋/3回） 新潟市認定の景観形成推進組織として設立された新潟市花街地区の伝統文化と歴史的景観の保全等による地域活性化を目的としたまちづくり活動の事例研究やその実践活動への参加を通した地域課題の発見と解決法の基礎ついて学ぶようにする。 （14 趙晤衍/3回） 粟島浦村における地域活性化プロジェクトおよび新発田市川東地区の耕作放棄地を活用した農福連携プロジェクト、新発田市内に拠点を置くフードバンクしばたが行っている活動への見学や参加を通した地域課題の発見と解決方法の基礎について学生主体の取り組みとして学ぶようにする。 （22 池田しのぶ/2回） 毎年行われている新発田市五十公野山もりづくりボランティア活動への参加、その他年間を通じて新発田市内の各種団体から依頼されている様々なボランティア活動への積極的な参加を通したボランティア活動と地域課題の関係について地域共生社会の視点から学ぶようにする。	オムニバス
		地域調査		本科目では、地域調査の基本的知識について、社会調査の基本的サイクルである「仮説の構築」「調査の企画」「調査の実施」「調査結果の検証」「仮説の検証・修正」を軸に学ぶ。具体的には、社会調査の歴史や社会調査の分類、統計的調査の種類、調査票を作成する際の注意点等について学習する。「社会調査の基本的事項を正しく理解し、調査の基礎的な技法を身に付けている」「データを基に、量的・質的両面から社会調査の基礎的な技法を用いて分析ができる」「統計情報や文章資料を正確に読み解くことで、地域課題を発見し、その解決に必要な情報を多角的に分析できる」を到達目標とする。授業形態は講義形式とし、グループワーク・ディスカッションを積極的に採用する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		地域福祉１		本科目は、地域福祉の基本的な考え方、とりわけ、人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂などについて理解を深める。また、地域の主体と対象について、それに係わる組織、団体、専門職の役割と実際について理解を深めていく。更には、地域福祉におけるネットワーキング、社会資源の活用や調整と開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法などについても理解を深めていく。	
		地域福祉２		本科目は、地域福祉の基本的な考え方、とりわけ、人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂などについて理解を深める。また、地域の主体と対象について、それに係わる組織、団体、専門職の役割と実際について理解を深めていく。更には、地域福祉におけるネットワーキング、社会資源の活用や調整と開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法などについても理解を深めていく。	
		ファンドレイジング		近年、まちづくりや地域経営におけるNPOや市民団体などの活動資金の安定的な確保と調達は喫緊の課題として認識されており、その財源確保の一つとして近年注目を集めているのが行政からの助成金だけではなく、一般市民や企業などからの会費や寄付金等の戦略的獲得である。寄付金を獲得していくためには様々なスキルが求められており、そのスキルや実践事例などについて学ぶようにする。 （オムニバス方式全15回） （14 趙晤衍/8回） ファンドレイザーに求められる5つの能力である実行と実践力、知識とスキル、マネジメント・コミュニケーション、対人コミュニケーション、誇りと倫理を軸に置きながら持続可能なまちづくりを経営の視点から捉えつつ座学と実践について学ぶようにする。 （21 久保有朋/７回） ファンドレイザーに求められる5つの能力の具体的なカテゴリごとの内容である、マーケティング、広報・ITコミュニケーション、寄付・会費プログラム、助成金、事業収入、企業・行政連携、評価、遺贈、組織管理、会計・税務、リーダーシップなどについて具体的なスキル等について学ぶようにする。	オムニバス
		ソーシャルベンチャー起業実践論１		近年、社会的課題をビジネスの手法で解決を図るソーシャルビジネスの考え方やそのスキルがまちづくりや地域活性化、地域課題解決を目指す様々な福祉団体や市民団体に広く求められている。特に少子高齢化が進む地方の過疎地や離島など限界集落といえる地域の課題は住民の生活課題を含めた持続可能な地域づくりのあり方が問われている。これらの課題にソーシャルビジネスの手法を用い、創業に関心のある人自らの起業だけではなく、地域課題解決と持続可能な経営を目指す住民組織の起業も支援する専門人材の育成を目指す。具体的には、新潟市や新発田市等の地域において地域課題解決を経営やビジネスの視点から取り組んでいる様々な組織の実践事例を取り上げ、その組織の事業概要、目的、ビジネススキル、社会的インパクトなどについて学ぶ。	
		ソーシャルベンチャー起業実践論２		近年、社会的課題をビジネスの手法で解決を図るソーシャルビジネスの考え方やそのスキルがまちづくりや地域活性化、地域課題解決を目指す様々な福祉団体や市民団体に広く求められている。特に少子高齢化が進む地方の過疎地や離島など限界集落といえる地域の課題は住民の生活課題を含めた持続可能な地域づくりのあり方が問われている。これらの課題にソーシャルビジネスの手法を用い、創業に関心のある人自らの起業だけではなく、地域課題解決と持続可能な経営を目指す住民組織の起業も支援する専門人材の育成を目指す。具体的には、新潟市や新発田市等の地域において地域課題解決を経営やビジネスの視点から取り組んでいる様々な組織の実践事例を取り上げ、その組織の事業概要、目的、ビジネススキル、社会的インパクトなどについて学ぶ。	
		地域経営論１	○	本科目では、地域経営の視点から都市計画の歴史や現代の都市計画の枠組み、都市を構成する様々な要素、近代以降の国際社会との文化・技術交流等について学ぶ。特に「市民参加・官民連携」に着目し、行政主導の都市計画から市民参加、官民連携によるまちづくりへと推移してきた歴史を知り、現在の市民参加・官民連携で行われるまちづくりの理念や手法、関連法制度、連携体制等について重点的に学習する。併せて、市民参加・官民連携のまちづくりが進められている現場を実際に見学・体験し、その理念や手法を実践的に学ぶ。「地域経営の視点から、都市計画の歴史や現代の枠組み、都市の構成要素を理解している」「市民参加・官民連携のまちづくりの理念や手法、関連法制度、多様な連携体制を理解している」「知識を活用し、市民参加・官民連携の視点から地域社会の課題解決について議論を行うことができる」を到達目標とする。授業形態は講義形式とし、グループワーク・ディスカッションを積極的に採用する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		地域経営論２	○	本科目では、地域経営の視点から都市計画の歴史や現代の都市計画の枠組み、都市を構成する様々な要素、近代以降の国際社会との文化・技術交流等について学ぶ。特に「市民参加・官民連携」に着目し、行政主導の都市計画から市民参加、官民連携によるまちづくりへと推移してきた歴史を知り、現在の市民参加・官民連携で行われるまちづくりの理念や手法、関連法制度、連携体制等について重点的に学習する。併せて、市民参加・官民連携のまちづくりが進められている現場を実際に見学・体験し、その理念や手法を実践的に学ぶ。「地域経営の視点から、都市計画の歴史や現代の枠組み、都市の構成要素を理解している」「市民参加・官民連携のまちづくりの理念や手法、関連法制度、多様な連携体制を理解している」「知識を活用し、市民参加・官民連携の視点から地域社会の課題解決について議論を行うことができる」を到達目標とする。授業形態は講義形式とし、グループワーク・ディスカッションを積極的に採用する。	
		企業経営論１		本科目は、企業経営を体系的に理解するために、経営学の各分野における基本的な考え方として、経営者の役割、経営者とステークホルダー（利害関係者）との関係、さらに経営学の基本的な領域である戦略論、組織論、管理論、マーケティング、会計（経営財務）などに加え、近年、企業活動におけCSR,CSV,SDGsが求められる社会貢献の具体的な実践について理解を深める。	
		企業経営論２		本科目は、企業経営を体系的に理解するために、経営学の各分野における基本的な考え方として、経営者の役割、経営者とステークホルダー（利害関係者）との関係、さらに経営学の基本的な領域である戦略論、組織論、管理論、マーケティング、会計（経営財務）などに加え、近年、企業活動におけCSR,CSV,SDGsが求められる社会貢献の具体的な実践について理解を深める。	
		地域経営演習１	○	本科目では、地域の社会課題を解決する地域経営の多様な手法について、実践を通して考察する。また、地域経営の活動現場の見学や地域課題解決をテーマとしたグループワークを通して、地域経営に関する多角的な視点を養う。さらに、地域の社会課題解決に向けて自身ができることを考え、実際に事業を企画し運営する経験を通して、地域経営の実践力の体得を目指す。「地域経営の概念や経営手法、社会的課題の解決手法を理解している」「地域経営の社会的意義や手法に関する知識を基に、地域の社会課題について議論を行うことができる」「地域の社会課題解決に向けて自身ができることを考え、実際に事業を企画・運営できる」を到達目標とする。本科目は、グループワーク・ディスカッションを中心とし、地域経営の現場視察も積極的に行う。	
		地域経営演習２	○	本科目では、地域の社会課題を解決する地域経営の多様な手法について、実践を通して考察する。また、地域経営の活動現場の見学や地域課題解決をテーマとしたグループワークを通して、地域経営に関する多角的な視点を養う。さらに、地域の社会課題解決に向けて自身ができることを考え、実際に事業を企画し運営する経験を通して、地域経営の実践力の体得を目指す。「地域経営の概念や経営手法、社会的課題の解決手法を理解している」「地域経営の社会的意義や手法に関する知識を基に、地域の社会課題について議論を行うことができる」「地域の社会課題解決に向けて自身ができることを考え、実際に事業を企画・運営できる」を到達目標とする。本科目は、グループワーク・ディスカッションを中心とし、地域経営の現場視察も積極的に行う。	
		地域経営演習３	○	本科目では、地域の社会課題を解決する地域経営の多様な手法について、実践を通して考察する。また、地域経営の活動現場の見学や地域課題解決をテーマとしたグループワークを通して、地域経営に関する多角的な視点を養う。さらに、地域の社会課題解決に向けて自身ができることを考え、実際に事業を企画し運営する経験を通して、地域経営の実践力の体得を目指す。「地域経営の概念や経営手法、社会的課題の解決手法を理解している」「地域経営の社会的意義や手法に関する知識を基に、地域の社会課題について議論を行うことができる」「地域の社会課題解決に向けて自身ができることを考え、実際に事業を企画・運営できる」を到達目標とする。本科目は、グループワーク・ディスカッションを中心とし、地域経営の現場視察も積極的に行う。	
		地域経営演習４	○	本科目では、地域の社会課題を解決する地域経営の多様な手法について、実践を通して考察する。また、地域経営の活動現場の見学や地域課題解決をテーマとしたグループワークを通して、地域経営に関する多角的な視点を養う。さらに、地域の社会課題解決に向けて自身ができることを考え、実際に事業を企画し運営する経験を通して、地域経営の実践力の体得を目指す。「地域経営の概念や経営手法、社会的課題の解決手法を理解している」「地域経営の社会的意義や手法に関する知識を基に、地域の社会課題について議論を行うことができる」「地域の社会課題解決に向けて自身ができることを考え、実際に事業を企画・運営できる」を到達目標とする。本科目は、グループワーク・ディスカッションを中心とし、地域経営の現場視察も積極的に行う。	
		卒業論文	○	地域経営コースにおける学びは、「共創・共生」というコンセプトのもと、地域社会のウェルビーイングの実現と地域の未来を支えるために必要な経営と文化的まちづくりについて座学のみではなく、実践的に学ぶことを大切に掲げている。地域経営やまちづくりに関する知識と技能ならびに地域課題解決力を育むためには地域経営コースの主要科目の学びは勿論のこと、その学びを「まちづくりPBL」というサービスラーニング活動と連動して深めることを重要視する。本卒業論文では、これらの学びを集大成する位置づけとして地域経営やまちづくり等に関する研究と実践活動を総括することに目標をおく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		デジタルジャーナリズム論	○	デジタルツールとソーシャルメディアを活用し、現代ジャーナリズムが取り組む社会課題や歴史的な問題について学び、情報発信の手法を実践的に習得することを目指す。映像や音声表現を中心にデジタルジャーナリズムの動向を分析し、具体的な事例研究を通じて、戦争・平和や社会課題を扱うメディアの役割を考察する。さらに、新潟地域のキーワードを題材にした情報発信の実習を行い、地域社会との関わりを重視した実践的なスキルを養成する。授業では講義に加えてグループワークや成果発表を実施する。	
		情報メディア論	○	急速に変化するメディア環境の現状を理解し、その中で発生する課題を考察することを目的とする。新聞、テレビ、ラジオ、雑誌といった既存メディアに加え、ソーシャルメディアの役割や影響を多角的に分析し、新潟地域に関連するメディアサービスの実態把握や発信活動に取り組む。情報メディア社会で「発信者」としての基礎を培い、地域社会におけるメディアの利活用を実践的に学ぶことを目指す。授業は講義形式を基本としつつ、ディスカッションや課題制作を通じて主体的な学びを促進する。	
		Web技術		「Web技術」の講義では、HTMLとCSSを利用した情報発信の基礎技術を学ぶ。まず、HTMLの基本構造を理解し、文書の見出し、段落、リンク、画像などの要素を用いてWebページを作成する方法を習得する。また、CSSを用いてデザインやレイアウトを適用し、文字の色やサイズ、背景、ボックスモデルなどの基本的なスタイル設定を学ぶ。さらに、レスポンシブデザインを取り入れ、デバイスに応じた表示の工夫についても触れる。これらを通じて、Webページを構造的かつ視覚的に整える技術を習得することを目指す。加えて、Web標準やアクセシビリティに関する基本的な概念を理解し、誰にとっても利用しやすいWebコンテンツの作成を目指す内容である。講義では実際にコードを書く演習を行い、実践的なスキルを身につけることに重点を置く。	
		アナウンス・ナレーション実習１		「言葉は人なり」話し方、言葉使い、語彙の多寡には話す人の「人となり」が現れるこれからの時代、AIの発達によりアナウンサーも機械化されるが、聞き手の気持ちを汲み取り、聞き手の心を動かす言葉を発するアナウンサーになるために、必要な技術を基礎から学ぶ。姿勢、呼吸、発声、発音、アクセントの基本から、しっかり正確に分かりやすく伝えるためのニュース原稿、天気予報、スポーツニュース原稿読み、そして表現力を鍛えるためのフリートーク、ナレーション、インタビューの技術指導、実践を行う。	
		アナウンス・ナレーション実習２		アナウンス・ナレーション実習１に引き続き、基本の発声、発音、アクセントを踏まえた原稿読みだけでなく、技術のスキルアップとして、多くの人の前で話すこと、伝えることの実践や、イベントの参加者に合わせた話し方の技術の習得など、よりテクニカルな部分を学ぶ。大学行事の司会進行役やオープンキャンパスで高校生への大学のPRなど、教室以外の場所で実習の成果を出していく。	
		アニメ文化経済論		「アニメ」は、ジャパニーズ・アニメーションとして世界で評価されてきた。その一方、日本のアニメはマンガとともに、世界から問題視されてきた。本講義では、こうしたアニメの歴史を文化や経済の観点から分析していく。	隔年
		コピーライティング研究		コピーライティングとは消費者の心や行動に影響を与えることを目的とした「広告におけることば」の技術である。自己表現を目的とした作文や感想文とは違い、だれかの視点を想像しながらことばをつくる技術は、広告業界のみならず現代社会において重要とされる多様性を理解することにもつながる。講義ではまず戦後から令和までの多くの広告実例を見ながらメディアや広告について大局を掴みます。次に、広告制作におけるコピーライティングの役割や広告制作の工程を理解した後、文章技術の基本を学びながら、コピーライティングの作り方を実践的に学びます。	
		コンテンツプロデュース論		一般に知られている「コンテンツ」という概念は日本語の造語である。この言葉は、かなり曖昧に使われ、特殊な文脈に位置付けられている。混乱したコンテンツ概念を整理して、コンテンツ制作とは何かを理解する。また、コンテンツ制作にはさまざまな制限があると同時に、プロデュース環境に内在する偏向の問題がある。本講義では、コンテンツ制作の仕組みを学び、インターネット時代における表現活動を考える。	隔年
		スマートフォンアプリ開発１		「スマートフォンアプリ開発1」の講義では、Monaca IDEを利用してHTMLとJavaScriptを用いたWebアプリケーションの作成を学ぶ。まず、Monacaの基本操作や開発環境のセットアップ方法を理解し、効率的なアプリ開発の手法を習得する。次に、HTMLでアプリケーションの構造を作成し、JavaScriptを用いて動的な動作やユーザーインタラクションを実現する技術を学ぶ。さらに、CSSを用いたデザインの適用や、Monaca特有の機能を活用したプラットフォーム対応の手法についても解説する。講義では、基本的な画面遷移、データの保存・読み込みなど、実用的なアプリケーション構築の要素に触れる。最終的には、学んだ技術を活かして簡単なスマートフォンアプリを制作することを目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	情報メディアコース	スマートフォンアプリ開発２		「スマートフォンアプリ開発2」の講義では、「スマートフォンアプリ開発1」の発展として、JavaScriptの代わりにPythonを用いてWebアプリケーションを開発する。Pythonの基本文法を復習した後、フレームワークを活用してアプリケーションのサーバーサイド処理を学ぶ。HTMLで構造を設計し、CSSでデザインを整え、Pythonで動的処理やデータベースとの連携を実装する。また、REST APIを用いたデータ通信やユーザー認証機能の追加など、応用的な技術にも触れる。最終的には、実用的なスマートフォン対応アプリを制作し、プロジェクト形式で開発プロセスを体験する。	
		デジタルコンテンツ概論	○	コンテンツを利用したビジネスは、2000年代に入って急速に注目を集め始めた。それまでコンテンツの多くは、政治や学術の世界で害悪をもたらすものとして扱われ、非難の対象でしかなかった。この時期に一体、何が起こったのだろうか。この講義では、コンテンツをめぐる政治、経済、文化の動きを踏まえつつ、コンテンツ・ビジネスを読み解いていく。	
		デジタルコンテンツ制作１	○	本授業では、近年爆発的に増大しているデジタルコンテンツについて、どのように生まれ、どんなメディア経路を経て、最終的に私たちのもとに届くのか、実習を行いながら事例やデータを紐解き理解を図る。特に、アニメ大国日本を代表し、情報を端的に、情感豊かに伝える手法の一つであるマンガを取り上げる。本講義では、アニメーション制作ソフトの代表格であるClip Studio Paint（クリスタ）を用いたマンガ制作を実際に行い、表現技術を身につけるとともに、表現の場を設け評価しあう。最終的には、メディア環境と共にマンガがどのように変化してきたのか、作品研究を通じて学び取ることを目標とする。	隔年
		デジタルコンテンツ制作２	○	本授業は、「デジタルコンテンツ制作１」の上位講座として位置づけられており、Clip Studio Paint（クリスタ）の持つ高度な機能をフル活用し、高品位なマンガ制作を行う。同時に、“どこで誰が読むのか？”を考え、テーマ設定、登場するキャラクターとそのバックグラウンド、ロケーション、シナリオ制作といったストーリー性の制作感覚を磨くことを目的とする。特に重要となるのはシナリオ制作であり、セリフに応じた絵コンテや吹き出しの配置など、正解となるものはなく、作者それぞれの感性を磨く場となる。終了時点では、上記に加え、ペンタブや板タブを違和感なく使えることを目標とする。	隔年
		ポピュラー文化論	○	マンガやアニメ、ゲームといったメディアが形成するポピュラー・カルチャーに対する社会的な関心は年々高まっている。そこにはどのような社会が成立しているのだろうか。こうしたメディア社会の現象は、ビデオゲーム一つをとってみても、単一の要因だけでは理解できない。多くの人が集まる都市には、消費者の欲望を刺激するさまざまな余暇産業が入り込み、伝統的共同体とはまったく異なる人間関係が生成している。本講義では、近代以降の社会の変遷を踏まえつつ、特に余暇産業の一つであるゲームセンターと、情報社会を象徴するものの一つであるビデオゲームを題材に取り上げ、それを消費する若者を通して、現代社会に生きる私たち人間を考察する。そして、ビデオゲームというメディアから何が見えるのか、メディアと文化の関係を読み解く。なお講義は、映像や写真を用いて視覚的に理解できるよう構成し、メディアと密接な関係にある現代社会を分析するための、基本的な概念、視点、理論について解説する。	隔年
		メディア産業論	○	この講義では、新聞、雑誌、ラジオ、テレビといったマス4媒体を中心にして形成されるメディア産業を扱う。メディアは、ジャーナリズムを育み、世界を知るためのニュースを届けると同時に、小説やマンガ、アニメといった娯楽を提供し、豊かな文化を形成してきた。現在、これらマス・メディアは、インターネットの普及とともに大きな転換を迫られている。通信産業の台頭を踏まえて、メディアの公共性とは何かを検討する。	
		映像制作１		集中講義の期間中に受講者が１本の映像ドキュメントを制作する中で、映像メディアの特性を理解し、効果的な情報の伝え方について考察する。「参加型映像制作」によって地域の文化や歴史に触れ、地域の産業や課題を掘り下げるPBL（プロジェクト型学習）である。番組制作を通した企画力、構成力、グループメンバーや地域の人との協力、インタビューを通じたコミュニケーション力の向上を目標とする。	集中講義
		映像制作２		本授業は、前期に学んだ映像制作に関する基本的な知識と制作経験を踏まえて、地域社会に対してより高い問題意識をもってドキュメンタリー映像の制作に臨み、企画・調査・取材・撮影、そして編集作業を通してコミュニケーション力やICT活用能力、高度情報化社会を生き抜くうえで必要となるメディア・リテラシーなどを実践的に身につけつつ、自身と地域に対する理解を深める授業である。SNSで流通している動画コンテンツの最新動向なども参考にしながら、作成したコンテンツを地域社会にどう還元していくかについても学習する。	集中講義

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		海外メディア事情（海外取材・研修）		アジアの国・地域の歴史や文化、独自のメディア環境を理解することを目的とし、現地での調査・取材を通じて情報収集と発信スキルを実践的に習得する。事前学習では、当該国・地域の歴史や文化的背景、メディア環境を学び、取材計画を立案。現地では地域事情やメディア、歴史文化に関する取材を行い、収集した情報を映像や音声コンテンツとして制作する。振り返りや成果発表を通じて、国際社会との協働や発信者としての視点を深め、実践的なメディアスキルを養成することをゴールとする。	隔年･集中講義
		広報・広告コミュニケーション論	○	広告、広報、宣伝は、はっきりと区別せずに使われることが多い言葉である。しかし、これらの言葉は、歴史的・学術的には異なる意味をもって成立したものだ。本講義では、広告、広報、宣伝とは何かを整理し、それぞれの理論と事例を見ていく。	隔年
		情報セキュリティ		情報セキュリティの講義では、現代社会における情報の重要性とそれを保護するための基本的な概念を学ぶ。まず、情報セキュリティの3大要素である「機密性」「完全性」「可用性」について解説し、それらを脅かすリスクや脅威（マルウェア、ハッキング、物理的リスクなど）を具体例とともに示す。次に、リスクへの対策として、暗号化技術、認証方法、ネットワークセキュリティの基本（ファイアウォール、VPNなど）について理解を深める。また、法的および倫理的な観点から、個人情報保護や情報漏洩防止の重要性を考察する。さらに、日常生活での注意点（強力なパスワードの設定やフィッシング詐欺対策）についても触れ、情報セキュリティの基礎を実践的に学ぶことを目指す内容である。	
		情報メディア特論１（国内取材・研修）		日本国内における、特定地域の歴史や文化、独自のメディア環境を理解することを目的とし、現地での調査・取材を通じて情報収集と発信スキルを実践的に習得する。事前学習では、当該地域の歴史や文化的背景、固有の社会的課題を学び、取材計画を立案。現地では地域事情やメディア、歴史文化に関する取材を行い、収集した情報を映像コンテンツとして制作する。振り返りや成果発表を通じて、地域社会との関わりを深めるとともに、情報メディアを活用した発信者としてのスキルを高める。	隔年･集中講義
		情報メディア特論２（国内メディア研究）		主要なメディア関連企業は東京に集まっており、新潟県の学生がその現場を目にする機会はほとんどない。こうした地域間格差を解消するために、日本国内の新聞社、出版社、放送局、広告会社などメディアに関連する企業の現場を見学し、メディアに対する理解を深める契機とする。	
		情報メディア特論３（eスポーツと社会）		ビデオゲームをスポーツと捉える視点は、多くの人にとって奇を衒っているようにみえるだろう。そもそもスポーツとは何なのか。近年注目を集めているeスポーツを歴史、理論、実証的な側面から取り上げていく。	
		情報法		ネットワーク社会の進展によって生じる法律問題を理解し、個人として適切に対応する力を養うとともに、社会全体の対応策について自分なりの考えを深めることを目指す。デジタル情報、知的財産、サイバー犯罪、プライバシー保護など幅広いトピックを扱い、著作権法についてはビジネス著作権検定の問題を活用して具体的に学ぶ。調査課題を通じて、個々の課題に関する政府等での検討状況を調査する手順を学習するなど、主体的に考えるための手順を見につける。	隔年
		著作権法		著作権を中心に、知的財産法や情報関連の法制度を学び、基礎的な知識を習得するとともに、自ら法的な問題について考える力を養うことを目的とする。ビジネス著作権検定初級の試験範囲を基準としながら、著作物や著作者の権利、著作権の制限や保護期間、著作隣接権、侵害と救済などの基本概念を体系的に学ぶ。また、インターネットに関連する法律問題について議論し、情報モラルや国際条約なども考察する。これにより、実践的な知識を身につけ、現代のデジタル社会における法的課題に対応する力を培う。	隔年

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
		情報メディアPBL１		情報メディアの活用能力と発信力を向上させることを目的とし、ラジオ番組制作、映像制作、小中高での情報モラルワークショップ運営を中心に、情報メディア社会で必要な幅広いスキルと応用力を養うことを目指す実践型授業である。ビジネス開発やデジタル・コンテンツ制作といった活動も予定されている。学生は複数のプロジェクトに参加することができる。授業では、音声・映像コンテンツ制作、ワークショップ運営、ビジネス実践等に必要な基本的なスキルを習得し、それらをソーシャルメディアや社会連携の中で実践する。学生間での協議や役割分担を通じて、共同作業の重要性やプロジェクト運営のスキルを体得する。	
		情報メディアPBL２		情報メディアの活用能力と発信力を向上させることを目的とし、ラジオ番組制作、映像制作、小中高での情報モラルワークショップ運営を中心に、情報メディア社会で必要な幅広いスキルと応用力を養うことを目指す実践型授業である。ビジネス開発やデジタル・コンテンツ制作といった活動も予定されている。学生は複数のプロジェクトに参加することができる。授業では、音声・映像コンテンツ制作、ワークショップ運営、ビジネス実践等に必要な基本的なスキルを習得し、それらをソーシャルメディアや社会連携の中で実践する。学生間での協議や役割分担を通じて、共同作業の重要性やプロジェクト運営のスキルを体得する。	
		情報メディア演習１	○	演習１では、情報メディアコースの導入期として知識の習得を中心に行う。近年のスマートフォン等の急速な普及によって、ネット利用は社会生活に欠かせないものとなった。しかしながら、それらを活用し、読み解いた上で、「発信」までできる人は多くないのが現状である。そこで、この演習では「インターネットの利用する能力」を実践的に向上させながら、情報社会のさまざまな事象について、技術・社会・法の側面から知識を習得する。単なる技術の習得ではなく、地域の歴史、世界の歴史など「過去」にも注目し、それらを「発信」することにも力を入れていく。	
		情報メディア演習２	○	演習２では、演習１で習得した知識をもとに、体験型の活動（制作）を中心に行う。具体的には、ラジオ制作、映像制作、雑誌制作などあらゆるメディアを体験することで、知識だけでは分からない、制作の工夫、タスク管理、情報収集、文脈作成などの実体験を通じ、制作技術の取得を演習として行う。併せて、社会学の視点からコミュニケーションや文化にかかわる新たな見え方を気づかせることで、実社会で必要となる視点、概念、理論、方法論等の講義を行う。	
		情報メディア演習３	○	演習３では、演習１および２を踏まえ、学生が卒業論文執筆および卒業制作を行うための研究テーマを模索することを中心に据える。学生自身の追求したい分野は、情報メディアコースの範囲内のものとする。特に、卒業論文の執筆では、明確な章立て、分かりやすい図の挿入、構造化された図解、パワーポイント制作と発表方法など様々な要素がある。相手にわかりやすく表現するための手法として、ロジカルシンキングのトレーニングを取り入れる。「文章を図で表現する」、「筋道を立てて矛盾・破綻がないように考える」など論理的な考え方を学習する。	
		情報メディア演習４	○	演習４では、情報メディアコースの集大成として、情報化社会で用いられているあらゆるメディアやその制作技術、AI社会で活用されているデータ収集と解析手法などを用い、学生の研究テーマを仕上げることを目的とする。制作過程では、教員からの助言も行うが、片鱗の早い情報化社会においては、他大学や企業などの交流を勧める。特に、企業からの特別講義や訪問などの他、イベント等での交流の中で、社会人として必要なコミュニケーション能力を身に着けさせる。	
		卒業論文	○	学生自身の問題意識を尊重し、各自が真に研究したいと考えている課題に取り組むことを目的とする。研究方法としては、先行している文献研究を十分行い、それぞれのテーマに沿った調査枠組から導き出した課題や気づきマップを作成し、質的調査と量的調査のどちらか又は両方を実施し、調査結果の集計・分析を行う。先行研究を生かした考察後、論文としてまとめる。最終目標は、テーマに適した文献を読込み、他者に理解し易く伝える能力を養う。情報メディア的視野を持って問題点を検討する能力を修得すると同時に、実社会での解決方法を理解することを目指す。	
		教育原理		教育原理について学ぶ講義である。授業では、教育が歴史的にどのように発展し、現代に至ったのかを跡付けていくことによって、教育の基本概念とはなにか、教育の目標がどこに求められたのか、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたのかについて学ぶ。１．教育の基本的概念を身に付け、教育を成り立たせる諸要因と相互の関係を理解する、２．教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代にいたるまでの教育及び学校の変遷を理解する、３．教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解することを到達目標とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教職入門		講義形式で行う。児童・生徒の立場からしか見えていなかった教員の仕事を、具体的な職務内容や制度、教員を取り巻く問題等についても知り、教員という職業の全体像をつかむことを目指す。教員という仕事をより具体的にイメージできるようにするため、講義のはじめと終盤との２回、自らがなぜ教職につきたいのか、理想とする教員像はどのようなものであるかを考え、発表・意見交換等の機会を設ける予定である。この科目は教職課程履修における最初の科目である。そのため、児童・生徒の視点からしか見えていなかった教職の意義、具体的な役割、職務内容や制度について理解し、将来の職業選択に資する知識を得ることを到達目標とする。	
	教育制度論		講義形式で行う。学校教育に係る行政制度（国と地方の役割分担を含む）の体系と基本的な関連法規の内容について理解を深めることが目的である。意識はしていなくとも学校教育も多くのことは国の法令で定められた制度の枠内で行われている。講義の中で自らの体験を振り返り、制度や仕組みと実体験を結び付けつつ、教育制度の全体像をつかむことを目指す。我が国の学校制度と関連する基本的な法体系を理解する。そのうえで、それぞれの学校種がどのように運営されているのか、教育費負担、教育課程、教職員、保護者など学校教育に関連する側面に視野を広げ、学校教育の全体像を理解し、学校教育における諸問題（地域連携・学校安全関連を含む）を多角的に考えられる素地を養うことを到達目標とする。	
	発達と学習の教育心理学		児童・生徒の認知的・社会的な発達の過程と、広く学びに関する心理学の基礎的な知識を標準的な指定テキストを用いて偏りなく学習する。知識を図解する訓練の機会として、事前に個人で指定範囲をどのように理解しているかを示す地図を毎回作成し、授業時に少人数のグループで相談して1枚の地図を作成し、作成された地図を対象にして質疑応答を繰り返す。これまでの受け身で丸暗記の学びから、自立的で主体的な話し合いを通じた深い学びを体験する。学習の到達目標と評価基準、並びに学習成果に関するフィードバック方法は、シラバスと授業ガイダンス等で確認する。	
	特別支援教育概論		本講義は，障害の理解及び学習上，　生活上の困難さの理解と支援のあり方を学ぶとともに，実際の事例を通し具体的な教育的支援について理解を深める。講義では，特別な支援を必要とする児童及び生徒の障害の特性やその発達段階を理解する。そして，特別な支援を必要とする児童及び生徒に対する教育課程及び支援の方法について理解する。最終目標は，特別な教育ニーズを有する児童及び生徒の学習上，生活上の困難さの理解と対応の必要性を理解することである。	集中講義
	カリキュラム論		講義形式で行う。まず、はじめに日本における教育課程改革、学習指導要領の変遷について学ぶともに学習指導要領の果たしている役割や教育課程に関する制度について理解する。そのうえで、カリキュラム編成の原理や発達段階との関係、教育課程と社会のつながり等に目を向け、学校における教育課程の全体像をつかみ、教育課程の編成の意義と重要性を理解することを目指す。　教育課程の基準である学習指導要領の意義や役割と各学校において編成されている教育課程との関係性を理解するのみならず、各学校での教育課程の編成の実際やカリキュラム・マネジメントの基礎的事項に関し、理解を深めることを到達目標とする。	
	道徳教育指導論		道徳の意義や原理等を踏まえ、学習指導要領における目標・内容・方法・評価をもとに、道徳教育と道徳授業の理論と実践を概説する。これらの学習内容をもとに、後半では道徳科の学習指導案を作成し、模擬授業を行うことをとおして、実践的な指導力の習得を目指す。	
	総合的な学習の指導法		本授業の目標は、総合的な学習の時間の意義、各学校において目標や内容を定める際の考え方、指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解するとともに、指導計画作成のために必要な基礎的な能力を身に付けることである。そのために、学習指導要領及びその解説編に規定されている総合的な学習の時間の目標や内容の設定、指導計画の作成、指導と評価の一体化の考え方等について、実際の学校現場の事例を交えながら解説する。また、それらを知識を活用して単元の指導計画作成を演習形式で行う。その過程では、学生同士による相談や相互評価、教師によるフィードバック等の活動を設定する。	
	特別活動論		特別活動の理論と実践力の基礎を身に付けることを目標に、講義で学習指導要領における特別活動の目標及び内容の理解、今日的課題や目指すべき姿を理解、特別活動の指導の実際を学ぶとともにグループ体験を通して、学級活動や生徒会活動、学校行事の具体的場面から課題を見いだす活動を行う。また、学級集団についての理解とタイプ別の指導の違い、学級集団が育つ過程を理解するとともに個別の指導場面を想定した上で、児童生徒理解を踏まえた上での、具体的な対応を検討する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教職課程	教育の方法・技術とICTの活用		中等教育段階の学習を指導する基礎的な技法と、教育方法に関する包括的で一般的な知識、並びに情報機器の活用方法について学ぶ。各自の教育実習予定校の学習単元や学習課題を分析し、具体的な教材や授業パッケージの作成を通じて、学習指導案の構成が設計できるようにする。本質的な学び、汎用能力、学習単元、課題分析、ポートフォリオなどの主なテーマ毎に作成物を電子媒体で提出する。学習の到達目標と評価基準、並びに学習成果に関するフィードバック方法は、シラバスと授業ガイダンス等で確認する。	
	生徒・進路指導論		学校における生徒指導及び進路指導について学ぶ講義である。授業では、生徒指導の意義や目的を踏まえて、子ども理解の方法、学校の指導体制、子どもの問題行動への対応といった実践的な問題を中心に考察する。また、キャリア教育や教育相談などにおける開発的な取組についても検討する。１．生徒指導の意義や児童生徒理解、生徒指導体制について説明することができる、２．キャリア教育における課題と取組について説明することができる、３．いじめ、不登校などの生徒指導上の諸問題についての現状を調べ、学校における取組について自分の考えを述べることができることを到達目標とする。	
	教育相談		学校精神保健に関する基礎的な知識を包括的に学び、教育相談の業務に資するカウンセリングマインドを中心に理論と実技能を学ぶ。最新の教育事情、学校内の連携、学校外の専門機関との連携、地域や保護者との協力体制の構築を目指した事例を各自で探して紹介する。相談技法は健康心理学の知見を採り入れて、ストレス、開発的援助、発達や適応に関する障害についても理解を深めるために、毎回の授業で「お尋ね」を少人数のグループで作成して、教員も部分的に参加しながら質疑応答（討論の原型）の質を上げていく。学習の到達目標と評価基準、並びに学習成果に関するフィードバック方法は、シラバスと授業ガイダンス等で確認する。	
	教育実習（中･高）		教職課程を通して学んだ知識をもとに実際に学校現場で教員として生徒を指導する体験をすることで、教員としての基礎的力量を培うことを目的とする。教育実習は、事前指導の後実施され、教育実習修了後は事後指導を実施する。事前指導で設定した各自の分野毎（学習指導・生徒指導・学級経営等）の研究テーマを踏まえ、目的意識をもって教育実習に取り組む。実習後は、省察・発展を中心とする教職実践演習に取り組み、それらも踏まえて、教育実習事前事後指導の事後指導部分として、履修者が中心となって教育実習・教職課程報告会を企画・実施する。	標準外
	教育実習事前事後指導		講義形式で行う。教員としての基礎・基本、実習の意義と目的、教科指導の事例研究、実習日誌・記録作成、実習のための教材研究等について取り扱う。履修者は、分野毎（学習指導・生徒指導・学級経営等）に各自の研究テーマを設定する。教育実習後に教育実習の報告会および教職課程全体の報告会等の企画・運営にも取り組み、学校現場で求められるチームで協力し合い取り組む力のさらなる向上も目指す。教員としての基礎・基本の能力の獲得のみならず、様々場面において教員に求められる資質の向上を図ることを目標とする。 （共同（一部）方式/全8回） [2 益谷真、15 江口和美（共同２回/８回] ②実習の意義と目的、⑦教育実習報告会 履修者の分野毎（学習指導・生徒指導・学級経営等）の研究テーマの設定を取り扱う回と、反省会のみ（益谷真・江口和美）の共同で実施する。 [15 江口和美（単独６回/８回] ①教員としての基礎・基本、③教科指導の事例研究、④実習のための教材研究、⑤実習日誌・記録作成、⑥模擬授業、⑧まとめ	共同（一部）

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人文学部国際教養学科）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	教職実践演習		グループワークを中心とし、実施する。教職課程をとおして学んだ知識と、履修カルテや教育実習の記録等を用いて振り返り、教育実習や教育インターンシップ等を経て得られた教育活動に関する実践知との統合をはかり、教員としての使命感や責任感に裏打ちされた実践的指導力を高め教職課程の学びを総括する。これまでの教職課程履修を通じて、教員として求められる以下の４つの資質を獲得できたか、各自が教職課程の各 科目を有機的に結び付けて総合的に習得できたかを確認し、自らの課題を発見し、必要に応じて不足している知識や技能等を補うことで円滑に教員としてスタートができるようにすることを目標とする。(1) 教員としての使命感、責任感や教育的愛情等(2) 社会性や対人関係能力(3) 生徒理解や学級経営(4) 教科等の指導力 （オムニバス方式/全15回） [2 益谷真、15 江口和美（共同2回/15回] 以下の２回は教科毎に振り返りを実施するため、社会科の免許を有する益谷真が社会科の学生を、英語の教員免許を有する江口和美が英語の学生を担当する。 ⑦学習指導の工夫(1)授業改善（教育実習時の研究授業の検討①） ⑧学習指導の工夫(2)授業改善（教育実習時の研究授業の検討②） [2 益谷真（単独３回/15回）] 以下の３回は長年の取り組みによる事例蓄積が多い益谷真が担当する。 ⑨学習指導の工夫(3)教科の単元とカリキュラム（教育実習校の事例検討） ⑩学習指導の工夫(4)総合的な学習の時間への取り組み（教育実習校の事例検討） ⑭教員に必要な対人能力（組織人としての自覚と責任、保護者や地域社会との関係構築） [15 江口和美（単独10回/15回）] その他の回はすべて江口和美が担当する。 ①教職実践演習の目標と課題 ②各自の設定課題の報告と自己評価 ③４つの視点での省察と自己評価 ④自己評価に関する客観的な省察とまとめ（レポート提出） ⑤学級経営の理解(1)今日的な学校教育の課題（現職教員等との質疑） ⑥学級経営の理解(2)教育実習校での学級経営方針の事例検討 ⑪学習指導の工夫(5)特別の教科・道徳への取り組み（教育実習校の事例検討） ⑫インクルーシブ教育の実現(1)合理的配慮 ⑬インクルーシブ教育の実現(2)ジェンダー ⑮教職の意義及び教員の社会的役割（現職教員等との質疑）	オムニバス・共同（一部）

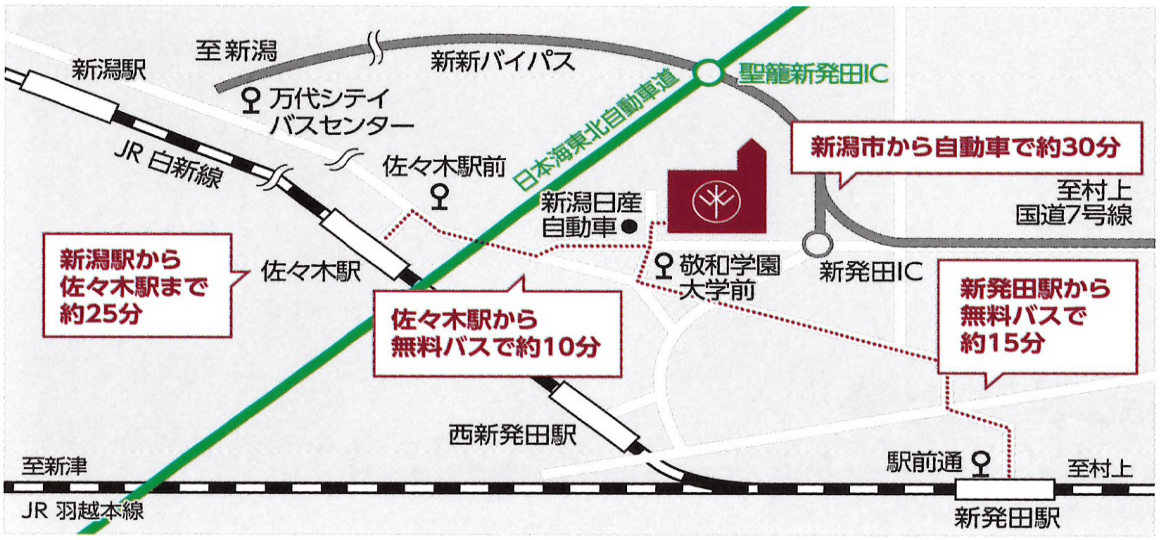
学校法人敬和学園　敬和学園大学　　設置認可等に関わる組織の移行表

令和７年度	入学定員	編入学定員	収容定員
敬和学園大学			
人文学部			
英語文化コミュニケーション学科	60	―	240
国際文化学科	80	―	320
共生社会学科	40	―	160
計	180	―	720

令和８年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の理由
敬和学園大学				
人文学部				
国際教養学科	170	―	680	学科の設置（届出）
	0	―	0	令和８年４月学生募集停止
	0	―	0	令和８年４月学生募集停止
	0	―	0	令和８年４月学生募集停止
計	170		680	

（1）都道府県内における位置関係の図面

（2）最寄駅からの距離、交通機関及び所用時間が分る図面



最寄駅（JR 佐々木駅）から大学までの距離　2.6 ㎞

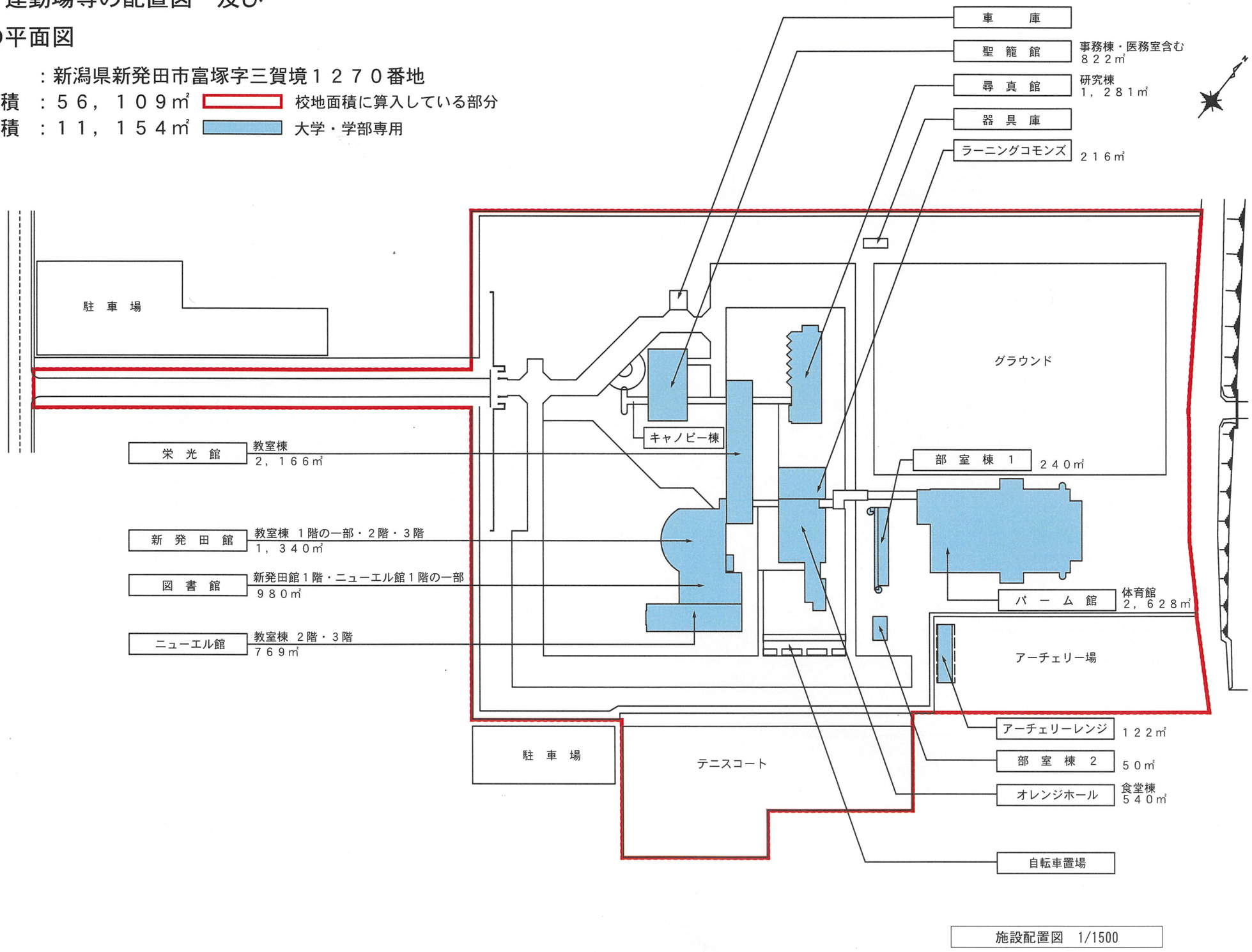
（３）校舎、運動場等の配置図　及び

（４）校舎の平面図

所在地　　：新潟県新発田市富塚字三賀境１２７０番地

校地面積　：５６，１０９㎡　校地面積に算入している部分

校舎面積　：１１，１５４㎡　大学・学部専用



施設配置図　1/1500

敬和学園大学学則

（平成２年12月21日
認　　可）

最新改正　2026年４月１日

第１章　総則

敬和学園大学は、「神を敬い、人に仕える」という建学の精神に基づき、教育理念・目的を以下に定める。

（目的）

第１条　本学は、教育基本法及び学校教育法に従い、福音主義キリスト教の精神に基づく自由かつ敬けんな学風の中で真理を探究するとともに心の教育を実践し、国際的教養豊かな良心的人材を養成することを目的とする。

２　建学の精神に基づき、本学の教育理念・目的をミッション・ステートメント及びヴィジョンとして以下に定める。

(1)　ミッション・ステートメント

敬和学園大学は、キリスト教精神に基づく自由かつ敬けんな学風の中でリベラル・アーツ教育を行い、グローバルな視点で考え、対話とコミュニケーションとボランティア精神を重んじ、隣人に仕える国際的教養人を育成する。

(2)　ヴィジョン

隣人に仕え持続可能な社会を担う良識ある市民を育成し、地域社会と国際社会に貢献する。

３　建学の精神及び教育目的に基づき、人文学部国際教養学科の教育目的を以下に定める。

「隣人に仕え持続可能な社会を担う良識ある市民を育成し、地域社会と国際社会に貢献する」というヴィジョンを達成するために、人間の尊厳と人権を尊重する姿勢、社会で必要な言語・数量・ＩＣＴに関する基礎知識と専門分野に関する知識を育てる。グローバルな視点をもって多様な人々との共生を可能とする異文化理解力を涵養する。さらに、それらをもとに批判的・分析的に考え、言語やデジタル技術を活用して明瞭かつ効果的に表現する能力を育成し、持続可能な社会の形成・発展に高い倫理的基準をもって貢献できる人材を育成する。

第１条の２　本学は、教育研究の向上をはかり、前条の目的を達成するため、自らの点検・評価を行う。

２　前項の目的を達成するため、点検の項目、実施体制については、別に定める。

第２章　組織

（学部、学科等）

第２条　本学の学部学科、入学定員及び収容定員は次のとおりとする。

学　部	学　科	入学定員	収容定員
人文学部	国際教養学科	170人	680人

（図書館）

第３条　本学に図書館を置く。

２　図書館に関する規則は、別に定める。

第３章　教職員組織

（教職員組織）

第４条　本学に次の教職員を置く。

(1)　学長、学部長
(2)　国際教養学科長、宗教部長、学生部長、教務部長、図書館長、人文社会科学研究所長、地域連携センター長、学生支援センター長、事務局長
(3)　教授、准教授、講師、助教、助手
(4)　事務職員、その他必要な教職員
2　学長は、校務を掌り、所属教職員を統督する。
3　学部長は、学部の教学計画及び学務を監督する。
4　学科長は、学科の教務と教学計画を掌理し、学科会議を主宰する。
5　宗教部長は、建学の精神に基づいて本学の礼拝、式典並びに教職員及び学生の宗教活動をつかさどる。
6　学生部長は、本学の学生の厚生補導に関する業務を統括する。
7　教務部長は、教務に関して学科間の調整を図り、学年暦、授業時間割、期末試験等の業務を掌理する。
8　図書館長は、図書館業務を統括する。
9　人文社会科学研究所長は、人文社会科学研究所業務を統括する。
10　地域連携センター長は、地域連携センター業務を統括する。
11　学生支援センター長は、学生支援センター業務を統括する。
12　事務局長は、本学の事務を掌理し、統括する。
13　教職員の組織、事務分掌その他必要な事項は別に定める。
14　学長に事故あるときは、理事長がその代理者を定める。

（副学長、学長補佐）

第 5 条　本学に学長の職務を補佐するため、副学長及び学長補佐をそれぞれ置くことができる。
2　副学長及び学長補佐に関し、必要な事項は、別に定める。

第 4 章　教授会

（教授会）

第 6 条　本学に教授会を置く。
2　教授会は、専任の教授をもって組織する。
3　教授会は、学長がこれを招集し、その議長となる。
4　教授会は、必要あるとき、准教授、専任講師その他の教職員を出席させることができる。

（教授会の審議事項）

第 7 条　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行なうに当たり、意見を述べるものとする。ただし、第 3 号、第 5 号および第 7 号の事項に関して、学長決定の後、理事会の承認を必要とする。
(1)　学生の入学、卒業及び課程の修了その他学生の身分取り扱いに関する事項
(2)　学位の授与に関する事項
(3)　教員の人事に関する事項
(4)　教育課程に関する事項
(5)　学則その他重要な学内諸規則等に関する事項
(6)　学術研究に関する事項
(7)　教室、研究室、図書館その他教育研究施設に関する事項
(8)　学内の宗教活動に関する事項
(9)　前 8 号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必

要なものとして学長が定める事項

2　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、および学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

3　教授会の運営に関し、必要な事項は、別に定める。

4　教授会の議事はこれを公開しない。

第5章　学年・学期及び休業日

（学年）

第8条　学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

（学期）

第9条　学年を次の2学期に分ける。

前期　　4月1日から9月30日まで

後期　　10月1日から3月31日まで

（休業日）

第10条　休業日は、次のとおりとする。

(1)　日曜日

(2)　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(3)　本学創立記念日　　6月の最終月曜日

(4)　夏期休業　　7月25日から9月20日まで

(5)　冬期休業　　12月20日から翌年1月10日まで

(6)　春期休業　　2月20日から3月31日まで

2　学長は、必要がある場合、休業日若しくは休業期間を変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。

第6章　修業年限及び在学年限

（修業年限）

第11条　学部の修業年限は、4年とする。

（在学年限）

第12条　学生は8年を超えて在学することはできない。

2　前項の規定にかかわらず、長期履修学生として認められた学生は、8年を超えて12年まで在学することができる。

第7章　入学

（入学の時期）

第13条　入学の時期は、毎学年の始めとし、秋季入学の時期は後期の始めとする。また、再入学及び転入学については、学期の始めとすることができる。

（入学資格）

第14条　本学に入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1)　高等学校又は中等教育学校を卒業した者

(2)　通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者

(3)　外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

(4)　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5)　専修学校の高等課程（修業年限が 3 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(6)　文部科学大臣の指定した者

(7)　高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第 1 号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同令附則第 2 条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和 26 年文部省令第 13 号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）

(8)　本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18 歳に達したもの

（入学志願）

第 15 条　本学への入学志願者は、入学志願書に入学検定料及び別に定める書類を添えて、指定の期日までに本学に提出しなければならない。

（選考）

第 16 条　入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

（入学手続、入学許可）

第 17 条　前条の選考の結果、合格の通知を受けた者は、保証人連署の誓約書その他本学が必要とする書類と共に、入学金及び所定の学費を添えて、所定の期日までに入学手続きをしなければならない。

2　学長は、入学手続きを完了した者に対し、入学を許可する。

（編入学、再入学）

第 18 条　次の各号の一に該当する者で、本学に編入学を志願する者があるときは、学年の始めで欠員のある場合に限り、選考のうえ相当年次に入学を許可することがある。

(1)　大学を卒業した者

(2)　短期大学、高等専門学校、国立工業教育養成所又は国立養護教諭養成所を卒業した者

(3)　他大学に 1 年以上在学し、一定の単位を修得した者

(4)　大学入学資格を有する者で、専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

(5)　科目等履修生として一定の単位を修得した者

2　本学を退学した者で、退学後 3 年以内に同一の学科に再入学することを志願する者があるときは、選考のうえその学科の相当年次に再入学を許可することがある。

3　前項の規定により編入学又は再入学を許可された者の既に修得した単位の取扱い及び修業年限については、教授会の議を経て学長が決定する。

（保証人）

第 19 条　第 17 条第 1 項に規定する保証人は、満 25 歳以上の独立の生計をたてる者であって、在学中にかかる一切の事項につき、その責を負うものとする。

2　本学において、保証人を不適当と認めたときは、その変更を命ずることができる。

3　保証人が死亡し、又はその他の理由で第 1 項に定める責を負うことができなくなったときは、新たに保証人を定め、届け出なければならない。

第 8 章　教育課程及び履修方法等

（教育課程）

第 20 条　授業科目を分けて、基盤科目及び専門科目とする。

（科目、単位）

第 21 条　授業科目及びその単位数は、別表第 1 のとおりとする。

2　授業科目の履修方法については、別に定める。

（単位の計算方法）

第 22 条　授業科目の単位計算方法は、1 単位の履修時間を教室内及び教室外を合わせて 45 時間とし、次の基準によるものとする。

(1)　講義及び演習については、1 時間の授業に対して 2 時間の教室外学修を必要とするものとし、15 時間の講義をもって 1 単位とする。

(2)　実験、実習及び実技についてはすべて実験室、実習場等で行われるものとし、45 時間の実験又は実習をもって 1 単位とする。

（成績評価）

第 23 条　履修した授業科目の成績評価は試験、レポート等の課題提出状況、出席状況等により行う。

（成績表示）

第 24 条　授業科目の試験の成績は A+、A、B、C 及び D の 5 段階をもって表示し、A+、A、B 及び C を合格とする。

（単位）

第 25 条　授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

（他大学の授業科目履修）

第 26 条　本学が教育上有益と認めるときは、他の大学、短期大学等の授業科目を学生に履修させることができる。

2　前項の規定により履修した授業科目について修得した単位については、教授会の議を経て、30 単位を限度として卒業要件となる単位として認めることができる。

（入学前の既修得単位の認定）

第 27 条　本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学に入学した後の履修により修得したものとみなすことができる。

2　前項の規定により修得したものとみなす単位数については、編入学等の場合を除き、教授会の議を経て、30 単位を限度として卒業要件となる単位として認めることができる。

（1 年間の授業期間）

第 28 条　1 年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35 週にわたることを原則とする。

（教員の免許状授与の所要資格の取得）

第 29 条　教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、第 38 条に定める卒業の要件を充足するほか、本学が教育職員免許法（昭和 24 年法律第 147 号）及び教育職員免許法施行規則（昭和 29 年文部省令第 26 号）に基づき設定する授業科目について必要な単位を修得しなければならない。

2　本学において所要資格を取得することができる教員の免許状の種類並びに前項の授業科目、単位及び履修方法等については、別に定める。

第 9 章　休学、転学、留学、転科及び退学

（休学）

第 30 条　疾病その他の事由により、引き続き 2 箇月以上修学することができない者は、保証人連署の休学願を提出し、学長の許可を受けて休学することができる。

2　疾病その他の事由により、修学することが適当でないと認められる者に対しては、学長は、教授会の議を経て休学を命ずることができる。

（休学期間）

第 31 条　休学期間は、1 年以内とする。ただし、特別の理由のある場合は、1 年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

2　休学期間は、通算して 4 年を超えることができない。

3　休学期間は、在学年限に算入しない。

（復学）

第 32 条　休学期間中にその理由が消滅したときは、学長の許可を得て、復学することができる。

（転学）

第 33 条　他の大学への入学又は転学を志願しようとする者は、学長の許可を得なければならない。

（転科）

第 34 条　転科を志望する者があるときは、教授会の議を経て学長が許可することができる。

2　転科に関しての必要な事項は、別に定める。

（外国の大学等での履修）

第 35 条　外国の大学、教育機関等への留学を希望する者は、学長の許可を得て留学することができる。

2　前項の許可を得て留学した期間は、1 年を限度として第 11 条に規定する修業年限及び第 12 条に規定する在学年限に算入することができる。ただし、第 10 条に定める休業日を利用しての短期留学の場合は、この限りでない。

3　第 26 条の規定は、第 1 項の外国の大学等へ留学する場合に準用する。

（退学）

第 36 条　退学しようとする者は、保証人連署の退学願を提出し、学長の許可を受けなければならない。

2　学長は、正当な理由がなく成績不良で成業の見込みがないと認められる者に対し、退学を勧告することがある。

3　前項の規定による退学の勧告に関し必要な事項は、別に定める。

（除籍）

第 37 条　次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て学長が除籍する。

(1)　正当な理由がなく所定の期日までに学費の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

(2)　第 12 条に規定する在学年限を超えた者

(3)　第 32 条第 2 項に定める休学期間を超えてなお修学できない者

(4)　長期間にわたり行方不明の者

(5)　病気等により死亡した者

第 10 章　卒業及び学位の授与

（卒業）

第 38 条　本学に 4 年以上（長期履修学生にあっては 5 年以上）在学し、必修科目、選択科目等合計 124 単位以上の卒業に必要な授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て学長が卒業を認定し、卒業証書を授与する。ただし卒業資格を認定された者が、経営状況の悪化等の理由により、就職の採用内定取消し等の対応を受けた場合は、願出により卒業を留保することができる。

2　卒業留保について必要な事項は別に定める。

（学位の授与）

第 39 条　卒業した者には、学士（文学）の学位を授与する。

第 11 章　賞罰

（表彰）

第 40 条　学生として本学の建学の精神にてらし表彰に価する行為があった者は、教授会の議を経て学長が表彰することができる。

（懲戒）

第 41 条　学生として本学の建学の精神にもとり、諸規則に違反し、又は学生の本分に反する行為のあった者は、教授会の議を経て学長が懲戒する。

2　懲戒は退学、停学及び訓告とする。

3　退学は次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1)　性行不良で改善の見込みがない者

(2)　学業に意欲を欠き、成績不良で成業の見込みがない者

(3)　正当な理由がなく出席常でない者

(4)　本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第 12 章　科目等履修生、研究生、特別聴講学生、長期履修学生及び外国人留学生

（科目等履修生）

第 42 条　本学の学生以外の者で、本学が開設する一又は複数の授業科目を履修し、単位の修得を志望する者がある場合は、選考のうえ、科目等履修生として入学を許可することがある。

（研究生）

第 43 条　本学において特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、学部の教育研究に支障のない場合に限り、選考のうえ、研究生として入学を許可することがある。

2　研究生を志願することのできる者は、大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。

3　研究期間は、1 年とする。ただし、引き続き研究を希望する場合は、許可を得てその期間を更新することができる。

（特別聴講学生）

第 44 条　他の大学の学生で、本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該大学との協議に基づき、特別聴講学生として入学を許可することができる。

（長期履修学生）

第 45 条　本学において、5 年以上在学し、学士（文学）の学位取得を志望する者がある場合は、長期履修学生として採用することがある。

（留学生）
第 46 条　外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考のうえ、外国人留学生として入学を許可することができる。
（科目等履修生等に関する規則）
第 47 条　科目等履修生、研究生、特別聴講学生、長期履修学生及び外国人留学生に関する規則は、別に定める。

第 13 章　検定料、入学金及び学費

（検定料、入学金及び学費）
第 48 条　検定料、入学金及び学費（授業料、施設設備費、在籍料）は、別表第 2 のとおりとする。ただし、再入学する者の入学金は、徴収しない。
2　編入学又は再入学した者の学費は、その者が編入学又は再入学したその年次の在学者にかかる額と同額とする。
（学費の納入）
第 49 条　学費は、年額の 2 分の 1 ずつ前期、後期 2 期に分け、本学が指定する期間内に納付しなければならない。
（休学者の学費）
第 50 条　休学した者の学費は、当該学期の休学在籍料を納付しなければならない。
2　ただし、休学が学期途中からであったときは、当該学期分の学費の全額を納付しなければならない。復学をしたときは、学費の全額を納付しなければならない。
（中途卒業者の学費）
第 51 条　学年の中途で卒業する見込みの者の学費については別に定める。
（中途退学者の学費）
第 52 条　学期の中途で退学した者は、当該学期分の学費を納付しなければならない。
（停学者の学費）
第 53 条　停学を命じられた者の当該学期分の学費は、全額徴収する。
（科目等履修生等の学費）
第 54 条　科目等履修生、研究生及び特別聴講学生の検定料、入学金及び学費については別に定める。
（既納の検定料、入学金及び学費の取扱い）
第 55 条　納付した検定料、入学金及び学費は返還しない。ただし、次の各号の一に該当する場合には、納付した者の申出により、その各号において定める額を返還することができる。
(1)　本学の入学試験のうち、一般選抜（A 日程）、一般選抜（B 日程）、大学入学共通テスト利用選抜及び外国人留学生入学試験に合格した者で、入学手続完了後に入学を辞退した者が所定の入学辞退通知書その他本学が必要とする書類を所定の期日までに提出した場合
納付した学費相当額
(2)　前号に定めるもののほか、外国人留学生入学試験に合格した者で、入学手続完了後に本学に入学するための入国ができなくなった場合　　納付した入学金及び学費相当額
（学費の徴収猶予）
第 56 条　学費は、別に定めるところにより、徴収猶予することがある。
（学費の減免）
第 57 条　学費は、別に定めるところにより、減免することがある。

第 14 章　生涯学習

（生涯学習）

第 59 条　社会人の教養を高め、文化の向上に資するため、本学にエクステンション・コースを開設することができる。

第 15 章　学則の改正

（学則の改正）

第 60 条　この学則の改正に当たって、学長は教授会の意見を聴いた上で決定した後、理事会の承認を得るものとする。

附　則

この学則は文部科学大臣の認可の日（平成 2 年 12 月 21 日）から施行する。

附　則（平成 5 年 4 月 1 日）

この学則は平成 5 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 6 年 4 月 1 日）

この学則は平成 6 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 7 年 4 月 1 日）

この学則は平成 7 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 6 年度以前の入学生については、第 20 条別表第 1 の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成 8 年 4 月 1 日）

この学則は平成 8 年 4 月 1 日から施行する。ただし、平成 6 年度以前の入学生については、第 20 条別表第 1 の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（1997 年 4 月 1 日）

この学則は 1997 年 4 月 1 日から施行する。ただし、1994 年度以前の入学生については、第 20 条別表第 1 の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（1998 年 4 月 1 日）

この学則は 1998 年 4 月 1 日から施行する。ただし、1994 年度以前の入学生については、第 20 条別表第 1 の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（1998 年 11 月 26 日）

この学則は 1998 年 11 月 26 日から施行する。ただし、1994 年度以前の入学生については、第 20 条別表第 1 の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（1999 年 4 月 1 日）

この学則は 1999 年 4 月 1 日から施行する。ただし、1994 年度以前の入学生については、第 20 条別表第 1 の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（1999 年 7 月 16 日）

この学則は 2000 年 4 月 1 日から施行する。ただし、1999 年度以前の入学生については、改正後の第 20 条別表第 1、第 21 条、第 22 条及び第 23 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（2000 年 3 月 30 日）

この学則は 2000 年 4 月 1 日から施行する。ただし、1999 年度以前の入学生については、改正後の第 20 条別表第 1、第 21 条、第 22 条及び第 23 条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（2001 年 1 月 26 日）

この学則は、2001 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（2001 年 9 月 20 日）

この学則は、2001 年 9 月 20 日から施行し、2001 年 4 月 1 日から適用する。

附　則（2002 年 3 月 22 日）

この学則は、2002 年 4 月 1 日から施行する。ただし、1999 年度以前の入学生については、第 20 条別表第 1 の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（2003 年 1 月 30 日）

この学則は、2003 年 4 月 1 日から施行する。ただし、1999 年度以前の入学生については、第 20 条別表第 1 の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（2003 年 3 月 27 日）

この学則は、2003 年 4 月 1 日から施行する。ただし、1999 年度以前の入学生については、第 20 条別表第 1 の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（2004 年 3 月 25 日）

この学則は、2004 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2003 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（2005 年 3 月 24 日）

この学則は、2005 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2003 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（2006 年 3 月 23 日）

この学則は、2006 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2003 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（2006 年 11 月 30 日）

この学則は、2007 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2003 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（2007 年 3 月 29 日）

この学則は、2007 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2003 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（2007 年 5 月 24 日）

この学則は、2007 年 6 月 1 日から施行する。ただし、2003 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（2008 年 1 月 31 日）

この学則は、2008 年 2 月 1 日から施行する。ただし、2003 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（2008 年 3 月 27 日）

この学則は、2008 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2003 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（2009 年 3 月 26 日）

この学則は、2009 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2008 年度以前入学者については従前の例による。

附　則（2010 年 1 月 28 日）

この学則は、2010 年 2 月 1 日から施行する。

附　則（2010 年 3 月 25 日）

この学則は、2010 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2008 年度以前の入学生については、なお従

前の例による。

附　則（2010 年 11 月 25 日）

この学則は、2011 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（2011 年 3 月 24 日）

この学則は、2011 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（2012 年 3 月 22 日）

この学則は、2012 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2011 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（2013 年 3 月 29 日）

この学則は、2013 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（2014 年 3 月 28 日）

この学則は、2014 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（2014 年 11 月 27 日）

この学則は、2015 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2014 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（2016 年 3 月 24 日）

この学則は、2016 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2015 年度以前の入学生については、従前の例によるものとするが、第 21 条関係の別表第 1 の基礎数学 1 及び 2 並びに SPI 対策 1 及び 2 の履修に関しては、2013 年度入学生より適用する。

附　則（2017 年 3 月 23 日）

この学則は 2017 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（2018 年 3 月 27 日）

この学則は、2018 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2015 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（2019 年 3 月 26 日）

この学則は、2019 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2015 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（2020 年 3 月 26 日）

この学則は、2020 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2019 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（2021 年 3 月 25 日）

この学則は、2021 年 4 月 1 日から施行する。ただし、児童・家庭福祉論及び児童厚生 2 級指導員養成課程は、2020 年度入学生より適用する。

附　則（2021 年 7 月 29 日）

この学則は、2021 年 7 月 29 日から施行し、2021 年 4 月 1 日から適用する。

附　則（2022 年 3 月 29 日）

この学則は、2022 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（2023 年 3 月 28 日）

この学則は、2023 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2022 年度以前の入学生については、従前の例によるものとするが、第 21 条関係の別表第 1 の情報技術資格対策（Word2019）及び情報技術資格対策（Excel2019）の履修に関しては 2019 年度入学生より、ソーシャルワーク実習指導 4 の履修に関しては 2021 年度入学生より、教育の方法・技術と ICT の活用の履修に関しては 2022 年度入学生

より、それぞれ適用する。

附　則（2024 年 3 月 28 日）

この学則は、2024 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2023 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

附　則（2025年3月27日）

この学則は、2025年4月1日から施行する。ただし、2024年度以前入学生については従前の例によるものとするが、第21条関係の別表第1の情報技術資格対策（Word）Mos365、情報技術資格対策（Excel）Mos365及び英語科授業研究の履修に関しては、2023年度入学生及び2024年度入学生にも適用し、2021年度以前入学生には適用しない。

附　則（2026 年 4 月 1 日）

この学則は、2026 年 4 月 1 日から施行する。ただし、2025 年度以前の入学生については、なお従前の例による。

学則別表１

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由
	A群 宗教と思想	キリスト教学１	1前	2		
		キリスト教学２	1後	2		
		チャペル・アッセンブリ・アワー１	1前		1	
		チャペル・アッセンブリ・アワー２	1後		1	
		チャペル・アッセンブリ・アワー３	2前		1	
		チャペル・アッセンブリ・アワー４	2後		1	
		チャペル・アッセンブリ・アワー５	3前		1	
		チャペル・アッセンブリ・アワー６	3後		1	
		チャペル・アッセンブリ・アワー７	4前		1	
		チャペル・アッセンブリ・アワー８	4後		1	
		キリスト教音楽１	1前		1	
		キリスト教音楽２	1後		1	
		キリスト教音楽３	2前		1	
		キリスト教音楽４	2後		1	
		キリスト教音楽５	3前		1	
		キリスト教音楽６	3後		1	
		キリスト教音楽７	4前		1	
		キリスト教音楽８	4後		1	
		哲学１	1･2･3･4前		2	
		哲学２	1･2･3･4後		2	
		文学１	1･2･3･4前		2	
		文学２	1･2･3･4後		2	
		小計（22科目）	－	4	24	0
	B群 人間行動と歴史	心理学１	1･2･3･4前		2	
		心理学２	1･2･3･4後		2	
		文化人類学１	1･2･3･4前		2	
		文化人類学２	1･2･3･4後		2	
		日本史概説	1･2･3･4前		2	
		歴史学	1･2･3･4後		2	
		考古学１	1･2･3･4前		2	
		考古学２	1･2･3･4後		2	
		小計（8科目）	－	0	16	0
	C群 人間と社会	政治学１	1･2･3･4前		2	
		政治学２	1･2･3･4後		2	
		私たちの暮らしと行政	1･2･3･4前		2	
		経済学１	1･2･3･4前		2	
		経済学２	1･2･3･4後		2	
		経営学１	1･2･3･4前		2	
		経営学２	1･2･3･4後		2	
		日本国憲法１	1･2･3･4前		2	
		日本国憲法２	1･2･3･4後		2	
		法学１	1･2･3･4前		2	
		法学２	1･2･3･4後		2	
		私たちの暮らしと労働法制	3･4後		1	
		時事問題研究１	1･2･3･4前		2	
		時事問題研究２	1･2･3･4後		2	
		社会学１	1･2･3･4前		2	
		社会学２	1･2･3･4後		2	
		人文地理学	2･3･4前		2	
		自然地理学	2･3･4後		2	
		地誌	2･3･4後		2	

学則別表１

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数		
				必　修	選　択	自　由
基盤科目		教養スペシャル・トピックスＡ	1･2･3･4前･後		1	
		教養スペシャル・トピックスＢ	1･2･3･4前･後		1	
		教養スペシャル・トピックスＣ	1･2･3･4前･後		1	
		教養スペシャル・トピックスＤ	1･2･3･4前･後		1	
		教養スペシャル・トピックスＥ	1･2･3･4前･後		2	
		教養スペシャル・トピックスＦ	1･2･3･4前･後		2	
		小計（25科目）	－	0	45	0
	Ｄ群 情報とコンピュータ・サイエンス	コンピュータリテラシー	1前･後	2		
		情報技術資格対策（Word）	1･2･3･4前･後		2	
		情報技術資格対策（Excel）	1･2･3･4前･後		2	
		情報技術資格対策（ITパスポート）	2･3･4前		4	
		データサイエンス入門	2･3･4前		2	
		情報技術資格対策（デジタルコンテンツ制作）	2･3･4前		2	
		AIリテラシー	2･3･4後		2	
		サイバーセキュリティ入門	1･2･3･4後		1	
		小計（8科目）	－	2	15	0
	Ｅ群 言語とコミュニケーション	英語Ⅰ読む・書く	1前		4	
		英語Ⅱ読む・書く	1後		4	
		英語Ⅰ聴く・話す	1前		4	
		英語Ⅱ聴く・話す	1後		4	
		英語Ⅲ読む・書く	2前		4	
		英語Ⅳ読む・書く	2後		4	
		英語Ⅲ聴く・話す	2前		4	
		英語Ⅳ聴く・話す	2後		4	
		中国語Ⅰ文法	1前		4	
		中国語Ⅱ文法	1後		4	
		中国語Ⅰ読む・書く	1前		2	
		中国語Ⅱ読む・書く	1後		2	
		中国語Ⅰ聴く・話す	1前		2	
		中国語Ⅱ聴く・話す	1後		2	
		中国語Ⅲ文法	2前		2	
		中国語Ⅳ文法	2後		2	
		中国語Ⅲ読む・書く	2前		2	
		中国語Ⅳ読む・書く	2後		2	
		中国語Ⅲ聴く・話す	2前		2	
		中国語Ⅳ聴く・話す	2後		2	
		ドイツ語Ⅰ文法	1前		4	
		ドイツ語Ⅱ文法	1後		4	
		ドイツ語Ⅰ読む・書く	1前		2	
		ドイツ語Ⅱ読む・書く	1後		2	
		ドイツ語Ⅰ聴く・話す	1前		2	
		ドイツ語Ⅱ聴く・話す	1後		2	
		ドイツ語Ⅲ文法	2前		2	
		ドイツ語Ⅳ文法	2後		2	
		ドイツ語Ⅲ読む・書く	2前		2	
		ドイツ語Ⅳ読む・書く	2後		2	
		ドイツ語Ⅲ聴く・話す	2前		2	
		ドイツ語Ⅳ聴く・話す	2後		2	
		日本語Ⅰ読む・書く	1前		8	
		日本語Ⅱ読む・書く	1後		8	
		日本語Ⅰ聴く・話す	1前		8	

学則別表１

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由
		日本語Ⅱ聴く・話す	1後		8	
		日本語Ⅲ読む・書く	1･2前		4	
		日本語Ⅳ読む・書く	1･2後		4	
		日本語Ⅲ聴く・話す	1･2前		4	
		日本語Ⅳ聴く・話す	1･2後		4	
		フランス語Ⅰ総合	1前		2	
		フランス語Ⅱ総合	1後		2	
		コリア語Ⅰ総合	1前		2	
		コリア語Ⅱ総合	1後		2	
		小計（44科目）	－	0	144	0
	F群 自然科学と社会	科学史１	1･2･3･4前		2	
		科学史２	1･2･3･4後		2	
		基礎数学１	1･2･3･4前		2	
		基礎数学２	1･2･3･4後		2	
		社会と数理１	2･3･4前		2	
		社会と数理２	2･3･4後		2	
		小計（6科目）	－	0	12	0
	G群 スポーツと健康	スポーツ実習１	1前	1		
		スポーツ実習２	1後	1		
		スポーツ実習３	2･3･4前		1	
		スポーツ実習４	2･3･4後		1	
		スポーツとリベラルアーツ	2･3･4後		2	
		小計（5科目）	－	2	4	0
	H群 思考と実践	基礎演習１	1前	2		
		基礎演習２	1後	2		
		地域とボランティア	1後	2		
		ボランティア	1･2･3･4前･後		1～2	
		留学 異文化研究	1･2･3前･後		1～16	
		フィールド・ワーク	1･2･3･4前･後		1～2	
		小計（6科目）	－	6	20	0
	Ⅰ群 キャリアと実践	インターンシップ	3前･後		1～2	
		キャリア開発入門	2後		1	
		キャリア開発１	3前	2		
		キャリア開発２	3後	2		
		SPI対策１	3･4前		2	
		SPI対策２	3･4後		2	
		ビジネスマナー講座（秘書検定対策）１	2･3･4前		2	
		ビジネスマナー講座（秘書検定対策）２	2･3･4後		2	
		小計（8科目）	－	4	11	0
	小計（132科目）		－	18	291	0
		検定試験準備コース（TOEIC）Ⅰ１	1前		2	
		検定試験準備コース（TOEIC）Ⅰ２	1後		2	
		観光と留学の英語１	2前		2	
		観光と留学の英語２	2後		2	
		検定試験準備コース（中国語）	1･2･3前		2	
		児童英語教育概論１	2前		2	
		児童英語教育概論２	2後		2	
		児童英語教育実践１	2前		2	
		児童英語教育実践２	2後		2	
		児童英語指導実習論	3通		2	
	HE群	留学生と学ぶ日本語表現	1前		2	

学則別表１

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数		
				必　修	選　択	自　由
専門科目（コース共通）	言語と教育	日本語学１	2前		2	
		日本語学２	2後		2	
		日本語教育学概論１	2前		2	
		日本語教育学概論２	2後		2	
		日本語能力試験対策クラスⅠ	1･2前		2	
		日本語能力試験対策クラスⅡ	1･2後		2	
		日本語表現Ⅰ	1･2前		2	
		日本語表現Ⅱ	1･2後		2	
		日本事情１	2前		2	
		日本事情２	2後		2	
		小計（21科目）	－	0	42	0
	HH群 思考と実践	教育活動アクティブワーク	2前		2	
		地域学１	2前		2	
		地域学２	2後		2	
		小計（3科目）	－	0	6	0
	HJ群 教職課程 指導法	英語教育学概論	2前		2	
		英語教材研究論	2後		2	
		英語科教科教育法１	3前		2	
		英語科教科教育法２	3後		2	
		社会科・公民科教科教育法	3前		2	
		社会科・公民科指導法	3後		2	
		社会科・地理歴史科教科教育法	3後		2	
		社会科・地理歴史科指導法	4前		2	
		小計（8科目）	－	0	16	0
	小計（32科目）		－	0	64	0
	歴史探究 コース	国際関係史１	1前		2	
		国際関係史２	1後		2	
		アジア近現代史１	2前		2	
		アジア近現代史２	2後		2	
		アジア史概説	2前		2	
		アジア史	2後		2	
		アジア文化論１	2前		2	
		アジア文化論２	2後		2	
		アメリカ社会と歴史１	2前		2	
		アメリカ社会と歴史２	2後		2	
		アメリカ社会と歴史３	3前		2	
		アメリカ社会と歴史４	3後		2	
		イスラーム文化論１	2前		2	
		イスラーム文化論２	2後		2	
		キリスト教史１	2前		2	
		キリスト教史２	2後		2	
		ヨーロッパ思想史１	2前		2	
		ヨーロッパ思想史２	2後		2	
		欧米文化論１	2前		2	
		欧米文化論２	2後		2	
		音楽・音楽史１	2前		2	
		音楽・音楽史２	2後		2	
		経済史１	2前		2	
		経済史２	2後		2	
		西洋史概説	2前		2	
		西洋史	2後		2	

学則別表１

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数		
				必　修	選　択	自　由
		日本近現代史１	2前		2	
		日本近現代史２	2後		2	
		日本思想史１	2前		2	
		日本思想史２	2後		2	
		倫理思想史１	2前		2	
		倫理思想史２	2後		2	
		歴史学フィールドワーク１	2前		2	
		歴史学フィールドワーク２	2前		2	
		歴史学フィールドワーク３	2前		2	
		歴史探究入門１	2前		1	
		歴史探究入門２	2後		1	
		歴史探究演習１	3前	2		
		歴史探究演習２	3後	2		
		歴史探究演習３	4前	2		
		歴史探究演習４	4後	2		
		卒業論文	4通		6	
		小計（42科目）	－	8	78	0
	多文化･思想コース	聖書の世界１	1前		2	
		聖書の世界２	1後		2	
		アジア文化論１	2前		2	
		アジア文化論２	2後		2	
		イスラーム文化論１	2前		2	
		イスラーム文化論２	2後		2	
		キリスト教史１	2前		2	
		キリスト教史２	2後		2	
		ヨーロッパ思想史１	2前		2	
		ヨーロッパ思想史２	2後		2	
		異文化コミュニケーション論１	2前		2	
		異文化コミュニケーション論２	2後		2	
		英語文学１	2前		2	
		英語文学２	2後		2	
		欧米文化論１	2前		2	
		欧米文化論２	2後		2	
		児童文学１	2前		2	
		児童文学２	2後		2	
		地域文化論１	2前		2	
		地域文化論２	2後		2	
		比較宗教思想１	2前		2	
		比較宗教思想２	2後		2	
		文化交流論１	2前		2	
		文化交流論２	2後		2	
		文学研究１	2前		2	
		文学研究２	2後		2	
		倫理思想史１	2前		2	
		倫理思想史２	2後		2	
		ビジュアルアート表現１	2前		2	
		ビジュアルアート表現２	2後		2	
		ポピュラー文化論	2後		2	
		現代哲学	3前		2	
		生命倫理学	3後		2	
		文学・文化特講１	3前		2	

学則別表１

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数		
				必　修	選　択	自　由
専門科目（コース別）		文学・文化特講２	3後		2	
		多文化・思想入門１	2前		1	
		多文化・思想入門２	2後		1	
		多文化・思想演習１	3前	2		
		多文化・思想演習２	3後	2		
		多文化・思想演習３	4前	2		
		多文化・思想演習４	4後	2		
		卒業論文	4通		6	
		小計（42科目）	－	8	78	0
	キャリア英語コース	英文法１	1前	2		
		英文法２	1後	2		
		通訳実践	1前		2	
		プリゼンテーション・スキルズ１	2前		2	
		プリゼンテーション・スキルズ２	2後		2	
		英語の発音１	2前		2	
		英語の発音２	2後		2	
		英語学１	2前		2	
		英語学２	2後		2	
		検定試験準備コースⅡ１	2前		2	
		検定試験準備コースⅡ２	2後		2	
		言語コミュニケーション論１	2前		2	
		言語コミュニケーション論２	2後		2	
		通訳１	2前		2	
		通訳２	2後		2	
		コミュニケーションの心理学１	3前		2	
		コミュニケーションの心理学２	3後		2	
		ビジネス英語１	3前		2	
		ビジネス英語２	3後		2	
		メディア英語１	3前		2	
		メディア英語２	3後		2	
		リテラシーとコンピテンシー１	3前		2	
		リテラシーとコンピテンシー２	3後		2	
		海外キャリア研修	3後		2	
		検定試験準備コースⅢ	3通	2		
		翻訳１	3前		2	
		翻訳２	3後		2	
		ジャパン・スタディーズ	3前		2	
		キャリア英語入門１	2前		1	
		キャリア英語入門２	2後		1	
		キャリア英語演習１	3前	2		
		キャリア英語演習２	3後	2		
		キャリア英語演習３	4前	2		
		キャリア英語演習４	4後	2		
		卒業論文	4通		6	
		小計（35科目）	－	14	58	0
		国際関係史１	1前		2	
		国際関係史２	1後		2	
		マーケティング論１	2前		2	
		マーケティング論２	2後		2	
		金融論１	2前		2	
		金融論２	2後		2	

学則別表１

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数		
				必　修	選　択	自　由
	国際社会コース	経済史１	2前		2	
		経済史２	2後		2	
		現代企業論	2後		2	
		国際経済論１	2前		2	
		国際経済論２	2後		2	
		国際政治論１	2前		2	
		国際政治論２	2後		2	
		国際法１	2前		2	
		国際法２	2後		2	
		地域統合論１	2前		2	
		地域統合論２	2後		2	
		アニメ文化経済論	2後		2	
		国際機構論１	3前		2	
		国際機構論２	3後		2	
		国際人権論１	3前		2	
		国際人権論２	3後		2	
		地域経営論１	3前		2	
		地域経営論２	3後		2	
		地域調査	3前		2	
		地球環境経済論１	3前		2	
		地球環境経済論２	3後		2	
		中小企業論	3前		2	
		平和学１	3前		2	
		平和学２	3後		2	
		国際社会入門１	2前		1	
		国際社会入門２	2後		1	
		国際社会演習１	3前	2		
		国際社会演習２	3後	2		
		国際社会演習３	4前	2		
		国際社会演習４	4後	2		
		卒業論文	4通		6	
		小計（37科目）	－	8	68	0
	地域経営コース	コミュニティデザイン１	1前	2		
		コミュニティデザイン２	1後	2		
		地域文化論１	2前		2	
		地域文化論２	2後		2	
		伝統文化・町並み景観論	2前		2	
		地域共生社会論	2前		2	
		福祉まちづくり論	2前		2	
		非営利組織経営	2後		2	
		広報・広告コミュニケーション論	2後		2	
		観光ビジネス論	2後		2	
		マーケティング論１	2前		2	
		マーケティング論２	2後		2	
		社会起業論１	2前	2		
		社会起業論２	2後	2		
		簿記会計	2後		2	
		まちづくりPBL１	2前		1	
		まちづくりPBL２	2後		1	
		地域調査	3前		2	
		地域福祉１	3前		2	

学則別表１

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由
		地域福祉２	3後		2	
		ファンドレイジング	3後		2	
		ソーシャルベンチャー起業実践論１	3前		2	
		ソーシャルベンチャー起業実践論２	3後		2	
		地域経営論１	3前	2		
		地域経営論２	3後	2		
		企業経営論１	3前	2		
		企業経営論２	3後	2		
		地域経営演習１	3前	2		
		地域経営演習２	3後	2		
		地域経営演習３	4前	2		
		地域経営演習４	4後	2		
		卒業論文	4通		6	
		小計（32科目）	－	24	42	0
	情報メディアコース	デジタルジャーナリズム論	1後		2	
		情報メディア論	1前		2	
		Web技術	2前		2	
		アナウンス・ナレーション実習１	2前		2	
		アナウンス・ナレーション実習２	2後		2	
		アニメ文化経済論	2後		2	
		コピーライティング研究	2後		2	
		コンテンツプロデュース論	2後		2	
		スマートフォンアプリ開発１	2前		2	
		スマートフォンアプリ開発２	2後		2	
		デジタルコンテンツ概論	2後		2	
		デジタルコンテンツ制作１	2後		2	
		デジタルコンテンツ制作２	2後		2	
		ポピュラー文化論	2後		2	
		メディア産業論	2前		2	
		映像制作１	2前		2	
		映像制作２	2後		2	
		海外メディア事情（海外取材・研修）	2後		2	
		広報・広告コミュニケーション論	2後		2	
		情報セキュリティ	2後		2	
		情報メディア特論１（国内取材・研修）	2後		2	
		情報メディア特論２（国内メディア研究）	2後		2	
		情報メディア特論３（eスポーツと社会）	2後		2	
		情報法	3前		2	
		著作権法	3前		2	
		情報メディアPBL１	2前		1	
		情報メディアPBL２	2後		1	
		情報メディア演習１	3前	2		
		情報メディア演習２	3後	2		
		情報メディア演習３	4前	2		
		情報メディア演習４	4後	2		
		卒業論文	4通		6	
		小計（32科目）	－	8	58	0
	小計（191科目）		－	70	308	0
		教育原理	2後			2
		教職入門	1後			2
		教育制度論	2前			2

学則別表１

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		
			必　修	選　択	自　由
教職課程	発達と学習の教育心理学	2後			2
	特別支援教育概論	3前			1
	カリキュラム論	3前			2
	道徳教育指導論	3前			2
	総合的な学習の指導法	2前			1
	特別活動論	2後			2
	教育の方法・技術とICTの活用	3後			2
	生徒・進路指導論	3後			2
	教育相談	3前			2
	教育実習（中・高）	4前･後			4
	教育実習事前事後指導	3～4通			1
	教職実践演習	4後			2
	小計（15科目）	－	0	0	29
合計（370科目）		－	88	663	29

学則別表１

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		
			必　修	選　択	自　由

卒　業　・　修　了　要　件　及　び　履　修　方　法

○基盤科目（次の条件を満たしつつ、48単位以上修得）
必修18単位（うち基礎演習１（2単位）、基礎演習２（2単位）、キャリア開発１（2単位）、キャリア開発２（2単位）は必履修）、E群 言語とコミュニケーションについて、キャリア英語コースは英語32単位を必修、キャリア英語コース以外のコースは英語、ドイツ語、中国語いずれかの言語を8単位（英語は英語Ⅰ読む･書くと英語Ⅱ読む・書くもしくは英語Ⅰ聴く・話すと英語Ⅱ聴く・話す、ドイツ語はドイツ語Ⅰ文法とドイツ語Ⅱ文法、中国語は中国語Ⅰ文法と中国語Ⅱ文法）、日本語非母語話者はレベルに応じ48単位を上限に日本語を修得のこと。

○専門科目（主専攻32単位以上を含めて60単位以上修得）
主専攻に加えて副専攻を履修する場合、副専攻としては24単位以上修得

○卒業要件単位：124単位以上

○履修登録の上限:1学期24単位

○コース科目の必修･選択必修：
各コースとも、次の組み合わせのいずれかを選択必修とする。
・歴史探究入門１・２
・多文化･思想入門１・２
・キャリア英語入門１・２
・国際社会入門１・２
・まちづくりPBL１・２
・情報メディアPBL１・２

【歴史探究コース】
基盤科目である「日本史概説」「歴史学」「考古学１」「考古学２」から4単位選択必修、コース科目である「日本近現代史１」「日本近現代史２」「アジア史概説」「アジア史」「西洋史概説」「西洋史」「キリスト教史１」「キリスト教史２」「アメリカ社会と歴史１」「アメリカ社会と歴史２」「アジア近現代史１」「アジア近現代史２」から8単位選択必修、コース科目である「歴史探究演習1」「歴史探究演習２」「歴史探究演習３」「歴史探究演習４」（計8単位）必修

【多文化･思想コース】
基盤科目である「文学１」「文学２」「文化人類学１」「文化人類学２」「哲学１」「哲学２」から4単位選択必修、コース科目である「欧米文化論１」「欧米文化論２」「アジア文化論１」「アジア文化論２」「イスラーム文化論１」「イスラーム文化論２」「地域文化論１」「地域文化論２」「倫理思想史１」「倫理思想史２」「比較宗教思想１」「比較宗教思想２」「文学研究１」「文学研究２」「児童文学１」「児童文学２」から4単位選択必修、コース科目である「多文化･思想演習１」「多文化･思想演習２」「多文化･思想演習３」「多文化･思想演習４」（計8単位）必修

【キャリア英語コース】
コース科目である「検定試験準備コースⅢ」「英文法１」「英文法２」「キャリア英語演習１」「キャリア英語演習２」「キャリア英語演習３」「キャリア英語演習４」14単位必修、コース科目である「翻訳１」「翻訳２」「コミュニケーションの心理学１」「コミュニケーションの心理学２」「リテラシーとコンピテンシー１」「リテラシーとコンピテンシー２」「英語学１」「英語学２」「検定試験準備コースⅡ１」「検定試験準備コースⅡ２」から4単位選択必修

【国際社会コース】
基盤科目である「経済学１」「経済学２」「政治学１」「政治学２」「日本国憲法１」「日本国憲法２」から4単位選択必修、コース科目である「地球環境経済論１」「地球環境経済論２」「国際政治論１」「国際政治論２」「国際経済論１」「国際経済論２」「国際法１」「国際法２」から6単位選択必修、コース科目である「国際社会演習１」「国際社会演習２」「国際社会演習３」「国際社会演習４」（計8単位）必修

【地域経営コース】
基盤科目である「経営学１」「経営学２」の2科目必修、コース科目である「コミュニティデザイン１」「コミュニティデザイン２」「社会起業論１」「社会起業論２」「企業経営論１」「企業経営論２」「地域経営論1」「地域経営論2」「地域経営演習１」「地域経営演習２」「地域経営演習３」「地域経営演習４」の24単位必修、コース科目である「地域調査」「地域共生社会論」「地域福祉１」「地域福祉２」「ファンドレイジング」「非営利組織経営」「ソーシャルベンチャー起業実践論１」「ソーシャルベンチャー起業実践論２」から8単位選択必修

【情報メディアコース】
基盤科目である「時事問題研究１」「時事問題研究２」から1科目選択必修、基盤科目である「情報技術資格対策（ITパスポート）」を必履修、コース科目である「メディア産業論」「デジタルコンテンツ概論」「情報メディア論」「デジタルジャーナリズム論」から4単位選択必修、コース科目である「デジタルコンテンツ制作１」「デジタルコンテンツ制作２」「映像制作１」「映像制作２」「スマートフォンアプリ開発１」「スマートフォンアプリ開発２」「アナウンスナレーション実習１」「アナウンスナレーション実習２」から1科目選択必修、コース科目である「情報メディア演習１」「情報メディア演習２」「情報メディア演習３」「情報メディア演習４」（計8単位）必修

別表第2（第49条関係）

検定料、入学金及び学費

（単位：円）

区分		2026年度	備考
2026年度以降入学者	入学検定料	30,000	大学入学共通テスト利用選抜の入学検定料は、15,000
	入学金	230,000	
	授業料	690,000	
	施設設備費	320,000	
	休学在籍料	60,000	休学者のみ支払う
	在籍料	100,000	特別卒業留保学生のみ支払う
		290,000	一般卒業留保学生のみ支払う
2025年度入学者	授業料	690,000	卒業留保した者は支払う必要がない
	施設設備費	320,000	
	休学在籍料	60,000	休学者のみ支払う
	在籍料	100,000	特別卒業留保学生のみ支払う
		290,000	一般卒業留保学生のみ支払う
2024年度以前入学者	授業料	690,000	卒業留保した者は支払う必要がない
	施設設備費	290,000	
	休学在籍料	60,000	休学者のみ支払う
	在籍料	100,000	特別卒業留保学生のみ支払う
		290,000	一般卒業留保学生のみ支払う

学則の変更の趣旨等を記載した書類

１．学則変更（学科の設置）の事由

人文学部英語文化コミュニケーション学科、国際文化学科、共生社会学科を改組して、人文学部国際教養学科を設置するため、2026 年度学則を次のとおり変更する。

２．学則の変更点

（1）第 1 章　総則

（目的）第 1 条　人文学部国際教養学科を追加し、既存の英語文化コミュニケーション学科、国際文化学科、共生社会学科を削除し、教育目的も変更する。

（2）第 2 章　組織

（学部、学科等）第 2 条　人文学部国際教養学科を追加し、既存の英語文化コミュニケーション学科、国際文化学科、共生社会学科を削除し、入学定員及び収容定員も変更する。

（3）第 3 章　教職員組織

（教職員組織）第 4 条　国際教養学科長を追加し、英語文化コミュニケーション学科長、国際文化学科長、共生社会学科長を削除する。

（4）第 8 章　教育課程及び履修方法等

（教育課程）第 20 条　　科目区分名称を変更する。

（社会福祉士国家試験受験資格及び児童厚生 2 級指導員資格の取得）第 30 条　社会福祉士国家試験受験資格及び児童厚生 2 級指導員資格課程を削除する。

（5）附則

附則に施行日及び経過措置を規定する。

（6）別表第 1

国際教養学科の授業科目を追加し、既存の英語文化コミュニケーション学科、国際文化学科、共生社会学科の授業科目を削除する。

（7）別表第 2

検定料、入学金及び学費の予定額を規定する。

敬和学園大学学則　新旧対照表

新

（略）

（目的）

第１条　本学は、教育基本法及び学校教育法に従い、福音主義キリスト教の精神に基づく自由かつ敬けんな学風の中で真理を探究するとともに心の教育を実践し、国際的教養豊かな良心的人材を養成することを目的とする。

２　（略）

３　建学の精神及び教育目的に基づき、人文学部国際教養学科の教育目的を以下に定める。

「隣人に仕え持続可能な社会を担う良識ある市民を育成し、地域社会と国際社会に貢献する」というヴィジョンを達成するために、人間の尊厳と人権を尊重する姿勢、社会で必要な言語・数量・ＩＣＴに関する基礎知識と専門分野に関する知識を育てる。グローバルな視点をもって多様な人々との共生を可能とする異文化理解力を涵養する。さらに、それらをもとに批判的・分析的に考え、言語やデジタル技術を活用して明瞭かつ効果的に表現する能力を育成し、持続可能な社会の形成・発展に高い倫理的基準をもって貢献できる人材を育成する。

（略）

第２章　組織

（学部、学科等）

第２条　本学の学部学科、入学定員及び収容定員は次のとおりとする。

学　部	学　科	入学定員	収容定員
人文学部	国際教養学科	170 人	680 人

旧

（略）

（目的）

第１条　同左

２　（略）

３　建学の精神及び教育目的に基づき、３学科の教育目的を以下に定める。

英語文化コミュニケーション学科

グローバル化する世界や地域社会の状況を理解し、実践的な英語力をもって社会に貢献すると共に他者に対して開かれた人を育てる。

国際文化学科

人類の歴史、文化、社会および情報メディアの専門教育を通して、グローバル化する社会の諸問題を認識し、問題に対応できる国際感覚と知性を涵養し、社会において他者を尊重しながら協働できる人を育てる。

共生社会学科

地域共生社会の実現を推進し、新たな福祉ニーズに対応するために、専門知識、コミュニケーション能力、高い倫理基準を備えた、実践力を有する人を育てる。

（略）

第２章　組織

（学部、学科等）

第２条　本学の学部学科、入学定員及び収容定員は次のとおりとする。

学　部	学　科	入学定員	収容定員
人文学部	英語文化コミュニケーション学科	60 人	240 人
	国際文化学科	80 人	320 人
	共生社会学科	40 人	160 人
計		180 人	720 人

新	旧
（略） 第３章　教職員組織 （教職員組織） 第４条　本学に次の教職員を置く。 (1)　学長、学部長 (2)　国際教養学科長、宗教部長、学生部長、教務部長、図書館長、人文社会科学研究所長、地域連携センター長、学生支援センター長、事務局長 （略） 第８章　教育課程及び履修方法等 （教育課程） 第20条　授業科目を分けて、基盤科目及び専門科目とする。 （略） （削除、以下の条文は１条ずつ繰り上げ） 附　則（2026年４月１日） この学則は、2026年４月１日から施行する。ただし、2025年度以前の入学生については、なお従前の例による。	（略） 第３章　教職員組織 （教職員組織） 第４条　同左 (1)　同左 (2)　英語文化コミュニケーション学科長、国際文化学科長、共生社会学科長、宗教部長、学生部長、教務部長、図書館長、人文社会科学研究所長、地域連携センター長、学生支援センター長、事務局長 （略） 第８章　教育課程及び履修方法等 （教育課程） 第20条　授業科目を分けて、共通基礎科目、共通専門科目及び学科専門科目とする。 （略） （社会福祉士国家試験受験資格及び児童厚生２級指導員資格の取得） 第30条　社会福祉士国家試験受験資格を取得しようとする者は、第39条に定める卒業の要件を充足するほか、本学が社会福祉士および介護福祉士法（昭和62年法律第30号）及び社会福祉士および介護福祉士法施行規則（昭和62年省令第49号）に基づき設定する授業科目について必要な単位を修得しなければならない。 2　前項の授業科目、単位及び履修方法等については、別に定める。 3　児童厚生２級指導員の資格を取得しようとする者は、第１項の要件を充足するほか、本学が設定する授業科目について必要な単位を修得しなければならない。 4　前項の授業科目、単位及び履修方法等については、別に定める。

敬和学園大学学則　第21条関係別表第1新旧対照表

新

学則別表１

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由
基盤科目	A群 宗教と思想	キリスト教学１	１前	2		
		キリスト教学２	１後	2		
		チャペル・アッセンブリ・アワー１	１前		1	
		チャペル・アッセンブリ・アワー２	１後		1	
		チャペル・アッセンブリ・アワー３	２前		1	
		チャペル・アッセンブリ・アワー４	２後		1	
		チャペル・アッセンブリ・アワー５	３前		1	
		チャペル・アッセンブリ・アワー６	３後		1	
		チャペル・アッセンブリ・アワー７	４前		1	
		チャペル・アッセンブリ・アワー８	４後		1	
		キリスト教音楽１	１前		1	
		キリスト教音楽２	１後		1	
		キリスト教音楽３	２前		1	
		キリスト教音楽４	２後		1	
		キリスト教音楽５	３前		1	
		キリスト教音楽６	３後		1	
		キリスト教音楽７	４前		1	
		キリスト教音楽８	４後		1	
		哲学１	1･2･3･4前		2	
		哲学２	1･2･3･4後		2	
		文学１	1･2･3･4前		2	
		文学２	1･2･3･4後		2	
		小計（22科目）	－	4	24	0
	B群 人間行動と歴史	心理学１	1･2･3･4前		2	
		心理学２	1･2･3･4後		2	
		文化人類学１	1･2･3･4前		2	
		文化人類学２	1･2･3･4後		2	
		日本史概説	1･2･3･4前		2	
		歴史学	1･2･3･4後		2	
		考古学１	1･2･3･4前		2	
		考古学２	1･2･3･4後		2	
		小計（8科目）	－	0	16	0
	C群 人間と社会	政治学１	1･2･3･4前		2	
		政治学２	1･2･3･4後		2	
		私たちの暮らしと行政	1･2･3･4前		2	
		経済学１	1･2･3･4前		2	
		経済学２	1･2･3･4後		2	
		経営学１	1･2･3･4前		2	
		経営学２	1･2･3･4後		2	
		日本国憲法１	1･2･3･4前		2	
		日本国憲法２	1･2･3･4後		2	
		法学１	1･2･3･4前		2	
		法学２	1･2･3･4後		2	
		私たちの暮らしと労働法制	3･4後		1	
		時事問題研究１	1･2･3･4前		2	
		時事問題研究２	1･2･3･4後		2	
		社会学１	1･2･3･4前		2	
		社会学２	1･2･3･4後		2	
		人文地理学	2･3･4前		2	
		自然地理学	2･3･4後		2	
		地誌	2･3･4後		2	
		教養スペシャル・トピックスA	1･2･3･4 前･後		1	
		教養スペシャル・トピックスB	1･2･3･4 前･後		1	
		教養スペシャル・トピックスC	1･2･3･4 前･後		1	
		教養スペシャル・トピックスD	1･2･3･4 前･後		1	
		教養スペシャル・トピックスE	1･2･3･4 前･後		2	
		教養スペシャル・トピックスF	1･2･3･4 前･後		2	
		小計（25科目）	－	0	45	0

旧

（１）共通基礎科目

授業科目 区分	番号	名称	開講年次	単位数 必修	単位数 選択	読替科目	備考
A群 宗教と思想	GA001	キリスト教学１	1	2			
	GA002	キリスト教学２	1	2			
	GA003	哲学１	1		2		
	GA004	哲学２	1		2		
	GA005	共生の哲学１	2		2		
	GA006	共生の哲学２	2		2		
	GA007	文学１	1		2		
	GA008	文学２	1		2		
B群 人間行動と歴史	GB001	心理学１	1		2		
	GB002	心理学２	1		2		
	GB003	文化人類学１	1		2		
	GB004	文化人類学２	1		2		
	GB005	日本史概説	1		2		
	GB006	歴史学	1		2		
	GB007	考古学１	1		2		
	GB008	考古学２	1		2		
C群 人間と社会	GC001	政治学１	1		2		
	GC002	政治学２	1		2		
	GC003	経済学１	1		2		
	GC004	経済学２	1		2		
	GC005	経営学１	1		2		
	GC006	経営学２	1		2		
	GC007	日本国憲法１	1		2		
	GC008	日本国憲法２	1		2		
	GC009	法学１	1		2		
	GC010	法学２	1		2		
	GC011	社会学１	1		2	社会理論と社会システム	
	GC012	社会学２	1		2	社会理論と社会システム	
	GC013	人文地理学	2		2		
	GC014	自然地理学	2		2		
D群 情報とコンピュータ・サイエンス	GD001	コンピュータリテラシー	1	2			
	GD002	情報技術資格対策（Word2019）	1		2		
	GD003	情報技術資格対策（Excel2019）	1		2		
	GD004	情報技術資格対策（ITパスポート）	2		4		
	GD005	データサイエンス入門	2		2		
	GD006	情報技術資格対策（デジタルコンテンツ制作）	2		2		
	GD007	AIリテラシー	2		2		
E群 言語とコミュニケーション	GE001	KEEP A1（英語読む・書く）Foundations	1		4		英語文化コミュニケーション学科は英語１６単位が必修。国際文化学科は英語、中国語、ドイツ語の中から１言語１６単位が必修。共生社会学科は英語8単位が必修。 英語文化コミュニケーション学科の学生はE群の英語16単位必修の他に、E群の英語科目またはHE群16単位が必修
	GE001	KEEP A1（英語読む・書く）General	1		4		
	GE001	KEEP A1（英語読む・書く）Intermediate	1		4		
	GE001	KEEP A1（英語読む・書く）Advanced	1		4		
	GE002	KEEP A2（英語読む・書く）Foundations	1		4		
	GE002	KEEP A2（英語読む・書く）General	1		4		
	GE002	KEEP A2（英語読む・書く）Intermediate	1		4		
	GE002	KEEP A2（英語読む・書く）Advanced	1		4		
	GE003	KEEP B1（英語聴く・話す）Foundations	1		4		
	GE003	KEEP B1（英語聴く・話す）General	1		4		
	GE003	KEEP B1（英語聴く・話す）Intermediate	1		4		
	GE003	KEEP B1（英語聴く・話す）Advanced	1		4		
	GE004	KEEP B2（英語聴く・話す）Foundations	1		4		
	GE004	KEEP B2（英語聴く・話す）General	1		4		
	GE004	KEEP B2（英語聴く・話す）Intermediate	1		4		
	GE004	KEEP B2（英語聴く・話す）Advanced	1		4		
	GE005	中国語Ⅰ―文法１	1		4		
	GE006	中国語Ⅰ―文法２	1		4		
	GE007	中国語Ⅰ―読む・書く１	1		2		
	GE008	中国語Ⅰ―読む・書く２	1		2		
	GE009	中国語Ⅰ―聴く・話す１	1		2		
	GE010	中国語Ⅰ―聴く・話す２	1		2		
	GE011	中国語Ⅱ―文法１	2		2		
	GE012	中国語Ⅱ―文法２	2		2		
	GE013	中国語Ⅱ―読む・書く１	2		2		
	GE014	中国語Ⅱ―読む・書く２	2		2		
	GE015	中国語Ⅱ―聴く・話す１	2		2		
	GE016	中国語Ⅱ―聴く・話す２	2		2		
	GE017	ドイツ語Ⅰ―文法１	1		4		
	GE018	ドイツ語Ⅰ―文法２	1		4		

新

	D群 情報とコンピュータ・サイエンス	コンピュータリテラシー	1前・後	2		
		情報技術資格対策（Word）	1・2・3・4 前・後		2	
		情報技術資格対策（Excel）	1・2・3・4 前・後		2	
		情報技術資格対策（IT パスポート）	2・3・4 前		4	
		データサイエンス入門	2・3・4 前		2	
		情報技術資格対策（デジタルコンテンツ制作）	2・3・4 前		2	
		AI リテラシー	2・3・4 後		2	
		サイバーセキュリティ入門	1・2・3・4 後		1	
		小計（8 科目）	－	2	15	0
	E群 言語とコミュニケーション	英語Ⅰ読む・書く	1 前		4	
		英語Ⅱ読む・書く	1 後		4	
		英語Ⅰ聴く・話す	1 前		4	
		英語Ⅱ聴く・話す	1 後		4	
		英語Ⅲ読む・書く	2 前		4	
		英語Ⅳ読む・書く	2 後		4	
		英語Ⅲ聴く・話す	2 前		4	
		英語Ⅳ聴く・話す	2 後		4	
		中国語Ⅰ文法	1 前		4	
		中国語Ⅱ文法	1 後		4	
		中国語Ⅰ読む・書く	1 前		2	
		中国語Ⅱ読む・書く	1 後		2	
		中国語Ⅰ聴く・話す	1 前		2	
		中国語Ⅱ聴く・話す	1 後		2	
		中国語Ⅲ文法	2 前		2	
		中国語Ⅳ文法	2 後		2	
		中国語Ⅲ読む・書く	2 前		2	
		中国語Ⅳ読む・書く	2 後		2	
		中国語Ⅲ聴く・話す	2 前		2	
		中国語Ⅳ聴く・話す	2 後		2	
		ドイツ語Ⅰ文法	1 前		4	
		ドイツ語Ⅱ文法	1 後		4	
		ドイツ語Ⅰ読む・書く	1 前		2	
		ドイツ語Ⅱ読む・書く	1 後		2	
		ドイツ語Ⅰ聴く・話す	1 前		2	
		ドイツ語Ⅱ聴く・話す	1 後		2	
		ドイツ語Ⅲ文法	2 前		2	
		ドイツ語Ⅳ文法	2 後		2	
		ドイツ語Ⅲ読む・書く	2 前		2	
		ドイツ語Ⅳ読む・書く	2 後		2	
		ドイツ語Ⅲ聴く・話す	2 前		2	
		ドイツ語Ⅳ聴く・話す	2 後		2	
		日本語Ⅰ読む・書く	1 前		8	
		日本語Ⅱ読む・書く	1 後		8	
		日本語Ⅰ聴く・話す	1 前		8	
		日本語Ⅱ聴く・話す	1 後		8	
		日本語Ⅲ読む・書く	1・2 前		4	
		日本語Ⅳ読む・書く	1・2 後		4	
		日本語Ⅲ聴く・話す	1・2 前		4	
		日本語Ⅳ聴く・話す	1・2 後		4	
		フランス語Ⅰ総合	1 前		2	
		フランス語Ⅱ総合	1 後		2	
		コリア語Ⅰ総合	1 前		2	
		コリア語Ⅱ総合	1 後		2	
		小計（44 科目）	－	0	144	0
	F群 自然科学と社会	科学史１	1・2・3・4 前		2	
		科学史２	1・2・3・4 後		2	
		基礎数学１	1・2・3・4 前		2	
		基礎数学２	1・2・3・4 後		2	
		社会と数理１	2・3・4 前		2	
		社会と数理２	2・3・4 後		2	
		小計（6 科目）	－	0	12	0
	G群 スポーツと健康	スポーツ実習１	1 前	1		
		スポーツ実習２	1 後	1		
		スポーツ実習３	2・3・4 前		1	
		スポーツ実習４	2・3・4 後		1	
		スポーツとリベラルアーツ	2・3・4 後		2	
		小計（5 科目）	－	2	4	0

旧

F群 スポーツと健康	GF001	スポーツ実習１	1	1			
	GF002	スポーツ実習２	1	1			
	GF003	スポーツ実習３	2		1		
	GF004	スポーツ実習４	2		1		
	GF005	スポーツとリベラルアーツ	2		2		
G群 思考と実践	GG001	基礎演習	1	2			
	GG002	ボランティア論	1	2			
	GG003	ボランティア	1		1～2		
	GG004	地域学入門	1	1			
	GG005	サービスラーニング	1		1～2		
	GG006	サービスラーニング（卒）１	4		2		
	GG007	サービスラーニング（卒）２	4		2		
	GG008	インターンシップ	1		1～2		
	GG009	キャリア開発入門	2		1		
	GG010	キャリア開発１	3		2		
	GG011	キャリア開発２	3		2		
	GG012	チャペル・アッセンブリ・アワー1	1		1		
	GG013	チャペル・アッセンブリ・アワー2	1		1		
	GG014	チャペル・アッセンブリ・アワー3	2		1		
	GG015	チャペル・アッセンブリ・アワー4	2		1		
	GG016	チャペル・アッセンブリ・アワー5	3		1		
	GG017	チャペル・アッセンブリ・アワー6	3		1		

授業科目			開講	単位数		読替科目	備　考
区分	番号	名称	年次	必修	選択		
G群 思考と実践	GG018	チャペル・アッセンブリ・アワー7	4		1		
	GG019	チャペル・アッセンブリ・アワー8	4		1		
	GG020	基礎数学１	1		2		
	GG021	基礎数学２	1		2		
H群 他大学における履修		他大学基礎科目（学校名）	1		1～60		最大60単位まで適宜認定

（２）共通専門科目

授業科目			開講	単位数		読替科目	備　考
区分	番号	名称	年次	必修	選択		
ＨＧ群	HG201	地域学１	2		2		
	HG202	地域学２	2		2		
	HG401	地域学研究	4		4		
	HG203	教育活動アクティブワーク	2		2		
ＨＥ群	HE201	英語コミュニケーション・スキルズ A1（Intermediate）	2		4		英語文化コミュニケーション学科の学生はHE群から16単位が必修。そのうち、8単位以上は英語コミュニケーション・スキルズA、Bから修得すること。この16単位を共通基礎科目E群の英語科目で満たすこともできる。
	HE201	英語コミュニケーション・スキルズ A1（Advanced）	2		4		
	HE202	英語コミュニケーション・スキルズ A2（Intermediate）	2		4		
	HE202	英語コミュニケーション・スキルズ A2（Advanced）	2		4		
	HE203	英語コミュニケーション・スキルズ B1（Intermediate）	2		4		
	HE203	英語コミュニケーション・スキルズ B1（Advanced）	2		4		
	HE204	英語コミュニケーション・スキルズ B2（Intermediate）	2		4		
	HE204	英語コミュニケーション・スキルズ B2（Advanced）	2		4		
	HE101	検定試験準備コース(TOEIC)Ⅰ１	1		2		
	HE102	検定試験準備コース(TOEIC)Ⅰ２	1		2		
	HE103	検定試験準備コース（英語検定２級）	1		2		
	HE205	観光と留学の英語１	2		2		
	HE206	観光と留学の英語２	2		2		
ＨＦ群	HF101	留学生と学ぶ日本語表現	1		2		
	HF201	日本語表現Ⅰ	1・2		2		
	HF202	日本語表現Ⅱ	1・2		2		
	HF203	日本語能力試験対策クラスⅠ	1・2		2		
	HF204	日本語能力試験対策クラスⅡ	1・2		2		
	HF205	日本語教育学概論１	2		2		
	HF206	日本語教育学概論２	2		2		
	HF207	日本語学１	2		2		
	HF208	日本語学２	2		2		
	HF209	日本事情１	2		2		
	HF210	日本事情２	2		2		
	HF301	フランス語Ⅲ－読む・書く１	3		2		
	HF302	フランス語Ⅲ－読む・書く２	3		2		
	HF303	フランス語Ⅲ－聴く・話す１	3		2		
	HF304	フランス語Ⅲ－聴く・話す２	3		2		
	HF305	ドイツ語Ⅲ－読む・書く１	3		2		
	HF306	ドイツ語Ⅲ－読む・書く２	3		2		
	HF307	ドイツ語Ⅲ－聴く・話す１	3		2		
	HF308	ドイツ語Ⅲ－聴く・話す２	3		2		
	HF309	中国語Ⅲ－読む・書く１	3		2		
	HF310	中国語Ⅲ－読む・書く２	3		2		
	HF311	中国語Ⅲ－聴く・話す１	3		2		
	HF312	中国語Ⅲ－聴く・話す２	3		2		
	HF313	言語学１	3		2		
	HF314	言語学２	3		2		
		語学オプション・コース	2～4	各2・4			
ＨＨ群		他大学専門科目（学校名）	1		1～60		最大60単位まで適宜認定

新

	H群 思考と実践	基礎演習１	１前	2		
		基礎演習２	１後	2		
		地域とボランティア	１後	2		
		ボランティア	1･2･3･4 前･後		1～2	
		留学 異文化研究	1･2･3 前･ 後		1～ 16	
		フィールド・ワーク	1･2･3･4 前･後		1～2	
		小計（6 科目）	－	6	20	0
	Ｉ群 キャリアと実 践	インターンシップ	３前･後		1～2	
		キャリア開発入門	２後		1	
		キャリア開発１	３前	2		
		キャリア開発２	３後	2		
		SPI 対策１	3･4 前		2	
		SPI 対策２	3･4 後		2	
		ビジネスマナー講座（秘書検定対策） １	2･3･4 前		2	
		ビジネスマナー講座（秘書検定対策） ２	2･3･4 後		2	
		小計（8 科目）	－	4	11	0
	小計（132 科目）		－	18	291	0
専門科目（コース共通）	HE 群 言語と教育	検定試験準備コース（TOEIC）Ｉ１	１前		2	
		検定試験準備コース（TOEIC）Ｉ２	１後		2	
		観光と留学の英語１	２前		2	
		観光と留学の英語２	２後		2	
		検定試験準備コース（中国語）	1･2･3 前		2	
		児童英語教育概論１	２前		2	
		児童英語教育概論２	２後		2	
		児童英語教育実践１	２前		2	
		児童英語教育実践２	２後		2	
		児童英語指導実習論	３通		2	
		留学生と学ぶ日本語表現	１前		2	
		日本語学１	２前		2	
		日本語学２	２後		2	
		日本語教育学概論１	２前		2	
		日本語教育学概論２	２後		2	
		日本語能力試験対策クラスⅠ	1･2 前		2	
		日本語能力試験対策クラスⅡ	1･2 後		2	
		日本語表現Ⅰ	1･2 前		2	
		日本語表現Ⅱ	1･2 後		2	
		日本事情１	２前		2	
		日本事情２	２後		2	
		小計（21 科目）	－	0	42	0
	HH 群 思考と実践	教育活動アクティブワーク	２前		2	
		地域学１	２前		2	
		地域学２	２後		2	
		小計（3 科目）	－	0	6	0
	HJ 群 教職課程 指導法	英語教育学概論	２前		2	
		英語教材研究論	２後		2	
		英語科教科教育法１	３前		2	
		英語科教科教育法２	３後		2	
		社会科・公民科教科教育法	３前		2	
		社会科・公民科指導法	３後		2	
		社会科・地理歴史科教科教育法	３後		2	
		社会科・地理歴史科指導法	４前		2	
		小計（8 科目）	－	0	16	0
	小計（32 科目）		－	0	64	0
専門科目（コース別）	歴史探究 コース	国際関係史１	１前		2	
		国際関係史２	１後		2	
		アジア近現代史１	２前		2	
		アジア近現代史２	２後		2	
		アジア史概説	２前		2	
		アジア史	２後		2	
		アジア文化論１	２前		2	
		アジア文化論２	２後		2	
		アメリカ社会と歴史１	２前		2	
		アメリカ社会と歴史２	２後		2	
		アメリカ社会と歴史３	３前		2	
		アメリカ社会と歴史４	３後		2	

旧

（３）学科専門科目

① 英語教育コース（英語文化コミュニケーション学科）

授業科目				開講	単位数		読替科目	備　考
区分	領域	番号	名称	年次	必修	選択		
入門科目	各コース共通	LL001	コミュニケーション入門	1	2			
基幹科目	各コース共通	LL011	英文法１	1	2			
		LL012	英文法２	1	2			
		LL013	講読１	2		2		
		LL014	講読２	2		2		
		LL015	文化交流論１	2		2		
		LL016	文化交流論２	2		2		
展開科目	中学校・高等学校の教員をめざす	LE201	英語学１	2	2			中学校・高等学校の免許状取得のためには、左記に加えて本学で指定された科目の履修および単位の修得が必要となります。
		LE202	英語学２	2	2			
		LE203	英語の発音１	2		2		
		LE204	英語の発音２	2		2		
		LC205	英語文学１	2		2		
		LC206	英語文学２	2		2		
		LC207	文学研究Ａ１	2		2		
		LC208	文学研究Ａ２	2		2		
		LC209	文学研究Ｂ１	2		2		
		LC210	文学研究Ｂ２	2		2		
		LC201	言語コミュニケーション論１	2		2		
		LC202	言語コミュニケーション論２	2		2		
		LC203	異文化コミュニケーション論１	2		2		
		LC204	異文化コミュニケーション論２	2		2		
		LE205	コミュニケーションの心理学１	2		2		
		LE206	コミュニケーションの心理学２	2		2		
		LE207	英語教育学概論	2	2			
		LE208	英語教材研究論	2	2			
		LB303	メディア英語１	3		2		
		LB304	メディア英語２	3		2		
		LC301	英語文化圏研究１	3		2		
		LC302	英語文化圏研究２	3		2		
		LC303	アメリカ社会と歴史１	3		2		
		LC304	アメリカ社会と歴史２	3		2		

授業科目				開講	単位数		読替科目	備　考
区分	領域	番号	名称	年次	必修	選択		
展開科目	中学校・高等学校の教員をめざす	LE301	英語科教科教育法１	3	2			
		LE302	英語科教科教育法２	3	2			
		LE303	英語教採準備コース	3		2		
		LE401	英語科授業研究	4	2			
	小学校の教員をめざす（本学における中・高の免許状＋玉川大学通信教育部との連携	LE201	英語学１	2	2			
		LE202	英語学２	2	2			
		LE203	英語の発音１	2		2		
		LE204	英語の発音２	2		2		
		LC205	英語文学１	2		2		
		LC206	英語文学２	2		2		
		LC207	文学研究Ａ１	2		2		
		LC208	文学研究Ａ２	2		2		
		LC209	文学研究Ｂ１	2		2		
		LC210	文学研究Ｂ２	2		2		
		LC201	言語コミュニケーション論１	2		2		
		LC202	言語コミュニケーション論２	2		2		
		LC203	異文化コミュニケーション論１	2		2		
		LC204	異文化コミュニケーション論２	2		2		
		LE205	コミュニケーションの心理学１	2		2		
		LE206	コミュニケーションの心理学２	2		2		
		LE207	英語教育学概論	2	2			
		LE208	英語教材研究論	2	2			
		LB303	メディア英語１	3		2		
		LB304	メディア英語２	3		2		
		LC301	英語文化圏研究１	3		2		
		LC302	英語文化圏研究２	3		2		
		LC303	アメリカ社会と歴史１	3		2		
		LC304	アメリカ社会と歴史２	3		2		
		LE301	英語科教科教育法１	3	2			
		LE302	英語科教科教育法２	3	2			
		LE303	英語教採準備コース	3		2		
		LE401	英語科授業研究	4	2			
	本学児童英語教育プログラム修了証の取得をめざす	LE203	英語の発音１	2		2		小学校の教員をめざす学生には児童英語教育関連の科目を履修することを強く勧める。 この領域を選択する場合、児童英語教育ディプロマ取得を条件とする。
		LE204	英語の発音２	2		2		
		LC207	文学研究Ａ１	2		2		
		LC208	文学研究Ａ２	2		2		
		LC209	文学研究Ｂ１	2		2		
		LC210	文学研究Ｂ２	2		2		
		LE209	児童文学１	2		2		
		LE210	児童文学２	2		2		
		LE211	児童英語教育概論１	2	2			
		LE212	児童英語教育概論２	2	2			
		LE213	児童英語教育実践１	2	2			
		LE214	児童英語教育実践２	2	2			
		LE304	児童英語指導実習論	3	2			

新

		イスラーム文化論１	２前		2	
		イスラーム文化論２	２後		2	
		キリスト教史１	２前		2	
		キリスト教史２	２後		2	
		ヨーロッパ思想史１	２前		2	
		ヨーロッパ思想史２	２後		2	
		欧米文化論１	２前		2	
		欧米文化論２	２後		2	
		音楽・音楽史１	２前		2	
		音楽・音楽史２	２後		2	
		経済史１	２前		2	
		経済史２	２後		2	
		西洋史概説	２前		2	
		西洋史	２後		2	
		日本近現代史１	２前		2	
		日本近現代史２	２後		2	
		日本思想史１	２前		2	
		日本思想史２	２後		2	
		倫理思想史１	２前		2	
		倫理思想史２	２後		2	
		歴史学フィールドワーク１	２前		2	
		歴史学フィールドワーク２	２前		2	
		歴史学フィールドワーク３	２前		2	
		歴史探究入門１	２前		1	
		歴史探究入門２	２後		1	
		歴史探究演習１	３前	2		
		歴史探究演習２	３後	2		
		歴史探究演習３	４前	2		
		歴史探究演習４	４後	2		
		卒業論文	４通		6	
		小計（42 科目）	－	8	78	0
	多文化･思想コース	聖書の世界１	１前		2	
		聖書の世界２	１後		2	
		アジア文化論１	２前		2	
		アジア文化論２	２後		2	
		イスラーム文化論１	２前		2	
		イスラーム文化論２	２後		2	
		キリスト教史１	２前		2	
		キリスト教史２	２後		2	
		ヨーロッパ思想史１	２前		2	
		ヨーロッパ思想史２	２後		2	
		異文化コミュニケーション論１	２前		2	
		異文化コミュニケーション論２	２後		2	
		英語文学１	２前		2	
		英語文学２	２後		2	
		欧米文化論１	２前		2	
		欧米文化論２	２後		2	
		児童文学１	２前		2	
		児童文学２	２後		2	
		地域文化論１	２前		2	
		地域文化論２	２後		2	
		比較宗教思想１	２前		2	
		比較宗教思想２	２後		2	
		文化交流論１	２前		2	
		文化交流論２	２後		2	
		文学研究１	２前		2	
		文学研究２	２後		2	
		倫理思想史１	２前		2	
		倫理思想史２	２後		2	
		ビジュアルアート表現１	２前		2	
		ビジュアルアート表現２	２後		2	
		ポピュラー文化論	２後		2	
		現代哲学	３前		2	
		生命倫理学	３後		2	
		文学・文化特講１	３前		2	
		文学・文化特講２	３後		2	
		多文化・思想入門１	２前		1	
		多文化・思想入門２	２後		1	
		多文化・思想演習１	３前	2		
		多文化・思想演習２	３後	2		

旧

演習科目	各コース共通	LL501	入門演習	1	2			
		LL502	コミュニケーション演習１	2	2			
		LL503	コミュニケーション演習２	2	2			
		LL504	コミュニケーション演習３	3	2			
		LL505	コミュニケーション演習４	3	2			
		LL506	コミュニケーション演習５	4		2		
		LL507	コミュニケーション演習６	4		2		
	各コース共通	LL601	卒業論文	4		6		

②キャリアコミュニケーション・コース（英語文化コミュニケーション学科）

授業科目				開講	単位数		読替科目	備　考
区分	領域	番号	名称	年次	必修	選択		
入門科目	各コース共通	LL001	コミュニケーション入門	1	2			
基幹科目	各コース共通	LL011	英文法１	1	2			
		LL012	英文法２	1	2			
		LL013	講読１	2		2		
		LL014	講読２	2		2		
		LL015	文化交流論１	2		2		
		LL016	文化交流論２	2		2		
展開科目	キャリアコミュニケーション	LB101	通訳実践	1		2		選択必修20単位以上
		LB102	検定試験準備コース（英語検定準1級）	1		2		
		LB201	検定試験準備コース（TOEIC）Ⅱ１	2		2		20単位には異文化研究（4単位まで）を含めることができる。
		LB202	検定試験準備コース（TOEIC）Ⅱ２	2		2		
		LB203	ビジネス英語１	2		2		共通基礎科目、共通専門科目およびエクステンション科目の外国語の履修を強く勧める。
		LB204	ビジネス英語２	2		2		
		LB205	通訳（入門）１	2		2		
		LB206	通訳２	2		2		
		LB207	翻訳（入門）１	2		2		
		LB208	翻訳２	2		2		
		LB209	プリゼンテーション・スキルズ１	2		2		
		LB210	プリゼンテーション・スキルズ２	2		2		
		LB211	リテラシーとコンピテンシー１	2		2		
		LB212	リテラシーとコンピテンシー２	2		2		
		LB213	海外キャリア研修	2		2		
		LB301	観光キャリア英語１	3		2		
		LB302	観光キャリア英語２	3		2		
		LB303	メディア英語１	3		2		
		LB304	メディア英語２	3		2		
		LB305	グローバル・イシューズ１	3		2		
		LB306	グローバル・イシューズ２	3		2		
		KW013	国際経済論１	2		2		
		KW014	国際経済論２	2		2		
		VB013	まちづくり論１	3		2		
		VB014	まちづくり論２	3		2		
演習科目	各コース共通	LL501	入門演習	1	2			
		LL502	コミュニケーション演習１	2	2			
		LL503	コミュニケーション演習２	2	2			
		LL504	コミュニケーション演習３	3	2			
		LL505	コミュニケーション演習４	3	2			
		LL506	コミュニケーション演習５	4		2		
		LL507	コミュニケーション演習６	4		2		
	各コース共通	LL601	卒業論文	4		6		

③文学・文化コース（英語文化コミュニケーション学科）

授業科目				開講	単位数		読替科目	備　考
区分	領域	番号	名称	年次	必修	選択		
入門科目	各コース共通	LL001	コミュニケーション入門	1	2			
基幹科目	各コース共通	LL011	英文法１	1	2			
		LL012	英文法２	1	2			
		LL013	講読１	2		2		
		LL014	講読２	2		2		
		LL015	文化交流論１	2		2		
		LL016	文化交流論２	2		2		

新

		多文化・思想演習３	４前	2		
		多文化・思想演習４	４後	2		
		卒業論文	４通		6	
		小計（42 科目）	－	8	78	0
	キャリア英語コース	英文法１	１前	2		
		英文法２	１後	2		
		通訳実践	１前		2	
		プリゼンテーション・スキルズ１	２前		2	
		プリゼンテーション・スキルズ２	２後		2	
		英語の発音１	２前		2	
		英語の発音２	２後		2	
		英語学１	２前		2	
		英語学２	２後		2	
		検定試験準備コースⅡ１	２前		2	
		検定試験準備コースⅡ２	２後		2	
		言語コミュニケーション論１	２前		2	
		言語コミュニケーション論２	２後		2	
		通訳１	２前		2	
		通訳２	２後		2	
		コミュニケーションの心理学１	３前		2	
		コミュニケーションの心理学２	３後		2	
		ビジネス英語１	３前		2	
		ビジネス英語２	３後		2	
		メディア英語１	３前		2	
		メディア英語２	３後		2	
		リテラシーとコンピテンシー１	３前		2	
		リテラシーとコンピテンシー２	３後		2	
		海外キャリア研修	３後		2	
		検定試験準備コースⅢ	３通	2		
		翻訳１	３前		2	
		翻訳２	３後		2	
		ジャパン・スタディーズ	３前		2	
		キャリア英語入門１	２前		1	
		キャリア英語入門２	２後		1	
		キャリア英語演習１	３前	2		
		キャリア英語演習２	３後	2		
		キャリア英語演習３	４前	2		
		キャリア英語演習４	４後	2		
		卒業論文	４通		6	
		小計（35 科目）	－	14	58	0
	国際社会コース	国際関係史１	１前		2	
		国際関係史２	１後		2	
		マーケティング論１	２前		2	
		マーケティング論２	２後		2	
		金融論１	２前		2	
		金融論２	２後		2	
		経済史１	２前		2	
		経済史２	２後		2	
		現代企業論	２後		2	
		国際経済論１	２前		2	
		国際経済論２	２後		2	
		国際政治論１	２前		2	
		国際政治論２	２後		2	
		国際法１	２前		2	
		国際法２	２後		2	
		地域統合論１	２前		2	
		地域統合論２	２後		2	
		アニメ文化経済論	２後		2	
		国際機構論１	３前		2	
		国際機構論２	３後		2	
		国際人権論１	３前		2	
		国際人権論２	３後		2	
		地域経営論１	３前		2	
		地域経営論２	３後		2	
		地域調査	３前		2	
		地球環境経済論１	３前		2	
		地球環境経済論２	３後		2	
		中小企業論	３前		2	
		平和学１	３前		2	
		平和学２	３後		2	

旧

展開科目	グローバル・スタディーズ/異文化理解	LC201	言語コミュニケーション論１	2		2		いずれかの領域で16単位以上修得
		LC202	言語コミュニケーション論２	2		2		
		LC203	異文化コミュニケーション論１	2		2		共通基礎科目の文学1･2を履修することを強く勧める
		LC204	異文化コミュニケーション論２	2		2		
		LB213	海外キャリア研修	2		2		
		LB211	リテラシーとコンピテンシー１	2		2		
		LB212	リテラシーとコンピテンシー２	2		2		
		LB303	メディア英語１	3		2		
		LB304	メディア英語２	3		2		
		LC205	英語文学１	2		2		
		LC206	英語文学２	2		2		
		LC301	英語文化圏研究１	3		2		
		LC302	英語文化圏研究２	3		2		
		LC303	アメリカ社会と歴史１	3		2		
		LC304	アメリカ社会と歴史２	3		2		
		LB305	グローバル・イシューズ１	3		2		
		LB306	グローバル・イシューズ２	3		2		
		LC305	カレント・イシューズ１	3		2		
		LC306	カレント・イシューズ２	3		2		
		LC307	ジャパン・スタディーズ１	3		2		
		LC308	ジャパン・スタディーズ２	3		2		
		KM011	日本文化論１	2		2		
		KM012	日本文化論２	2		2		
		KH011	日本近現代史１	2		2		
		KH012	日本近現代史２	2		2		
		KW305	国際協力論１	3		2		
		KW306	国際協力論２	3		2		
		KH013	アジア史概説	2		2		
		KH014	アジア史	2		2		
		KM205	ドイツ語文化圏研究１	2		2		
		KM206	ドイツ語文化圏研究２	2		2		
		KM209	イスラーム文化圏研究１	2		2		
		KM210	イスラーム文化圏研究２	2		2		
		KM015	ヨーロッパ文化論１	2		2		
		KM016	ヨーロッパ文化論２	2		2		
展開科目	文学と表現	LC205	英語文学１	2		2		いずれかの領域で16単位以上修得
		LC206	英語文学２	2		2		共通基礎科目の哲学1･2、政治学1･2を履修することを強く勧める
		LC207	文学研究Ａ１	2		2		
		LC208	文学研究Ａ２	2		2		

授業科目				開講	単位数		読替科目	備　考
区分	領域	番号	名称	年次	必修	選択		
展開科目	文学と表現	LC209	文学研究Ｂ１	2		2		
		LC210	文学研究Ｂ２	2		2		
		LE209	児童文学１	2		2		
		LE210	児童文学２	2		2		
		LE203	英語の発音１	2		2		
		LE204	英語の発音２	2		2		
		LC211	現代文学・文化論１	2		2		
		LC212	現代文学・文化論２	2		2		
		LC213	アメリカ現代社会１	2		2		
		LC214	アメリカ現代社会２	2		2		
		LB209	プリゼンテーション・スキルズ１	2		2		
		LB210	プリゼンテーション・スキルズ２	2		2		
		KM015	ヨーロッパ文化論１	2		2		
		KM016	ヨーロッパ文化論２	2		2		
		KH203	キリスト教史１	2		2		
		KH204	キリスト教史２	2		2		
		KH207	音楽・音楽史１	2		2		
		KH208	音楽・音楽史２	2		2		
		KI206	映像制作１	2		2		
		KI207	映像制作２	2		2		
		KI220	視覚芸術論１	2		2		
		KI221	視覚芸術論２	2		2		
		VB201	死生学１	2		2		
		VB202	死生学２	2		2		
		KI013	メディア産業論	2		2		
		KI203	アニメ文化経済論	2		2		
		KI214	コピーライティング研究	2		2		
		KI215	広報・広告コミュニケーション論	2		2		
		KI014	デジタルコンテンツ概論	2		2		
		KI209	コンテンツプロデュース論	2		2		
演習科目	各コース共通	LL501	入門演習	1	2			
		LL502	コミュニケーション演習１	2	2			
		LL503	コミュニケーション演習２	2	2			
		LL504	コミュニケーション演習３	3	2			
		LL505	コミュニケーション演習４	3	2			
		LL506	コミュニケーション演習５	4		2		
		LL507	コミュニケーション演習６	4		2		
	各コース共通	LL601	卒業論文	4		6		

新

		国際社会入門１	２前		1	
		国際社会入門２	２後		1	
		国際社会演習１	３前	2		
		国際社会演習２	３後	2		
		国際社会演習３	４前	2		
		国際社会演習４	４後	2		
		卒業論文	４通		6	
		小計（37 科目）	－	8	68	0
	地域経営コース	コミュニティデザイン１	１前	2		
		コミュニティデザイン２	１後	2		
		地域文化論１	２前		2	
		地域文化論２	２後		2	
		伝統文化・町並み景観論	２前		2	
		地域共生社会論	２前		2	
		福祉まちづくり論	２前		2	
		非営利組織経営	２後		2	
		広報・広告コミュニケーション論	２後		2	
		観光ビジネス論	２後		2	
		マーケティング論１	２前		2	
		マーケティング論２	２後		2	
		社会起業論１	２前	2		
		社会起業論２	２後	2		
		簿記会計	２後		2	
		まちづくり PBL１	２前		1	
		まちづくり PBL２	２後		1	
		地域調査	３前		2	
		地域福祉１	３前		2	
		地域福祉２	３後		2	
		ファンドレイジング	３後		2	
		ソーシャルベンチャー起業実践論１	３前		2	
		ソーシャルベンチャー起業実践論２	３後		2	
		地域経営論１	３前	2		
		地域経営論２	３後	2		
		企業経営論１	３前	2		
		企業経営論２	３後	2		
		地域経営演習１	３前	2		
		地域経営演習２	３後	2		
		地域経営演習３	４前	2		
		地域経営演習４	４後	2		
		卒業論文	４通		6	
		小計（32 科目）	－	24	42	0
	情報メディアコース	デジタルジャーナリズム論	１後		2	
		情報メディア論	１前		2	
		Web 技術	２前		2	
		アナウンス・ナレーション実習１	２前		2	
		アナウンス・ナレーション実習２	２後		2	
		アニメ文化経済論	２後		2	
		コピーライティング研究	２後		2	
		コンテンツプロデュース論	２後		2	
		スマートフォンアプリ開発１	２前		2	
		スマートフォンアプリ開発２	２後		2	
		デジタルコンテンツ概論	２後		2	
		デジタルコンテンツ制作１	２後		2	
		デジタルコンテンツ制作２	２後		2	
		ポピュラー文化論	２後		2	
		メディア産業論	２前		2	
		映像制作１	２前		2	
		映像制作２	２後		2	
		海外メディア事情（海外取材・研修）	２後		2	
		広報・広告コミュニケーション論	２後		2	
		情報セキュリティ	２後		2	
		情報メディア特論１（国内取材・研修）	２後		2	
		情報メディア特論２（国内メディア研究）	２後		2	
		情報メディア特論３（e スポーツと社会）	２後		2	
		情報法	３前		2	
		著作権法	３前		2	
		情報メディア PBL１	２前		1	
		情報メディア PBL２	２後		1	

旧

④　歴史探究コース（国際文化学科）

授業科目			開講	単位数		読替科目	備　考
区分	番号	名称	年次	必修	選択		
入門科目	KK001	国際文化入門	1	2			歴史探究コースを選択した場合、国際文化入門、入門演習、歴史学演習1～4は必修、また、日本近現代史1・2、アジア史概説・アジア史、西洋史概説・西洋史のうち、いずれか１組を選択必修。コース科目20単位以上修得。
基幹科目	KH011	日本近現代史１	2		2		
	KH012	日本近現代史２	2		2		
	KH013	アジア史概説	2		2		
	KH014	アジア史	2		2		
	KH015	西洋史概説	2		2		
	KH016	西洋史	2		2		
展開科目	KH101	科学史１	1		2		
	KH102	科学史２	1		2		
	KH103	国際関係史１	1		2		
	KH104	国際関係史２	1		2		
	KH201	日本思想史１	2		2		
	KH202	日本思想史２	2		2		
	KH203	キリスト教史１	2		2		
	KH204	キリスト教史２	2		2		
	KH205	倫理思想史１	2		2		
	KH206	倫理思想史２	2		2		
	KH207	音楽･音楽史１	2		2		
	KH208	音楽･音楽史２	2		2		
	KH209	経済史１	2		2		
	KH210	経済史２	2		2		
	KH211	日本と世界の現代史	2		2		
	KH212	近代日本史料論	2		2		
	KH213	アジア近現代史１	2		2		
	KH214	アジア近現代史２	2		2		
	KH215	歴史学フィールドワーク１	2		2		
	KH216	歴史学フィールドワーク２	2		2		
	KH217	歴史学フィールドワーク３	2		2		
	KH301	ヨーロッパ思想史１	3		2		
	KH302	ヨーロッパ思想史２	3		2		
	LC303	アメリカ社会と歴史１	3		2		
	LC304	アメリカ社会と歴史２	3		2		
演習科目	KK501	入門演習	1	2			
	KH501	歴史学演習１	2	2			
	KH502	歴史学演習２	2	2			
	KH503	歴史学演習３	3	2			
	KH504	歴史学演習４	3	2			
	KH505	歴史学演習５	4		2		
	KH506	歴史学演習６	4		2		
	KH601	卒業論文	4		6		

新

		情報メディア演習１	３前	2		
		情報メディア演習２	３後	2		
		情報メディア演習３	４前	2		
		情報メディア演習４	４後	2		
		卒業論文	４通		6	
		小計（32 科目）	－	8	58	0
	小計（191 科目）		－	70	308	0
教職課程		教育原理	２後			2
		教職入門	１後			2
		教育制度論	２前			2
		発達と学習の教育心理学	２後			2
		特別支援教育概論	３前			1
		カリキュラム論	３前			2
		道徳教育指導論	３前			2
		総合的な学習の指導法	２前			1
		特別活動論	２後			2
		教育の方法・技術と ICT の活用	３後			2
		生徒・進路指導論	３後			2
		教育相談	３前			2
		教育実習（中・高）	４前･後			4
		教育実習事前事後指導	3～4 通			1
		教職実践演習	４後			2
		小計（15 科目）	－	0	0	29
合計（370 科目）			－	88	663	29

学位又は称号	学士（文学）	学位又は学科の分野

卒業・修了要件及び履修方法

○基盤科目（次の条件を満たしつつ、48 単位以上修得）

必修 18 単位（うち基礎演習１（2 単位）、基礎演習２（2 単位）、キャリア開発１（2 単位）、キャリア開発２（2 単位）は必履修）、E 群 言語とコミュニケーションについて、キャリア英語コースは英語 32 単位を必修、キャリア英語コース以外のコースは英語、ドイツ語、中国語いずれかの言語を 8 単位（英語は英語Ⅰ読む･書くと英語Ⅱ読む・書くもしくは英語Ⅰ聴く・話すと英語Ⅱ聴く・話す、ドイツ語はドイツ語Ⅰ文法とドイツ語Ⅱ文法、中国語は中国語Ⅰ文法と中国語Ⅱ文法）、日本語非母語話者はレベルに応じ 48 単位を上限に日本語を修得のこと。

○専門科目（主専攻 32 単位以上を含めて 60 単位以上修得）

主専攻に加えて副専攻を履修する場合、副専攻としては 24 単位以上修得

○卒業要件単位：124 単位以上

○履修登録の上限:1 学期 24 単位

○コース科目の必修･選択必修：

各コースとも、次の組み合わせのいずれかを選択必修とする。

・歴史探究入門１・２
・多文化･思想入門１・２
・キャリア英語入門１・２
・国際社会入門１・２
・まちづくり PBL１・２
・情報メディア PBL１・２

【歴史探究コース】

基盤科目である「日本史概説」「歴史学」「考古学１」「考古学２」から 4 単位選択必修、コース科目である「日本近現代史１」「日本近現代史２」「アジア史概説」「アジア史」「西洋史概説」「西洋史」「キリスト教史１」「キリスト教史２」「アメリカ社会と歴史１」「アメリカ社会と歴史２」「アジア近現代史１」「アジア近現代史２」から 8 単位選択必修、コース科目である「歴史探究演習 1」「歴史探究演習２」「歴史探究演習３」「歴史探究演習４」（計 8 単位）必修

【多文化･思想コース】

基盤科目である「文学１」「文学２」「文化人類学１」「文化人類学２」「哲学１」「哲学２」から 4 単位選択必修、コース科目である「欧米文化論１」「欧米文化論２」「アジア文化論１」「アジア文化論２」「イスラーム文化論１」「イスラーム文化論２」「地域文化論１」「地域文化論２」「倫理思想史１」「倫理思想史２」「比較宗教思想１」「比較宗教思想２」「文学研究１」「文学研究２」「児童文学１」「児童文学２」から 4 単位選択必修、コース科目である「多文化･思想演習１」「多文化･思想演習２」「多文化･思想演習３」「多文化･思想演習４」（計 8 単位）必修

【キャリア英語コース】

コース科目である「検定試験準備コースⅢ」「英文法１」「英文法２」「キャリア英語演習１」「キャリア英語演習２」「キャリア英語演習３」「キャリア英語演習４」14 単位必修、コース科目である「翻訳１」「翻訳２」「コミュニケーションの心理学１」「コミュニケーションの心理学２」「リテラシーとコンピテンシー１」「リテラシーとコンピテンシー２」「英語学１」「英語学２」「検定試験準備コースⅡ１」「検定試験準備コースⅡ２」から 4 単位選択必修

【国際社会コース】

基盤科目である「経済学１」「経済学２」「政治学１」「政治学２」「日本国憲法１」「日本国憲法２」から 4 単位選択必修、コース科目である「地球環境経済論１」「地球環境経済論２」「国際政治論１」「国際政治論２」「国際経済論１」「国際経済論２」「国際法１」「国際法２」から 6 単位選

旧

⑤多文化理解コース（国際文化学科）

授業科目 区分	番号	名称	開講年次	単位数 必修	単位数 選択	読替科目	備考
入門科目	KK001	国際文化入門	1	2			多文化理解コースを選択した場合、国際文化入門、入門演習、文化論演習1･2･3･4は必修、また日本文化論1･2、アジア文化論1･2、ヨーロッパ文化論1･2のうち、いずれか１組を選択必修。コース科目20単位以上修得。
基幹科目	KM011	日本文化論１	2		2		
	KM012	日本文化論２	2		2		
	KM013	アジア文化論１	2		2		
	KM014	アジア文化論２	2		2		
	KM015	ヨーロッパ文化論１	2		2		
	KM016	ヨーロッパ文化論２	2		2		
展開科目	KH101	科学史１	1		2		
	KH102	科学史２	1		2		
	KM201	地域文化論１	2		2		
	KM202	地域文化論２	2		2		
	KM203	アジア民俗学１	2		2		
	KM204	アジア民俗学２	2		2		
	KM205	ドイツ語文化圏研究１	2		2		
	KM206	ドイツ語文化圏研究２	2		2		
	KM207	フランス語文化圏研究１	2		2		
	KM208	フランス語文化圏研究２	2		2		
	KM209	イスラーム文化圏研究１	2		2		
	KM210	イスラーム文化圏研究２	2		2		
	KH205	倫理思想史１	2		2		
	KH206	倫理思想史２	2		2		
	LC301	英語文化圏研究１	3		2		
	LC302	英語文化圏研究２	3		2		
	LC211	現代文学・文化論１	2		2		
	LC212	現代文学・文化論２	2		2		
	LL015	文化交流論１	2		2		
	LL016	文化交流論２	2		2		
	LC203	異文化コミュニケーション論１	2		2		
	LC204	異文化コミュニケーション論２	2		2		
	LC201	言語コミュニケーション論１	2		2		
	LC202	言語コミュニケーション論２	2		2		
	KM211	比較宗教思想１	2		2		
	KM212	比較宗教思想２	2		2		
	KH301	ヨーロッパ思想史１	3		2		
	KH302	ヨーロッパ思想史２	3		2		
	KM213	地誌	2		2		
	KM301	現代哲学１	3		2		
	KM302	現代哲学２	3		2		
	VS303	生命倫理学１	3		2		
	VS304	生命倫理学２	3		2		

授業科目 区分	番号	名称	開講年次	単位数 必修	単位数 選択	読替科目	備考
演習科目	KK501	入門演習	1	2			
	KM501	文化論演習１	2	2			
	KM502	文化論演習２	2	2			
	KM503	文化論演習３	3	2			
	KM504	文化論演習４	3	2			
	KM505	文化論演習５	4		2		
	KM506	文化論演習６	4		2		
	KM601	卒業論文	4		6		

新	旧
択必修、コース科目である「国際社会演習１」「国際社会演習２」「国際社会演習３」「国際社会演習４」（計８単位）必修 **【地域経営コース】** 基盤科目である「経営学１」「経営学２」の２科目必修、コース科目である「コミュニティデザイン１」「コミュニティデザイン２」「社会起業論１」「社会起業論２」「企業経営論１」「企業経営論２」「地域経営論 1」「地域経営論 2」「地域経営演習１」「地域経営演習２」「地域経営演習３」「地域経営演習４」の 24 単位必修、コース科目である「地域調査」「地域共生社会論」「地域福祉１」「地域福祉２」「ファンドレイジング」「非営利組織経営」「ソーシャルベンチャー起業実践論１」「ソーシャルベンチャー起業実践論２」から８単位選択必修 **【情報メディアコース】** 基盤科目である「時事問題研究１」「時事問題研究２」から１科目選択必修、基盤科目である「情報技術資格対策（IT パスポート）」を必履修、コース科目である「メディア産業論」「デジタルコンテンツ概論」「情報メディア論」「デジタルジャーナリズム論」から４単位選択必修、コース科目である「デジタルコンテンツ制作１」「デジタルコンテンツ制作２」「映像制作１」「映像制作２」「スマートフォンアプリ開発１」「スマートフォンアプリ開発２」「アナウンスナレーション実習１」「アナウンスナレーション実習２」から１科目選択必修、コース科目である「情報メディア演習１」「情報メディア演習２」「情報メディア演習３」「情報メディア演習４」（計８単位）必修	⑥　国際社会コース（国際文化学科） 国際社会コースを選択した場合、国際文化入門、入門演習、現代社会演習1～4は必修。また、国際政治論1･2、国際経済論1･2、国際法1･2のうち、いずれか１組を選択必修。 コース科目20単位以上修得。

授業科目			開講	単位数		読替科目	備　考
区分	番号	名称	年次	必修	選択		
入門科目	KK001	国際文化入門	1	2			
基幹科目	KW011	国際政治論１	2		2		
	KW012	国際政治論２	2		2		
	KW013	国際経済論１	2		2		
	KW014	国際経済論２	2		2		
	KW015	国際法１	2		2		
	KW016	国際法２	2		2		
展開科目	KH103	国際関係史１	1		2		
	KH104	国際関係史２	1		2		
	KH209	経済史１	2		2		
	KH210	経済史２	2		2		
	KW201	マーケティング論１	2		2		
	KW202	マーケティング論２	2		2		
	KW203	地域統合論１	2		2		
	KW204	地域統合論２	2		2		
	KW205	金融論１	2		2		
	KW206	金融論２	2		2		
	KW207	地域産業論１	2		2		
	KW208	地域産業論２	2		2		
	KW209	現代企業論	2		2		
	KI015	時事問題研究１	2		2		
	KI016	時事問題研究２	2		2		
	KW301	国際人権論１	3		2		
	KW302	国際人権論２	3		2		
	KW303	国際機構論１	3		2		
	KW304	国際機構論２	3		2		
	KW305	国際協力論１	3		2		
	KW306	国際協力論２	3		2		
	KW307	平和学１	3		2		
	KW308	平和学２	3		2		
	KW309	環境経済学１	3		2		
	KW310	環境経済学２	3		2		
	KW311	中小企業論	3		2		
	VS305	社会福祉調査の基礎	3		2		
	LB209	プリゼンテーションスキルズ1	2		2		
	LB210	プリゼンテーションスキルズ2	2		2		
演習科目	KK501	入門演習	1	2			
	KW501	現代社会演習１	2	2			
	KW502	現代社会演習２	2	2			
	KW503	現代社会演習３	3	2			
	KW504	現代社会演習４	3	2			
	KW505	現代社会演習５	4		2		
	KW506	現代社会演習６	4		2		
	KW601	卒業論文	4		6		

新	旧

⑦　情報メディア・コース（国際文化学科）

授業科目			開講	単位数		読替科目	備　考
区分	番号	名称	年次	必修	選択		
入門科目	KK001	国際文化入門	1	2			情報メディア・コースを選択した場合、国際文化入門、入門演習、情報メディア演習1･2･3･4は必修。このほか、情報メディア論、デジタルジャーナリズム論、メディア産業論、デジタルコンテンツ概論から4単位を選択必修、時事問題研究1または2を選択必修。情報技術資格対策（ITパスポート）は必履修。 コース科目20単位以上修得。
基幹科目	KI011	情報メディア論	1		2		
	KI012	デジタルジャーナリズム論	1		2		
	KI013	メディア産業論	2		2		
	KI014	デジタルコンテンツ概論	2		2		
	KI015	時事問題研究１	2		2		
	KI016	時事問題研究２	2		2		
展開科目	KI201	Web技術	2		2		
	KI202	情報セキュリティ	2		2		
	KI203	アニメ文化経済論	2		2		
	KI204	デジタルコンテンツ制作１	2		2		
	KI205	デジタルコンテンツ制作２	2		2		
	KI206	映像制作１	2		2		
	KI207	映像制作２	2		2		
	KI208	コンテンツマネジメント	2		2		
	KI209	コンテンツプロデュース論	2		2		
	KI210	スマートフォンアプリ開発１	2		2		
	KI211	スマートフォンアプリ開発２	2		2		
	KI212	アナウンス・ナレーション実習１	2		2		
	KI213	アナウンス・ナレーション実習２	2		2		
	KI214	コピーライティング研究	2		2		
	KI215	広報・広告コミュニケーション論	2		2		
	KI216	情報メディア特論１（国内取材・研修）	2		2		
	KI217	海外メディア事情（海外取材・研修）	2		2		
	KI218	情報メディア特論２（国内メディア研究）	2		2		
	KI219	情報メディア特論３（eスポーツと社会）	2		2		
	KI220	視覚芸術論１	2		2		
	KI221	視覚芸術論２	2		2		
	KI222	情報メディアPBL１	2		2		
	KI223	情報メディアPBL２	2		2		
	KW201	マーケティング論１	2		2		
	KW202	マーケティング論２	2		2		
	KI301	著作権法	3		2		
	KI302	情報法	3		2		
	LB303	メディア英語１	3		2		
	LB304	メディア英語２	3		2		
演習科目	KK501	入門演習	1	2			
	KI501	情報メディア演習1	2	2			
	KI502	情報メディア演習2	2	2			
	KI503	情報メディア演習3	3	2			
	KI504	情報メディア演習4	3	2			
	KI505	情報メディア演習5	4		2		
	KI506	情報メディア演習6	4		2		
	KI601	卒業論文	4		6		

⑧ソーシャルビジネス・コース（共生社会学科）

授業科目の名称			開講	単位数		読替科目	備考
区分	番号	名称	年次	必修	選択		
入門科目	VV001	ソーシャルマネジメント入門	1	2			
基幹科目	VS011	社会福祉１	1	2			
	VS012	社会福祉２	1	2			
	VB011	社会起業論１	2	2			
	VB012	社会起業論２	2	2			
	VB013	まちづくり論１	3	2			
	VB014	まちづくり論２	3	2			

新	旧							
	展開科目１	VB101	キリスト教社会福祉思想史１	1		2		選択必修12単位以上
		VB102	キリスト教社会福祉思想史２	1		2		
		VS101	心理学と心理的支援	1		2		
		VS102	ソーシャルワークの基盤と専門職１	1		2		
	社会福祉関連科目	VS201	ソーシャルワークの基盤と専門職２	2		2		
		VS202	ソーシャルワークの理論と方法１	2		2		
		VS301	ソーシャルワークの理論と方法２	3		2		
		VS302	ソーシャルワークの理論と方法３	3		2		
		VS203	地域福祉１	2		2		
		VS204	地域福祉２	2		2		
		VS205	高齢者福祉	2		2		
		VS206	障害者福祉	2		2		
		VS207	児童・家庭福祉	2		2		
		VB201	死生学１	2		2		
		VB202	死生学２	2		2		
		VS306	社会保障１	3		2		
		VS307	社会保障２	3		2		
		VS311	権利擁護を支える法制度	3		2		
		VS308	貧困に対する支援	3		2		
		VS209	保健医療と福祉	2		2		
	展開科目２	KW207	地域産業論1	2		2		選択必修12単位以上
		KW208	地域産業論２	2		2		
		KW201	マーケティング論１	2		2		
		KW202	マーケティング論２	2		2		
		KW209	現代企業論	2		2		
		VB301	非営利組織論１	3		2		
		VB302	非営利組織論２	3		2		
	ソーシャルビジネス関連科目	VB303	国際福祉論	3		2		
		VS305	社会福祉調査の基礎	3		2		
		VS309	福祉サービスの組織と経営	3		2		
		KW301	国際人権論１	3		2		
		KW302	国際人権論２	3		2		
		KW305	国際協力論１	3		2		
		KW306	国際協力論２	3		2		
		KW307	平和学１	3		2		
		KW308	平和学２	3		2		
		KW309	環境経済学１	3		2		
		KW310	環境経済学２	3		2		
		KW311	中小企業論	3		2		
		KW013	国際経済論１	2		2		
		KW014	国際経済論２	2		2		
	演習科目	VV501	入門演習	1	2			
		VV502	ソーシャルマネジメント演習１	2	2			
		VV503	ソーシャルマネジメント演習２	2	2			
		VV504	ソーシャルマネジメント演習３	3	2			
		VV505	ソーシャルマネジメント演習４	3	2			
		VV506	ソーシャルマネジメント演習５	4		2		
		VV507	ソーシャルマネジメント演習６	4		2		
		VB501	フィールド・トレーニング事前事後指導１	3	1			
		VB502	フィールド・トレーニング事前事後指導２	3	1			
		VB503	フィールド・トレーニング１	3	2			
		VB504	フィールド・トレーニング２	4		2		
		VV508	海外福祉研修	3		2		
		VV601	卒業論文	4		6		

新	旧

⑨ソーシャルワーク・コース（共生社会学科）

授業科目 区分	番号	名称	開講 年次	単位数 必修	単位数 選択	読替科目	備考
入門科目	VV001	ソーシャルマネジメント入門	1	2			
基幹科目	VS011	社会福祉１	1	2		社会福祉の原理と政策	
	VS012	社会福祉２	1	2			
	VB011	社会起業論１	2	2			
	VB012	社会起業論２	2	2			
展開科目	VB101	キリスト教社会福祉思想史１	1		2		
	VB102	キリスト教社会福祉思想史２	1		2		
	VS101	心理学と心理的支援	1	2			
	VS102	ソーシャルワークの基盤と専門職１	1	2		ソーシャルワークの基盤と専門職	
	VS201	ソーシャルワークの基盤と専門職２	2	2		ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	
	VS202	ソーシャルワークの理論と方法１	2	2		ソーシャルワークの理論と方法	
	VS301	ソーシャルワークの理論と方法２	3	2			他学科受講不可
	VS302	ソーシャルワークの理論と方法３	3	2		ソーシャルワークの理論と方法（専門）	他学科受講不可
	VS401	ソーシャルワークの理論と方法４	4	2			他学科受講不可
	KH205	倫理思想史１	2		2		
	KH206	倫理思想史２	2		2		
	VB201	死生学１	2		2		
	VB202	死生学２	2		2		
	VS203	地域福祉１	2	2		地域福祉実践論	
	VS204	地域福祉２	2	2			
	VS205	高齢者福祉	2	2			
	VS206	障害者福祉	2	2			
	VS207	児童・家庭福祉	2	2			
	VS208	医学概論	2	2			
	VS209	保健医療と福祉	2	2			
	VS303	生命倫理学１	3		2		
	VS304	生命倫理学２	3		2		
	VS305	社会福祉調査の基礎	3	2			
	VS306	社会保障１	3	2		社会保障	
	VS307	社会保障２	3	2			
	VS308	貧困に対する支援	3	2			
	VS309	福祉サービスの組織と経営	3	2			
	VS310	刑事司法と福祉	3	2			
	VS311	権利擁護を支える法制度	3	2			
	VB301	非営利組織論1	3		2		
	VB302	非営利組織論２	3		2		
	VB013	まちづくり論1	3		2		
	VB014	まちづくり論2	3		2		
	KW301	国際人権論１	3		2		
	KW302	国際人権論２	3		2		
	KW307	平和学１	3		2		
	KW308	平和学２	3		2		
演習科目	VV501	入門演習	1	2			
	VV502	ソーシャルマネジメント演習１	2	2			
	VV503	ソーシャルマネジメント演習２	2	2			
	VV504	ソーシャルマネジメント演習３	3	2			
	VV505	ソーシャルマネジメント演習４	3	2			
	VV506	ソーシャルマネジメント演習５	4		2		
	VV507	ソーシャルマネジメント演習６	4		2		
専門技術演習科目	VS501	ソーシャルワーク演習１	2	2		ソーシャルワーク演習	他学科への開講は不可
	VS502	ソーシャルワーク演習２	2	2		ソーシャルワーク演習（専門）	他学科への開講は不可
	VS503	ソーシャルワーク演習３	3	2			他学科への開講は不可
	VS504	ソーシャルワーク演習４	3	2			他学科への開講は不可
	VS505	ソーシャルワーク演習５	4	2			他学科への開講は不可
	VV508	海外福祉研修	3		2		
	VV601	卒業論文	4		6		

更に、学科に関わりなく次のとおり必修となる。

（1）以下の科目から4単位以上修得すること

「卒業論文（６単位）」「コミュニケーション演習５（２単位）」「コミュニケーション演習６（２単位）」「歴史学演習５（２単位）」「歴史学演習６（２単位）」「文化論演習５（２単位）」「文化論演習６（２単位）」「現代社会演習５（２単位）」「現代社会演習６（２単位）」「情報メディア演習５（２単位）」「情報メディア演習６（２単位）」「ソーシャルマネジメント演習５（２単位）」「ソーシャルマネジメント演習６（２単位）」「サービスラーニング１（卒）（２単位）」「サービスラーニング２（卒）（２単位）」「地域学研究（４単位）」

新	旧

（２）以下の科目から2単位以上修得すること

「地域学入門（1単位）」「インターンシップ（1～2単位）」「ボランティア（1～2単位）」「サービスラーニング（1～2単位）」「通訳実践（2単位）」「留学　異文化研究（1～16単位）」「情報メディア特論１（国内取材･研修）（2単位）」「情報メディア特論２（国内メディア研究）（2単位）」「他大学専門科目（沖縄キリスト教学院大学への留学）（1～60単位）」「情報メディアPBL１（2単位）」「情報メディアPBL２（2単位）」「歴史学フィールドワーク１（2単位）」「歴史学フィールドワーク２（2単位）」「歴史学フィールドワーク３（2単位）」「フィールド・トレーニング１（2単位）」「フィールド・トレーニング２（2単位）」「フィールド・トレーニング事前事後指導１（1単位）」「フィールド・トレーニング事前事後指導２（1単位）」「海外メディア事情（海外取材･研修）（2単位）」「海外キャリア研修（2単位）」「海外福祉研修（2単位）」

※１．共通基礎科目

共通基礎科目Ａ～H群から、必修科目を含め、英語文化コミュニケーション学科及び国際文化学科は48単位以上、

共生社会学科は40単位以上、それぞれ修得すること。

※２．共通専門科目・学科専門科目

共通専門科目と学科専門科目にわたって、必修科目を含め、英語文化コミュニケーション学科及び共生社会学科は60単位以上、国際文化学科

は60単位以上、国際文化学科は50単位以上修得すること。但し、学科・コース等の専門科目の必要修得単位数
については、別に定める。

※３．卒業に必要な単位数

上記※１・※２の要件を満たして124単位以上修得すること。

(4)教職課程（英語文化コミュニケーション学科、国際文化学科）

授業科目			開講	単位数		備　考	履修要件
区分	番号	名称	年次	必修	選択		
教育の基礎的理解に関する科目	TC101	教職入門	1	2		卒業要件単位外	教職課程履修全学生必修
	TC201	教育原理	2	2		卒業要件単位外	教職課程履修全学生必修
	TC202	発達と学習の教育心理学	2	2		卒業要件単位外	教職課程履修全学生必修
	TC203	教育制度論	2	2		卒業要件単位外	教職課程履修全学生必修
	TC301	カリキュラム論	3	2		卒業要件単位外	教職課程履修全学生必修
	TC302	特別支援教育概論	3	1		卒業要件単位外	教職課程履修全学生必修
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	TC204	特別活動論	2	2		卒業要件単位外	教職課程履修全学生必修
	TC303	生徒・進路指導論	3	2		卒業要件単位外	教職課程履修全学生必修
	TC304	道徳教育指導論	3	2		卒業要件単位外	高校の免許のみ取得希望の学生は選択科目
	TC305	教育相談	3	2		卒業要件単位外	教職課程履修全学生必修
	TC306	教育の方法・技術とICTの活用	3	2		卒業要件単位外	教職課程履修全学生必修
	TC205	総合的な学習の指導法	2	1		卒業要件単位外	教職課程履修全学生必修
教育実践に関する科目	TC501	教職実践演習	4	2		卒業要件単位	教職課程履修全学生必修
	TC701	教育実習事前事後指導	3～4	1		卒業要件単位外	教職課程履修全学生必修
	TC702	教育実習（中･高）	4	4		卒業要件単位	中学校及び高校の免許を合わせて取得希望の学生は必修
	TC703	教育実習（高）	4	2		卒業要件単位	高校の免許のみ取得希望の学生は必修
教科の指導法に関する科目	KT301	社会科・公民科教科教育法	3	2		卒業要件単位	教職課程履修全学生必修
	KT302	社会科・公民科指導法	3	2		卒業要件単位	教職課程履修全学生必修
	KT303	社会科・地理歴史科教科教育法	3	2		卒業要件単位	教職課程履修全学生必修
	KT401	社会科・地理歴史科指導法	4	2		卒業要件単位	教職課程履修全学生必修

※ 「必修」は、教職課程履修の必修科目の意味である。

(5)　社会福祉士国家試験受験資格課程（共生社会学科）

社会福祉士指定科目名	開講	単位数		番号	本学読替授業科目名	備考
	年次	必修	選択			
医学概論	2	2				
心理学と心理的支援	1	2				
社会学と社会システム	1	4			社会学1･2	
社会福祉の原理と政策	1	4			社会福祉1･2	
社会福祉調査の基礎	3	2				
ソーシャルワークの基盤と専門職	1	2			ソーシャルワークの基盤と専門職1	
ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	2	2			ソーシャルワークの基盤と専門職2	
ソーシャルワークの理論と方法	2	4			ソーシャルワークの理論と方法1･2	
ソーシャルワークの理論と方法（専門）	3･4	4			ソーシャルワークの理論と方法3･4	
地域福祉と包括的支援体制	2	4			地域福祉1･2	
福祉サービスの組織と経営	3	2				
社会保障	3	4			社会保障1･2	
高齢者福祉	2	4				
障害者福祉	2	4				
児童・家庭福祉	2	2				
貧困に対する支援	3	2				
保健医療と福祉	2	2				
権利擁護を支える法制度	3	2				
刑事司法と福祉	3	2				
ソーシャルワーク演習	2	2			ソーシャルワーク演習1	30時間
ソーシャルワーク演習（専門）	2･3･4	8			ソーシャルワーク演習2･3･4･5	120時間
ソーシャルワーク実習指導	2･3･4	4		SW701, SW702, SW703, SW704	ソーシャルワーク実習指導1･2･3･4	90時間　卒業要件単位に含めない
ソーシャルワーク実習	3･4	6		SW705, SW706, SW709	ソーシャルワーク実習1･2･3	240時間　卒業要件単位に含めない
	4		2	SW707	特別実習Ａ	卒業要件単位に含めない
	4		1	SW708	特別実習Ｂ	卒業要件単位に含めない
	3		2	SW301	国家試験対策講座1	卒業要件単位に含めない
	4		2	SW401	国家試験対策講座2	卒業要件単位に含めない
	4		1	SW402	国家試験対策講座3	卒業要件単位に含めない
	4		2	SW403	国家試験対策講座4	卒業要件単位に含めない

敬和学園大学学則

（平成2年12月21日
認　　可）

最新改正　2026年4月1日

※教授会部分抜粋

第4章　教授会

（教授会）

第6条　本学に教授会を置く。

2　教授会は、専任の教授をもって組織する。

3　教授会は、学長がこれを招集し、その議長となる。

4　教授会は、必要あるとき、准教授、専任講師その他の教職員を出席させることができる。

（教授会の審議事項）

第7条　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行なうに当たり、意見を述べるものとする。ただし、第3号、第5号および第7号の事項に関して、学長決定の後、理事会の承認を必要とする。

(1)　学生の入学、卒業及び課程の修了その他学生の身分取り扱いに関する事項

(2)　学位の授与に関する事項

(3)　教員の人事に関する事項

(4)　教育課程に関する事項

(5)　学則その他重要な学内諸規則等に関する事項

(6)　学術研究に関する事項

(7)　教室、研究室、図書館その他教育研究施設に関する事項

(8)　学内の宗教活動に関する事項

(9)　前8号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

2　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、および学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

3　教授会の運営に関し、必要な事項は、別に定める。

4　教授会の議事はこれを公開しない。

敬和学園大学教授会運営内規

（1994 年 10 月 1 日　制　定）

最新改正　2019 年 4 月 10 日

第 1 条　この内規は、敬和学園大学学則（平成 2 年 12 月 21 日認可）第 6 条第 2 項に基づき、教授会の運営について定めるものとする。

第 2 条　定例教授会は、原則として月 1 回開催する。

第 3 条　教授会は、次のいずれかの場合には、臨時に開催する。

(1)　学長が必要と認めた場合

(2)　教授、准教授、専任講師の総数の 3 分の 1 以上の者から会議に付議すべき事項を示して教授会の招集を請求された場合

2　前項第 2 号の場合、学長は、その請求のあった日から 14 日以内にこれを招集しなければならない。

第 4 条　教授会は、その構成員の 3 分の 2 以上の出席をもって成立する。

2　教授会の構成員が職務の都合上やむを得ず出席できない場合は、別に定める委任状の提出をもって出席したものとみなす。

3　前項の定足数には、在外研究中の者、長期出張中の者及び休職者を算入しない。

第 5 条　議事は、出席者の過半数によって決する。可否同数のときは、議長の決するところによる。

2　棄権が過半数の場合は、再審議とする。

第 6 条　教授会の事務は、教務課長がこれに当たり、議事録の作成及び保管を担当する。

第 7 条　人事に関する事項については、別に定める。

第 8 条　この内規の改廃には、教授会の決議を要する。

附　則

この内規は、1994 年 10 月 1 日から施行する。

附　則（1999 年 9 月 29 日）

この内規は、1999 年 9 月 29 日から施行する。

附　則（2006 年 11 月 30 日）

この内規は、2007 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（2019 年 4 月 10 日）

この内規は、2019 年 4 月 10 日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類

敬和学園大学

目次

１．設置の趣旨及び必要性 4
（１）新たな学部学科を設置する必要性（社会的背景） 4
（２）敬和学園大学 国際教養学科の教育の方向性と教育研究上の目的 4
（３）国際教養学科の教育方針 5
（４）学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れの基本方針（アドミッション・ポリシー） 8
（５）３つのポリシーの対応関係....12
２．学部・学科等の特色....14
３．大学、学部・学科等の名称及び学位の名称 16
（１）学科の名称 16
（２）学位の名称 16
４．教育課程の編成の考え方及び特色 17
（１）教育課程の編成の考え方及び特色....17
（２）教育課程の構成と特色（※科目群ごとに説明） 18
（３）各科目区分の構成とその理由 20
（４）履修順序（配当年次）の考え方、科目の設定単位数の考え方....28
（５）必修科目・選択科目・自由科目の構成とその理由 28
（６）主要授業科目について 29
（７）一年間の授業期間について....29
５．教育方法，履修指導方法及び卒業要件....30
（１）授業の方法と学生数....30
（２）配当年次....30
（３）卒業要件....31
（４）履修モデル及び卒業論文単位数の考え方....31
（５）履修科目の年間登録上限（ＣＡＰ制） 32
（６）他大学における授業科目の履修について....32
６．実習の具体的計画....33
（１）実習の具体的計画 33
７．企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画....37
８．取得可能な資格 41
９．入学者選抜の概要....42
（１）募集人員 42
（２）主たる選抜 42

（３）その他の選抜 44
１０．教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色 46
（１）教員組織の編成の考え方及び特色.....46
（２）教員の年齢構成.....46
１１．研究の実施についての考え方，体制，取組.....47
１２．施設，設備等の整備計画.....48
（１）校地、運動場の整備計画 48
（２）校舎等施設の整備計画.....48
（３）図書等の資料及び図書館の整備計画.....48
１３．管理運営 51
（１）教授会 51
（２）教学マネージメント委員会.....51
（３）その他、教学に関連する委員会 52
１４．自己点検・評価.....53
（１）実施体制・実施方法.....53
（２）結果の活用・公表及び評価項目等.....53
１５．情報の公表.....54
１６．教育内容等の改善を図るための組織的な研修等 57
（１）FD/カリキュラム委員会の設置.....57
（２）年間を通じた FD 活動 57
（３）新学科における FD 活動の組織的取り組み 57
１７．社会的・職業的自立に関する指導等及び体制 58
（１）教育課程内の取組について.....58
（２）教育課程外の取組について.....58
（３）適切な体制の整備について.....58

１．設置の趣旨及び必要性

(1)新たな学部学科を設置する必要性(社会的背景)

グローバル化の進む21世紀初頭の現在、地球環境・生態系破壊の危険性や、地域紛争・テロ、新型感染症、金融危機といった問題、国際関係の変化と情報技術の進展（society 5.0）等により、世界は不確実性や不透明性を増した状況となっている。予測のつかない困難が人間・国家・人類社会を襲っている。世界各国と人類社会が共通に直面しているこうした現代のさまざまな問題と課題は、それらに対応しうる知識・知性・教養の向上を切実に求めている。日本学術会議から提言された「２１世紀の教養と教養教育（平成22年）」ではその知識・知性・教養とは「異質なもの（個人・民族・国家や宗教・文化）の間での相互信頼と協力・協働を促進し、それらの問題や課題の性質・構造を見極め、合理的かつ適切な解決方法を構想し実行していく基盤となるもの」とされている。

現代社会が直面している諸問題は、一つの学問分野の知見のみで適切にその全体像を理解することは困難であり、なおかつ、異なる利害・異なる価値観が現在進行形で衝突する論争的な性格を有している。更に、今後、異なる価値観や視点を持つ他者との協働の機会は増えることが予想される。予測困難な時代では、私たち一人一人、そして社会全体が答えのない問いにどう立ち向かうのかが問われており、一義的な正解の存在しない問題について、今までのやり方を当てはめるのではなく、既存の社会の流れや枠組みとは異なる価値観をもって、新しい発想で新しい社会を創っていける人材が社会から求められている。

(2)敬和学園大学 国際教養学科の教育の方向性と教育研究上の目的

開学以来リベラルアーツ教育を貫いてきた敬和学園大学では、今一度リベラルアーツの原点に立ち返り、当たり前を疑うこと、自分自身の問いをもつこと、分野の異なる学問により得た知識を融合させて多角的に考えることを教育の基盤に据えた学科となるための改組を構想している。自分を生きづらくさせている事柄を見出し、知らなかったことばの定義や奥行きを知るために、入学後１、２年の基盤となる教養教育を経て、主専攻となる専門分野を 3 年次になってから決定する。それまでに学生は６つのコースから自分のやりたい学びを探し出すカリキュラム編成としている。

主専攻は自らの関心や将来設計に合わせて決定し、専門性を深めることができる。他コースも副専攻として履修したり、興味のある科目を履修したりすることで、分野を超えた横断的で多様な学びができる。さらに、授業内外での実践的な活動によって知から経験へというベクトルだけでなく、経験から知へのベクトルで経験が知識や知恵に結びついていく循環の中で学び、知識と経験がしっかりと結びついた人を育成する。21 世紀に必要なデータサイエンスやAI技術については、専攻や学年を超えて初歩から学ぶことができる。

教職課程では、中学校教諭一種免許状（社会、英語）、高等学校教諭一種免許状（地理歴史、公民、英語）、小学校教諭二種免許状（玉川大学通信教育課程での併修が必要）の取得が可能となる（認可申請中）。またキリスト教を深く学びたい人のための「キリスト教教育」、子ども達に英語を教えたい人のための「児童英語教育」、外国籍の人に日本語を教えたい人のための「日本語教育」の３つの ディプロマ・プログラムを提供し、修了者

には本学独自のディプロマ（修了証）を発行する。

「人権・共生・平和」に価値をおいたキリスト教教育・地域貢献教育・国際理解教育をとおして、自分と異なる考え方をもつ多くの人々と出会い対話することで、思い込みや偏見から自由になり、あるいは自分を支配してきた世の中の価値観から解放されることで、自分を磨き、今よりも思慮深く寛容で、自分のことは自分で決められる行動力のある人を育成する。その過程で教養、語学力、デジタル技術やコミュニケーション能力等の汎用的能力は培われていく。人として成長し続けるための基盤となる 4 年間を、自然豊かで歴史ある新潟県新発田市・聖籠町で地に足をつけてじっくり学び、やがて社会に貢献したいと願う人を歓迎する。

令和８（2026）年度から敬和学園大学では、既設の英語文化コミュニケーション学科、国際文化学科、共生社会学科を募集停止し、３学科を統合した「国際教養学科」を新設し、1 学科 6 コース制（歴史探究、多文化・思想、キャリア英語、地域経営、国際社会、情報メディア）に移行する。この再編により、従来の学科の枠組みを超えて、複数の学問分野を横断的に学び、異なる価値観を学ぶことで物事を多角的に考えられ、社会に貢献できる人材を養成する。

≪国際教養学科の教育研究上の目的≫

専攻する学問分野の基本的な専門知識と技能・能力に加え、横断的な学びによる広い視野と教養、専門知識に基づき批判的・分析的に考え、対話を通して自らの考えを構築する思考力、言葉やデジタル技術等の表現媒体を用いて効果的に表現・発信する力をもち、地域社会の課題解決ならびに共生社会の構築のための知識と実践力を育成する。

≪国際教養学科の養成する人材像≫

グローバル化が進む今、異なる文化や社会制度を知り、自分たちの地域が国際社会とどうつながっているかを理解することが必要である。国際教養学科では、歴史、思想・文化、英語、国際社会、地域経営、情報メディアという学問領域を専門的かつ横断的に学ぶことで、人間と社会に関する知識と批判的・分析的に考える思考力を育て、グローバル市民としての視点から社会と地域の諸課題を認識し、多様な人々との共生・共栄を可能にする社会を構築するために貢献できる教養豊かな人材を育成する。

(3)国際教養学科の教育方針

平成元（1991）年に開学した敬和学園大学（昭和 42（1967）年 学校法人敬和学園創立）は、建学の精神「神を敬い、人に仕える」のもと、「人権・共生・平和」に価値をおいたキリスト教教育・地域貢献教育・国際理解教育に力を入れ、国際的教養豊かな良心的人材の育成に努めてきた。今後も人間教育、専門教育、地域や海外をフィールドに実践するサービスラーニングの充実を図り、「実践するリベラルアーツ」教育を推進する。

１）リベラルアーツ教育 ～社会を生き抜く力～

流動的で先行き不透明な時代であるからこそ、豊かな 教養と広い視野によって 培われる当たり前を疑う思考力、深い人間理解と想像力が求められている。答えが一つとは限らない 問題を解決するための知識や能力、経験知を備え、自ら学び続けられる人を育てる。また社会に必要なデータサイエンスやAI技術等を、学年や専攻を超えて初歩から学ぶことができる。激動する社会にあっても、自分の考えを持ち、自由な発想で 21 世紀の 共生社会を実現できる実践力のある地に足のついた人を育成する。

２）リベラルアーツ教育 ～専門性を際立たせた６つのコース～

時代は「文理融合」「文理横断」教育による総合知をもった人を求めている。特定の分野に偏らずに広い視野を獲得させるリベラルアーツ教育を行い、同時に 歴史探究、多文化・思想、キャリア英語、国際社会、地域経営、情報メディアの 6 つのコースから主専攻を選び、専門 分野の基礎知識や技能を養成する。また、隣接する学問分野やまったく異なる学問分野を掛け合わせて学び、総合的理解力や問題解決力を養う。それぞれの興味関心や将来設計に合わせて、 情報工学から歴史まで 自分なりのリベラルアーツの学びをデザインできる。以下に６つのコースの学びの内容と育成する能力、取得できる資格を紹介する。

①歴史探究

歴史の学びを通じて、人類社会の過去における営みの中に私たちの現在を知るさまざまな英知を探究する。歴史資料を批判的に読み解くことができ、人類にとってよりよい社会を築いていく力をもつ人を育成する。

中学校教諭一種免許状（社会）、高校教諭一種免許状（地理歴史）、小学校教諭二種免許状（玉川大学通信教育課程での併修）

②多文化・思想

欧米、アジアの多様な文化や思想、宗教、文学を学び、多様な習慣や人間観、世界観を理解し、同時に自文化への意識と理解を深める。自己のアイデンティティを保ちながら、他者との絆を深める力を育成する。言葉を通じて深く考え、言語や文化、そして価値観の異なる人々との絆を深めることができる人を育成する。

実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL、中国語検定、HSK、ドイツ語検定

③キャリア英語

英語の背景文化や世界の動向を把握し、高度な英語力を将来のキャリアに生かしたり課題解決に応用したりすることができる人を育成する。人との関わりや地域・世界の動きについても学び、学外学修を通して実践的に主体性やコミュニケーション能力と広く仕事に使える英語力を養う。英語教育においては、必要な理論と、教える技術を実践的に学び、

専門教科の知識を深め児童や生徒への英語教育に関わる力をもつ人を育成する。

中学校教諭一種免許状（英語）、高校教諭一種免許状（英語）、小学校教諭二種免許（玉川大学通信教育課程での併修）、実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL、観光英語検定

④国際社会

国際政治、国際法、国際経済の勉学を通じて、複雑な国際社会の仕組みを理解し、グローバルな視点を養う。グローバル化した社会における市民生活と政治・法律・経済の関係性を踏まえて、自分達の社会と世界のつながりを理解し、行動する力をもつ人を育成する。個人・地域・国・地球の関係性を理解し、環境にも配慮した循環型社会システムの構築に貢献する地域のリーダーとなれる人を育成する。

中学校教諭一種免許状（社会）、高校教諭一種免許状（公民）、小学校教諭二種免許状（玉川大学通信教育課程での併修）、ファイナンシャルプランナー

⑤地域経営

「共生・共創」というコンセプトのもと、地域社会のウェルビーイングの実現と地域の未来を支えるために必要な経営と文化的・福祉的まちづくりについて実践的に学ぶ。地域経営に関する知識と技能ならびに地域課題解決力をもち持続可能なまちづくりに貢献できる人を育成する。

日商簿記、ビジネス会計検定、ファイナンシャルプランナー

⑥情報メディア

映像制作やデジタルコンテンツ開発、AI 活用などの実践的スキルと、情報メディア論やメディア産業論といった理論的知識を融合して学ぶ。情報発信力とデジタルスキルを身につけ地域の魅力や文化を発信しながら、地域社会の課題解決に取り組み、産業や社会に新たな価値を創出する人を育成する。

IT パスポート、マイクロソフト Office スペシャリスト（Word, Excel）、CLIP STUDIO PAINT クリエーター検定、ウェブデザイン技能検定、ビジネス著作権検定

３）実践するリベラルアーツ～「地球規模で考え、地域社会で活動する」～

敬和学園大学では開学時よりボランティア活動に力を入れており、そこから教室内の学びと教室の外での実践活動を循環させるサービスラーニングへと発展してきた。このような活動により、学生は知識や技能を獲得するだけでなく、チームで協働することを通して主体性やコミュニケーション能力などの汎用的能力を高めている。リベラルアーツ教育と

地域活動などの実践を組み合わせた「実践するリベラルアーツ」のギアを一段階上げ、他者と協働して地域課題に取り組み、地域と共に歩む人を育成すると同時に、海外研修や日本での異文化交流活動により、グローバルな視点をもって地域に貢献する共生社会の担い手を育成する。

（4）学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れの基本方針（アドミッション・ポリシー）

１）学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【人文学部】

人文学部では、教育目標である「国際的教養豊かな良心的人材」が備えるべき能力や姿勢を「学力の３要素」に基づいて明示する。

１．知識・技能
　1-1　情報を読み解き、真偽を見分け課題を発見するための知識と技能
　1-2　人文社会科学に関する専門知識とグローバルな社会や文化の多様性を理解する力
２．思考力・判断力・表現力
　2-1　修得した学識をもとに物事を批判的・分析的に思考し、自らの考えを構築する力
　2-2　社会課題を理解し、解決しようとする力
　2-3　言語やデジタル技術を活用して、自らの考えを明瞭かつ効果的に表現する力
３．意欲・関心・態度
　3-1　人間の尊厳と人権を尊重する姿勢
　3-2　多様な人々との共生を可能とする持続可能な社会の形成、発展に貢献しようとする態度

【国際教養学科】

国際教養学科では、教育目標である「国際的教養豊かな良心的人材」が備えるべき能力や姿勢を「学力の３要素」に基づいて明示する。

１．知識・技能
　1-1　情報を読み解き、真偽を見分け課題を発見するための知識と技能
　1-2　専攻分野の専門知識や技能とグローバルな社会や文化の多様性を理解する力
２．思考力・判断力・表現力
　2-1　修得した学識をもとに物事を批判的・分析的に思考し、自らの考えを構築する力
　2-2　社会課題を理解し、解決しようとする力
　2-3　言語やデジタル技術を活用して、自らの考えを明瞭かつ効果的に表現する力
３．意欲・関心・態度

3-1　人間の尊厳と人権を尊重する姿勢
3-2　多様な人々との共生を可能とする持続可能な社会の形成、発展に貢献しようとする態度

２）教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

【人文学部】
敬和学園大学では、建学の精神および教育理念・目的に基づき、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力・態度を涵養するために、次のような方針で教育課程を編成・実施する。

１．人文社会科学・情報学分野を中心としたリベラルアーツ教育により、文理融合の総合知と技能を獲得させる。
２．全体のカリキュラムは全学共通の基盤科目、専門科目、自由科目とし、多様化する学生のニーズに応じるため、段階的かつ横断的なカリキュラムにより知識・能力の養成を図る。
３．基盤科目に「宗教と思想」「人間行動と歴史」「人間と社会」「情報とコンピュータ・サイエンス」「言語とコミュニケーション」「自然科学と社会」「スポーツと健康」「思考と実践」「キャリアと実践」の分野で、リベラルアーツの基礎となる科目を配置する。
４．キリスト教学、語学、情報、初年次演習、スポーツ実習科目の必修化ならびに専門に関係の深い導入科目の必修化または選択必修化により、4 年間の基盤となる学びを提供し専門分野の導入教育を行う。
５．キリスト教学、チャペル・アッセンブリ・アワー、演習等を中心に、人間の尊厳と人権を尊重する教育を行う。
６．1 年次は基礎演習を必修として大学での学習に必要な知識やスキルを獲得する機会とし、2 年次は関心のあるコースの入門または PBL 科目を選択必修化する。
７．全員必修の語学カリキュラムにおいて、専門に必要な言語運用能力、コミュニケーション力、異文化理解力を育成する。
８．「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」（リテラシーレベル）の認定を受け、ICT 技術を的確に用いる技術と情報リテラシーの獲得、社会のデジタル化に対応する力を養うために、初年次より段階的かつ多様な情報関連科目を配置する。
９．「レイトスペシャライゼーション」（自分にあった専門を入学後に見極めて決定する）により様々な学問分野を学んだ上で、専門分野を選ぶ仕組みとする。
10．専門分野と深く結びついた PBL 型授業や学外活動（サービスラーニング）を行い、社会に関する関心と汎用的能力を高める。

学修成果の評価の基本方針

1．各授業においては試験、レポート、発表、アクティブラーニングへの貢献等、学修成果の評価方法をシラバスに明記する。ルーブリックやポートフォリオを適宜、評価の指標に加える。
2．PBL 型授業や学外活動（サービスラーニング）については、発表の機会を設けピアレビューや学外者からのコメント等を含め、総合的に学修成果を評価する。
3．初年次と上級年次に外部テストを実施し、言語や数量に関する情報処理能力、課題解決力ならびに汎用的能力等の変化を測定し、学修成果を評価する。
4．卒業論文等の評価においては、口頭試問やルーブリック等も評価の指標に加える。

【国際教養学科】
国際教養学科では、建学の精神および教育理念・目的に基づき、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力・態度を養成するために、次のような方針で教育課程を編成・実施する。

1．人文社会科学・情報学分野を中心としたリベラルアーツ教育による文理融合の総合知と技能を獲得させるため、「歴史探究」「多文化・思想」「キャリア英語」「国際社会」「地域経営」「情報メディア」の 6 コースを設置する。
2．全体のカリキュラムは、全学共通の基盤科目、専門科目、自由科目とし、多様化する学生のニーズに応じるため、段階的かつ横断的なカリキュラムにより知識・能力の養成を図る。
3．基盤科目において専門に関係の深い導入科目を必修または選択必修とし、専門分野の導入教育を行う。
4．１年次の基礎演習を必修とし、大学での学習に必要な知識やスキルを獲得する機会とする。
5．「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」（リテラシーレベル）の認定を受け、ICT 技術を的確に用いる技術と情報リテラシーの獲得、社会のデジタル化に対応する力を養うために、初年次より段階的かつ多様な情報関連科目を配置する。
6．専攻の選択方法は、主専攻のみを履修する場合と、主専攻と副専攻の両方を履修する場合の２通りとする。副専攻は他コースの他、本学のディプロマ・プログラムである「児童英語教育プログラム」「日本語教育プログラム」「キリスト教教育プログラム」からも選択できる。
7．「レイトスペシャライゼーション」（自分にあった専門を入学後に見極めて決定する）により、１年次に専門科目を導入し、２年次に専門分野の本質に触れる科目を提供し、主専攻、副専攻選択を助ける。２年次終了時に専攻を決定し、３年次、４年次の専門演習に配属する。
8．演習は少人数制とし、批判的、分析的、論理的思考を身につけるために、学習者中心の能動的かつ対話的な学びの機会を提供する。
9．専門分野と深く結びついた PBL 型授業や学外活動（サービスラーニング）を行い、社

会に関する関心と実践力、汎用的能力を高める。

10. ３年次、４年次の専門演習を必修とし、卒業論文（卒業制作）等により４年間の学びの集大成とすることを求める。
11. 教職課程（社会、地歴、公民、英語）を国際教養学科に設置する。

学修成果の評価の基本方針

１．各授業においては試験、レポート、発表、アクティブラーニングへの貢献等、学修成果の評価方法をシラバスに明記する。ルーブリックやポートフォリオを適宜、評価の指標に加える。
２．PBL 型授業や学外活動（サービスラーニング）については、発表の機会を設けピアレビューや学外者からのコメント等を含め、総合的に学習成果を評価する。
３．初年次と上級年次に外部テストを実施し、言語や数量に関する情報処理能力、課題解決力ならびに汎用的能力等の変化を測定し、学修成果を評価する。
４．卒業論文等の評価においては、口頭試問やルーブリック等も評価の指標に加える。

３）入学者受入れの基本方針（アドミッション・ポリシー）

【人文学部】

敬和学園大学は、建学の精神すなわち「神を敬い、人に仕える」に基づき真理の探究と心の教育を行い、「国際的教養豊かな良心的人材」の育成を教育目標とする。この教育目標を達成するために、人文学部では以下の「学力の 3 要素」に示す能力、意欲を備えた人を求めている。

１．知識・技能
　1-1　高等学校における国語・英語・社会科・数学などに関して基礎的な学力とコミュニケーション能力を有する人
　1-2　グローバルな視点から人間社会の多様性を理解し、視野と知識を広げる意欲のある人
２．思考力・判断力・表現力
　2-1　答えを見出しにくい問題に対しても粘り強く取り組み、思考力を深める意欲のある人
　2-2　社会の課題を理解し、解決しようとする意欲のある人
　2-3　ことばを使った表現力や ICT に関する知識と技能を高める意欲のある人
３．意欲・関心・態度
　3-1　自分や他者を人間として大切にすることのできる人
　3-2　主体的に持続可能な共生社会の形成、発展に関わりたいという意欲のある人

【国際教養学科】
敬和学園大学は、建学の精神すなわち「神を敬い、人に仕える」に基づき真理の探究と心の教育を行い、「国際的教養豊かな良心的人材」の育成を教育目標とする。この教育目標を達成するために、国際教養学科では以下の「学力の 3 要素」に示す能力、意欲を備えた人を求めている。

１．知識・技能
1-1　高等学校における国語・英語・社会科・数学などに関して基礎的な学力とコミュニケーション能力を有する人
1-2　グローバルな視点から人間社会の多様性を理解し、視野と知識を広げる意欲のある人
２．思考力・判断力・表現力
2-1　答えを見出しにくい問題に対しても粘り強く取り組み、思考力を深める意欲のある人
2-2　社会の課題を理解し、解決しようとする意欲のある人
2-3　ことばを使った表現力や ICT に関する知識と技能を高める意欲のある人
３．意欲・関心・態度
3-1　自分や他者を人間として大切にすることのできる人
3-2　主体的に持続可能な共生社会の形成、発展に関わりたいという意欲のある人

(5)3つのポリシーの対応関係
本学科の DP・AP は学力の 3 要素の枠組みを用いて策定されており、AP は DP の資質となる能力として策定され、番号がそれぞれ対応している。例えば、DP1-2（専攻分野の専門知識や技能とグローバルな社会や文化の多様性を理解する力）の資質・能力を確認するため AP1-2（グローバルな視点から人間社会の多様性を理解し、視野と知識を広げる意欲のある人）が定められ、後述する入学者選抜方法によって測定を行っている。
また、CP は AP にて策定された資質・能力を DP まで引き上げるための教育課程の編成及び実施に関する方針として定められており、カリキュラム全体の編成方針について定めたもの（CP1、CP2、CP3、CP7）と、特定の科目群や授業の方法について定めたもの（CP3、CP4、CP5、CP6、CP8、CP9、CP10、CP11）とに分かれる。
３つのポリシーの対応関係は敬和学園大学 人文学部国際教養学科 ３つのポリシー対応表【資料１】に記載の通りであるが、カリキュラム全体の編成方針について定めたもの（CP１、CP2、CP3、CP7）は全ての AP・DP と対応しており、特定の科目群や授業の方法について定めたもの（CP3、CP4、CP5、CP6、CP8、CP9、CP10、CP11）は当該授業科目・授業の方法に対応した AP・DP と対応しており、その詳細は以下の通りである。

【資料１】敬和学園大学 人文学部国際教養学科 3つのポリシー対応表
【資料２】カリキュラムマップ

CP	対応する AP・DP	対応する授業科目と対応関係の説明
CP3	1-1、1-2	基盤科目に対応している。基盤科目は概ね DP1 と対応しているが、A 群は DP3、D 群は DP2、演習系の科目は DP3 と対応しているため DP1、DP2-3、DP3 と対応している。
CP4	1-1、3-1、3-2	基盤科目における H 群、専門科目における「コースの入門科目」または「PBL 科目」に対応している。H 群は主として DP1-1、DP3 に対応し、「コースの入門科目」または「PBL 科目」は主として DP1 と対応しているため、DP1、DP3 と対応している。
CP5	1-1、2-3	基盤科目におけるＤ群に対応し、Ｄ群はDP1-1、DP2-3 と対応している。
CP6	1-1、1-2、2-1、2-2、2-3、3-1、3-2	専門科目に対応している。専門科目は全ての DP と対応している。
CP8	1-1、1-2、2-1、2-2、2-3、3-1、3-2	演習系の科目と対応している。演習系の科目は「批判的、分析的、論理的思考を身につける」ことを主たる目的としているが、その養成の過程で必要となる知識・技能の修得、演習系科目での経験を通じて意欲・関心・態度の養成も図ることができるため全ての DP と対応している。
CP9	1-1、1-2、2-1、2-2、2-3、3-1、3-2	演習系科目の中でも PBL 型授業や学外活動（サービスラーニング）に関する科目と対応している。CP8 同様、全ての DP と対応している。
CP10	1-1、1-2、2-1、2-2、2-3、3-1、3-2	専門科目のなかの演習科目や卒業論文と対応している。CP8 同様、全ての DP と対応している。
CP11	1-1、1-2、2-1、2-2、2-3	教職課程（社会、地歴、公民、英語）に係る科目と対応している（HJ 群）。DP1、DP2 と対応している。

２．学部・学科等の特色

本学は平成 3（1991）年に人文学部に英語英米文学科と国際文化学科を設置して開学して以来、「真理を探究するとともに心の教育を実践し、国際的教養豊かな良心的人材を養成すること」を教育の目的とし、リベラルアーツ教育を推進してきた。それは平成 16（2004）年に共生社会学科を新設して、英語文化コミュニケーション学科、国際社会学科との三学科体制に移行してからも変わらない。少子化、グローバル化が予想を上回る速度で進み、コロナ禍によるコミュニケーション手法の変化、長足の進歩を遂げる人工知能の開発等、先行き不透明で、将来の予測が困難な時代にあって中央教育審議会より提出された「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」（平成 31（2019）年）にある「時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会を改善していく資質を有する人材」や「21 世紀型市民」（「我が国の高等教育の将来像（平成 17 年 1 月 28 日中央教育審議会答申）」の育成は急務である。多様な学問分野を学ぶことで得られる総合的な知見、当たり前を疑い批判的に思考できる知性をもって創造的に考え、実践できる人材を育成するために、国際教養学科では、学科内に 6 つのコースを設置し専門的かつ横断的に学ぶ環境を整えた。

さらに、新潟県は実学志向が強く専門学校入学者数は全国一という土地柄で、令和 5（2023）年度の学校基本調査結果によれば、大学等進学率は 53.0%で全国 32 位であるのに対し、専修学校（専門課程）進学率は 26.5%で全国 1 位（平成 29（2017）年から連続 1 位）である（新潟県ホームページ「令和 5 年度学校基本調査結果」）。県内私大は医療、情報系等、実学的専門性の強い大学が多く、国公立大学を除けば人文学を学べる大学は本学のみであり、地方における多様な大学教育の一角を担っている。このような状況にあるため、「国際教養学科」は、特定の分野に偏らずに広い視野を獲得させるリベラルアーツ教育をさらに推進する狙いである。特色としては、歴史探究、多文化・思想、キャリア英語、国際社会、地域経営、情報メディアの 6 専攻において専門分野の知識や技能を獲得するとともに、隣接する学問分野やまったく異なる学問分野を掛け合わせて学ぶことで、総合的理解力や問題解決力を養う。学生はそれぞれの興味関心や将来設計に合わせて、データサイエンスから哲学まで自分なりのリベラルアーツの学びをデザインできる。流動的で先行き不透明な時代であるからこそ、豊かな教養と広い視野によって培われる当たり前を疑う思考力、深い人間理解と想像力が求められる。答えが一つとは限らない問題を解決するための知識や能力、経験知を備え、自ら学び続けられる人を育てることを国際教養学科は特色とする。また社会に必要な ICT 技術を学年や専攻を超えて初歩から学ぶことができる。

また、キリスト教を基盤とする本学では開学時よりボランティア活動に力を入れており、そこから教室内の学びと教室外での実践活動を循環させるサービスラーニングへと発展させてきたが、学生は協働することを通して主体性やコミュニケーション能力などの汎用的能力を高めていくことができる。リベラルアーツ教育と地域活動などの実践を組み合わせた「実践するリベラルアーツ」により、他者と協働して地域課題に取り組み地域と共に歩

む人、そして海外研修や日本での異文化交流活動により、グローバルな視点をもって地域に貢献する共生社会の担い手――激動する社会にあっても、自分の考えを持ち、自由な発想で21世紀の共生社会を実現できる実践力のある地に足のついた人――を育成することが本学科の特色である。

３．大学、学部・学科等の名称及び学位の名称

(1)学科の名称

学科名称は「国際教養学科（英語名称：Department of Liberal Arts）」とする。

国際教養学科では、歴史探究、多文化・思想、キャリア英語、国際社会、地域経営、情報メディアの 6 コースを設置し、専攻する分野以外の学問領域から主専攻、副専攻を選択できるほか、科目レベルでも他コースから履修することもできる。哲学からデータサイエンスまで広く学び、総合的な知識と広い視野をもち批判的に考えることのできる豊かな教養をもった人材、そしてグローバルな視野を備えて地域の発展に貢献できる人材を養成する学科であることを端的に示す名称とした。

(2)学位の名称

学位の名称に変更はなく、「学士（文学）」（英語名称：Bachelor of Arts）である。
この度の改組は、「人文学部」（英語名称：Faculty of Humanities）に「国際教養学科」（英語名称：Department of Liberal Arts）を設置するものであり、学位の分野「文学」は、Literature としての文学ではなく、自由学芸（Liberal Arts）を意味する「文学」である。

４．教育課程の編成の考え方及び特色

(1)教育課程の編成の考え方及び特色

国際教養学科では、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）を以下の通り定めている。本学科の教育課程の考え方と特色は主に、学生が専攻を決定するまでに多くの学問分野について知ることを可能にするレイトスペシャライゼーションを導入した段階的カリキュラム編成、主専攻により専門性を深め、副専攻の選択や科目レベルでの他コース科目の履修により専門的かつ横断的学習を可能とした編成、演習や特定の科目における実践的な地域活動・海外活動（サービスラーニング）の 3 点である。カリキュラムマップ【資料２】に示すように、「基盤科目」では主に DP1 の基礎的知識・技能並びに専門的知識・技能やグローバル社会の多様性を理解する力を、「専門科目」では DP1 の専門知識に加えて DP2 の批判的・分析的に考える思考力や判断力、課題を発見し解決しようとする力、そして自分の考えを表現する力を、DP3 の持続可能な共生社会の実現のために人間の尊厳と人権を尊重する姿勢とそのような社会の形成・発展に貢献しようとする意欲の養成を目指している。さらに主専攻となる６つのコースにおいては、学問領域によって、DP2 と DP3 の割合が異なり、主専攻のほかに、副専攻や他コース科目の履修を強く推奨することで、知識・技能、思考力・判断力・表現力、態度・姿勢・意欲のすべてをバランスよく修得することができる。

【資料２】カリキュラムマップ

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

国際教養学科では、建学の精神および教育理念・目的に基づき、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力・態度を養成するために、次のような方針で教育課程を編成・実施する。

１．人文社会科学・情報学分野を中心としたリベラルアーツ教育による文理融合の総合知と技能を獲得させるため、「歴史探究」「多文化・思想」「キャリア英語」「国際社会」「地域経営」「情報メディア」の 6 コースを設置する。
２．全体のカリキュラムは、全学共通の基盤科目、専門科目、自由科目とし、多様化する学生のニーズに応じるため、段階的かつ横断的なカリキュラムにより知識・能力の養成を図る。
３．基盤科目において専門に関係の深い導入科目を必修または選択必修とし、専門分野の導入教育を行う。
４．１年次の基礎演習を必修とし、大学での学習に必要な知識やスキルを獲得する機会とする。２年次は関心のあるコースの入門または PBL 科目を選択必修とする。
５．「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」（リテラシーレベル）の認定を受け、ICT 技術を的確に用いる技術と情報リテラシーの獲得、社会のデジタル化に対応する力を養うために、初年次より段階的かつ多様な情報関連科目を配置する。

6．専攻の選択方法は、主専攻のみを履修する場合と、主専攻と副専攻の両方を履修する場合の２通りとする。副専攻は他コースの他、本学のディプロマ・プログラムである「児童英語教育プログラム」「日本語教育プログラム」「キリスト教教育プログラム」からも選択できる。
7．「レイトスペシャライゼーション」（自分にあった専門を入学後に見極めて決定する）により、１年次に専門科目を導入し、２年次に専門分野の本質に触れる科目を提供し、主専攻、副専攻選択を助ける。２年次終了時に専攻を決定し、３年次、４年次の専門演習に配属する。
8．演習は少人数制とし、批判的、分析的、論理的思考を身につけるために、学習者中心の能動的かつ対話的な学びの機会を提供する。
9．専門分野と深く結びついた PBL 型授業や学外活動（サービスラーニング）を行い、社会に関する関心と実践力、汎用的能力を高める。
10. ３年次、４年次の専門演習を必修とし、卒業論文（卒業制作）等により４年間の学びの集大成とすることを求める。
11. 教職課程（社会、地歴、公民、英語）を国際教養学科に設置する。

学修成果の評価の基本方針

1．各授業においては試験、レポート、発表、アクティブラーニングへの貢献等、学修成果の評価方法をシラバスに明記する。ルーブリックやポートフォリオを適宜、評価の指標に加える。
2．PBL 型授業や学外活動（サービスラーニング）については、発表の機会を設けピアレビューや学外者からのコメント等を含め、総合的に学習成果を評価する。
3．初年次と上級年次に外部テストを実施し、言語や数量に関する情報処理能力、課題解決力ならびに汎用的能力等の変化を測定し、学習成果を評価する。
4．卒業論文等の評価においては、口頭試問やルーブリック等も評価の指標に加える。

このように学習者中心の教育プログラムを提供するために、多様化する学生の関心とニーズに応じて、上述のような段階的かつ専門的に学ぶカリキュラムとし、さらに副専攻の履修により横断的な学びを可能にしている。これにより、主専攻と副専攻が補完し合いディプロマ・ポリシーの求める知識、能力、態度等を十分に養成することができる。さらに教室内のアクティブラーニングはもとより、学外でのサービスラーニングによる実践的な学びを通して、学生の関心のある分野で汎用的能力や実践力を養成できる仕組みとなっている点が本学科の特色である。

（2）教育課程の構成と特色（※科目群ごとに説明）

国際教養学科の教育課程とカリキュラム・ポリシーとの整合性は、以下のように示すことができる。

国際教養学科の科目群は、「基盤科目」「専門科目（コース共通）」「専門科目（コース別）」「自由科目」で構成されている。

１）**「基盤科目」**は全学共通であり、「A群 宗教と思想」「B群 人間行動と歴史」「C群 人間と社会」「D群 情報とコンピュータ・サイエンス」「E群 言語とコミュニケーション」「F群 自然科学と社会」「G群 スポーツと健康」「H群 思考と実践」「I群 キャリアと実践」から成る。幅広い教養を身につけ、広い視野から真理を学び考える力を養い、深い人間性を育成することを目的として設置している。他方で、3 年次のコース選択を踏まえ、各コースの専門科目に関連の深い基盤科目については、必修化または選択必修化し、専門への導入科目として位置付けている。【CP2、3】

２）「基盤科目 D 群」及び情報メディアコースに設置されている科目については、情報リテラシーや社会調査に必要とされる情報処理能力を身につけるとともに、職業領域においても必要とされる情報処理能力を修得するための科目を体系的に配置している。専攻、学年を問わず「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」（リテラシーレベル）を提供し、ICT 化の進む社会において活躍できる人材を育成できるよう、現在認定申請中である。【CP5】

３）**「専門科目（コース共通）」**は「HE 群 言語と教育」「HH 群 思考と実践」「HJ 群 教職課程指導法」から成り、主として教育や資格取得に関わる言語科目群（HE 群）、地域や教育をテーマとした実践的科目群（HH 群）、教職関連科目で卒業要件単位に含めることのできる科目群（HJ 群）を設置する。【CP6、11】

４）**「専門科目（コース別）」**は、学生が自身の関心に合わせて 6 つのコースから主専攻、副専攻を選択し、多様な学問分野を組み合わせて学ぶことができる設計である。1 年次に専門科目の一部を導入科目として設置し、2 年次に学生は自身の関心に合わせて専門を学び、3 年次に主専攻を決めるレイトスペシャライゼーションを採用し、学生が自分の興味・関心、将来設計を見極めた上で専攻を決められるように設定されている。選択した主専攻を中心として他コースやディプロマ・プログラムから副専攻を選ぶことも、それらを科目単位で履修することもできる設計となっている。コース制とすることで、2 年次より学生自身が自らの関心に合わせてコースを横断して学ぶことが可能となり、各コースに関する専門的知識を得ながら総合知として深化させていくことができる。コース横断的に複数の専門演習を履修することで、より学際的な学びが可能となり、学修者を中心とした多様性と柔軟性を持ったカリキュラムとなっている。【CP1、5、6、7、8、10】

５）演習については、1 年次開講の「基礎演習」（必修）では大学で必要な学びの技術を習得するとともに本学の教育理念に深く関係する事項について知識を得る。2 年次の演習は、コース全体で運営し、オムニバス型講義の「〇〇入門」か実践型の「〇〇PBL」から

選択し、学生が学問領域の特色を知り、専攻選択に資するよう位置付ける。【CP4、8、9】
　３、４年次生対象の専門演習は、コース別専門演習「〇〇演習１」「〇〇演習２」「〇〇演習３」「〇〇演習４」に区分され必修科目である。さらに専門演習「〇〇演習３」「〇〇演習４」における論文執筆や「卒業論文」（卒業制作）執筆により、4 年間の学びの集大成を具現化することを求めている。【CP8、9、10】

６）「基盤科目Ｈ群」の「地域とボランティア」（1 年次必修）及び専門科目（コース共通）「地域学 1」「地域学２」、専門科目（コース別）の「地域文化論 1」「地域文化論 2」「地域経営論 1」「地域経営論 2」「地域調査」等の科目や一部の PBL 型科目や演習は、新発田市、聖籠町、新潟県の特色と課題を知り、実践的に学ぶ科目群であり、段階的に知識を深め経験を積めるように設計されている。「生まれ育った地域で、個人の価値観を尊重して生活し、その地域を豊かなものにしていくための継続的な営みができる」（平成 30 年中教審「今後の高等教育の将来像の提示に向けた中間まとめ」）を実現する力を養う科目となっている。【CP9】

７）教職課程の多くの科目が**自由科目**となるが、**「専門科目（コース共通）」**には専門に近い指導法関連の教職科目を設置している。加えて本学独自のディプロマ・プログラムである「児童英語教育」「日本語教育」「キリスト教教育」プログラム関連科目を「専門科目（コース共通）」に設置し、卒業時に修了証（ディプロマ）を授与し、副専攻として認めている。このようにして、キャリアにつながる資格取得をサポートする。【CP11】

(3)各科目区分の構成とその理由
　各科目区分の構成とその理由は、ディプロマ・ポリシーとの関連において以下の通りである。

１）基盤科目の特色
　「基盤科目」は「Ａ群 宗教と思想」「Ｂ群 人間行動と歴史」「Ｃ群 人間と社会」「Ｄ群情報とコンピュータ・サイエンス」「Ｅ群 言語とコミュニケーション」「Ｆ群 自然科学と社会」「Ｇ群 スポーツと健康」「Ｈ群 思考と実践」「Ｉ群 キャリアと実践」から成る。幅広い教養を身につけ、広い視野から真理を学び考える力を養い、深い人間性を育成することを目的として設置している。一方で、２年以降のコース選択を踏まえ、各コースの専門科目に関連の深い科目については、必修化または選択必修化し、専門への導入科目として位置付けている。

①**「A群 宗教と思想」**概要：本学の特色であるキリスト教関連科目と人文科学の中でも哲学、文学により構成される。聖書や哲学、文学を通して人知を超えた存在や人間、世界に関する知識を深め、「チャペル・アッセンブリ・アワー」を通じて自分を知り、世界を知

り、いかに生きるかを考え、「キリスト教音楽」では音楽を通して実践的にキリスト教理解を深める。グローバルに通用する知識と本学の建学の精神に直結する人間の尊厳と人権を大切にする姿勢を養成する。また、「チャペル・アッセンブリ・アワー」ではエッセイコンテストを実施し、自らの考えを効果的に表現する力を評価する。

②**「B群 人間行動と歴史」**概要：人文科学の中でも、心理学、文化人類学、歴史学、考古学という人間行動に直結する学問分野で構成される。高校までとは異なる学問へのアプローチを学ぶことで、初歩的な専門知識を得るだけでなく、資料のもつ意味合いと扱いについて理解を深める。このようにしてグローバルな社会とその文化の多様性について知見を深める。

③**「C群 人間と社会」**概要：政治学、経済学、経営学、法学、社会学、地理学といった社会科学系の学問分野により構成される。政治や経済、法律がどのように私たちの暮らしとつながっているのか、また社会とはどのようなものかを多角的に理解し、市民として必要な知識を得る。法学関連では、人間の尊厳や人権に関する考え方を学び意識づけをする。「教養スペシャル・トピックス」では体系的な常設科目には至らないが、旬のトピックを扱う講義やパイロット的な講義を開講し、異文化や世界の現況についての知識を得、教養を深める。

④**「D群 情報とコンピュータ・サイエンス」**概要：情報学分野の科目で構成される。現代社会で欠かせないコンピュータリテラシーをはじめ、MOS 試験や IT パスポート等の資格取得のための実践力、AI、データサイエンスに関する知識と技能を養成する。「数理・データサイエンス・AI 教育認定プログラム」（リテラシーレベル）の認定申請中である。

⑤**「E群 言語とコミュニケーション」**概要：２年間の語学プログラムにより構成される。英語、中国語、ドイツ語、日本語（留学生対象）は集中的学習プログラムである。言語とその言語が話される地域の社会や文化についての知識を得、実践的な運用能力、表現力を習得する。

⑥**「F群 自然科学と社会」**概要：自然科学分野の科目で構成される。科学史や数学の学びを通して、人類の自然観や科学の発展について専門知識を得ると同時に、人文学部の学生にとって学び直しとなる基礎的数学の理解力、データやグラフ、表などを使って情報を効果的に伝え、読み取る技術を育成する。

⑦**「G群 スポーツと健康」**概要：スポーツ実習を通して、体力をつけ、体の仕組みを理解する。また、「知育・徳育・体育」とも言われるリベラルアーツとスポーツの関係性について理解を深める。

⑧**「H群 思考と実践」**概要：演習や本学が開学時より力を入れてきたボランティア活動及び地域に関する理解を深める授業、留学、フィールドワーク等の実践的な科目で構成される。「基礎演習」では大学で必要なアカデミックスキルやリテラシーを習得し、リベラルアーツや人権など本学の教育にとって重要な概念について、アクティブラーニングを通して理解を深める。多様な人々との共生社会の形成、発展に貢献するための意識や態度を養う。

⑨**「I群 キャリアと実践」**概要：学生が自らのキャリアパスをデザインし、その実現に必要な知識と技術、実践力を磨くための実践的な科目で構成される。各々のキャリアに関心を向けるだけでなく、持続可能な共生社会の担い手となる意識や態度を養う。

このように、基盤科目では高校までに触れ得なかった新しい学問分野について学び、情報を正確に読み取り、真偽を見分けるための知識と技術を養成することを第一の目的とし、科目の性格によっては人文社会科学の専門知識とグローバルな視点を得ることを第二の目的とする。第三に、キリスト教関連科目、法学関連科目、ボランティアでは、人間の尊厳や人権について知識と理解を深め、ボランティアやフィールドワーク、留学等では、多様な人々で構成される持続可能な社会の形成、発展のために貢献できる人の養成を目的としている。これらの学びは、人類が築き上げた知の遺産に対する謙虚な学びの姿勢を学生に植え付けるだけでなく、人間存在をトータルにとらえることを意識づけることにより専門科目への導入ならびに知識と実践力養成の基盤とする。

【基盤科目の必修科目・選択必修科目】

学部共通・コース	区分	必修・選択必修科目	単位数
学部共通	A 群	キリスト教学 1 キリスト教学 2	2 単位必修 2 単位必修
	D 群	コンピュータリテラシー	2 単位必修
キャリア英語コース	E 群	英語 I 読む・書く 英語 II 読む・書く 英語 I 聴く・話す 英語 II 聴く・話す 英語 III 読む・書く 英語 IV 読む・書く 英語 III 聴く・話す 英語 IV 聴く・話す	4 単位必修 4 単位必修 4 単位必修 4 単位必修 4 単位必修 4 単位必修 4 単位必修 4 単位必修
その他のコース		英語 I 読む・書く 英語 II 読む・書く	左記の科目組み合わせより

		英語 I 聴く・話す 英語 II 聴く・話す	8 単位選択必修
		中国語 I 文法 中国語 II 文法	
		ドイツ語 I 文法 ドイツ語 II 文法	
		日本語 I 読む・書く 日本語 II 読む・書く 日本語 I 聴く・話す 日本語 I 読む・書く 日本語 III 読む・書く 日本語 IV 読む・書く 日本語 III 聴く・話す 日本語 IV 聴く・話す	日本語非母語話者は左記の科目より 48 単位を上限として選択必修
学部共通	G 群	スポーツ実習 1 スポーツ実習 2	1 単位必修 1 単位必修
学部共通	H群	基礎演習 1 基礎演習 2 地域とボランティア	2 単位必修 2 単位必修 2 単位必修
学部共通	I 群	キャリア開発 1 キャリア開発 2	2 単位必修 2 単位必修

２）専門科目の特色

国際教養学科では、主として１・２年次に学ぶ「基盤科目」によって共通の基礎教養を身につけたうえで、「専門科目（コース共通）」を積み重ねることにより、それに続く複数の「専門科目（コース別）」の学びを、入職後にも役立つ有意義で横断的な学びとすることを目指す。ここでは、コース共通の専門科目の学びのねらいを科目群ごとに概説した後に、本学科の特徴となる「歴史探究」「多文化・思想」「キャリア英語」「国際社会」「地域経営」「情報メディア」のコース別専門科目群の学びの特色を示す。

「専門科目（コース共通）」は「基盤科目」における学びを展開し、キャリア形成につながることを目指した科目群であり、「HE 群 言語と教育」「HH 群 思考と実践」「HJ 群 教職課程指導法」から成る。「専門科目（コース別）」は各コース（「歴史探究コース」「多文化･思想コース」「キャリア英語コース」「国際社会コース」「地域経営コース」「情報メディアコース」）の専門知識と技能を得るために構成されているが、コース横断的に履修することも可能であり、人文社会科学・情報学分野を中心としたリベラルアーツ教育による文理融合の総合知と技能を獲得させることを目的としている。

【コース共通の専門科目群】
①「HE 群 言語と教育」概要：外国語のコンテンツ科目や英語教育、日本語教育等の資格取得や職業選択につながる科目で構成されている。言語運用能力を高めて外国語での自己表現を円滑にし、グローバルな社会についての理解力を育成する。
②「HH 群 思考と実践」概要：「教育活動アクティブワーク」では、宿泊を伴う協同学習を通して、コミュニケーション能力を高め社会人基礎力とリーダーシップを養成し、学校や地域社会に貢献できる力を養成する。「地域学」はH群「地域とボランティア」の上級科目であるが、講義と現場見学、グループワークを通じて地域課題を理解し、地域における持続可能な共生社会の形成、発展に尽力する姿勢と力を養成する。
③「HJ 群 教職課程指導法」概要：教職課程においても専門性に関係する社会、地理歴史、公民、英語の各教科の指導法にかかわる科目で構成される。

【コース別の専門科目群】
各コースとも２年から４年までの演習は選択必修科目となっている。加えて、以下に示す各コースの専門性を踏まえて、専門性を深めるための教科を必修、ないしは選択必修としている。
【表３　コース別の専門必修科目・選択必修科目】

コース	区分	必修・選択必修科目	必修単位数
歴史探究	基盤Ｂ群	日本史概説 歴史学 考古学１ 考古学２	左記科目より 4 単位選択必修
	専門科目（歴史探究コース）	アジア近現代史１ アジア近現代史２ アジア史概説 アジア史 アメリカ社会と歴史１ アメリカ社会と歴史２ キリスト教史１ キリスト教史２ 西洋史概説 西洋史 日本近現代史１ 日本近現代史２	左記科目より 8 単位選択必修

		歴史探究演習１ 歴史探究演習２ 歴史探究演習３ 歴史探究演習４	２単位必修 ２単位必修 ２単位必修 ２単位必修
多文化・思想	基盤科目Ａ群	哲学１ 哲学２ 文学１ 文学２	左記科目より ４単位選択必修
	基盤科目Ｂ群	文化人類学１ 文化人類学２	
	専門科目（多文化・思想コース）	アジア文化論１ アジア文化論２ イスラーム文化論１ イスラーム文化論２ 欧米文化論１ 欧米文化論２ 地域文化論１ 地域文化論２ 比較宗教史１ 比較宗教史２ 倫理思想史１ 倫理思想史２ 文学研究１ 文学研究２ 児童文学１ 児童文学２	左記科目より ４単位選択必修
		多文化・思想演習１ 多文化・思想演習２ 多文化・思想演習３ 多文化・思想演習４	２単位必修 ２単位必修 ２単位必修 ２単位必修
キャリア英語	専門科目（キャリア英語コース）	英文法１ 英文法２ 検定試験準備コースIII	２単位必修 ２単位必修 ２単位必修

		英語学１ 英語学２ 検定試験準備コースⅡ１ 検定試験準備コースⅡ２ 翻訳１ 翻訳２ コミュニケーションの心理学１ コミュニケーションの心理学２ リテラシーとコンピテンシー１ リテラシーとコンピテンシー２	左記科目より 4 単位選択必修
		キャリア英語演習１ キャリア英語演習２ キャリア英語演習３ キャリア英語演習４	2 単位必修 2 単位必修 2 単位必修 2 単位必修
国際社会	基盤科目 C 群	政治学１ 政治学２ 経済学１ 経済学２ 日本国憲法１ 日本国憲法２	左記科目より 4 単位選択必修
	専門科目（国際社会コース）	国際政治論１ 国際政治論２ 国際経済論１ 国際経済論２ 国際法１ 国際法２ 地球環境経済論１ 地球環境経済論２	左記科目より 6 単位選択必修
		国際社会演習１ 国際社会演習２ 国際社会演習３ 国際社会演習４	2 単位必修 2 単位必修 2 単位必修 2 単位必修
地域経営	基盤科目 C 群	経営学１ 経営学２	2 単位必修 2 単位必修
	専門科目（地域経営コー	コミュニティデザイン１ コミュニティデザイン２	2 単位必修 2 単位必修

	ス）	社会企業論１ 社会企業論２ 企業経営論１ 企業経営論２ 地域経営論１ 地域経営論２	２単位必修 ２単位必修 ２単位必修 ２単位必修 ２単位必修 ２単位必修
		地域共生社会論 非営利組織経営 地域調査 地域福祉１ 地域福祉２ ファンドレイジング ソーシャルベンチャー起業実践論１ ソーシャルベンチャー起業実践論２	左記科目より ８単位選択必修
		地域経営演習１ 地域経営演習２ 地域経営演習３ 地域経営演習４	２単位必修 ２単位必修 ２単位必修 ２単位必修
情報メディア	基盤科目Ｃ群	時事問題研究１ 時事問題研究２	左記科目より ２単位選択必修
	基盤科目Ｄ群	情報技術資格対策（IT パスポート）	２単位必履修
	専門科目（情報メディアコース）	デジタルジャーナリズム論 情報メディア論 デジタルコンテンツ概論 メディア産業論	左記科目より ４単位選択必修
		アナウンス・ナレーション実習１ アナウンス・ナレーション実習２ スマートフォンアプリ開発１ スマートフォンアプリ開発２ デジタルコンテンツ制作１ デジタルコンテンツ制作２ 映像制作１ 映像制作２	左記科目より ２単位選択必修

		情報メディア演習１ 情報メディア演習２ 情報メディア演習３ 情報メディア演習４	２単位必修 ２単位必修 ２単位必修 ２単位必修
全コース	専門科目（コース別）	歴史探究入門１・２ 多文化・思想入門１・２ キャリア英語入門１・２ 国際社会入門１・２ まちづくり PBL１・２ 情報メディア PBL１・２	左記組み合わせより２単位選択必修

３）自由科目（教職科目）の特色

本学では教職課程を設置し、中学校教諭一種免許状（社会、英語）ならびに高等学校教諭一種免許状（地理歴史、公民、英語）を取得できるようになっている。教職課程履修に必要な科目の多くは卒業要件単位外の科目として自由科目に位置付けられているが、前述した通り、専門に関係の深い指導法に関連する科目は「専門科目（コース共通）」に位置付けている。

(4)履修順序(配当年次)の考え方、科目の設定単位数の考え方

配当年次については、4 年間の学びの基礎となり専門科目へとつながる「基盤科目」を主に１～２年次に、コースの学びとなる「専門科目」を２～３年次に、4 年間の学びの集大成となる 4 年次演習と卒業論文を 4 年次に、それぞれ配当している。これまで「基盤科目」にあたる「共通基礎科目」の履修は、必修科目以外は任意の履修としていたが、コースの専門性と関わりの深い科目を必修または選択必修とし、学生がより意識的に段階履修ができるようにした。

科目の設定単位数については、講義科目および演習科目については 90 分授業 15 回を 2 単位、実習科目については 90 分授業 15 回を 1 単位として設定している。 1 単位あたり 45 時間の学習時間が必要である。

(5)必修科目･選択科目･自由科目の構成とその理由

必修科目に関しては、文理融合の総合知と技能を獲得させるために構成されている。また各コースの選択必修科目については、前述の通り、各コースの専門性を深めるために設定されている。選択科目はリベラルアーツが本来目指す幅広い学びを担保するとともに、多様な学生のニーズの受け皿として機能する。さらに、自由科目は、教職課程等の資格取得に関する科目が位置付けられている。なお、本学は、単位修得に至らずとも、当該科目を履修することにより卒業に必須となっている科目を修了したとみなすことができるという「必履修」科目（全学生必履修科目として「基礎演習１」「基礎演習２」「キャリア開

発１」「キャリア開発２」、情報メディアコース所属学生のみの必履修科目として「情報技術資格対策（IT パスポート）」）を基盤科目において設置している。

(6)主要授業科目について

国際教養学科では、３、4 年次の専門演習と各コースの専門科目のうち核になる科目を主要授業科目に設定している。カリキュラムマップ【資料２】で示す通り、専門演習はディプロマ・ポリシーのすべての項目を網羅しているため主要授業科目とし必修化している。そのほか、各コースの学問分野の核となる専門科目や到達すべき目標に関連する科目を主要授業科目に設定し、そのほとんどは必修化または選択必修化し、基幹教員が担当する。

(7)一年間の授業期間について

本学では 2 学期制をとっており、選択必修の語学は、90 分授業週 2 回を 15 週実施し、その他の科目は 90 分授業週 1 回を 15 週実施している。授業期間は、前期、後期ともに講義期間を 15 回確保し、それぞれ試験期間を 1 週間ずつ設けている。集中講義については、夏期休暇中、春期休暇中に設定し同じ時間を確保している。夏期、春期の短期・長期留学も 4～５週間程度までは実施可能な設定にしている。

５．教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1)授業の方法と学生数

授業形式については、各科目の到達目標に応じて、講義形式、演習形式、実習形式の 3 形態を使い分ける。講義形式は、知識を修得する科目に用いる。演習形式は、修得した知識をアクティブラーニング等を通して主体的に活用する科目に用いる。実習形式は、主として学外活動等、講義、演習で得た学びを定着させるための実践活動を伴う科目に用いる。いずれも、学生の主体的な学びを可能にするために少人数制をとっており、特に語学や演習においては、おおむね 15 人以下の授業設定としている。

１）講義形式の授業においては、１教室の学生数を最大でも 100 人以下に設定し、DP1 で獲得を目指す知識、技能、および DP3 で獲得を目指す人権意識等を培うことを目指す。ここでは、教員が学生向けに語る一方向型の講義のみならず、ディスカッション、プレゼンテーション、コメントペーパー、レポート等のアクティブラーニングを求めながら、学習者中心の学びを目指す。

語学は講義に含まれるが、学生と教員、ないしは学生同士のコミュニケーションを重視した実践的な授業形態をとるため、演習に近い。そのために、１教室あたり学生数は概ね 15 人以下の設定とする。

２）演習形式の授業においては、DP1 における知識・技能、DP2 における思考力・判断力・表現力を獲得すると共に、DP3 における人権や多様性を重視する態度を養うことを目指し、１教室の学生数は概ね 15 人以下とする。初年次の「基礎演習」では大学での学びに必要な基礎知識とスキルを学び、本学の特色であるリベラルアーツ教育について理解を深める。2 年次以降の演習は、コースにより特色は異なるが、いずれも、講義で培われた知識を深めながら、思考力を育てるためにディスカッション、ファシリテーション、PBL、サービスラーニングを行い、社会課題の発見と解決を目指す。さらに演習を通して養われた知を表現するために、ICT を用いたプレゼンテーション技術も養う。

３）実習形式の授業においては、サービスラーニング活動を通して知識と経験を循環させることによって、学びを深めることを目指す。知識を社会との関係性において実践的に学ぶことにより、DP3 に求められる、物事を包括的に捉え、持続可能な社会の形成に寄与する姿勢を養う。具体的には、「キリスト教音楽」「通訳」「海外キャリア実践」「留学異文化研究」「フィールド・ワーク」「インターンシップ」「卒業論文」、そして概要上の授業形態は講義に入っているが、教室外における活動がメインとなる「歴史学フィールドワーク」も実習的要素を多分に含んでいる。

(2)配当年次

「４．教育課程の編成の考え方及び特色」で述べた通り、「卒業論文」を最終目標として段階的に学修が進められるように、基盤科目、専門科目いずれも、基礎から応用、発展

へと進行していく形で各科目に年次を割り当てている。基礎演習は、大学で学ぶための基礎的なアカデミックスキルを養成するための科目として 1 年次必履修として配置し、以降専門科目の難易度に鑑みて、各学年に段階的に配置する。

1 年次必修の語学については、上級年次での継続的な履修を推奨し、継続して外国語学習を進められるように指導するとともに、学生に対しては、多様性理解、そして卒業後キャリアに活用するために、複数言語の履修を勧める。

学生の必要性に応じて、どの学習段階でも、広範な知識を修得することを可能にするために基盤科目は 1 年次から 4 年次に配置するとともに、レイトスペシャライゼーションの原則から、専門科目は「コース共通」、「コース別」ともに、原則として 2 年次から 4 年次に配置する。複数の知の統合が求められる難易度の高い科目は 3・4 年次に配当するなどし、体系的に知識を修得し、それを定着できるように設定する。

(3)卒業要件

国際教養学科では、基盤科目 48 単位以上、専門科目 60 単位以上とし、計 124 単位以上修得することを卒業要件とする。専門科目のうち過半数を占めるのは主専攻の科目であり、4 年次「演習」ないしは「卒業論文」を含めて 32 単位以上の修得が卒業要件である。学生が副専攻の履修も目指す場合は、当該コースの指定科目から 24 単位以上の修得が必要となる。履修科目の組み合わせについては、履修モデルを設定し、体系的な学修が進められるようにし、各学期に個別面談をくりかえし丁寧に履修指導を行う。なお、教職関連科目は自由科目として位置づけ、卒業要件外とする。

(4)履修モデル及び卒業論文単位数の考え方

主専攻のみの専攻でも卒業要件を満たすことはできるが、本学科ではリベラルアーツの趣旨に則して主専攻に加えて副専攻も履修することを推奨しているため、ここでは「多文化・思想」コースを主専攻とし、「キャリア英語」コースを副専攻とするパターンと、「情報メディア」コースを主専攻とし、「歴史探究」コースを副専攻とするパターンの 2 つの履修モデルを提出する。どちらの履修モデルでも、基盤科目 48 単位以上、専門科目 60 単位以上、卒業要件単位 124 単位を満たし、かつ主専攻 32 単位以上、副専攻 24 単位以上の要件を満たしている。さらに「情報メディア」コースの履修モデルでは、「数理・データサイエンス・AI 教育認定制度」（リテラシーレベル）の認定を受けることを想定している。専門の演習、専門科目において議論や発表、論文執筆を通して最終的に卒業論文が執筆できるように、段階的に知識と考え方、表現力を養成する。

リベラルアーツ教育の特質から、本学では 350 科目以上を開講しており、履修モデルや履修相談等において、学生が興味関心の幅を広げ、卒業要件単位数を超えて学び、学修成果を出せるよう指導することが必要である。

なお、卒業論文（卒業制作を含む）は 6 単位としているが、論文や映像等の作品を制作にかかる準備、教員による指導、リサーチ、執筆・制作を考えれば妥当な単位数である。

【資料３】卒業要件単位履修モデル表

（5）履修科目の年間登録上限（CAP制）

授業外の学習時間を確保するためにCAP制を採用し、各学期に登録できる単位の上限を24単位に定める。要件を満たした成績優秀者に対しては、27単位まで履修登録を認める。

（6）他大学における授業科目の履修について

本学においては他大学との交流を促進し、教育内容の充実を図るために以下の大学の学部学科との協定により相互の授業科目の履修を認めている。他大学等における履修は、多様な学修機会の提供に資するものと位置づけることができるが、当該履修が本学の教育課程の中に適切に組み込めるかどうかの認定が重要と考える。認定は、協定大学の授業を聴講し、試験を受け、合格の評価を受けた場合のみ、単位は30単位を上限に本学の単位として認定される。履修登録は年2回前・後期に行うことができる。

・新潟大学　人文学部
・新潟国際情報大学　情報文化学部
・放送大学
・沖縄キリスト教学院大学　人文学部
・沖縄キリスト教短期大学

６．実習の具体的計画

(1)実習の具体的計画

本学の人文学部国際教養学科において実習を必要とする資格・免許は、中学校教諭一種免許状（社会・英語）と高等学校教諭一種免許状（地理歴史・公民・英語）である。

１）実習の目的

文部科学省は教職課程コアカリキュラムにおいて、実習を「観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会」と定義している。そのうえで、「一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実践を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける」ことを目標としている。

加えて、本学は創立以来、リベラルアーツ教育を掲げ幅広い学びを推奨し、キリスト教の「隣人を愛する」精神をベースとした「グローバルな視点で考え、対話とコミュニケーションとボランティア精神を重んじ、隣人に仕える国際的教養人を育成」をミッションとして掲げている。さらに、専門知識・技能の獲得のみではなく、「グローバルな社会や文化の多様性を理解する力」「社会課題を理解し、解決しようとする力」「人間の尊厳と人権を尊重する姿勢」「多様な人々との共生を可能にする持続可能な社会の形成、発展に貢献しようとする主体的な態度」等をディプロマ・ポリシーとして定めている。

教育実習前に学内での学びに加え、２年次には専門演習毎にボランティア活動が実施されており、地域社会の現状や課題を知ること、その課題に対応すべく積極的に関わろうとする意識の涵養を重視している。また、教職課程の学生を対象としたプログラムとして、地域や学校、子どもを知り、企画立案・実施等を通してリーダーシップや責任感について実践的に学ぶ取り組みがある。「教育活動アクティブワーク」では、国立妙高青少年自然の家での宿泊体験活動の企画立案から実施・手配等や野外活動の経験を積む。「新発田市立第一中学校インターンシップ」は、１年間を通して実施しており、学校や生徒の状況を知る取り組みである。加えて、「新発田市立外ケ輪小学校教育体験活動」は、９月と２月に１週間ずつ実施している。これは少子化により年下の兄弟姉妹のいない学生の増加を視野に入れ、中学校入学前までの子どもの発達段階を知り、現在の地域や子ども達が直面する課題を知る機会である。

以上を踏まえ、教育実習の位置づけを整理すれば、まず、教職課程コアカリキュラムに規定されていることのみならず、学校現場で指導教員の下、経験を積むことで、学生の視点から教員として生徒に対応することができるようになる教育者としての視点へと切り替える機会となる。また、実習前までの学内外での取り組みとの関連でみれば、教育実習生として指導教員の下、学校教育実践を体験し、総合的に理解を深めることで、学校における教育活動や生徒への理解のみならず、多様化・複雑化している地域社会や生徒達が抱える課題への理解も深まる。そのことで、ディプロマ・ポリシーにもある「グローバルな社

会や文化の多様性を理解する力」「社会課題を理解し、解決しようとする力」「人間の尊厳と人権を尊重する姿勢」「多様な人々との共生を可能にする持続可能な社会の形成、発展に貢献しようとする主体的な態度」等につながる学校を含む実社会の身近なこととして課題を捉えられるようになり、人への理解と社会課題の理解が深まる。その結果として、実習前の学内外での学びと経験は、現実に裏付けられた確かな力となり、ディプロマ・ポリシーが求める人物像につながると考えている。

２）実習先の確保の状況

本学は、教職課程設置以来、母校実習を主としている。学生は９割以上が新潟県出身であるが、新潟は県域が広いうえに、主な公共交通機関は JR、バスのみであり、本数も多くない。そのため、いわゆる車社会である。しかし、学生の多くは他市からの JR 通学者である。最も実習先として多いのは新潟市内だが、新潟市ですら東京都のおよそ３分の１の面積を擁しており、教育実習は朝が早いことを考慮すれば公共交通機関を利用できる範囲にも限りがある。そのため、現在においても母校実習を主としている。新潟県内においては、いずれの市町村も教育実習の受け入れに関しては、教育委員会がとりまとめ・調整等をしておらず、各学校の判断にゆだねられているため、各学校に個別に申し込みをすることとなっている（令和６（2024）年度現在）。

以上の状況を踏まえ、基本的に本学教職員のサポートの下、３年次に各学生が個別に母校に申し込みし内諾を得ることとしている。この手続きも責任感や社会人になるための教育機会ととらえ、教育実習事前指導で方法や注意事項を徹底させたうえで取り組ませている。

実習の確保に関しては、過疎化等による学校の統廃合もあり、母校が廃校になる等の事例が散見されるが、その場合は、本学教員のサポートの下、通える範囲内にある学校に個別連絡し、事情を説明のうえ依頼することで、現在まで快諾を得ている。資料として令和５～７（2023～2025）年度の実習校関連資料【資料 4】を添付する。

【資料４】実習校関連資料

３）実習先との契約内容

現状は、契約内容を細かに定めた書面による学校間契約締結はしていない。しかし、今後、社会的環境変化に伴い必要に応じて、実習校との書面での契約締結も検討していく。各実習校実施の事前説明会での注意事項は実習ノートに設けてある事前説明会の報告ページに記録し必ず遵守することに加え、個人情報の取り扱いや SNS に関する事柄等の基本的な注意事項は教育実習事前指導でも取り扱い、徹底させている。加えて、教育実習の申し込みに際し、教育実習希望の学生は大学宛で守秘義務に関する誓約書を提出することになっており、その誓約書提出を受け、教育実習生が実習校の指示に従い教育活動の妨げにな

らぬよう真摯に取り組むよう大学が責任をもって指導する旨の誓約書を各実習校に送付したうえで、正式な教育実習承諾書の発行を受けている。

４）実習水準の確保の方策

教育実習の参加は、教員免許状取得に必要な科目（４年次履修科目を除く）をすべて履修済みであることを基本としている。意識づけのために教職科目の履修カルテを２年次より作成させ、２年次の 10 月、３年次の 10 月の２回、教職課程委員会の教員が履修カルテをもとに個別面談を実施している。また、実習申し込み前の２年次３月と３年次３月に教職課程委員会で教育実習参加予定者の履修状況と成績等を確認し、必要に応じて個別面談を実施している。

実習水準の確保に関しては、実習校での指導教員は学校における教育実践者、公教育の担い手であり、その指導力は確かであると評価するのが妥当であろう。

５）実習先との連携体制

教育実習に向けた手続きとして、各学生が実習校に申し込みや問い合わせを始めるのは３年次の４月末からである。問題を抱えている学生の場合は、対象学生２年次の３月に行われる教職課程委員会で判断し、事前に本学教員から実習校に連絡を入れ、訪問・相談をし、受け入れ可否について意見を伺う等連絡を密にしている。また、各学生が申し込みをし、書面で内諾を得るのは３年次の７～９月頃だが、受け入れが内定して以降も必要に応じて適宜本学教員から各学校へ情報提供や相談等をしている。

実習中は、本学指導教員が各学校を訪問して授業参観をし、実習校の指導教員から各学生の取り組み状況や意見等を伺うようにしている。

６）実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

新型コロナウイルスが令和５（2023）年５月に５類に移行する以前は、大学でガイドラインを策定し、実習の２週間前から毎日体温を記録し、実習校に持参させていた。しかし、５類移行後は基本的にインフルエンザと対応を同様にした。学生には、発熱したら必ず医療機関でインフルエンザと新型コロナウイルスの検査を受けること、それに際しては基本的に各実習校の指示に従うこと、実習校と大学の両方に速やかに密に連絡をすることを徹底させている。

保険加入に関しては、すべての学生が学生教育研究災害傷害保険（通学中等傷害危険担保特約付帯）と学研災付帯賠償責任保険に加入しており、教育実習期間のみを対象としたさらなる保険加入はしていない。

７）事前・事後における指導計画

本学教職課程では、適宜個人面談を実施する等科目履修外での指導も多くあるが、ここ

では、３年次後期からの科目としての教育実習事前事後指導に焦点をあてる。教育実習事前指導は、６回実施している。教育実習の意義、教員として求められる資質等できるだけ具体的にイメージできるように例を挙げた指導を心がけ、学生同士の意見交換や議論等のグループワークでさらに他人事ではない自分事としての認識が深まるよう取り組んでいる。また、教育実習が有意義なものとなるように各自が実習を通して学びを深める研究課題を設定している。事後指導では、教職実践演習も活用し、事前指導で設定した研究課題の報告書作成・提出を課している。また、教育実習の総仕上げとして、教職実践演習での省察等も踏まえ、教職課程・教育実習報告会を学生主体で企画実施している。

８）教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

実習校との連携に関する項でも言及したが、すべての実習校に本学専任教員が訪問することとしている。前出の令和５～７（2023～2025）年度の実習校関連資料【資料４】で示した通り、本学において教育実習に取り組む学生数は例年 10 名前後であり、実習時期も様々である。教員１名あたりの実習校訪問は１年度に１～２校とし、同じ週に複数校の訪問とならないように調整している。大学の講義期間との重複は多いが１週間に１校であるため講義に支障がでることはほぼない。どうしても調整がつかない場合は講義をオンラインや補講とすることで対応している。

９）実習施設における指導者の配置計画

教育実習期間中は、各実習校の専任教員が教育実習生の指導教員を務めるのが通例である。その指導教員は、教育実践者として実績があり、公教育である学校教育の担い手でもあることから、各実習校の指導教員を信頼し、大学から特に指導者を配置することはしていない。しかし、教育実習生が問題を抱えた場合の対応として、教職課程委員会の委員と各学生のアドバイザーが主となりフォロー体制を敷いている。

１０）成績評価体制及び単位認定方法

実習期間中の評価は、基本的に各実習校に委ねている。方法としては、実習校には統一の評価表を送付し提出を受けることで、共通の評価視点を置いている。しかし、教育実習の評価と単位は、大学が出すものであること、さらに、実習校・指導教員により評価の姿勢が異なることへの対応は不可避である。そのため成績評価は、実習校の評価を基本とし、教育実習前に「生徒指導」「学習指導」「学級経営」「道徳」の項目別に各学生が設定した課題に関する報告書や研究授業とその指導案、学校訪問で知りえた状況等を大学で相対評価する部分を設け、より公正な評価に努めている。

７．企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

１）インターンシップ

①実習先の確保の状況

実習先の確保については、新潟県内企業等25ヵ所に毎年受け入れ可否についての調査を送り、受け入れ可能と回答した企業等と学生のマッチングを行う。

また、新発田商工会議所が取りまとめを行う「新発田・胎内・聖籠インターンシップ事業」に参加している企業等の中で本学インターンシッププログラムの単位認定を満たせるものについても学生に情報を開示し、参加者を募る。

令和６（2024）年度に学生を派遣した実習施設一覧をインターンシップ実習施設一覧【資料５】に示す。

【資料５】インターンシップ実習施設一覧

②実習先との連携体制

インターンシップの受け入れ企業等から、実施プログラムの内容を事前に提出していただき、インターンシップの実施期間、内容について単位認定が満たせるものか大学が確認を行う。

実習先企業等には、既定の時間の実習を達成した場合、事後教育のため企業等の実施担当者からフィードバックをいただき、学生の学びを深める事を目指す。加えて、実習での不測の事態に備え、本学のキャリアサポート課が窓口となり、実習期間中に必ずモニタリングに行く等、企業等の担当者と緊密な連携を図る体制をとっている。

③成績評価体制及び単位認定方法

事前指導と事後指導での態度、並びに受け入れ企業等からの評価、また、実習先での日誌および報告書の内容等を勘案し、最終的には就職委員会で総合的に評価を行い、単位を認定する。

④その他特記事項

実習が決まった学生は実習先に「誓約書」を送付する。誓約書には以下の内容を記載する。

ア．実習条件（実習期間・実習時間・実習場所・報酬の有無）
イ．遵守事項（就業規則・守秘義務・事故補償・損害賠償）
ウ．実習学生の氏名・所属
エ．大学代表者の氏名・押印

２）海外語学研修等について

敬和学園大学は、学則の第１条において「自由かつ敬けんな学風の中で真理を探求するとともに心の教育を実践し、国際的な教養豊かな良心的人材を養成すること」を教育の目

的としている。この理念は大学のカリキュラム・ポリシーにも反映され、第５項には「異文化を理解し、グローバルな視点から物事を考えられる人になるために、留学の機会を提供する」と規定している。

本学のリベラルアーツ教育は、学生たちに国際的な教養を身につけさせることを目標としている。そのためには学内での学びにとどまらず、学外に出て多くの人びとと交流することを通して、自分の偏見を乗り越え、他者とつながり、共に生きる人間となることが教育上の目標となる。またこの目標は国内にとどまらず、海外に出て自らと異なる言語・文化・宗教・習慣を持つ人と出会い、学び、対話を重ねる機会を設けることにも及ぶ。このような経験が、他者を受け入れ、自らの視野を広げ、教養をより開かれた豊かなものにしていくことにつながるからである。

文部科学省は令和 15（2033）年度までの留学生に関する目標として、外国人留学生を 40 万人受け入れ、日本人留学生を 50 万人送り出す目標を掲げている。この国家単位のマクロ的ヴィジョンを大学のミクロな現場において実現するためのミッションとして、学内での留学生受け入れや交流の深化とともに、学生を海外へ送り出す営みが要請されている。

本学ではこのような考えをもとに、学生を夏期休暇又は春期休暇を利用した短期留学研修プログラムと長期留学研修プログラムを提供している。その概要は以下の通りである。

①海外語学留学・研修などプログラムの確保

【英語】

実習施設名	所在地	受入可能人数	実習期間
メイン大学	アメリカ メイン州オロノ	制限なし	学生の希望と受入先機関との調整による
コーク大学	アイルランド コーク県コーク	10 名	３週間
ティーズサイド大学	イギリス ミドルズバラ	７名以上　制限なし	４週間
ホーソン・メルボルン (メルボルン大学 提携語学学校)	オーストラリア ビクトリア州メルボルン	制限なし	１週間から
デラサールアラネタ大学 付属語学センター	フィリピン マニラ市	６名以上　制限なし	３週間
長榮大学	台湾 台南市	３名	２週間/４年ごと
中国海洋大学	中国 山東省・青島市	制限なし	４週間
			16 週間

【中国語】

実習施設名	所在地	受入可能人数	実習期間
哈爾濱師範大学	中国 黒龍江省・哈爾濱市	制限なし	２週間
			４週間
黒龍江大学	中国 黒龍江省・哈爾濱市	制限なし	２週間
			４週間
中国海洋大学	中国 山東省・青島市	10 人以上	２週間～４週間
		制限なし	16 週間～１年
長榮大学	台湾 台南市	制限なし	２週間

【韓国語】

実習施設名	所在地	受入可能人数	実習期間
ソウル市立大学 韓国語学堂	韓国 ソウル市	制限なし	２週間

【ドイツ語】

実習施設名	所在地	受入可能人数	実習期間
フライブルク大学	ドイツ バーデン＝ヴュルテンベルク州フライブルク・イム･ブライスガウ	制限なし	４週間

３）プログラム実施先との連携体制

海外語学留学・研修などの海外実習先との連絡は、国際交流委員会を中心に各大学の短期プログラムを担当する教職員がメール等のやり取りをしてプログラムを実施している。

留学研修プログラムの出発前には、担当の教職員によって数度にわたってオリエンテーションを実施し、留学の心構えや海外渡航に必要な諸手続き、渡航にあたっての注意事項などを共有している。プログラムの実施にあたっては、担当の教職員が留学先の機関まで参加学生を引率・出迎えするものもある。また旅行代理店が実施を行う場合は、代理店との連携を密にしていくことで学生の安全を確保するなどの手立てを行っている。参加学生は帰国後に報告書を作成し、その成果を学内で発表する機会を設けているが、教職員はそれらの学習成果や今後の課題を適宜、担当する留学先にフィードバックするように努めている。

４）成績評価体制及び単位認定方法

成績評価や単位認定に関しては、留学先から届いた成績表または修了証及び参加学生が

帰国後に作成した留学・研修に関する報告書をもとにして、単位認定の審査を行う。認定された単位は、本学の基盤科目「留学　異文化研究」として卒業要件単位に加えることができる。

５）その他特記事項

本学では、大学の提供する留学・研修プログラムのほかに、自由留学制度がある。これは学生が自主的に計画を立てて、本学の許可を得て留学・研修し、学習の成果によって本学の卒業要件単位として認定する制度である。

８．取得可能な資格

本学で取得可能な国家資格は、教職課程における中学校教諭一種免許状（社会、英語）、高校教諭一種免許状（地理歴史、公民、英語）であり、課程を修了することで資格を取得することができる。この他、本学で教職課程を履修し所定の要件を満たした者には玉川大学通信教育課程との併修を修了することで、小学校教諭二種免許状を取得することが可能である。

また、文科省認定「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」（リテラシーレベル）に令和７（2025）年度春に申請する予定である。

このほか授業と連動して取得するこができる国家資格等は、IT パスポート、ウェブデザイン技能検定等を推奨するが、授業の履修が即資格取得につながるわけではないため、ここでは省略する。

９．入学者選抜の概要

人文学部国際教養学科のアドミッション・ポリシーは、以下の通りである。

敬和学園大学は、建学の精神すなわち「神を敬い、人に仕える」に基づき真理の探究と心の教育を行い、「国際的教養豊かな良心的人材」の育成を教育目標とする。この教育目標を達成するために、以下の「学力の 3 要素」に示す能力、意欲を備えた人を求めている。

１．知識・技能

1-1　高等学校における国語・英語・社会科・数学などに関して基礎的な学力とコミュニケーション能力を有する人

1-2　グローバルな視点から人間社会の多様性を理解し、視野と知識を広げる意欲のある人

2. 思考力・判断力・表現力

2-1　答えを見出しにくい問題に対しても粘り強く取り組む意欲のある人

2-2　社会の課題を理解し、解決しようとする意欲のある人

2-3　ことばを使った表現力や ICT に関する知識と技能を身につける意欲のある人

3. 意欲・関心・態度

3-1　自分や他者を人間として大切にすることのできる人

3-2　主体的に持続可能な共生社会の形成、発展に関わりたいという意欲のある人

上記のアドミッション・ポリシーを踏まえ、人文学部国際教養学科の選抜体制を、以下の通りに計画する。

(1)募集人員

国際教養学科の選抜体制は、「学校推薦型選抜」「総合型選抜」「一般選抜」の 3 区分とし、募集人員は入学定員 170 名中、学校推薦型選抜 51 名（30.0%）、総合型選抜 21 名（12.3%）、一般選抜 98 名（57.7%）に振り分ける。

(2)主たる選抜

国際教養学科の主たる選抜は、「学校推薦型選抜」「総合型選抜」「一般選抜」の 3 区分とする。それぞれの入学試験において、アドミッション・ポリシーに示す能力、資質等を多面的・総合的に評価することとし、入学者選抜の目的や、求める受験生の能力、資質等を、選抜区分ごとに以下に示す。

１）学校推薦型選抜

学校長の推薦を受け、本学を第一志望としていることが前提の入試であり、本学の教育目標・内容を十分理解し、高等学校で履修する教科に真摯に取り組んでいる者を受け入れることを目的とする。

本入試制度では、アドミッション・ポリシーで示す学力の 3 要素のうち、特に知識・技能および意欲・関心・態度を重視し、出願資格、提出書類および面接により、国際教養学科での学修にスムーズに移行できるかを判断し、選考する。

（学校推薦型選抜と AP との対応関係）

	AP1【知識・技能】	AP2【思考力・判断力・表現力】	AP3【意欲・関心・態度】
提出書類 （調査書）	○ 評定値を基準に判断	○ 特別活動の記録から判断	○ 学校生活での取組から判断
口頭試問 （面接試験）	○ 知識を問う質問等から判断	○ 回答内容から思考力・判断力・表現力を判断	○ 回答内容から意欲・関心・態度を判断

２）総合型選抜

本学の教育目標・内容、国際教養学科のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを通じて国際教養学科の学びを十分理解し、様々な場で意欲的に活躍することが期待できる多様な能力を持った学生を、多面的・総合的に評価し、受け入れることを目的とする。

本入試制度では、アドミッション・ポリシーで示す学力の 3 要素のうち、特に知識・技能および思考力・判断力・表現力を重視し、提出書類、面談（２回）、口頭試問等により、国際教養学科での学修にスムーズに移行できるかを判断し、選考する。

（総合型選抜と AP との対応関係）

	AP1【知識・技能】	AP2【思考力・判断力・表現力】	AP3【意欲・関心・態度】
提出書類 （調査書） （志望理由書）	○ 評定値を基準に判断	○ 志望理由書から表現力等を判断	○ 調査書の学校生活での取組から判断
口頭試問 （面談試験）	○ 知識を問う質問等から判断	○ 回答内容から思考力・判断力・表現力を判断	○ 回答内容から意欲・関心・態度を判断

３）一般選抜

一般選抜においては、英語、国語、地理歴史といった文系教科を中心に、共通テスト利

用入試では、それらの教科だけでなく、数学、情報などの理系教科についても幅広く学んできた者の中から、学業に優れ、高い勉学意欲を持つ者を選抜することを目的とする。

本入試制度では、アドミッション・ポリシーで示す学力の 3 要素のうち、特に知識・技能を重視し、提出書類、学力試験により、国際教養学科での学修にスムーズに移行できるかを判断し、選考する。

（一般選抜と AP との対応関係）

	AP1【知識・技能】	AP2【思考力・判断力・表現力】	AP3【意欲・関心・態度】
提出書類 （調査書）	○ 評定値を基準に判断	○ 特別活動の記録から判断	○ 特別活動の記録から判断
筆記試験 （学力試験）	○ 学力試験から判断	○ 記述式の学力試験から判断	○ 記述式の学力試験から判断

(3)その他の選抜

社会人・シニア、帰国生および外国人留学生についても独自の選抜を行って、受入れを行っているが、特に定員を定めていない。以下に、それぞれの選抜の概要を記す。

1）社会人・シニア入試

本学では、社会的に豊かな経験を有し、勉学意欲旺盛な者を対象として、社会人入試とシニア入試を実施している。社会人入試では、社会人を「入学時に満 23 歳以上で、高等学校又は中等教育学校卒業と同等の資格のある者」と定義している。また、シニアを「入学時に満 55 歳以上で、高等学校又は中等教育学校卒業と同等の資格のある者」と定義している。

出願期間および試験は社会人入試、シニア入試とも 9 月初旬から翌年 3 月中旬まで設けており、書類審査および口頭試問（2 回の個人面談）により AP1～AP3 に係る能力を総合的に評価している。口頭試問では、志望動機や勉学以外の諸活動に関する質問の他に、基礎的な知識を測る課題文を実施している。

1 年次入学者のうち、本学入学前に大学、短期大学、専修学校の専門課程で修得した単位がある場合は、本学の基盤科目および専門科目として単位を認定することができる。また、入学前に修得した単位が一般教養など、専門科目ではない科目として修得した単位であっても、内容が本学の専門科目に相当すると判断した場合は、専門科目の単位として認定することができる。

２）帰国生入試

日本の国籍を有する海外帰国子女と外国学校出身者を対象とする帰国生入試を実施し、口頭試問（２回の個人面談）により AP1～AP3 に係る能力を総合的に評価している。

出願資格を有するのは、以下のいずれかに該当する者である。

・外国において、学校教育における 12 年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む）を卒業（修了）または卒業（修了）見込みの者。ただし、卒業時において最終学年を含め、継続して２年以上外国の学校教育を受けている者。

・外国において、外国の教育課程に基づく中・高等学校に原則として３年以上継続して在籍し、帰国後日本の高等学校に入学し、卒業または卒業見込みの者で、かつ日本の高等学校在籍期間が２年以下の者。

・国際バカロレア資格、アビトゥア資格またはバカロレア資格を取得した者で、入学時に満 18 歳に達する者。

３）外国人留学生入試

小論文および口頭試問（個人面接）により AP1～AP3 に係る能力を総合的に評価している。

日本語能力の評価としては、日本語能力試験の Ｎ２相当を要件としている。また、本学入学から卒業までの学費・生活費については出願書類と面接において十分に確認している。

在籍管理方法については海外語学研修の欄で述べたとおりである。

１０．教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色

(1)教員組織の編成の考え方及び特色

国際教養学科ではリベラルアーツ教育を行い、学生が学際的な教養を持ち広い視野を得ることができるように、安定的な教育課程の運営のため教育研究上の優れた業績を有する歴史学から情報学まで幅広い分野の研究者を配置する。

本学科には、基幹教員 22 名（教授 14 名、准教授６名、講師１名、助教１名）を配置しており、博士号を有する者は11名（50%）である。学問分野が重複する場合は他コースの科目も担当する場合もあるが、主な所属教員として各コースに３～５名の基幹教員を配置する。このほか、基幹教員以外で旧学科組織の継続に必要な教員や、語学、スポーツ等を担当する教員も新学科の教育の一角を担う。

基幹教員は、複数のコースを横断して教える場合もあるが、原則として一つのコースに所属する。人文科学、社会科学の専門分野を広く深く学べるように構成されている。例えば歴史探究コースでは日本、中国、ヨーロッパ、アメリカの近現代史を専門とする教員で構成され、県内大学にない特色となっている。地域経営コースでは、喫緊の課題である地方創生に関連して、経営学、建築学、文化学、福祉学の側面から文化的・福祉的まちづくりと地方創生を実践的に学べるように教員を配置している。情報メディアコースでは、ICT リテラシーを高めるだけでなく映像・デジタルコンテンツ制作、データベース・ＡＩ活用等で実務家教員を含め実績のある教員を配置している。

(2)教員の年齢構成

完成年度の３月末日での基幹教員の年齢構成は、70 代１名、60 代９名、50 代９名、40 代３名であり、定年を迎える教員が 1 名いる。定年を迎える教員に関しては特例を定めた規定により、完成年度まで教えることが理事会で承認されている。

【資料６】就業規則等
【資料７】敬和学園大学教員の定年に関する特例を定める規則

１１．研究の実施についての考え方，体制，取組

本学では、リベラルアーツ教育を行う高等教育機関として、地域社会に貢献するため、学際的な研究・調査を推進しており、「本学が求める教員像」において「真理探究に従事する研究者として、高度な専門知識を持って、持続的な研究を行いつつ、その成果を教育および社会に還元する」と定めている。

専任教員は、全員個室の研究室があり、週 1 日授業がない研究日を設けており研究時間の確保ができている。また、サバティカル制度を導入しており、半年間授業を持たずに研究に専念できる機会を提供している。個人研究費（半額まで研究旅費として使用可）は一人当たり年間 300,000 円を支給し、そのほかに研究旅費を教授は 71,000 円、准教授、講師は 49,000 円を支給している。さらに、本学に設置している人文社会科学研究所が共同研究・調査について研究費の交付を行っているほか、学術出版の助成も行っている。

研究を行うにあたっては、「敬和学園大学における研究者等の行動規範」を定め、不正防止体制をホームページで公表しているほか、不正防止のための研修会を毎年実施し、全教員に参加を義務付けている。

研究者に対する支援は、図書館・研究所・紀要委員会が科研費獲得のためのセミナーを開催しているほか、外部資金獲得の情報を提供するなど、研究費獲得のための支援を行っている。

１２．施設，設備等の整備計画

(1)校地、運動場の整備計画

本学は新発田市と聖籠町から誘致され土地を提供されたこともあり、新発田市と聖籠町の境界線上に位置しており、新発田市側は国道沿いの商業施設圏があり、聖籠町側は田圃が広がり、利便性がありながらも自然豊かな場所に位置している。校地は、56,109 ㎡あり大学設置基準を十分満たしている。敷地内には、講義棟の他、図書館、学生ホール（食堂）、体育館、グラウンド、アーチェリー場、テニスコートを設置しており、学生の課外活動の場と厚生施設として十分に機能している。キャンパスの中央には学園祭等のイベントが開催される広場があり、学生、教職員と地域住民の交流の場としても活用される。空地には草花が植えられ、桜やユリノキなどの樹木が植樹してあり、ベンチを置き四季を通じて自然豊かな憩いの場となっている。

なお、国際教養学科の設置に伴う校地の新たな整備計画は予定していない。

(2)校舎等施設の整備計画

校舎等の施設の整備計画については、中長期計画に基づき、外壁修繕工事、和式トイレの改修工事等を順次行っていく予定である。バリアフリーについては、スロープの他、点字ブロックの敷設、障害者用（多目的）トイレの設置等、既に整備を終えている。

研究室については在職している専任教員数以上の個室があり、オフィスアワーでのプライバシーも確保できている。

教室については、大教室（240 人収容）1 室、中教室（90 人・120 人収容）4 室、小教室（60 人収容）7 室、AV 教室（72 人収容）1 室、コンピュータ教室（45 人・28 人収容）2 室、演習室（24～32 人収容）8 室、多目的教室（48 人収容）1 室がある。各教室には Wi-Fi 設備があり、プロジェクターやスクリーン又はモニターが教室の規模に応じて全室に設置されている。ラーニングコモンズは、可動式の机と椅子を設置し、Wi-Fi 設備と大型モニターを設置することにより、学生のアクティブラーニングの場としてだけではなく、「実践するリベラルアーツ」のコンセプトのもと、サービスラーニングの一貫として、地域との交流の場としても活用されている。

体育館には、アリーナのほか武道場とトレーニングジムがあり、スポーツ実習や課外活動が盛んに行われている。

なお、計画している学科の再編案は、３学科体制から１学科体制に再編するものであり、入学前に学科として専門を選択していたものを、入学後にコースとして専門を選択できるように変更するものであり、学びの内容やクラス編成に大きな変更を生じるものではない。さらに、入学定員数も 180 名から 170 名に圧縮し、授業科目数も削減するため、必要となる教室数が増えることはない。以上から、既存の教室で十分に教育研究は実施可能であるため設置に伴う校舎等の新たな整備計画は予定していない。

(3)図書等の資料及び図書館の整備計画

１）図書の整備状況と整備計画

本学図書館は、「敬和学園大学図書館規程」に基づき、大学図書館として大学の学びをより深めるための図書資料を収集し、教育・研究・学修の支援をしている。また、本学の教育理念であるキリスト教精神に基づき、リベラルアーツ教育が目指す国際的教養人の育成に貢献するため、人文・社会科学に関する的確な蔵書・資料構築を行うこと、さらに人権・平和・共生を促進する研究拠点として、必要な基礎的資料と専門的資料の充実を図ること、これらを目指し、図書、雑誌、新聞、視聴覚資料を収集し、近年は、電子ジャーナル、学術データベース、電子書籍などの電子情報資料の収集にも力を入れている。

令和７（2025）年２月１日現在、図書 107,482 冊(うち洋書 22,493 冊)、電子書籍 220 冊（うち洋書 125 冊）、雑誌 288 種（うち洋雑誌 122 種）を所蔵している。図書館では毎年 1,200 冊程度の図書（和書 1,000 冊、洋書 200 冊）を購入しており、新学科完成までに同程度の冊数を購入し、さらに蔵書の充実を図る。

冊子体の雑誌は、基幹教員に毎年確認を依頼し、和雑誌・洋雑誌とも令和７（2025）年度も確認を終え、現在所蔵しているものは全て教育や研究に必要と判断されたものである。国際教養学科で利用する主な学術雑誌は、以下のとおりである。

「海外事情」「外交」「環境と公害」「教員養成セミナー」「教職課程」「協同の発見」「経済セミナー」「公法研究」「国際人権」「国際政治」「国際法外交雑誌」「史學雑誌」「思想」「社会科教育」「社会福祉研究」「ジュリスト」「史林」「信徒の友」「生活と福祉」「西洋史学」「中国研究月報」「地理歴史公民研究」「哲学」「ドイツ研究」「ドイツ文学」「日本語学」「日本史研究」「日本民俗学」「判例時報」「比較思想研究」「福音と世界」「ふくしと教育」「文化人類学」「法学教室」「放送研究と調査」「三田文學」「民俗学」「メディア研究」「歴史学研究」「歴史地理教育」「歴史評論」「フォーリン・アフェアーズ・リポート」」
「American Journal of Philology」「American Literature」「ELT Journal」「European Journal of International Law」「Foreign Affairs」「Geschichte in Wissenschaft und Unterricht」「Historische Zeitschrift」「International Security」「Journal of Common Market Studies」「Journal of School Psychology」「Journal of the Theological Studies」「Millennium : Journal of International Studies」「Reviews in American History」「Shakespeare Quarterly」「TESOL Quarterly」

これまで各学科で収集した図書および雑誌は十分な数を揃えており、国際教養学科でも学修・研究に支障ない蔵書を有している。改組にあたり専門書の購入は予定していないが、必要に応じて随時適切な対応を考えたい。

２）デジタルデータベース、電子ジャーナルの設備計画

学術研究データベース EBSCO の他、朝日新聞・日本経済新聞・Japan Times・新潟日報の記事検索データベースなど、全学生が利用する基本的なものは備えている。

電子ジャーナルは、学術団体や専門家団体を代表して出版された主要ジャーナルの学際的なコレクションである、ケンブリッジ大学出版局の「Cambridge Journals Online(CUP JUSTICE Consortium:HSS Package)」を契約し、284 種（うち洋雑誌 284 種）にアクセスすることができる。

データベースおよび電子ジャーナルは、今後、授業や研究で必要なものがあれば、新たに追加する予定である。

３）図書館の閲覧室、閲覧席数、レファレンス・ルーム、検索手法など

図書館の閲覧室は地上 1 階の 1 フロアで、グループ学習など学生同士で相談しながら利用できる「グループワーク可能エリア」と、静かに学習する学生向けの一人用の席「キャレルデスクエリア」と、利用する目的別にエリアが分かれている。

閲覧席は 126 席、そのうち 20 席のパソコンルームと 12 席の視聴覚コーナーがある。

本学で所蔵する資料は、閉架書庫資料なども含め、全てオンライン蔵書目録検索システム（OPAC）に登録している。館内には OPAC 検索専用端末が 3 台あるほか、利用者の持参した PC やタブレット、スマートフォンからも検索することができる。OPAC、データベース、電子ジャーナル、電子書籍は学外からもアクセス可能なため、学外でも学内同様の学修・教育環境を保つことができる。

視覚障害学生や読書バリアフリー法に対応するため、サピエ図書館への加盟や国立国会図書館の視覚障害者向けデータの送信承認館の申請を行い、スキャナーと読み上げ機能を付けた学生用 PC を設置している。

司書資格を有する職員が常に図書館入口のカウンターにおり、所蔵調査、事項調査といったレファレンス相談に対応しているほか、電子資料やデータベースの活用を促進、情報リテラシー教育、図書館を有効に活用するために必要な OPAC の使い方、新聞記事索引の検索方法、論文や資料の探し方について、定期的にガイダンスを行っている。

地域の公共図書館と学生が協力して行うイベント『ビブリオバトル』をサポートし、学生が地域社会に関心を持ち貢献できるよう協力している。

大学紀要や研究所で発行した紀要・年報など、本学において生産された研究成果は、機関リポジトリで学内外へ広く公開し、教育・研究・社会活動の発展に寄与している。

４）他大学図書館との協力

国立情報学研究所（NII）の NACSIS-ILL の相互貸借サービスに参加し、文献複写および現物貸借サービスを提供している。

１３．管理運営

(1)教授会

教授会については、敬和学園大学学則第６条及び第７条に規定されている。構成員は、専任の教授をもって組織すると定められているが、必要があるときには、准教授、専任講師、その他の教職員を出席させることができるとしており、開学以来、教授、准教授、専任講師を構成員として、学長が議長となって議事を進めている。助教と課長以上の事務職員は陪席者として出席しており、情報の共有を図っている。定例教授会は、原則月１回開催されている。

教授会は、学長が次に掲げる審議事項について、決定を行うに当たり、意見を述べるものとされている。審議事項は以下のとおりである。

① 学生の入学、卒業及び課程の修了その他学生の身分取り扱いに関する事項
② 学位の授与に関する事項
③ 教員の人事に関する事項
④ 教育課程に関する事項
⑤ 学部その他学則その他重要な学内諸規則等に関する事項
⑥ 学術研究に関する事項
⑦ 教室、研究室、図書館その他教育研究施設に関する事項
⑧ 学内の宗教活動に関する事項
⑨ ①から⑧のほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項等

上述のほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、および学長等の求めに応じ、意見を述べることができるとしている。また、学生の賞罰、教員の採用・昇任人事についても教授会の議を経て決定される。

(2)教学マネージメント委員会

学長の指揮の下、学修成果の質保証等をはじめとする教育研究活動及び大学運営に関する事項を審議し、本学の理念・目的を達成するために、教学マネージメント委員会を設置している。学長が委員長となり、委員会を招集し、原則教授会前に月 1 回程度開催している。審議事項は、以下のとおりである。

①人事に関する事項
②大学運営に関する事項
③教学の企画運営に関する事項
④教員組織の編成に関する事項
⑤委員会の設置と廃止に関する事項

⑥教育課程の編成に関する事項
⑦内部質保証の推進及び自己点検・評価に関する事項
⑧教学と関連した財務の運用に関する事項
⑨その他、委員長が審議を必要とする事項

(3)その他、教学に関連する委員会

教育課程の編成に関連する委員会として、教務委員会、FD/カリキュラム委員会、外国語カリキュラム委員会を設置しているほか、大学運営に係る諸課題について協議するため、学生委員会、国際交流委員会等、21 の委員会を設置している。各委員会の協議内容については、教授会で報告される。

各委員会には、専任教員のほか、事務職員も委員会の構成メンバーとして出席し、実務的な知識や経験から意見を述べることにより大学運営の実効性を高め、情報共有を図ることで大学運営の円滑化を図ることができている。

１４．自己点検・評価

(1)実施体制･実施方法

本学は「敬和学園大学内部質保証に関する規程」に基づき、内部質保証の推進及び自己点検・評価について定めている。本学の内部質保証を推進するための権限と責任を教学マネージメント委員会に置き、その下部組織として自己点検・評価委員会を設置している。

教学マネージメント委員会が策定した中長期計画及びその具体計画（ロードマップ）に基づき、自己点検・評価委員会は、毎年、学科、各部署（委員会）から出された「中長期計画（ロードマップ）成果達成度評価報告書」を点検・評価し、評価結果を教学マネージメント委員会に報告・助言している。さらに、「中長期計画（ロードマップ）成果達成度評価報告書」は毎年監事に報告され、評価・助言を受けている。教学マネージメント委員会は、自己点検・評価委員会と監事から受けた報告・助言をもとに、改善が必要であると認めた場合には、学長の名において適切な措置を講じ、教授会に報告する流れとなっており、PDCA サイクルを回している。

また、7 年毎に認証評価機関（大学基準協会）の評価を受けるほか、認証評価機関から認証を受けた年から 5 年経過した年に、第三者評価を受けることとしている。

教員の業績評価については、専任教員が「教育活動・研究活動・社会貢献活動報告書」を毎年作成し、自己点検・評価委員会が点検・評価し、教学マネージメント委員会に報告している。ただし、研究活動部分については、人文社会科学研究所に点検・評価を委託し、その評価結果の報告を受けて、自己点検・評価委員会が検証したうえで、教学マネージメント委員会に報告している。

(2)結果の活用･公表及び評価項目等

「中長期計画（ロードマップ）成果達成度評価報告書」は、点検・評価後に教授会で報告され、学科、各部署にフィードバックされ、学科、各部署の改善に活用される。

第三者評価を受けた際の自己点検・評価報告書及びその結果と、大学基準協会で受けた際の自己点検・評価報告書及び大学評価の結果については、本学のホームページの内部質保証に関する情報公開のページで公表されている。

点検項目については、大学基準協会の評価項目に準じ、それに本学独自の評価項目を加えることができ、教学マネージメント委員会が決定する。

１５．情報の公表

本学では、学校教育法第 113 条、学校教育法施行規則第 172 条の 2 に基づき、教育研究活動等の状況に関する情報を本学のホームページで公表している。

ホームページの掲載箇所：トップページ＞大学案内＞基本情報・情報公開＞学校教育法施行規則第 172 条の 2 に基づく教育情報の公開（令和 7 （2025）年 2 月現在）

＜URL＞　https://www.keiwa-c.ac.jp/about/info/educationlaw/

公表の項目

①大学の教育研究上の目的に関すること

・大学の目的

・学部・学科の紹介

・教育理念・目的とポリシー

・アセスメント・ポリシー（学習成果の評価の方針）

②教育研究上の基本組織に関すること

・学部・学科名称

・敬和学園大学の構成

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

・教員組織

・役割分担

・組織図

・教員組織、専任教員数、教員一人当たりの学生数、年齢構成、専任教員と非常勤講師の比率

④入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

・アドミッション・ポリシー

・学部学科の入学定員、収容定員、在学生数、入学者数、社会人学生数、外国人留学生数

・出身高校の所在地別学生受け入れ状況

・入学者の推移

・主な就職・進路

・卒業者数（学位授与数）・卒業生進路状況

・外国人留学生の進路状況

・学科別卒業者数・学位授与数

・教員免許状・社会福祉士取得率

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

・カリキュラム・ポリシー

・カリキュラム構成
・授業科目
・授業科目シラバス（講義のテーマ、概要及び到達目標、講義計画）
・履修モデル
・導入教育・共通科目の特長
・外国語プログラムの特長
・主要専門科目の特長
・資格（教職課程、社会福祉士国家試験受験資格課程）
⑥学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関すること
・ディプロマ・ポリシー
・取得学位
・卒業必要単位数、必修科目
・成績評価、ＧＰＡ制度
・授業科目シラバス（成績評価の方法）
⑦校地、校舎等の施設及び設備その教育環境に関すること
・基本情報（校地校舎面積）
・耐震化率
・施設・設備
・学生寮
・交通アクセス
⑧授業料、入学料その他大学が徴収する費用に関すること
・学納金
・入学金・学費
・学生寮賃料
⑨大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
・学生支援制度
・学生相談窓口
・学生支援センター
・特待生制度
・奨学生制度
・進路・就職支援
・ボランティア活動
・クラブ・サークル活動
・外国人留学生の支援
⑩その他
＜国際交流＞
・国際交流・留学プログラム

・海外の研究・教育等機関との交流協定・業務提携等の状況
・海外留学者数
・日本文化・日本語研修プログラム（ＪＣＬＰ）
＜社会貢献活動＞
・生涯学習プログラム（小・中・高生向け講座を含む）
・イブニングコース
・出前講義
＜大学間連携＞
・高等教育コンソーシアムにいがた
・他大学との単位互換
＜産官学連携＞
・地域連携センター
＜財務状況＞
・貸借対照表、資金収支計算書・事業活動収支計算書の経年比較
・財務比率による分析表・経年比較
・事業活動収支構成比率
・記載科目の解説
・外部資金の獲得実績
＜ＩＲ＞
・単位修得率
・学修行動アンケート結果
・卒業生のキャリアに関する調査結果

１６．教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

(1)FD/カリキュラム委員会の設置

本学における授業内容の改善を図るための組織的取り組み（以下「FD（Faculty Development）」という。）は、平成 12（2000）年度から開始し、現在に至っている。FD/カリキュラム委員会が全学的な FD 活動を統括している。

(2)年間を通じた FD 活動

１年間の FD 活動は、4 月の新任教員研修会（年１回）で始まり、その後、年３回程度の FD に関する様々なテーマを取り上げる FD 研修会を行っている。令和５（2023）年度は、「ディプロマ・ポリシーの可視化のアプローチ」、「大学基準協会の指標を用いた評価方法について等」に関する研修会を開催した。

また、本学では、教育内容・方法・指導等の改善のためのフィードバックの仕組みとして、前後期に各 1 回、履修人数５人以上の科目について、学生による授業評価アンケートを全学的に実施し、その結果を次学期以降の授業に反映させているとともに、授業評価アンケート結果をホームページで公開している。その他、卒業予定者に対しても満足度アンケートを実施し、本学の教育、施設等に関する多様な意見を纏め、教学マネージメント委員会で報告し、改善内容について協議している。この授業評価アンケートの結果を有効活用して、授業において教育方法の工夫又は改善に取り組み、顕著な教育効果を挙げている教員等に対して教育表彰（「教員教育奨励賞」）を行い、表彰された教員が FD 研修会で授業における工夫について報告する等して PDCA サイクルを回している。

FD 活動は、授業方法の改善のみならず、シラバスの改善、ICT の活用方法、キャリア教育の充実の他、障害のある学生への合理的配慮に関する研修まで広く実施してきた。また、防災や情報セキュリティ研修、学生の主体的取り組みを支援する SD（Staff Development）活動と併せて、FD/SD 研修会からカリキュラム・教育支援制度、学生支援制度の改革等の成果が生まれている。

(3)新学科における FD 活動の組織的取り組み

本学の FD 活動は FD/カリキュラム委員会を中心として人文学部全体で取り組んでおり、様々な成果を上げている。新学科開設後は、新学科の特色に合わせた FD 活動を行い、学修成果を挙げられるように課題の発見と解決をして教育力を上げていく予定である。

１７．社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1)教育課程内の取組について

社会的・職業的自立に関する教育課程内の取組は、段階的に構成されている。まず、1年次必修の「基礎演習」では大学生活の目標を取り上げ、自分自身が4年間の大学生活をどのように過ごしていくかを考える。2年次は「キャリア開発入門」により自己分析を進める。自分の「適性」や「強み」、自己・他者・客観的評価について考え、大学生活後半の在り方に活かす。3年次になると「キャリア開発」（必修）で近づく進路選択について考え、具体的にキャリア・プランを実践していくための準備を行う。

また、同じく「基盤科目」において、社会的・職業的自立を促す科目を用意している。「私たちの暮らしと行政」では国の行政の仕組みと役割や主要施策について理解し、主権者として国家・社会の形成に主体的に参加出来るようになることを目指す。また、「私たちの暮らしと労働法制」を履修することで日本の労働法制の全体像を理解し、知っておきたい労働法の考え方や用語について理解を深め、自身のキャリア形成をデザインできるようになる。「ビジネスマナー講座」では組織のなかで働く職場常識を、「ＳＰＩ対策」では社会人になってからも必要とされる非言語分野の基礎的学力を身につけることができる。

(2)教育課程外の取組について

社会的・職業的自立に関する教育課程外の取組は、主に全学的なキャリア形成並びに就労支援の担当部署であるキャリアサポート課によるキャリアガイダンスの実施や、就職活動に必要な具体的な知識やスキルを学ぶセミナー、就職に関する試験対策、関連する資格の取得支援を行う。また、キャリアサポート課にはキャリアコンサルタントの国家資格を持つ職員が常駐し、一人ひとりの状況に応じた支援ができるよう個別相談を随時行う。

毎年7月には3年生保護者との就職懇談会を開催し、学生の進路選択に大きな影響力を持つ保護者と情報を共有し、連携を深める。さらに12月には「企業との情報交換会」を行う。これは、外部施設において本学に関係する企業等から参加してもらい、本学の学び及び就職支援体制の説明、学生による活動発表等を行うものである。毎年60社近く参加いただき、本学のＰＲと理解に役立っている。

(3)適切な体制の整備について

社会的・職業的自立を図るために必要な能力の育成に向けた学内の体制については担当教員、キャリアサポート課員で構成された就職委員会が中心となる。就職委員会で検討された進路支援策は教授会において共有されることで、各教員が学生への指導・助言を行うための情報とする。また、キャリア教育関連のカリキュラム変更等、教育課程内での対応が必要な場合は、就職委員会が FD/カリキュラム委員会や教務委員会に提案し、審議検討がなされることになる。留学生のサポートについては国際交流委員会と、要支援学生のサポートについては学生支援センター運営委員会と情報共有を行うことで円滑な運営を行っている。

設置の趣旨等を記載した書類（資料）

【資料１】敬和学園大学 人文学部国際教養学科 ３つのポリシー対応表
【資料２】カリキュラムマップ
【資料３】卒業要件単位履修モデル表
【資料４】実習校関連資料
【資料５】インターンシップ実習施設一覧
【資料６】就業規則等
【資料７】敬和学園大学教員の定年に関する特例を定める規則

【資料１】敬和学園大学 人文学部国際教養学科 ３つのポリシー対応表

		カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）												
		CP１．人文社会科学・情報学分野を中心としたリベラルアーツ教育による文理融合の総合知と技能を獲得させるため、「歴史探究」「多文化・思想」「キャリア英語」「国際社会」「地域経営」「情報メディア」の6コースを設置する。	CP２．全体のカリキュラムは、全学共通の基盤科目、自由科目とし、多様化する学生のニーズに応じるため、段階的かつ横断的なカリキュラムにより知識・能力の養成を図る。	CP３．基盤科目において専門に関係の深い導入科目を必修または選択必修とし、専門分野の導入教育を行う。	CP４．１年次の基礎演習を必修とし、大学での学習に必要な知識やスキルを獲得する機会とする。２年次は関心のあるコースの入門またはＰＢＬ科目を選択必修とする。	CP５．「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」（リテラシーレベル）の認定を受け、ICT技術を的確に用いる技術と情報リテラシーの獲得、社会のデジタル化に対応する力を養うために、初年次より段階的かつ多様な情報関連科目を配置する。	CP６．専攻の選択方法は、主専攻のみを履修する場合と、主専攻と副専攻の両方を履修する場合の２通りとする。副専攻は他コースの他、本学のディプロマ・プログラムである「児童英語教育プログラム」「日本語教育プログラム」「キリスト教教育プログラム」からも選択できる。	CP７．「レイトスペシャライゼーション」（自分にあった専門を入学後に見極めて決定する）により、１年次に専門科目を導入し、２年次に専門分野の本質に触れる科目を提供し、主専攻、副専攻選択を助ける。２年次終了時に専攻を決定し、３年次、４年次の専門演習に配属する。	CP８．演習は少人数制とし、批判的、分析的、論理的思考を身につけるために、学習者中心の能動的かつ対話的な学びの機会を提供する。	CP９．専門分野と深く結びついたＰＢＬ型授業や学外活動（サービスラーニング）を行い、社会に関する関心と実践力、汎用的能力を高める。	CP１０．３年次、４年次の専門演習を必修とし、卒業論文（卒業制作）等により４年間の学びの集大成とすることを求める。	CP１１．教職課程（英語、社会、地歴、公民）を国際教養学科に設置する。		
知識・技能	**AP１－１** **高等学校における国語・英語・社会科・数学などに関して基礎的な学力とコミュニケーション能力を有する人**	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	**DP１－１** **情報を読み解き、真偽を見分け課題を発見するための知識と技能**	知識・技能
	AP１－２ **グローバルな視点から人間社会の多様性を理解し、視野と知識を広げる意欲のある人**	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	**DP１－２** **専攻分野の専門知識や技能とグローバルな社会や文化の多様性を理解する力**	
思考力・判断力・表現力	**AP２－１** **答えを見出しにくい問題に対しても粘り強く取り組み、思考力を深める意欲のある人**	○	○				○	○	○	○	○	○	**DP２－１** **修得した学識をもとに物事を批判的・分析的に思考し、自らの考えを構築する力**	思考力・判断力・表現力
	AP２－２ **社会の課題を理解し、解決しようとする意欲のある人**	○	○				○	○	○	○	○	○	**DP２－２** **社会課題を理解し、解決しようとする力**	
	AP２－３ **ことばを使った表現力やＩＣＴに関する知識と技能を高める意欲のある人**	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	**DP２－３** **言語やデジタル技術を活用して、自らの考えを明瞭かつ効果的に表現する力**	
意欲・関心・態度	**AP３－１** **自分や他者を人間として大切にすることのできる人**	○	○	○	○		○	○	○	○	○		**DP3－１** **人間の尊厳と人権を尊重する姿勢**	意欲・関心・態度
	AP３－２ **主体的に持続可能な共生社会の形成、発展に関わりたいという意欲のある人**	○	○	○	○		○	○	○	○	○		**DP３－２** **多様な人々との共生を可能とする持続可能な社会の形成、発展に貢献しようとする態度**	

【資料2】カリキュラムマップ

基盤科目

区分		名称	開講期	DP1（知識･技能）		DP2（思考力･判断力・表現力）			DP3（意欲･関心･態度）	
				DP1-1 情報を読み解き、真偽を見分け課題を発見するための知識と技能	DP1-2 人文社会科学に関する専門知識とグローバルな社会や文化の多様性を理解する力	DP2-1 修得した学識をもとに物事を批判的･分析的に思考し、自らの考えを構築する力	DP2-2 社会課題を理解し、解決しようとする力	DP2-3 言語やデジタル技術を活用して、自らの考えを明瞭かつ効果的に表現する力	DP3-1 人間の尊厳と人権を尊重する姿勢	DP3-2 多様な人々との共生を可能とする持続可能な社会の形成、発展に貢献しようとする態度
	A群 宗教と思想	キリスト教学１	1前	○	○				○	
		キリスト教学２	1後	○	○				○	
		チャペル・アッセンブリ・アワー１	1前						○	○
		チャペル・アッセンブリ・アワー２	1後						○	○
		チャペル・アッセンブリ・アワー３	2前						○	○
		チャペル・アッセンブリ・アワー４	2後						○	○
		チャペル・アッセンブリ・アワー５	3前						○	○
		チャペル・アッセンブリ・アワー６	3後						○	○
		チャペル・アッセンブリ・アワー７	4前						○	○
		チャペル・アッセンブリ・アワー８	4後						○	○
		キリスト教音楽１	1前						○	○
		キリスト教音楽２	1後						○	○
		キリスト教音楽３	2前						○	○
		キリスト教音楽４	2後						○	○
		キリスト教音楽５	3前						○	○
		キリスト教音楽６	3後						○	○
		キリスト教音楽７	4前						○	○
		キリスト教音楽８	4後						○	○
		哲学１	1･2･3･4前	○	○					
		哲学２	1･2･3･4後	○	○					
		文学１	1･2･3･4前	○	○					
		文学２	1･2･3･4後	○	○					

Ｂ群 人間行動 と歴史	心理学１	1･2･3･4前	○	○					
	心理学２	1･2･3･4後	○	○					
	文化人類学１	1･2･3･4前	○	○					
	文化人類学２	1･2･3･4後	○	○					
	日本史概説	1･2･3･4前	○	○					
	歴史学	1･2･3･4後	○	○					
	考古学１	1･2･3･4前	○	○					
	考古学２	1･2･3･4後	○	○					
	政治学１	1･2･3･4前	○	○					
	政治学２	1･2･3･4後	○	○					
	私たちの暮らしと行政	1･2･3･4前	○	○					
	経済学１	1･2･3･4前	○	○					
	経済学２	1･2･3･4後	○	○					
	経営学１	1･2･3･4前	○	○					
	経営学２	1･2･3･4後	○	○					
	日本国憲法１	1･2･3･4前	○	○				○	
	日本国憲法２	1･2･3･4後	○	○				○	
	法学１	1･2･3･4前	○	○				○	
	法学２	1･2･3･4後	○	○				○	

	C群 人間と社会	私たちの暮らしと労働法制	3･4後	○	○				○	
		時事問題研究１	1･2･3･4前	○						
		時事問題研究２	1･2･3･4後	○						
		社会学１	1･2･3･4前	○						
		社会学２	1･2･3･4後	○						
		人文地理学	2･3･4前	○						
		自然地理学	2･3･4後	○						
		地誌	2･3･4後	○						
		教養スペシャル・トピックスＡ	1･2･3･4前･後	○						
		教養スペシャル・トピックスＢ	1･2･3･4前･後	○						
		教養スペシャル・トピックスＣ	1･2･3･4前･後	○						
		教養スペシャル・トピックスＤ	1･2･3･4前･後	○						
		教養スペシャル・トピックスＥ	1･2･3･4前･後	○						
		教養スペシャル・トピックスＦ	1･2･3･4前･後	○						
	Ｄ群 情報とコンピュータ・サイエンス	コンピュータリテラシー	1前･後	○				○		
		情報技術資格対策（Word）	1･2･3･4前･後	○				○		
		情報技術資格対策（Excel）	1･2･3･4前･後	○				○		
		情報技術資格対策（ITパスポート）	2･3･4前	○				○		
		データサイエンス入門	2･3･4前	○				○		
		情報技術資格対策（デジタルコンテンツ制作）	2･3･4前	○				○		
		AIリテラシー	2･3･4後	○				○		
		サイバーセキュリティ入門	1･2･3･4後	○				○		
基盤科目		英語Ⅰ読む・書く	1前	○						
		英語Ⅱ読む・書く	1後	○						
		英語Ⅰ聴く・話す	1前	○						
		英語Ⅱ聴く・話す	1後	○						
		英語Ⅲ読む・書く	2前	○				○		
		英語Ⅳ読む・書く	2後	○				○		
		英語Ⅲ聴く・話す	2前	○				○		

	英語Ⅳ聴く・話す	2後	○				○		
	中国語Ⅰ文法	1前	○						
	中国語Ⅱ文法	1後	○						
	中国語Ⅰ読む・書く	1前	○						
	中国語Ⅱ読む・書く	1後	○	○					
	中国語Ⅰ聴く・話す	1前	○	○					
	中国語Ⅱ聴く・話す	1後	○	○					
	中国語Ⅲ文法	2前	○	○					
	中国語Ⅳ文法	2後	○	○					
	中国語Ⅲ読む・書く	2前	○	○			○		
	中国語Ⅳ読む・書く	2後	○	○			○		
	中国語Ⅲ聴く・話す	2前	○	○			○		
	中国語Ⅳ聴く・話す	2後	○	○			○		
	ドイツ語Ⅰ文法	1前	○	○					
Ｅ群 言語とコミュニケーション	ドイツ語Ⅱ文法	1後	○	○					
	ドイツ語Ⅰ読む・書く	1前	○	○					
	ドイツ語Ⅱ読む・書く	1後	○	○					
	ドイツ語Ⅰ聴く・話す	1前	○	○					
	ドイツ語Ⅱ聴く・話す	1後	○	○					
	ドイツ語Ⅲ文法	2前	○	○					
	ドイツ語Ⅳ文法	2後	○	○					
	ドイツ語Ⅲ読む・書く	2前	○	○			○		
	ドイツ語Ⅳ読む・書く	2後	○	○			○		
	ドイツ語Ⅲ聴く・話す	2前	○	○			○		
	ドイツ語Ⅳ聴く・話す	2後	○	○			○		
	日本語Ⅰ読む・書く	1前	○	○					
	日本語Ⅱ読む・書く	1後	○	○					
	日本語Ⅰ聴く・話す	1前	○	○					
	日本語Ⅱ聴く・話す	1後	○	○					

	日本語Ⅲ読む・書く	1･2前	○	○			○		
	日本語Ⅳ読む・書く	1･2後	○	○			○		
	日本語Ⅲ聴く・話す	1･2前	○	○			○		
	日本語Ⅳ聴く・話す	1･2後	○	○			○		
	フランス語Ⅰ総合	1前	○	○					
	フランス語Ⅱ総合	1後	○	○					
	コリア語Ⅰ総合	1前	○	○					
	コリア語Ⅱ総合	1後	○	○					
Ｆ群 自然科学 と社会	科学史１	1･2･3･4前	○	○					
	科学史２	1･2･3･4後	○	○					
	基礎数学１	1･2･3･4前	○						
	基礎数学２	1･2･3･4後	○						
	社会と数理１	2･3･4前	○						
	社会と数理２	2･3･4後	○						
G群 スポーツ と健康	スポーツ実習１	1前	○						
	スポーツ実習２	1後	○						
	スポーツ実習３	2･3･4前	○						
	スポーツ実習４	2･3･4後	○						
	スポーツとリベラルアーツ	2･3･4後	○						
H群 思考と実 践	基礎演習１	1前	○					○	
	基礎演習２	1後	○					○	
	地域とボランティア	1後						○	○
	ボランティア	1･2･3･4前･後						○	○
	留学 異文化研究	1･2･3前･後	○	○	○	○	○	○	○
	フィールド・ワーク	1･2･3･4前･後							○

Ⅰ群 キャリア と実践	インターンシップ	3前･後							○
	キャリア開発入門	2後						○	○
	キャリア開発１	3前							○
	キャリア開発２	3後							○
	SPI対策１	3･4前	○						
	SPI対策２	3･4後	○						
	ビジネスマナー講座（秘書検定対策）１	2･3･4前	○						
	ビジネスマナー講座（秘書検定対策）２	2･3･4後	○						

専門科目

区分		名称	年次	DP1（知識･技能）		DP2（思考力･判断力・表現力）			DP3（意欲･関心･態度）	
				DP1-1 情報を読み解き、真偽を見分け課題を発見するための知識と技能	DP1-2 人文社会科学に関する専門知識とグローバルな社会や文化の多様性を理解する力	DP2-1 修得した学識をもとに物事を批判的･分析的に思考し、自らの考えを構築する力	DP2-2 社会課題を理解し、解決しようとする力	DP2-3 言語やデジタル技術を活用して、自らの考えを明瞭かつ効果的に表現する力	D-P3-1 人間の尊厳と人権を尊重する姿勢	DP3-1 多様な人々との共生を可能とする持続可能な社会の形成、発展に貢献しようとする態度
専門科目（コース共通）	HE群 言語と教育	検定試験準備コース（TOEIC）Ⅰ１	1前	○	○			○		
		検定試験準備コース（TOEIC）Ⅰ２	1後	○	○			○		
		観光と留学の英語１	2前	○	○			○		
		観光と留学の英語２	2後	○	○			○		
		検定試験準備コース（中国語）	1･2･3前	○	○			○		
		児童英語教育概論１	2前		○			○		
		児童英語教育概論２	2後		○			○		
		児童英語教育実践１	2前		○			○		
		児童英語教育実践２	2後		○			○		
		児童英語指導実習論	3通		○			○		
		留学生と学ぶ日本語表現	1前	○	○			○		
		日本語学１	2前	○	○			○		
		日本語学２	2後	○	○			○		
		日本語教育学概論１	2前	○	○			○		
		日本語教育学概論２	2後	○	○			○		
		日本語能力試験対策クラスⅠ	1･2前	○	○			○		
		日本語能力試験対策クラスⅡ	1･2後	○	○			○		
		日本語表現Ⅰ	1･2前	○	○			○		
		日本語表現Ⅱ	1･2後	○	○			○		
		日本事情１	2前	○	○			○		
		日本事情２	2後	○	○			○		

	HH群 思考と実践	教育活動アクティブワーク	2前						○	○
		地域学１	2前	○						○
		地域学２	2後	○						○
	HJ群 教職課程 指導法	英語教育学概論	2前	○	○	○	○	○		
		英語教材研究論	2後	○	○	○	○	○		
		英語科教科教育法１	3前	○	○	○	○	○		
		英語科教科教育法２	3後	○	○	○	○	○		
		社会科・公民科教科教育法	3前	○	○	○	○	○		
		社会科・公民科指導法	3後	○	○	○	○	○		
		社会科・地理歴史科教科教育法	3後	○	○	○	○	○		
		社会科・地理歴史科指導法	4前	○	○	○	○	○		
		国際関係史１	1前	○	○					
		国際関係史２	1後	○	○					
		アジア近現代史１	2前	○	○	○	○	○		
		アジア近現代史２	2後	○	○	○	○	○		
		アジア史概説	2前	○	○		○	○		
		アジア史	2後	○	○	○	○	○		
		アジア文化論１	2前	○	○	○	○	○		
		アジア文化論２	2後	○	○	○	○	○		
		アメリカ社会と歴史１	2前	○	○	○	○	○		
		アメリカ社会と歴史２	2後	○	○	○	○	○		
		アメリカ社会と歴史３	3前	○	○	○	○	○		
		アメリカ社会と歴史４	3後	○	○	○	○	○		
		イスラーム文化論１	2前	○	○	○	○	○		
		イスラーム文化論２	2後	○	○	○	○	○		
		キリスト教史１	2前	○	○	○	○	○		
		キリスト教史２	2後	○	○	○	○	○		

歴史探究コース	ヨーロッパ思想史１	2前	○	○	○	○	○		
	ヨーロッパ思想史２	2後	○	○	○	○	○		
	欧米文化論１	2前	○	○	○	○	○		
	欧米文化論２	2後	○	○	○	○	○		
	音楽・音楽史１	2前	○	○		○	○		
	音楽・音楽史２	2後	○	○		○	○		
	経済史１	2前	○	○	○	○	○		
	経済史２	2後	○	○	○	○	○		
	西洋史概説	2前	○	○	○	○	○		
	西洋史	2後	○	○	○	○	○		
	日本近現代史１	2前	○	○	○	○	○		
	日本近現代史２	2後	○	○	○	○	○		
	日本思想史１	2前	○	○	○	○	○		
	日本思想史２	2後	○	○	○	○	○		
	倫理思想史１	2前	○	○	○	○	○		
	倫理思想史２	2後	○	○	○	○	○		
	歴史学フィールドワーク１	2前	○	○				○	○
	歴史学フィールドワーク２	2前	○	○				○	○
	歴史学フィールドワーク３	2前	○	○				○	○
	歴史探究入門１	2前	○	○					
	歴史探究入門２	2後	○	○					
	歴史探究演習１	3前	○	○	○	○	○	○	○
	歴史探究演習２	3後	○	○	○	○	○	○	○
	歴史探究演習３	4前	○	○	○	○	○	○	○
	歴史探究演習４	4後	○	○	○	○	○	○	○
	卒業論文	4通	○	○	○	○	○	○	○

多文化・思想コース	聖書の世界１	1前	○	○	○				
	聖書の世界２	1後	○	○	○				
	アジア文化論１	2前	○	○	○				
	アジア文化論２	2後	○	○	○				
	イスラーム文化論１	2前	○	○	○				
	イスラーム文化論２	2後	○	○	○				
	キリスト教史１	2前	○	○	○				
	キリスト教史２	2後	○	○	○				
	ヨーロッパ思想史１	2前	○	○	○				
	ヨーロッパ思想史２	2後	○	○	○				
	異文化コミュニケーション論１	2前	○	○	○	○	○	○	○
	異文化コミュニケーション論２	2後	○	○	○	○	○	○	○
	英語文学１	2前	○	○	○		○		
	英語文学２	2後	○	○	○		○		
	欧米文化論１	2前	○	○	○				
	欧米文化論２	2後	○	○	○				
	児童文学１	2前	○	○	○				
	児童文学２	2後	○	○	○				
	地域文化論１	2前	○	○	○				
	地域文化論２	2後	○	○	○				
	比較宗教思想１	2前	○	○	○				
	比較宗教思想２	2後	○	○	○				
	文化交流論１	2前	○	○	○			○	○
	文化交流論２	2後	○	○	○			○	○
	文学研究１	2前	○	○	○				
	文学研究２	2後	○	○	○				
	倫理思想史１	2前	○	○	○				
	倫理思想史２	2後	○	○	○				

	ビジュアルアート表現１	2前	○	○			○		
	ビジュアルアート表現２	2後	○	○			○		
	ポピュラー文化論	2後	○	○	○		○		
	現代哲学	3前	○	○	○		○		
	生命倫理学	3後	○	○	○		○		
	文学・文化特講１	3前	○	○	○		○		
	文学・文化特講２	3後	○	○	○		○		
	多文化・思想入門１	2前	○	○					
	多文化・思想入門２	2後	○	○					
	多文化・思想演習１	3前	○	○	○	○	○	○	○
	多文化・思想演習２	3後	○	○	○	○	○	○	○
	多文化・思想演習３	4前	○	○	○	○	○	○	○
	多文化・思想演習４	4後	○	○	○	○	○	○	○
	卒業論文	4通	○	○	○	○	○	○	○
	英文法１	1前	○						
	英文法２	1後	○						
	通訳実践	1前	○	○			○		○
	プリゼンテーション・スキルズ１	2前	○		○	○	○		
	プリゼンテーション・スキルズ２	2後	○		○	○	○		
	英語の発音１	2前	○						
	英語の発音２	2後	○						
	英語学１	2前	○	○	○		○		
	英語学２	2後	○	○	○		○		
	検定試験準備コースⅡ１	2前	○	○					
	検定試験準備コースⅡ２	2後	○	○					
	言語コミュニケーション論１	2前	○	○	○		○		
	言語コミュニケーション論２	2後	○	○	○		○		

専門科目（コース別）	キャリア英語コース	通訳１	2前	○	○			○		
		通訳２	2後	○	○			○		
		コミュニケーションの心理学１	3前	○	○	○			○	○
		コミュニケーションの心理学２	3後	○	○	○			○	○
		ビジネス英語１	3前	○	○			○		
		ビジネス英語２	3後	○	○			○		
		メディア英語１	3前	○	○	○	○	○		
		メディア英語２	3後	○	○	○	○	○		
		リテラシーとコンピテンシー１	3前	○	○	○		○		
		リテラシーとコンピテンシー２	3後	○	○	○		○	○	○
		海外キャリア研修	3後	○	○	○	○	○	○	○
		検定試験準備コースⅢ	3通	○	○			○		
		翻訳１	3前	○	○	○		○		
		翻訳２	3後	○	○	○		○		
		ジャパン・スタディーズ	3前	○	○	○		○		
		キャリア英語入門１	2前	○	○					
		キャリア英語入門２	2後	○	○					
		キャリア英語演習１	3前	○	○	○	○	○	○	○
		キャリア英語演習２	3後	○	○	○	○	○	○	○
		キャリア英語演習３	4前	○	○	○	○	○	○	○
		キャリア英語演習４	4後	○	○	○	○	○	○	○
		卒業論文	4通	○	○	○	○	○	○	○
		国際関係史１	1前	○	○					
		国際関係史２	1後	○	○					
		マーケティング論１	2前	○	○	○	○	○		
		マーケティング論２	2後	○	○	○	○	○		
		金融論１	2前	○	○					
		金融論２	2後	○	○					
		経済史１	2前	○	○	○	○			

	経済史２	2後	○	○	○	○			
	現代企業論	2後	○	○	○	○			
	国際経済論１	2前	○	○	○	○			
	国際経済論２	2後	○	○	○	○			
	国際政治論１	2前	○	○	○	○			
	国際政治論２	2後	○	○	○	○			
	国際法１	2前	○	○	○	○		○	
	国際法２	2後	○	○	○	○		○	
	地域統合論１	2前	○	○	○	○			
	地域統合論２	2後	○	○	○	○			
	アニメ文化経済論	2後	○	○	○	○	○		
国際社会コース	国際機構論１	3前	○	○	○	○			
	国際機構論２	3後	○	○	○	○			
	国際人権論１	3前	○	○	○	○		○	
	国際人権論２	3後	○	○	○	○		○	
	地域経営論１	3前	○	○	○	○			○
	地域経営論２	3後	○	○	○	○			○
	地域調査	3前	○	○	○	○			○
	地球環境経済論１	3前	○	○	○	○			○
	地球環境経済論２	3後	○	○	○	○			○
	中小企業論	3前	○	○	○	○			
	平和学１	3前	○	○	○	○	○	○	○
	平和学２	3後	○	○	○	○	○	○	○
	国際社会入門１	2前	○	○					
	国際社会入門２	2後	○	○					
	国際社会演習１	3前	○	○	○	○	○	○	○
	国際社会演習２	3後	○	○	○	○	○	○	○
	国際社会演習３	4前	○	○	○	○	○	○	○
	国際社会演習４	4後	○	○	○	○	○	○	○

	卒業論文	4通	○	○	○	○	○	○	○
地域経営コース	コミュニティデザイン１	1前	○	○					○
	コミュニティデザイン２	1後	○	○					○
	地域文化論１	2前	○	○	○				
	地域文化論２	2後	○	○	○				
	伝統文化・町並み景観論	2前	○	○	○	○			
	地域共生社会論	2前	○	○	○	○		○	○
	福祉まちづくり論	2前	○	○	○	○		○	○
	非営利組織経営	2後	○	○	○	○			
	広報・広告コミュニケーション論	2後	○	○	○	○	○		
	観光ビジネス論	2後	○	○	○	○			
	マーケティング論１	2前	○	○	○	○	○		
	マーケティング論２	2後	○	○	○	○	○		
	社会起業論１	2前	○	○	○	○			
	社会起業論２	2後	○	○	○	○			
	簿記会計	2後	○	○					
	まちづくりPBL１	2前	○	○					
	まちづくりPBL２	2後	○	○					
	地域調査	3前	○	○	○	○			○
	地域福祉１	3前	○	○	○	○		○	○
	地域福祉２	3後	○	○	○	○		○	○
	ファンドレイジング	3後	○	○	○	○		○	○
	ソーシャルベンチャー起業実践論１	3前	○	○	○	○		○	○
	ソーシャルベンチャー起業実践論２	3後	○	○	○	○		○	○
	地域経営論１	3前	○	○	○	○		○	○
	地域経営論２	3後	○	○	○	○		○	○
	企業経営論１	3前	○	○	○	○			
	企業経営論２	3後	○	○	○	○			
	地域経営演習１	3前	○	○	○	○	○	○	○

	地域経営演習２	3後	○	○	○	○	○	○	○
	地域経営演習３	4前	○	○	○	○	○	○	○
	地域経営演習４	4後	○	○	○	○	○	○	○
	卒業論文	4通	○	○	○	○	○	○	○
情報メディアコース	デジタルジャーナリズム論	1後	○	○			○		
	情報メディア論	1前	○	○			○		
	Web技術	2前	○				○		
	アナウンス・ナレーション実習１	2前	○				○		
	アナウンス・ナレーション実習２	2後	○				○		
	アニメ文化経済論	2後	○	○	○	○	○		
	コピーライティング研究	2後	○	○	○	○	○		
	コンテンツプロデュース論	2後	○	○	○	○	○		
	スマートフォンアプリ開発１	2前	○	○		○	○		
	スマートフォンアプリ開発２	2後	○	○		○	○		
	デジタルコンテンツ概論	2後	○	○					
	デジタルコンテンツ制作１	2後	○	○		○	○		○
	デジタルコンテンツ制作２	2後	○	○		○	○		○
	ポピュラー文化論	2後	○	○	○		○		
	メディア産業論	2前	○	○		○			○
	映像制作１	2前	○	○		○	○		○
	映像制作２	2後	○	○		○	○		○
	海外メディア事情（海外取材・研修）	2後	○	○			○		○
	広報・広告コミュニケーション論	2後	○	○			○		
	情報セキュリティ	2後	○	○			○	○	

		情報メディア特論１（国内取材・研修）	2後	○	○			○		○
		情報メディア特論２（国内メディア研究）	2後	○	○			○		○
		情報メディア特論３（eスポーツと社会）	2後	○	○		○	○		○
		情報法	3前	○	○		○	○	○	
		著作権法	3前	○	○		○	○	○	
		情報メディアPBL１	2前	○	○			○		
		情報メディアPBL２	2後	○	○			○		
		情報メディア演習１	3前	○	○	○	○	○	○	○
		情報メディア演習２	3後	○	○	○	○	○	○	○
		情報メディア演習３	4前	○	○	○	○	○	○	○
		情報メディア演習４	4後	○	○	○	○	○	○	○
		卒業論文	4通	○	○	○	○	○	○	○

【資料３】卒業要件単位履修モデル表(多文化・思想＋キャリア英語)

科目区分		必修単位	卒業要件	1年	単位 前期	単位 後期	2年	単位 前期	単位 後期	単位 通年	3年	単位 前期	単位 後期	単位 通年	4年	単位 前期	単位 後期	単位 通年		履修単位 小計	履修単位 合計
基盤科目	A群 宗教と思想		48単位以上	キリスト教学１	2														2	10	59
				キリスト教学2		2													2		
				文学１	2		文学２	2											4		
				チャペル・アッセンブリー・アワ	1														1		
				チャペル・アッセンブリー・アワー２		1													1		
	B群 人間行動と歴史																		0	0	
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
	C群 人間と社会																		0	0	
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
	D群 情報とコンピュータ･サイエンス			コンピューター・リテラシー	2														2	2	
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
	E群 言語とコミュニケーション			英語I　読む・書く	4		英語III　読む・書く	4											8	32	
				英語II　読む・書く		4	英語IV　読む・書く		4										8		
				英語I　聴く・話す	4		英語III　聴く・話す	4											8		
				英語II　聴く・話す		4	英語IV　聴く・話す		4										8		
																			0		
	F群 自然科学と社会																		0	0	
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
	G群 スポーツと健康			スポーツ実習１	1														1	2	
				スポーツ実習２		1													1		
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
	H群 思考と実践			基礎演習１	2						留学　異文化研究		2						4	8	
				基礎演習２		2													2		
				地域とボランティア		2													2		
																			0		
																			0		
	I群 キャリアと実践						キャリア開発入門		1		キャリア開発１	2							3	5	
											キャリア開発２		2						2		
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
専門科目（コース共通）	HE群 言語と教育										観光と留学の英語１	2							2	2	2
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
	HH群 思考と実践																		0	0	
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
	HJ群 教職課程指導法																		0	0	
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
専門科目（コ	歴史探究		60単位以上（含主専攻32単位以上）																0	0	
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
	多文化･思想						多文化・思想入門	1			多文化・思想演習１	2			多文化・思想演習３	2			5	34	
							多文化・思想入門		1		多文化・思想演習２		2		多文化・思想演習４		2		5		
							英語文学１	2			文学研究１	2			欧米文化論１	2			6		
							英語文学２		2		文学研究２		2		卒業論文			6	10		
							児童文学１	2			文学・文化特講１	2							4		
							児童文学２		2		文学・文化特講２		2						4		
	キャリア英語																		0	0	
																			0		
																	t		0		
																			0		

【資料３】卒業要件単位履修モデル表(多文化・思想＋キャリア英語)

科目区分		必修単位	卒業要件	1年	単位 前期	単位 後期	2年	単位 前期	単位 後期	単位 通年	3年	単位 前期	単位 後期	単位 通年	4年	単位 前期	単位 後期	単位 通年		履修単位 小計	履修単位 合計
ース別）主専攻																			0		63
	国際社会																		0	0	
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
	地域経営																		0	0	
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
	情報メディア						アナウンス・ナレーション実習１	2											2	4	
							アナウンス・ナレーション実習２		2										2		
																			0		
																			0		
																			0		
専門科目（コース別）副専攻	歴史探究		24単位以上																0	0	
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
	多文化･思想																		0	0	
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
	キャリア英語			英文法１	2		プリゼンテーション・スキルズ１	2			翻訳１	2							6	25	
				英文法２		2	プリゼンテーション・スキルズ２		2		翻訳２		2						6		
				通訳実践	1		検定試験準備コースII１	2			メディア英語１	2							5		
							検定試験準備コースII２		2		メディア英語２		2						4		
											ジャパン・スタディーズ	2							2		
											検定試験準備コースIII			2					2		
	国際社会																		0	0	
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
	地域経営																		0	0	
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
	情報メディア																		0	0	
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
合計単位数					21	21		21	20			16	14			4	2	6	0	124	124
教職課程（自由科目）																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
																			0	0	0

の科目は、必修科目です。

の科目は、選択必修科目です。

【資料３】卒業要件単位履修モデル表(情報メディア＋歴史探究＋MDASH（リテラシーレベル））

科目区分		必修単位	卒業要件	1年	単位 前期	単位 後期	2年	単位 前期	単位 後期	単位 通年	3年	単位 前期	単位 後期	単位 通年	4年	単位 前期	単位 後期	単位 通年		履修単位 小計	履修単位 合計
基盤科目	A群 宗教と思想		48単位以上	キリスト教学１	2														2	6	56
				キリスト教学2		2													2		
				チャペル・アッセンブリー・アワ	1														1		
				チャペル・アッセンブリー・アワー２		1													1		
																			0		
	B群 人間行動と歴史			日本史概説	2														2	4	
				歴史学		2													2		
																			0		
																			0		
																			0		
	C群 人間と社会			時事問題研究１	2														2	8	
				時事問題研究２		2													2		
				法学１	2														2		
				法学２		2													2		
																			0		
	D群 情報とコンピュータ･サイエンス			コンピューター・リテラシー	2		データサイエンス入門	2			情報技術資格対策（デジタルコン	2							6	9	
				サイバーセキュリティ入門		1	情報技術資格対策（ITパスポート）		2										3		
																			0		
																			0		
																			0		
	E群 言語とコミュニケーション			中国語I文法	4		中国語I聴く・話す	2											6	12	
				中国語II文法		4	中国語II聴く・話す		2										6		
																			0		
																			0		
																			0		
	F群 自然科学と社会						社会と数理１	2											2	4	
							社会と数理２		2										2		
																			0		
																			0		
																			0		
	G群 スポーツと健康			スポーツ実習１	1														1	2	
				スポーツ実習２		1													1		
																			0		
																			0		
																			0		
	H群 思考と実践			基礎演習１	2														2	6	
				基礎演習２		2													2		
				地域とボランティア		2													2		
																			0		
																			0		
	I群 キャリアと実践										キャリア開発１	2							2	5	
											キャリア開発２		2						2		
											インターンシップ	1							1		
																			0		
																			0		
専門科目（コース共通）	HE群 言語と教育																		0	0	4
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
	HH群 思考と実践						地域学１	2											2	4	
							地域学２		2										2		
																			0		
																			0		
																			0		
	HJ群 教職課程指導法																		0	0	
																			0		
																			0		
																			0		
専門	歴史探究		60単位以上（含　主専攻32単位以上）																0	0	
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
	多文化･思想																		0	0	
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
	キャリア英語																		0	0	
																			0		
																			0		

【資料３】卒業要件単位履修モデル表(情報メディア＋歴史探究＋MDASH（リテラシーレベル））

科目区分		必修単位	卒業要件	1年	単位 前期	単位 後期	2年	単位 前期	単位 後期	単位 通年	3年	単位 前期	単位 後期	単位 通年	4年	単位 前期	単位 後期	単位 通年		履修単位 小計	履修単位 合計
科目（コース別）主専攻																			0		64
																			0		
	国際社会																		0	0	
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
	地域経営																		0	0	
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
	情報メディア			情報メディア論	2		情報メディアPBL１	1			情報メディア演習１	2			情報メディア演習３	2			7	40	
				デジタルジャーナリズム論		2	情報メディアPBL２		1		情報メディア演習２		2		情報メディア演習４		2		7		
							コピーライティング研究		2		映像制作２		2		ポピュラー文化論		2		6		
							デジタルコンテンツ概論		2		メディア産業論	2			情報法	2			6		
							デジタルコンテンツ制作１		2		情報セキュリティ		2		卒業論文			6	10		
							映像制作１	2			海外メディア事情（海外取材・研修）		2						4		
																			0		
																			0		
専門科目（コース別）副専攻	歴史探究		24単位以上				アジア史概説	2			アジア文化論１	2			アメリカ社会と歴史１	2			6	24	
							アジア史		2		アジア文化論２		2		アメリカ社会と歴史２		2		6		
							日本近現代史１	2			イスラーム文化論１	2							4		
							日本近現代史２		2		イスラーム文化論２		2						4		
							歴史学フィールドワーク１	2			歴史学フィールドワーク２	2							4		
	多文化･思想																		0	0	
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
	キャリア英語																		0	0	
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
	国際社会																		0	0	
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
	地域経営																		0	0	
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
	情報メディア																		0	0	
																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
合計単位数		124単位以上			20	21		17	19			15	14			6	6	6	124	124	124
教職課程（自由科目）																			0		
																			0		
																			0		
																			0		
																			0	0	0

の科目は、必修科目です。

の科目は、選択必修科目です。

【資料】教育実習受け入れ校一覧

【2025 年度】（予定）

	教科	受入れ校名	人数
1	社会	小千谷市立東小千谷中学校（新潟県小千谷市）	1
2	英語	新潟県立燕中等教育学校（新潟県燕市）	1
3	英語	新潟市立木戸中学校（新潟市東区）	1
4	英語	新潟市立東石山中学校（新潟市東区）	1
5	英語	新潟市立濁川中学校（新潟市北区）	1
6	英語	村上市立荒川中学校（新潟県村上市）	1

【2024 年度】（実績）

	教科	受入れ校名	人数
1	社会	新潟県立村上中等教育学校（新潟県村上市）	1
2	社会	長岡市立江陽中学校（新潟県長岡市）	1
3	社会	長岡市立寺泊中学校（新潟県長岡市）	1
4	社会	日本文理高等学校（新潟市・私立）	1
5	英語	新潟県立津南中等教育学校（新潟県津南町）	1
6	英語	新潟市立宮浦中学校（新潟市中央区）	1
7	英語	新潟市立山潟中学校（新潟市中央区）	1
8	英語	新潟市立東新潟中学校（新潟市東区）	1
9	英語	新潟市立東石山中学校（新潟市東区）	1
10	英語	新潟市立金津中学校（新潟市秋葉区）	1
11	英語	新発田市立紫雲寺中学校（新潟県新発田市）	1

【2023 年度】（実績）

	教科	受入れ校名	人数
1	社会	新潟市立上山中学校（新潟市中央区）	1
2	社会	新潟市立木崎中学校（新潟市北区）	1
3	社会	見附市立西中学校（新潟県見附市）	1
4	社会	上越市立城北中学校（新潟県上越市）	1
5	英語	新潟市立東新潟中学校（新潟市東区）	1
6	英語	新潟市立山の下中学校（新潟市東区）	1
7	英語	敬和学園高等学校（新潟市・私立）	1
8	英語	村上市立村上第一中学校（新潟県村上市）	1
9	英語	長岡市立大島中学校（新潟県長岡市）	1
10	英語	三条市立第二中学校（新潟県三条市）	1
11	英語	新潟県立加茂高等学校（新潟県加茂市）	1
12	英語	鶴岡市立櫛引中学校（山形県鶴岡市）	1

※資料番号・資料タイトル等は適宜整理してください。

【資料５】インターンシップ実習施設一覧（２０２４年度派遣実績）

	実習施設名	所在地	業種	24実習日数	派遣人数	24実習内容
1	株式会社　博進堂	新潟県新潟市東区	製造業	10日間	1	職場見学、業務理解、未来デザイン、各職種業務体験
2	島津印刷　株式会社	新潟県新発田市	製造業	５日間	2	①企画、デザイン制作、ＩＴ・ＷＥＢ関連 ②印刷・製本加工実務（希望者のみ）
3	株式会社　エフエムラジオ新潟	新潟県新潟市中央区	情報通信業	５日間	2	ワイド番組のアシスタント
4	株式会社　サカイ引越センター	新潟県新潟市東区	運輸業、郵便業	５日間	1	営業同行、現場見学、営業・現場模擬体験、グループワーク
5	株式会社　キューピット	新潟県新潟市東区	卸売・小売業	10日間	2	青果部門にて、野菜・果物等の商品づくり（袋詰め・パック等） グロサリー部門にて一般食料品の陳列、売場づくり等、販売管理業務
6	アクシアルリテイリング　株式会社	新潟県長岡市	卸売・小売業	５日間	1	会社概要説明、物流センター見学 店舗実習（商品補充、商品整理、荷受　等） 商品開発業務体験
7	日産プリンス新潟販売　株式会社	新潟県新潟市西区	卸売・小売業	５日間	1	・日産自動車、日産プリンス新潟販売について（自動車業界研究） ・接客対応の基本（ショールームにて接客経験） ・商談体験
8	株式会社　ハードオフコーポレーション	新潟県新発田市	卸売・小売業	５日間	2	リユースショップの運営体験（商品の買い取り、メンテナンス、販売）
9	株式会社　ウオロク	新潟県新潟市中央区	卸売・小売業	５日間	2	スーパーマーケット店舗において、接客、商品陳列、補充、商品製造補助等
10	株式会社　新潟グランドホテル	新潟県新潟市中央区	飲食店、宿泊業	10日間	1	料飲サービス業務、フロント業務、売店業務
11	株式会社　ホテル新潟 （ANAクラウンプラザホテル新潟）	新潟県新潟市中央区	飲食店、宿泊業	５日間	1	宿泊部門（ゲストリレーション） ホテル入口でのお出迎え、見送り、荷物の運搬等
12	株式会社　花安	新潟県新発田市	生活関連サービス	10日間	2	会社概要説明 実習（会場設営、準備、お客様受け入れ）等
13	社会福祉法人　シャーローム グループホーム富塚・のぞみの里	新潟県新発田市	医療、福祉	10日間	1	介護助手、地域貢献活動
14	社会福祉法人　中蒲原福祉会	新潟県新潟市江南区	医療、福祉	５日間	1	高齢者施設にて、カンファレンス・リハビリ・レクリエーション・整容・体操・記録等。 障害者施設にて、各種作業（利用者の話し相手、箱折り、緩衝材作成、他）・記録等。
15	新発田商工会議所	新潟県新発田市	サービス業	５日間	1	データ入力、書類発送作業他
16	新発田市役所	新潟県新発田市	公務	５日間	2	事務補助、イベント運営補助等
17	胎内市役所	新潟県胎内市	公務	５日間	1	地方行政事務

学校法人敬和学園教職員就業規則（抜粋）

1994 年 4 月 1 日制定
最新改正 2025 年 3 月 27 日

第 5 節 定年、退職、解雇
（定年）
第 16 条 所属長以外の教職員の定年は、次のとおりとし、定年に達した日の以後における最初の 3 月 31 日に退職する。
（1）大学教員……満 70 歳
（2）それ以外の教職員……満 65 歳

敬和学園大学教員の定年に関する特例を定める規則

2025 年 1 月 30 日制定

（趣旨）

第 1 条　この規則は、敬和学園大学における専任教員及び非常勤講師の定年に関し、特例を定めることを目的とする。

（定年の特例）

第 2 条　学校法人敬和学園教職員就業規則第 15 条第 1 号に基づく定年により 2029 年 3 月 31 日以前に退職することとなる大学の専任教員については、大学の教育課程の編成上、特に必要な場合に限り、定年を延長できるものとする。ただし、延長の期限は、2030 年 3 月 31 日までとする。

２　敬和学園大学非常勤講師就業規則第 4 条第 3 項に基づき契約を更新しないこととなる非常勤講師についても、前項を適用し、雇用期間を 2030 年 3 月 31 日まで延長できるものとする。

（延長をされる者の同意）

第 3 条　前条の規定に基づき定年及び雇用期間を延長する場合には、文書により、当該延長をする者の同意を得なければならない。

附則

この規則は、2025 年 1 月 30 日から施行する。

敬和学園大学

学生の確保の見通し等を記載した書類

学校法人敬和学園

目次

Ⅰ．新設組織の概要 3
１．新設組織の概要..... 3
２．新設組織の特色..... 3
Ⅱ．人材需要の社会的な動向等..... 6
１．新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析..... 6
２．中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的，地域的動向の分析..... 6
３．新設組織の主な学生募集地域..... 7
４．既設組織の定員充足の状況..... 7
Ⅲ．学生確保の見通し..... 10
１．学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果..... 10
1)既設組織における取組とその目標..... 10
2)新設組織における取組とその目標..... 11
3)当該取組の実績の分析結果に基づく，新設組織での入学者の見込み数..... 11
２．競合校の状況分析..... 12
1)競合校の選定理由と新設組織との比較分析，優位性..... 12
３．先行事例研究..... 17
Ⅳ．新設組織の定員設定の理由..... 21

Ⅰ. 新設組織の概要

１．新設組織の概要

敬和学園大学では人文学部に学科を新設する予定であり、概要は下記のとおりである。

新設組織	入学定員	収容定員	所在地
人文学部　国際教養学科	170	680	新潟県新発田市富塚 1270

２．新設組織の特色

1)養成する人材像

本学は、教育基本法及び学校教育法に従い、福音主義キリスト教の精神に基づく自由かつ敬けんな学風の中で真理を探究するとともに心の教育を実践し、国際的教養豊かな良心的人材を養成することを目的とする。(学則第 1 条）人文学部では、「隣人に仕え持続可能な社会を担う良識ある市民を育成し、地域社会と国際社会に貢献する」というヴィジョンを達成するために、人間の尊厳と人権を尊重する姿勢、社会で必要な言語・数理・ICT に関する基礎知識と専門分野に関する知識を育てる。グローバルな視点をもって多様な人々との共生を可能とする異文化理解力を涵養する。さらに、それらをもとに批判的・分析的に考え、言語やデジタル技術を活用して明瞭かつ効果的に表現する能力を育成し、持続可能な社会の形成・発展に高い倫理的基準をもって貢献できる人材を育成する。

以上を踏まえ、国際教養学科では、グローバル化が進む今、異なる文化や社会制度を知り、自分たちの地域が国際社会とどうつながっているかを理解することが必要である。国際教養学科では、歴史、思想・文化、英語、国際社会、地域経営、情報メディアという学問領域を専門的かつ横断的に学ぶことで、人間と社会に関する知識と批判的・分析的に考える思考力を育て、グローバル市民としての視点から社会と地域の諸課題を認識し、多様な人々との共生・共栄を可能にする社会を構築するために貢献できる教養豊かな人材を育成する。すなわち、専攻する学問分野の基本的な専門知識と技能・能力に加え、横断的な学びによる広い視野と教養、専門知識に基づき批判的・分析的に考え、対話を通して自らの考えを構築する思考力、言葉やデジタル技術等の表現媒体を用いて効果的に表現・発信する力をもち、地域社会の課題解決ならびに共生社会の構築のための知識と実践力を育成する。

２)国際教養学科の特色

①キリスト教に基づいた全人教育

本学科では、キリスト教精神に基づく価値観を基盤として、知識の習得だけでなく、人格形成を重視した全人教育を実践していく。「隣人を愛する」という聖書の教えを日常的

な学びの中で具現化し、学生一人ひとりの内面的成長と倫理観の醸成を促進する。毎週の礼拝や奉仕活動への参加を通じて、他者への共感と奉仕の精神を培い、多様な価値観を尊重する姿勢を身につける。

②横断的な学びとレイトスペシャライゼーション

本学科では「歴史探究」「多文化・思想」「キャリア英語」「国際社会」「地域経営」「情報メディア」の６つの学問領域を設置し、学生が自身の関心や将来設計に合わせて主専攻・副専攻を選択できるレイトスペシャライゼーション（入学後に専門を決定する）システムを導入している。これにより学生は１・２年次に多様な学問分野に触れ、自分の適性や興味を見極めた上で 3 年次から専門分野を深く学ぶことができる。専門分野の学びだけでなく、他コースの科目も履修できる柔軟な制度により、学問領域を横断した総合的な視点を養う。

③PBL による実践的な教育

課題解決型学習（PBL）やサービスラーニングを通じて、教室で学んだ理論と実社会での実践を結びつける教育を重視している。地域社会や国際社会が抱える実際の課題に取り組むことで、批判的思考力、問題解決能力、チームワーク、コミュニケーション能力などの実践的スキルを養う。これらの活動を通じて、知識を単に獲得するだけでなく、それを応用して社会に貢献できる行動力のある人材を育成する。

④小規模教育

少人数制の授業や演習（ゼミナール）により、教員と学生の距離が近く、一人ひとりの学生に対してきめ細かな指導が可能な教育環境を整えていく。特に語学や演習科目では、15 人程度までの少人数クラス編成を徹底し、高い ST 比で学生の主体的な学びと活発な対話を促進していく。また、専門分野の学びを深めるための研究指導に加え、キャリア形成や学生生活全般についても、教員が密接にサポートし面倒見の良い体制を構築している。これにより学生は自身の強みを発見し、将来の目標に向けて着実に成長することができる。

3)母体となる学部学科

国際教養学科は、敬和学園大学人文学部に所属する既存の英語文化コミュニケーション学科、国際文化学科、共生社会学科の 3 学科を統合・再編し、新たに設置するものである。それぞれの学科が持つ強みと特色を受け継ぎながら、現代社会の変化に対応した新たな教育体制を構築していく。

英語文化コミュニケーション学科は、高度な英語運用能力と国際的視野を養う教育を特色としてきた。集中的な英語教育と留学プログラムにより、実践的なコミュニケーション能力を持つ人材を輩出してきた実績がある。国際教養学科の「キャリア英語」コースはこの伝統を引き継ぎ、グローバル社会で活躍できる英語力と異文化理解力を育成する。

国際文化学科は、アジアや欧米の多様な文化・社会・歴史について幅広く学ぶことを特色としてきた。国際社会への深い理解と分析力を養う教育により、多文化共生の視点を持つ人材を育成してきた。新学科では、同科で培われてきた教育内容が発展的に継承され、新たな学科構成の重要な柱となる。具体的には、同科に設置されていた「歴史探究」「国際社会」「情報メディア」コースと、「多文化理解」から名称変更する「多文化・思想」コースは、それぞれ他学科の教員も加わるなど、学部全体での連携を通じて教育内容の拡充を図り、より充実した形で新学科のコースとなる。

共生社会学科は、地域社会の課題解決と持続可能な社会の実現に貢献する人材の育成を目指してきた。社会学、福祉学、経営学などの学際的アプローチにより、社会的弱者に寄り添い、共生社会を構築する力を養う教育を展開してきた。新学科の「地域経営」コースは、この理念を引き継ぎ、地域社会の課題解決に向けた実践的なアプローチを深化させるとともに、デジタル時代における地域創生の視点を加えて発展させる。

これら 3 学科の統合により、国際教養学科では従来の学科の枠を超えた横断的・複合的な学びが可能となる。専門分野の深い知識と幅広い教養を併せ持ち、多角的な視点から社会課題に取り組む人材を育成する。また、3 学科で培われてきた地域連携や国際交流のネットワークを活かし、より充実した実践的学習の機会を提供していく。

Ⅱ. 人材需要の社会的な動向等

１．新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析

グローバル化の進む 21 世紀初頭の現在、地球環境・生態系破壊の危険性や、地域紛争・テロ、新型感染症、金融危機といった問題、国際関係の変化と情報技術の進展（society 5.0）等により、世界は不確実性や不透明性を増した状況となっている。予測のつかない困難が人間・国家・人類社会を襲っている。世界各国と人類社会が共通に直面しているこうした現代のさまざまな問題と課題は、それらに対応しうる知識・知性・教養の向上を切実に求めている。日本学術会議から提言された「21 世紀の教養と教養教育（平成 22 年)」ではその知識・知性・教養とは「異質なもの（個人・民族・国家や宗教・文化）の間での相互信頼と協力・協働を促進し、それらの問題や課題の性質・構造を見極め、合理的かつ適切な解決方法を構想し実行していく基盤となるもの」とされている。

現代社会が直面している諸問題は、一つの学問分野の知見のみで適切にその全体像を理解することは困難であり、なおかつ、異なる利害・異なる価値観が現在進行形で衝突する論争的な性格を有している。更に、今後、異なる価値観や視点を持つ他者との協働の機会は増えることが予想される。予測困難な時代では、私たち一人ひとり、そして社会全体が答えのない問いにどう立ち向かうのかが問われており、一義的な正解の存在しない問題について、今までのやり方を当てはめるのではなく、既存の社会の流れや枠組みとは異なる別の視点からの価値観をもって、新しい発想で新しい社会を創っていける人材が社会から求められている。

２．中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的，地域的動向の分析

(1) 国際教養学科の募集地域の設定

敬和学園大学人文学部国際教養学科の主な学生募集地域は、本学の過去の進学者数の実績から新潟県とする。別紙 1 では新潟県の高校から入学した学生が 69%、次に多く入学しているのが茨城県（4.2%)、鹿児島県（4.2%）になっている。新潟県以外から入学している学生は、スポーツ推薦などを利用して入学している学生が多い。約 7 割の学生が新潟県の高校から入学している実績から、本学の募集地域は新潟県とする。

【資料１】新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙１）

(2) 全国と募集地域の 18 歳人口の人口動態

全国の人口動態については、国立社会保障・人口問題研究所「国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和５（2023）年推計）(出生中位・死亡中位)」によると 18 歳人口は、本学が設置される令和８（2026）年は、110 万 7 千人である。設置から 10 年後の令和 18（2036）年は 94 万人（20%減）であることが予想されている。

また、本学の募集地域である新潟県の 18 歳人口については、令和２（2020）年度の国

政調査の各歳別人口と新潟県が公表している新潟県推計人口の各歳人口増加率から新潟県内の本学の入学の年齢対象である 18 歳人口を推計した。推計の結果、新潟県内令和８（2026）年の18歳人口は18,339人、令和18（2036）年は14,450人（21%減）となった。

(3)今後の大学進学率の増加

新潟県の大学進学者は増加すると考えている。高等教育の在り方に関する特別部会の参考データ集にある「(参考）2040 年の各都道府県進学者数等推計（2021 年基準)」では、全国の大学進学率は令和３（2021）年が 56.6%から令和 22（2040）年には 59.6%（3%増)、新潟県の大学進学率は令和３（2021）年が 43.9%から令和 22（2040）年には 48.6%（4.7%増）になることが推計されている。新潟県は全国平均を上回る進学率の伸びが見込まれる。

同データにて令和３（2021）年の県内からの流出は 5,238 名にまで上っており、流出が深刻である。下記にて詳細に記載をするが、新設の学科においては高大連携をした教育プログラムの提供や PBL のプログラムを通じて新潟県や地域の魅力について広報活動等を通して、自県の進学者数を増加し、流出を食い止めることを取り組む。また、競合校の進学している学生層に対して本学の優位性を訴えるような広報活動を行い、新潟県内シェアを高めていく。

上記のことから 18 歳人口の減少が見込まれているが、新設組織でも十分に学生を確保できると考えている。

３．新設組織の主な学生募集地域

(1)新潟県内の進学者数

別紙１から既設組織である人文学部の出身高校の所在地県別の入学者数の構成比から、新潟県の高校出身の学生が全体のうち 69%となって一番多いことが確認された。その次に多い都道府県は、茨城県（全体うち 4.2%)、鹿児島県（全体うち 4.2%）となっている。新潟県以外から入学している学生は、スポーツ推薦などを利用して入学している学生が多い。約 7 割の学生が新潟県の高校から入学している実績から、本学の募集地域は新潟県とする。

【資料１】新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙１）

４．既設組織の定員充足の状況

別紙２に記載されている通り、既設組織である 3 学科の定員充足率について記載する。英語文化コミュニケーション学科の 5 カ年平均の入学定員充足率は 71%となっている。国際文化学科の 5 カ年平均の入学定員充足率は 123%となっている。共生社会学科の 5 カ年平均の入学定員充足率は 82%となっている。各学科の志願倍率は英語文化コミュニケーシ

ョン学科の 5 カ年平均の志願倍率は約 1.4 倍となっている。国際文化学科の 5 カ年平均の志願倍率は約 2.2 倍となっている。共生社会学科の 5 カ年平均の志願倍率は約 1.4 倍となっている。

今後は充足するように新設組織の設置や本学の魅力を伝える広報活動を行う。新設組織では入学定員が 170 名になることから、既設よりも 10 名減少し、定員充足することが考えられる。また、新設組織が行う教育プログラムの競合校との優位性について、受験対象者に対して広報活動を行うことで本学への志願者を増加し本学の認知度を高める。さらに、オープンキャンパスや進学相談会などの機会を活用して、新設組織の特色ある教育内容などの強みなどを直接伝える場を増やしていく。

国際教養学科の設置により、学問分野を「歴史探究」「多文化・思想」「キャリア英語」「国際社会」「地域経営」「情報メディア」の 6 つのコースに再編成することで、より幅広い学生層に対する訴求力を高めていく。特に情報メディアコースの設置は、デジタル時代に即した学びの領域を拡充させるものであり、ICT やデジタルコンテンツに関心を持つ従来とは異なる層の学生獲得を目指す。

リベラルアーツ教育と実践的スキルを組み合わせた教育内容は、進路の選択肢を広げることができるため、将来の職業選択に柔軟性を求める現代の受験生のニーズに応えるものとなっている。柔軟な履修システムを活かし、主専攻と副専攻の組み合わせにより、文理融合の学びを提供できることを広報活動の中核に据え、文系・理系の枠を超えた幅広い層の学生獲得を目指す。

また、SNS や Web サイト、動画配信などのデジタルマーケティングを強化し、本学の受験対象となる高校生への直接的なアプローチを進める。学生が主体となった広報活動も促進し、現役学生によるキャンパスライフや学びの魅力を同世代目線で発信することで、親和性の高い広報展開を図る。

PBL（課題解決型学習）を活用した高大連携プログラムを強化し、地域の高校生が本学の学びに触れる機会を増やしていく。具体的には、地域課題をテーマにした高校生向けワークショップや、本学学生と高校生が協働するプロジェクトの実施、高校生を対象とした公開講座などを積極的に展開していく。これらの取り組みを通して、本学の教育内容への理解を深め、入学前から継続的な関係構築を図る。

また、内部進学を高めるために、本学園の高等学校部門との連携を一層強化する。高大連携カリキュラムの共同開発や、教員の相互交流、早期履修プログラムの導入など、一貫教育の利点を最大限に活かした取り組みを推進する。高校生に大学教育の先取り体験を提供することで、内部進学の魅力を高めていく。

さらに、提携校との連携強化にも注力する。提携校向けの特別入試制度の拡充や、提携校教員と本学教員の合同研修、提携校の生徒を対象とした体験プログラムなどを通じて、関係性を深化させていく。また、これまで本学との接点が少なかった地域や学校タイプにも提携の輪を広げ、新たな学生層の開拓を進める。

国際的な視野を持つ学生を獲得するため、海外の提携校との交換留学プログラムの拡充

や、オンラインを活用した国際交流プログラムも積極的に展開する。留学生の受入れ体制を整備し、多様なバックグラウンドを持つ学生が共に学ぶ環境を創出することで、グローバルな学習コミュニティの形成を目指す。

これらの取り組みを総合的に推進することで、新設組織の教育プログラムの価値を高め、受験生にとって魅力的な選択肢となるよう努める。中長期的な視点に立った戦略的な広報活動と教育内容の充実により、安定的な定員充足を実現していく。

【資料２】既設学科等の入学定員の充足状況（別紙２）

Ⅲ. 学生確保の見通し

１．学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

1)既設組織における取組とその目標

本学では、人文学部全体で募集をおこなっており、オープンキャンパスと英検対策講座で学生確保に向けた具体的な取り組みを行っている。

分析の結果、オープンキャンパスで参加した受験対象者は、令和４（2022）年度が 188 名で、そのうち、受験者数は 96 名（令和４（2022）年度オープンキャンパス参加者の受験対象者うち 51%)、入学者数は 92 名（令和４（2022）年度受験対象者うち 49%）であった。令和５（2023）年度は、受験対象者が 189 名で、その中受験者数は 105 名（令和５（2023）年度オープンキャンパス参加者の受験対象者うち 56%)、入学者数は 101 名（令和５（2023）年度受験対象者うち 53%）であった。英検対策講座を受講した受験対象者は、令和４（2022）年度が 33 名で、そのうち、受験者数は 11 名（令和４（2022）年度講座受講者の受験対象者うち 33%)、入学者数は 9 名（令和４（2022）年度受験対象者うち 27%）であった。令和５（2023）年度は、受験対象者が 56 名で、その中受験者数は 12 名（令和５（2023）年度講座受講者の受験対象者うち 21%)、入学者数は 10 名（令和５（2023）年度受験対象者うち 18%）であった。

例年の学生募集の取り組みの結果、前述した通り、毎年本学全体で倍率を 1.5 倍以上に保つことができている。特にオープンキャンパスからの受験率・入学率が安定して 50%前後を維持していることから、オープンキャンパスが学生確保において重要な役割を果たしていることが明らかである。一方、英検対策講座受講者の受験率・入学率はやや低い傾向にあるが、参加者数自体は前年比で増加しており、今後の改善が期待できる。

また、オープンキャンパス、英検対策講座に参加せずに直接出願する学生や、高校の進路指導を通じて本学を知り受験する学生も一定数存在することが確認されている。これらの多様な入学経路が本学の安定した学生確保に貢献している。

上記の本学の状況から、人文学部全体での募集活動は効果的に機能しており、英検対策講座受講者へのフォローアップの充実やオープンキャンパスの内容改善を継続することで、今後も安定した学生確保が見込まれる。特に近年の傾向として、オープンキャンパス参加の受験対象者数が 190 名前後で安定していることから、この層への働きかけを強化することで、入学者数の維持・向上が期待できる。さらに、オープンキャンパス参加者数の増加傾向を活かし、参加者の受験率・入学率を高める取り組みを強化することで、より効果的な学生確保が可能になると考えられる。

【資料３】既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績（別紙３）

2) 新設組織における取組とその目標

既設組織の学生確保の取り組みをもとに、定員削減後の学生確保の取り組みと目標について記載する。取り組みとしては、既設組織の取り組みと同様にオープンキャンパスと英検対策講座で学生確保をおこなっていく。本学がおこなった学生確保の取り組みの令和 5（2023）年の実績から、オープンキャンパスの参加者総数は 361 人、うち受験対象者数は 189 人（参加者うち 52%）、うち受験者数は 105 人（参加者うち 29%）、うち入学者数 101 人（参加者うち 28%）であった。英検対策講座受講者総数は 112 人、うち受験対象者数は 56 人（参加者うち 50%）、うち受験者数は 12 人（参加者うち 11%）、うち入学者数 10 人（参加者うち 9%）であった。新設組織は 170 名が入学定員数であることから、令和 5（2023）年度の実績をもとに同じ割合で入学すると考え、オープンキャンパスの参加者は 553 名、英検対策講座の受講者は 172 名を目標とする。

オープンキャンパス参加者目標数の 553 名と英検対策講座の受講者目標数の 172 名を確保するため、新設組織の周知とオープンキャンパスへの誘導を目的に広報活動を強化する。その取り組みの 1 つが、新設組織が設置されることについての説明とオープンキャンパスへの誘導を記載したパンフレットの配布などの広報活動を行う。具体的には、新設組織が設置されることについてのパンフレットを作成し、近隣の高校および予備校への配布を行う。また、本学の HP にもパンフレットと同様の内容のものを公開する。上記のような取り組みから新設組織への周知を図りながら、オープンキャンパスへの誘導を図る。

次に高校での進学説明会と学校見学会にて、新設組織について周知とオープンキャンパスへの誘導を行う。進学説明会と見学会は年に 70～80 回行っており、本学に関する情報を高校 1 年生から 3 年生、その保護者に周知を行っている。今年度の説明会から新設組織についての説明を追加し、オープンキャンパスへの誘導を行っていく。

さらに、SNS を活用した広報戦略も強化する。Instagram や X、LINE などを通じて新設組織の特色ある教育内容や施設、在学生の声などを定期的に発信し、若年層への認知度向上を図る。特に新設組織ならではの魅力的なカリキュラムや将来の進路について具体的に伝えることで、英検対策講座やオープンキャンパス参加への動機づけを高める。

また、既存の入学者の出身高校を中心に重点的な広報活動を展開し、高校教員との信頼関係構築にも努める。進路指導担当教員向けの説明会を開催し、新設組織の教育内容や卒業後の進路について詳細な情報提供を行うことで、高校からの推薦入学者の増加も目指す。

これらの複合的な取り組みにより、オープンキャンパス参加者目標数 553 名、英検対策講座の受講者目標数 172 名の達成を図り、定員 170 名の安定的な確保を実現していく。

3) 当該取組の実績の分析結果に基づく，新設組織での入学者の見込み数

上記までの分析から新設組織での目標として、オープンキャンパス参加者数 553 名、英検対策講座の受講者 172 名とした。そして、目標を達成するために新設組織についての広報活動の強化をおこなう。具体的には、新設組織の特色を伝えるパンフレットの作成・配

布、高校での進学説明会の充実、SNS を活用した情報発信、高校教員との連携強化などの取り組みを実施する。その結果、過去のオープンキャンパス参加者数と英検対策講座の受講者数の実績、および本学の定員充足率の状況から、新設組織の入学定員 170 名を確保できると考えられる。

２．競合校の状況分析

1)競合校の選定理由と新設組織との比較分析，優位性

(1)競合校の選定理由

本学の競合校としては、新潟国際情報大学、長岡大学、新潟経営大学を選定した。競合校選定には、大学設置の手引きにある競合校設定の観点をもとに設定した。各観点に合致する大学は新潟国際情報大学となったために、競合校として選定した。

・競合校設定表

No	競合校設定の観点	選定基準
1	学校種の類似性	4 年制大学
2	定員規模の類似性	入学定員 200 名程度
3	学問分野の類似性	文学を中心とした幅広い分野
4	所在地の類似性	新潟県内
5	学力層の類似性	設定なし
6	その他	設定なし

・競合校一覧

No	大学名
1	新潟国際情報大学
2	長岡大学
3	新潟経営大学　経営情報学部経営情報学科

(2) 新設組織との比較分析結果と新設組織の優位性

・教育内容と方法

新設組織において、競合校と比較し本学は開学以来一貫して「リベラルアーツ教育」を理念に掲げているが、単なる知識の習得にとどまらず、「実践するリベラルアーツ」として教室内の学びと教室外での実践活動を循環させる教育を行っている。これにより、知識や技能を獲得するだけでなく、チームでの協働を通じて主体性やコミュニケーション能力などの汎用的能力も高めることができる点が大きな特徴である。

①キリスト教に基づいた全人教育

本学は「神を敬い、人に仕える」という建学の精神に基づき、キリスト教精神を土台とした全人教育を実践している。「人権・共生・平和」を重視したキリスト教教育により、人間の尊厳と人権を尊重する姿勢を養い、多様な価値観を持つ人々と共生できる人材を育成していく。毎週のチャペル・アッセンブリ・アワーやキリスト教関連科目を通して、知識だけでなく心の教育も重視し、高い倫理観と奉仕の精神を持った「良心的人材」の育成を目指している。

②横断的な学びとレイトスペシャライゼーション

多くの大学では入学時に学科や専攻を選択する必要があるが、本学では「自分にあった専門を入学後に見極めて決定する」レイトスペシャライゼーションを採用している。これにより学生は１・２年次に様々な学問分野を横断的に学んだ上で、3 年次に主専攻を決定することができる。この制度は学生が自分の適性や興味を発見しながら専門を選べる点で大きな優位性を持っている。

歴史探究、多文化・思想、キャリア英語、国際社会、地域経営、情報メディアの 6 つのコースを横断的に学べる体制は、新潟県内では特に稀少な人文学の幅広い学びを可能にしている。特定の分野に偏らない広い視野を獲得しつつ、主専攻と副専攻を組み合わせて多様な知識を融合させる教育体制は、「文理融合」「文理横断」による総合知を持った人材育成を目指す点で優位性がある。

③PBL による実践的な教育

開学時よりボランティア活動に力を入れており、それをサービスラーニングへと発展させてきた。新発田市・聖籠町という地域に根ざした活動を通して、地域課題に取り組み、地域と共に歩む人材を育成する点は本学の大きな特徴である。同時に、海外研修や国内での異文化交流活動により、グローバルな視点から地域に貢献できる人材育成を目指している。PBL 型授業では、実社会の問題を教材として学生自身が解決策を考え実践する機会を提供し、思考力や創造性、協働力を養成する。

④小規模教育

語学や演習科目は 15 人程度の少人数制とし、学生中心の学修環境を整えている。これに

より、一人ひとりの学生に対して丁寧な指導が可能となり、批判的思考力や対話力、表現力を育む教育を実現している。また、教員と学生の距離が近い環境の中で、学生の個性や能力を見極めた指導を行い、個々の学生の成長を丁寧にサポートしていく。

「キリスト教教育」「児童英語教育」「日本語教育」の 3 つのディプロマ・プログラムを提供し、修了者には本学独自のディプロマ（修了証）を発行する制度は、学生のキャリア形成を支援する特色ある取り組みである。これらは副専攻としても選択可能であり、学生の学びの幅を広げる制度となっている。

以上のように、本学は「実践するリベラルアーツ」という教育理念のもと、キリスト教精神に基づく全人教育、幅広い学問分野を横断的に学べる体制、PBL 型の実践的な学び、そして少人数制による丁寧な教育を通じて、総合的な知識と実践力を持った人材育成を行っている点が最大の特徴であり優位性である。

・立地

敬和学園大学は、新潟県北部の新発田市に位置しており、その立地には新潟国際情報大学と比較して様々な優位性がある。

まず、自然環境の豊かさが挙げられる。敬和学園大学のキャンパスは新発田市と聖籠町の境に位置し、緑豊かな自然に囲まれている。この環境は学生の思索や創造性を育む理想的な学びの場となっており、都市部の喧騒から離れて集中して学問に取り組むことができる。一方、新潟国際情報大学は新潟市西区に位置しており、自然との調和という点では敬和学園大学の方が優れている。

次に、周辺の歴史的・文化的資源の豊富さが挙げられる。新発田市は城下町として栄えた歴史があり、新発田城跡や寺社仏閣、歴史的建造物が数多く残されている。このような環境は特に歴史探究コースや多文化・思想コースの学生にとって生きた教材となり、座学だけでなくフィールドワークを通じた実践的な学びを可能にしている。

また、地域コミュニティとの緊密な関係も敬和学園大学の強みである。新発田市・聖籠町という比較的小規模な自治体に位置していることで、地域住民や行政、企業との連携が取りやすく、サービスラーニングやボランティア活動、地域課題解決型のプロジェクトを実施するにあたって理想的な環境が整っている。地域経営コースの学生にとっては、実際の地域課題に直接触れながら学べる環境として優れている。

交通アクセスの面でも、敬和学園大学は強みを持っている。JR 新発田駅からは大学までスクールバスが運行されており、新潟市内からの通学も可能である。さらに、新潟県北部や山形県境に近い地域からのアクセスは、新潟市内の新潟国際情報大学よりも便利な場合がある。このため、県北地域や隣接県からの学生にとっては通学に適した立地となっている。

さらに、新発田市・聖籠町という中小規模の都市にキャンパスがあることで、学生の生活費（特に住居費）が新潟市内と比較して抑えられる点も経済的な優位性と言える。地方出身の学生が 4 年間を過ごす際の経済的負担を軽減できる環境は、現代の学生にとって重

要な選択要因となっている。

最後に、本学では「まちなかキャンパス化構想」を進めており、新発田市のまちなか（商店街）に学生活動の場を設置し、地域交流の拠点とすることを図るものである。既に新発田市の商店街にある店舗や地域企業から成る本学の支援団体「オレンジ会」と連携した「地域学」の授業では、地元の自治体や会社のトップの方からの講義、会社見学を実施している。また、ゼミナールでは、農業体験イベントや地域住民と協力したイベントの実施、地域の特産物を生かした商品開発、子どもの権利や市民性教育に関する活動、また、高齢者向けの e スポーツ体験会や地域をテーマにした雑誌制作などを行っている。メディア関連では、ラジオ番組の制作や新発田まつりの生中継、映像作成のほか、SNS を通じた地域情報の発信にも力を入れている。「まちなかキャンパス化構想」では、これらの活動をさらに充実させ、地域との結びつきを深め、地域社会との連携を強化することで、学生たちの学びと実践を結びつけていく。

このように、敬和学園大学の立地は単に「都市から離れている」ということではなく、学びの環境としての質の高さ、歴史的・文化的資源の豊かさ、地域との連携のしやすさなど、大学教育において重要な要素を多く兼ね備えており、新潟国際情報大学とは異なる独自の優位性を有している。

(3) 競合校となる学科等の過去３年間の入学志願状況等

競合校である新潟国際情報大学、長岡大学、新潟経営大学の過去 3 年間（令和４～６（2022～2024）年度）の入学志願状況の分析結果から、新設する学科の定員充足の見通しについて、新潟国際情報大学は、全学部学科において安定した高い定員充足率を維持している。国際学部国際文化学科では 128%→129%→132%と上昇傾向にあり、経営情報学部経営学科は 129%→130%→129%、また情報システム学科は 129%→131%→131%で推移しており、130%前後の高い充足率を継続している。大学全体でも 128%→130%→131%と堅調な推移を示している。一方、長岡大学の経済経営学部経済経営学科は 100%→93%→66%と減少傾向にあり、特に令和６（2024）年度は定員を大きく下回る状況である。また、新潟経営大学の経営情報学部経営情報学科は 64%→98%→87%と変動があるものの、定員充足には至っていない状況である。

上記の分析から新潟国際情報大学のように、国際文化・情報・経営といった時代のニーズに合った教育内容と地域との強い連携を持つ大学は安定した学生確保に成功していることが確認された。本学の新設する国際教養学科は、既設の英語文化コミュニケーション学科、国際文化学科、共生社会学科を統合し、「歴史探究」「多文化・思想」「キャリア英語」「国際社会」「地域経営」「情報メディア」の 6 コース制を採用することで、新潟国際情報大学と同様の需要を取り込むことが可能である。また、本学科は「実践するリベラルアーツ」を教育理念とし、人文社会科学・情報学分野を中心とした文理融合の総合知と技能を獲得させる教育を行う。特に課題解決型学習（PBL）やサービスラーニングを通じて、教室で学んだ理論と地域や実社会での実践を結びつける教育などで、長岡大学や新潟経営大

学が十分に対応できていない学生ニーズを捉えた手厚い少人数教育を提供する。新潟県は実学志向が強く、専門学校進学率が全国１、2 位と高い地域であるため、座学を中心とした学びだけでなく、学んだ内容を発揮する場を幅広く提供し、実践力を養成するカリキュラムを構築している。

以上のことから、本学の新設する国際教養学科は、地域社会のニーズに応える特色ある教育内容と実践的な学びの環境を整備することにより、競合校の中でも特に成功している新潟国際情報大学のような安定した定員充足が見込まれると考える。また、「まちなかキャンパス化構想」など地域に根ざした実践的な学びの場を提供することで、これらの競合校との差別化を図り、学生の確保に繋げることができる。

・新潟国際情報大学の入学志願状況推移

学科名	区分	令和４	令和５	令和６
国際学部 国際文化学科	志願者数	499	489	428
	受験者数	489	476	419
	合格者数	227	251	216
	入学者数	128	129	132
	定員充足率	128%	129%	132%
経営情報学部 経営学科	志願者数	472	522	384
	受験者数	460	511	376
	合格者数	161	180	179
	入学者数	110	111	110
	定員充足率	129%	130%	129%
経営情報学部 情報システム学科	志願者数	391	394	309
	受験者数	382	384	300
	合格者数	135	129	115
	入学者数	84	85	85
	定員充足率	129%	131%	131%
合計	志願者数	1362	1405	1121
	受験者数	1331	1371	1095
	合格者数	523	560	510
	入学者数	322	325	327
	定員充足率	128%	130%	131%

・長岡大学の入学志願状況推移

学科名	区分	令和４	令和５	令和６
経済経営学部 経済経営学科	志願者数	234	240	176
	受験者数	227	238	172
	合格者数	209	213	151
	入学者数	125	117	83
	定員充足率	100%	93%	66%

・新潟経営大学の入学志願状況推移

学科名	区分	令和４	令和５	令和６
経営情報学部 経営情報学科	志願者数	－	－	－
	受験者数	－	－	－
	合格者数	－	－	－
	入学者数	77	118	105
	定員充足率	64%	98%	87%

(4)学生納付金等の金額設定の理由

競合である新潟国際情報大学は、年間入学金 100,000 円、授業料 675,000 円、施設設備費 300,000 円、教材・実習費 100,000 円である。長岡大学は、年間入学金 210,000 円、授業料 690,000 円、施設費 300,000 円である。新潟経営大学は年間入学金 200,000 円、授業料 670,000 円、施設設備費 250,000 円、維持費 70,000 円、実験実習費 50,000 円である。上記まで記載した本学の優位性から十分に競合校と差別化できていることから、本学は年間入学金 230,000 円、授業料 690,000 円、施設設備費 320,000 円と設定する。

３．先行事例研究

先行事例として、清泉女子大学の「総合文化学部」「地球市民学部」をあげる。清泉女子大学は令和６（2024）年 4 月より、従来の人文学部を改組し、「総合文化学部」「地球市民学部」の 2 学部体制へと大幅な改組を実施した。この改組は、既存組織を抜本的に見直し、現代社会のニーズに合わせた教育体制を構築するという点で参考になる事例である。

改組において、重要なのは従来の一つの学問分野に特化した学科編成から、複数の学問領域を横断的に学べる体制へと移行した。例えば「総合文化学部」では、語学や文学だけでなく、文化や社会についても総合的に学べるよう設計されている。「地球市民学部」の新設や「国際コミュニケーション学部」における英語・スペイン語に加え、中国語等のアジア言語の強化は、グローバル化や心理的ケアの重要性が高まる現代社会のニーズを反映

している。全体の入学定員は 425 名から 420 名とわずかに減少しているが、より魅力的な学部・学科構成により、定員充足率の向上が期待されている。まだ新設学部の入学者が出ていないが、令和７（2025）年度一般選抜（A・B 日程・共通テスト利用入試(前期)）の志願者数は、一般選抜（A 日程）は合計 405 名、一般選抜（B 日程）は合計 172 名、共通テスト利用入試（前期）は 144 名と多くの志願者数が確認された。

本学も同様な改組を行っており、十分に先行事例研究の対象となる。また、十分な志願者が確認されたことから、新設組織にも十分な志願者があると考える。

(1)学生確保に関するアンケート調査

新たに新設する国際教養学科は、敬和学園大学人文学部 英語文化コミュニケーション学科、国際文化学科、共生社会学科の 3 学科を統合・再編し、新たに設置する。配置される教員 22 名も全て母体となる 3 学科から移籍し、それぞれの学科が持つ強みと特色を受け継ぎながら、現代社会の変化に対応した新たな教育体制を構築している。母体となる学科の実績から十分に学生確保見通しは説明可能と考え、学生確保に関するアンケート調査は実施していないが、新設組織の学生確保については、以下の視点から十分に可能であると考えている。

本学の既設組織はこれまで安定した学生確保を実現しており、特にオープンキャンパスと英検対策講座を通じた入学促進の仕組みが効果的に機能している。オープンキャンパス参加者の受験率・入学率は年々向上し、50%前後の高い水準を維持している。この既設組織の実績は、新設組織においても同様の学生確保が見込める確かな基盤となる。

新設組織では、既設の 3 学科を統合した「国際教養学科」において、6 つのコース制（歴史探究、多文化・思想、キャリア英語、地域経営、国際社会、情報メディア）を導入する。この改組により、本学の教育的強みが大幅に拡充される。特に「レイトスペシャライゼーション」（自分にあった専門を入学後に見極めて決定する）システムの導入や、専門的かつ横断的な学びの実現は、従来の学科制では実現できなかった教育的価値を提供する。

また、新設組織の大きな特徴の一つが、PBL 型授業と地域連携教育の充実である。「実践するリベラルアーツ」の理念のもと、以下の実践的な学びが提供される。PBL 科目では、コース別で 2 年次に「まちづくり PBL」「情報メディア PBL」などを設置し、学問分野ごとの特色を活かした課題解決学習を行う。これらは講義で得た知識を実践に活かし、社会課題の解決に挑戦する貴重な機会となる。地域と連携した授業科目である「ボランティアと地域」「地域学１、２」「地域文化論１、２」「地域経営論１、２」「地域調査」など、新発田市・聖籠町・新潟県の特色と課題を知り、実践的に学ぶ科目群を設置する。これらの科目では地域住民や行政、企業と連携したフィールドワークやプロジェクト活動を展開し、座学だけでは得られない実践知を習得する。 本学が開学時より力を入れてきたボランティア活動を核として、教室内の学びと教室外での実践活動を循環させるサービスラーニングを実施する。学生は地域貢献活動を通じて主体性やコミュニケーション能力などの汎用的能力を高めるとともに、社会的課題への当事者意識を養う。

これらの実践的な学びは、就職活動においても有利に働く実務経験として評価されるとともに、学生の成長実感と学習意欲の向上につながる。実際に、本学の実践型教育に参加した在学生の満足度は高く、オープンキャンパスでも大きな関心を集めている。この特色ある教育内容は、新設組織における学生確保の重要な要素となる。

新設組織の特徴である幅広い学問分野の横断的学修は、多様化する学生のニーズと関心に対応する。哲学や文学などの伝統的人文学から、情報メディアやデータサイエンスといった現代的な分野まで学べる体制は、文系・理系の区分を超えた「文理融合」教育を求める学生にとって魅力的である。また、主専攻と副専攻を組み合わせた学びのデザインは、複数の分野に関心がある学生や、複合的なキャリア志向を持つ学生に強く訴求する。

新設組織では入学定員を既設よりも 10 名減少させることで、より確実な定員充足を見込んでいる。この戦略的な定員調整は、教育の質を維持しながら充足率を高める効果がある。特に、既設組織の実績から算出された目標数値（オープンキャンパス参加者数 553 名、英検対策講座受講者数 172 名）は、新定員 170 名に対して十分に達成可能な水準である。

新設組織の特色である 6 コース制や「実践するリベラルアーツ」教育の魅力を伝えるために、広報活動を強化する計画がある。具体的には、新設組織の特色を説明したパンフレットの作成・配布、高校での進学説明会の充実、SNS を活用した情報発信、高校教員との信頼関係構築など、多角的なアプローチを実施する。特に PBL 型授業や地域連携教育による学生の成長事例を積極的に発信することで、実践的な学びを求める受験生に対する訴求力を高める。

新潟県内において人文学を専門的に学べる私立大学は本学のみであり、この地域における希少性は大きな強みである。新設組織でも人文学の伝統を維持しつつ、地域経営や情報メディアといった現代的なニーズに応える分野を加えることで、地域における独自のポジションがさらに強化される。特に、地域と連携した実践的な学びは本学の大きな特徴であり、地元企業や行政との強固なネットワークを活かした教育プログラムが学生確保の強力な武器となる。

以上の要素から、新設組織設置後も本学の入学定員 170 名を十分に確保できると見込んでいる。既設組織の実績に新たな教育的価値を加え、特に PBL 型授業や地域連携教育といった実践的な学びを強化することで、より魅力的な学びの場として多くの学生を引き付けることが可能である。

(2)人材需要に関するアンケート調査

前述した通り、新たに新設する国際教養学科は、敬和学園大学人文学部 英語文化コミュニケーション学科、国際文化学科、共生社会学科の 3 学科を統合・再編し、新たに設置する。配置される教員 22 名も全て母体となる 3 学科から移籍し、それぞれの学科が持つ強みと特色を受け継ぎながら、現代社会の変化に対応した新たな教育体制を構築している。母体となる学科の実績から十分に人材需要に関する説明は可能と考え、就職に関するアンケート調査は実施していないが、以下の観点から新設組織の人材需要について、十分に需要

があると考えている。

敬和学園大学の令和５（2023）年度卒業生の就職率は 97%を超えており、卒業生に対する高い人材需要が確認できている。新たに新設する国際教養学科は既設の３学科を母体としており、教育内容や卒業後の就職先も大きく変更が無いことが想定されているため、新設組織においても同様に高い人材需要が見込まれる。

また、本学の卒業生の約６割が新潟県内企業に就職しているが、この実績は、新潟県内をはじめとする数多くの企業との強いつながりに支えられており、今後も新潟県の企業との連携を通じて地域に求められる人材を輩出していく。

令和６（2024）年の就職実績では、情報通信業や小売業、製造業、金融業、サービス業など幅広い業種に卒業生が就職している。本学の国際教養学科では、6 つのコース（歴史探究、多文化・思想、キャリア英語、地域経営、国際社会、情報メディア）を通じて多様な学問分野を学ぶことができるため、これら幅広い業種への就職が可能である。特に情報メディアコースや地域経営コースは、情報通信業や地域企業との親和性が高く、即戦力となる人材を育成する。

リベラルアーツ教育による幅広い教養と実践力を備え、コミュニケーション能力や課題解決能力、批判的思考力を持つ人材は、業種を問わず高い評価を得ることができる。

本学では公務員講座を設置し、多くの卒業生が公務員として就職している。本学の教養教育と専門教育の両方を備えた新設組織のカリキュラムは、公務員試験対策として有効である。特に国際社会コースや地域経営コースでは、行政に関わる知識を深く学ぶことができ、地方公務員として活躍する人材を輩出できる。

新潟県は人口減少と高齢化が進む地域であり、地域活性化や地域課題解決のための人材が強く求められている。本学の新設組織では、特に PBL 型授業や地域連携教育を通じて、地域課題に実践的に取り組む経験を積むことができる。このような経験を持つ卒業生は、地域振興や地域福祉、観光振興などの分野で、地域に貢献できる人材として高い需要がある。

新潟県は環日本海経済圏の要として、国際的なビジネス展開を進める企業も多く存在する。本学の国際教養学科では、キャリア英語コースを中心に高度な語学力と異文化理解力を養成することで、グローバルなビジネス環境で活躍できる人材を育成する。

社会全体の DX が進む中、新潟県内においてもデジタルスキルを持つ人材の需要が急増している。本学の国際教養学科では情報メディアコースを設置し、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」（リテラシーレベル）の認定を受ける予定であり、文系学生でもデジタルスキルを持つ人材を育成する。

以上のように、専門性が従来よりも明確になる本学の新設組織「国際教養学科」の卒業生に対しても、地域企業を中心に十分な人材需要があると言える。特に、リベラルアーツ教育による幅広い知識と思考力、PBL や地域連携教育による実践力、専門コースによる特化した知識・技能を併せ持つ卒業生は、変化の激しい現代社会において、業種を問わず高い評価を得ることができる。既設組織での就職実績を基盤としつつ、新設組織の特色ある

教育を通じて、より一層社会のニーズに応える人材を輩出していく。

Ⅳ. 新設組織の定員設定の理由

グローバル化の進む21世紀初頭の現在、地球環境・生態系破壊の危険性や、地域紛争・テロ、新型感染症、金融危機といった問題、国際関係の変化と情報技術の進展（society 5.0）等により、世界は不確実性や不透明性を増した状況となっている。予測のつかない困難が人間・国家・人類社会を襲っている。世界各国と人類社会が共通に直面しているこうした現代のさまざまな問題と課題は、それらに対応しうる知識・知性・教養の向上を切実に求めている。日本学術会議から提言された「２１世紀の教養と教養教育（平成 22 年)」ではその知識・知性・教養とは「異質なもの（個人・民族・国家や宗教・文化）の間での相互信頼と協力・協働を促進し、それらの問題や課題の性質・構造を見極め、合理的かつ適切な解決方法を構想し実行していく基盤となるもの」とされている。

現代社会が直面している諸問題は、一つの学問分野の知見のみで適切にその全体像を理解することは困難であり、なおかつ、異なる利害・異なる価値観が現在進行形で衝突する論争的な性格を有している。更に、今後、異なる価値観や視点を持つ他者との協働の機会は増えることが予想される。予測困難な時代では、私たち一人ひとり、そして社会全体が答えのない問いにどう立ち向かうのかが問われており、一義的な正解の存在しない問題について、今までのやり方を当てはめるのではなく、既存の社会の流れや枠組みとは異なる別の視点からの価値観をもって、新しい発想で新しい社会を創っていける人材が社会から求められている。

以上を踏まえ、敬和学園大学は建学の精神「神を敬い、人に仕える」に基づき、「国際的教養豊かな良心的人材を養成すること」という教育目的を達成するために、既存の教養教育・専門教育をさらに発展させ、社会から必要とされる創造性や課題解決力を有し、新たな価値を創造することができる実践的な人材を養成すべく、既存の 3 学科を統合した国際教養学科への改編を行うものである。

競合校と比較して、教育内容の優位性について新設される国際教養学科では、6 つのコース（歴史探究、多文化・思想、キャリア英語、国際社会、地域経営、情報メディア）を通じて、既設組織よりも幅広い学問分野を学べる体制を整える。特に「レイトスペシャライゼーション」による柔軟な専攻選択や、PBL 型授業・地域連携教育による実践的な学び、少人数の手厚い教育は、競合校にはない大きな強みとなる。

次に、立地について新潟県内にて人文学を専門的に学べる私立大学は本学のみであり、この地域における希少性は学生確保において大きなアドバンテージとなる。また、新発田市・聖籠町という立地は、自然環境の豊かさや「まちなかキャンパス」など地域コミュニティとの連携において優位性がある。

また、社会的需要の高さは新潟県内企業や行政機関においても、リベラルアーツ教育による幅広い知識と思考力、実践的な課題解決能力を持つ人材への需要は高まっている。特

に地域活性化や国際交流、デジタル化の推進において、本学の新設組織が育成する人材は高い評価を得ることが期待される。

そして、効果的な広報戦略として新設組織の特色である 6 コース制や「実践するリベラルアーツ」教育の魅力を伝えるために、パンフレットの作成・配布、高校での進学説明会の充実、SNS を活用した情報発信など、多角的な広報活動を計画している。これらの取り組みにより、新設組織の認知度を高め、より多くの受験生を引きつけることが可能である。過去の実績に基づき、目標値であるオープンキャンパス参加者目標 553 名、英検対策講座受講者数目標 172 名達成をする。

以上の実績と計画から、新設組織における入学定員 170 名は十分に確保できると見込んでいる。本学の特色ある教育内容と、地域における独自のポジションを活かし、新設組織においても安定した学生確保が可能であると考えている。

学生の確保の見通し等を記載した書類（資料）

資料１　新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙１）
資料２　既設学科等の入学定員の充足状況（別紙２）
資料３　既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績（別紙３）

【資料１】新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙１

〇出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位５都道府県）※直近年度

	都道府県名	人　　数	構成比
1	新潟県	98人	69.0%
2	茨城県	6人	4.2%
3	鹿児島県	6人	4.2%
4	長野県	3人	2.1%
5	福島県	2人	1.4%
	全　　体	142人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

〇新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地（都道府県）	充足率		
		令和３年度	令和４年度	令和５年度
1	新潟県	98.04%	98.21%	96.25%
2				

※２校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

〇新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和３年度	令和４年度	令和５年度
1	人文学部	99.30%	98.93%	96.28%
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

【資料２】既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－１

大学学部学科等名：敬和学園大学人文学部英語文化コミュニケーション学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		7人	7人	7人	7人	7人	7人
	延べ人数	志願者数	17人	12人	11人	9人	6人	11人
		受験者数	17人	12人	11人	9人	6人	11人
		合格者数	15人	12人	11人	8人	6人	10人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	1人	0人
	実人数	志願者数	17人	12人	11人	9人	6人	11人
		受験者数	17人	12人	11人	9人	6人	11人
		合格者数	15人	12人	11人	8人	6人	10人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	1人	0人
	入学者数		14人	12人	11人	8人	5人	10人
学校推薦型選抜	募集人数		18人	18人	18人	18人	18人	18人
	延べ人数	志願者数	21人	14人	18人	18人	17人	18人
		受験者数	20人	14人	17人	18人	17人	17人
		合格者数	20人	14人	17人	18人	17人	17人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	実人数	志願者数	21人	14人	18人	18人	17人	18人
		受験者数	20人	14人	17人	18人	17人	17人
		合格者数	20人	14人	17人	18人	17人	17人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	入学者数		20人	14人	17人	17人	17人	17人
一般選抜	募集人数		26人	26人	26人	26人	26人	26人
	延べ人数	志願者数	28人	26人	10人	11人	11人	17人
		受験者数	27人	22人	9人	11人	11人	16人
		合格者数	27人	22人	9人	11人	11人	16人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	15人	14人	6人	8人	5人	10人
	実人数	志願者数	28人	26人	10人	11人	11人	17人
		受験者数	27人	22人	9人	11人	11人	16人
		合格者数	27人	22人	9人	11人	11人	16人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	15人	14人	6人	8人	5人	10人
	入学者数		12人	8人	3人	3人	6人	6人
共通テスト利用入試	募集人数		9人	9人	9人	9人	9人	9人
	延べ人数	志願者数	46人	51人	39人	29人	32人	39人
		受験者数	46人	51人	39人	29人	32人	39人
		合格者数	45人	51人	39人	29人	29人	39人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	34人	42人	30人	23人	21人	30人
	実人数	志願者数	46人	51人	39人	29人	32人	39人
		受験者数	46人	51人	39人	29人	32人	39人
		合格者数	45人	51人	39人	29人	29人	39人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	34人	42人	30人	23人	21人	30人
	入学者数		11人	9人	9人	6人	8人	9人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	2人	2人	0人	1人	0人	1人
		受験者数	2人	2人	0人	1人	0人	1人
		合格者数	1人	2人	0人	1人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	2人	2人	0人	1人	0人	1人
		受験者数	2人	2人	0人	1人	0人	1人
		合格者数	1人	2人	0人	1人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		1人	1人	0人	1人	0人	1人
合計	募集人数		60人	60人	60人	60人	60人	60人
	延べ人数	志願者数	114人	105人	78人	68人	66人	86人
		受験者数	112人	101人	76人	68人	66人	85人
		合格者数	108人	101人	76人	67人	63人	83人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	50人	57人	36人	32人	27人	40人
	実人数	志願者数	114人	105人	78人	68人	66人	86人
		受験者数	112人	101人	76人	68人	66人	85人
		合格者数	108人	101人	76人	67人	63人	83人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	50人	57人	36人	32人	27人	40人
	入学者数		58人	44人	40人	35人	36人	43人

３．入学定員充足率

	H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
入学定員	60人	60人	60人	60人	60人	60人
入学定員充足率	97%	73%	67%	58%	60%	71%
歩留率	54%	44%	53%	52%	57%	52%

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

【資料２】既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－２

大学学部学科等名：敬和学園大学人文学部国際文化学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		10人	10人	10人	10人	10人	10人
	延べ人数	志願者数	24人	25人	13人	17人	17人	19人
		受験者数	24人	24人	13人	17人	17人	19人
		合格者数	24人	24人	13人	17人	17人	19人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	1人	1人	1人	0人	1人
	実人数	志願者数	24人	25人	13人	17人	17人	19人
		受験者数	24人	24人	13人	17人	17人	19人
		合格者数	24人	24人	13人	17人	17人	19人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	1人	1人	1人	0人	1人
	入学者数		23人	23人	12人	16人	17人	18人
学校推薦型選抜	募集人数		24人	24人	24人	24人	24人	24人
	延べ人数	志願者数	50人	48人	47人	72人	28人	49人
		受験者数	49人	48人	47人	70人	28人	48人
		合格者数	49人	48人	47人	70人	28人	48人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	2人	3人	1人	2人	2人
	実人数	志願者数	50人	48人	47人	72人	28人	49人
		受験者数	49人	48人	47人	70人	28人	48人
		合格者数	49人	48人	47人	70人	28人	48人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	2人	3人	1人	2人	2人
	入学者数		45人	46人	44人	69人	26人	46人
一般選抜	募集人数		34人	34人	34人	34人	34人	34人
	延べ人数	志願者数	42人	40人	34人	38人	24人	36人
		受験者数	41人	35人	34人	37人	23人	34人
		合格者数	40人	34人	33人	36人	23人	33人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	19人	20人	21人	26人	11人	19人
	実人数	志願者数	42人	40人	34人	38人	24人	36人
		受験者数	41人	35人	34人	37人	23人	34人
		合格者数	40人	34人	33人	36人	23人	33人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	19人	20人	21人	26人	11人	19人
	入学者数		21人	14人	12人	10人	12人	14人
共通テスト利用入試	募集人数		12人	12人	12人	12人	12人	12人
	延べ人数	志願者数	74人	83人	62人	53人	58人	66人
		受験者数	74人	83人	62人	53人	58人	66人
		合格者数	74人	82人	61人	53人	58人	66人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	57人	68人	47人	44人	40人	51人
	実人数	志願者数	74人	83人	62人	53人	58人	66人
		受験者数	74人	83人	62人	53人	58人	66人
		合格者数	74人	82人	61人	53人	58人	66人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	57人	68人	47人	44人	40人	51人
	入学者数		17人	14人	14人	9人	18人	14人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	18人	3人	6人	4人	11人	8人
		受験者数	17人	3人	6人	4人	11人	8人
		合格者数	15人	2人	4人	3人	11人	7人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	0人	0人	0人	0人	1人
	実人数	志願者数	18人	3人	6人	4人	11人	8人
		受験者数	17人	3人	6人	4人	11人	8人
		合格者数	15人	2人	4人	3人	11人	7人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	0人	0人	0人	0人	1人
	入学者数		10人	2人	4人	3人	11人	6人
合計	募集人数		80人	80人	80人	80人	80人	80人
	延べ人数	志願者数	208人	199人	162人	184人	138人	178人
		受験者数	205人	193人	162人	181人	137人	176人
		合格者数	202人	190人	158人	179人	137人	173人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	86人	91人	72人	72人	53人	75人
	実人数	志願者数	208人	199人	162人	184人	138人	178人
		受験者数	205人	193人	162人	181人	137人	176人
		合格者数	202人	190人	158人	179人	137人	173人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	86人	91人	72人	72人	53人	75人
	入学者数		116人	99人	86人	107人	84人	98人

３．入学定員充足率

	H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
入学定員	80人	80人	80人	80人	80人	80人
入学定員充足率	145%	124%	108%	134%	105%	123%
歩留率	57%	52%	54%	60%	61%	57%

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

【資料２】既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間） 別紙２－３

大学学部学科等名：敬和学園大学人文学部共生社会学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　　均
総合型選抜	募集人数		5人	5人	5人	5人	5人	5人
	延べ人数	志願者数	1人	11人	14人	8人	7人	8人
		受験者数	1人	11人	14人	8人	7人	8人
		合格者数	1人	11人	14人	8人	7人	8人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
	実人数	志願者数	1人	11人	14人	8人	7人	8人
		受験者数	1人	11人	14人	8人	7人	8人
		合格者数	1人	11人	14人	8人	7人	8人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
	入学者数		1人	11人	14人	8人	6人	8人
学校推薦型選抜	募集人数		12人	12人	12人	12人	12人	12人
	延べ人数	志願者数	27人	14人	19人	18人	9人	17人
		受験者数	27人	14人	19人	18人	9人	17人
		合格者数	27人	14人	19人	17人	9人	17人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	27人	14人	19人	18人	9人	17人
		受験者数	27人	14人	19人	18人	9人	17人
		合格者数	27人	14人	19人	17人	9人	17人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		27人	14人	19人	17人	9人	17人
一般選抜	募集人数		17人	17人	17人	17人	17人	17人
	延べ人数	志願者数	17人	17人	11人	5人	5人	11人
		受験者数	16人	15人	10人	3人	4人	10人
		合格者数	16人	15人	10人	3人	4人	10人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	9人	12人	6人	2人	3人	6人
	実人数	志願者数	17人	17人	11人	5人	5人	11人
		受験者数	16人	15人	10人	3人	4人	10人
		合格者数	16人	15人	10人	3人	4人	10人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	9人	12人	6人	2人	3人	6人
	入学者数		7人	3人	4人	1人	1人	3人
共通テスト利用入試	募集人数		6人	6人	6人	6人	6人	6人
	延べ人数	志願者数	23人	29人	21人	10人	15人	20人
		受験者数	23人	29人	21人	10人	15人	20人
		合格者数	23人	29人	20人	10人	15人	19人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	18人	24人	18人	9人	14人	17人
	実人数	志願者数	23人	29人	21人	10人	15人	20人
		受験者数	23人	29人	21人	10人	15人	20人
		合格者数	23人	29人	20人	10人	15人	19人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	18人	24人	18人	9人	14人	17人
	入学者数		5人	5人	2人	1人	1人	3人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	1人	1人	1人	1人	5人	2人
		受験者数	0人	1人	1人	1人	5人	2人
		合格者数	0人	1人	0人	1人	5人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	1人	1人	1人	1人	5人	2人
		受験者数	0人	1人	1人	1人	5人	2人
		合格者数	0人	1人	0人	1人	5人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	1人	0人	1人	5人	1人
合計	募集人数		40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数	志願者数	69人	72人	66人	42人	41人	58人
		受験者数	67人	70人	65人	40人	40人	56人
		合格者数	67人	70人	63人	39人	40人	56人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	27人	36人	24人	11人	18人	23人
	実人数	志願者数	69人	72人	66人	42人	41人	58人
		受験者数	67人	70人	65人	40人	40人	56人
		合格者数	67人	70人	63人	39人	40人	56人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	27人	36人	24人	11人	18人	23人
	入学者数		40人	34人	39人	28人	22人	33人

３．入学定員充足率

	H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　　均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40人
入学定員充足率	100%	85%	98%	70%	55%	82%
歩留率	60%	49%	62%	72%	55%	59%

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

【資料３】既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙３

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：オープンキャンパス

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	323人	361人	受験希望者を対象としてキャンパスを開放し、既設組織の特色や養成する人材像の紹介、模擬授業。在学生との懇談、施設案内を実施。 R4年度入試対象（R3年度開催）：計4回開催（3/20、7/10、8/7、8/29） R5年度入試対象（R4年度開催）：計5回開催（3/26、7/16、8/6、8/28、10/10）
うち受験対象者数(b)	188人	189人	
うち受験者数(c)	96人	105人	
うち入学者数(d)	92人	101人	
（受験率 c/b）	51%	56%	
（入学率 d/b）	49%	53%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：英検対策講座

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	73人	112人	中学・高校生を対象とした英検対策講座。 英検2級・準2級（一次・二次）の出題傾向や問題の解き方を解説、希望者には二次面接指導を実施。 R4年度入試対象（R3年度開催）：計2回開催（5/8、9/18） R5年度入試対象（R4年度開催）：計2回開催（5/21、9/17）
うち受験対象者数(b)	33人	56人	
うち受験者数(c)	11人	12人	
うち入学者数(d)	9人	10人	
（受験率 c/b）	33%	21%	
（入学率 d/b）	27%	18%	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称：

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)			
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
（受験率 c/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	
（入学率 d/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	

④募集を行った学科等名称及び取組の名称：

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)			
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
（受験率 c/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	
（入学率 d/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	

⑤募集を行った学科等名称及び取組の名称：

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)			
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
（受験率 c/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	
（入学率 d/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　名　簿

学　長　又　は　校　長　の　氏　名　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 （千円）	現　職 （就任年月）
1	学長	カナヤマ　アイコ 金山　愛子 ＜令和5年4月＞		M.A.in Greek （米国）		敬和学園大学学長 （令和5.4～令和9.3） ※

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（人文学部国際教養学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
1	基(主専)	教授 (学長)	カナヤマ　アイコ 金山　愛子 ＜令和8年4月＞		M.A.in Greek(米国)		文学１ ※【隔年】 文学２ ※【隔年】 教養スペシャル・トピックスＡ 教養スペシャル・トピックスＢ 教養スペシャル・トピックスＣ 教養スペシャル・トピックスＤ 教養スペシャル・トピックスＥ 教養スペシャル・トピックスＦ 英語文学１ 児童文学１【隔年】 児童文学２【隔年】 文学研究１	 ○ ○	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後 2前 2前 2後 2前	0.5 0.5 2 2 2 2 4 4 2 2 2 2	1 1 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1	敬和学園大学人文学部英語文化コミュニケーション学科 教授 (平成5年4月) 敬和学園大学 学長 (令和5年4月)	○				2日 5日	
2	基(主専)	教授	マスタニ　マコト 益谷　真 ＜令和8年4月＞		文学修士※		心理学１ 心理学２ 基礎演習１ 基礎演習２ 教育活動アクティブワーク コミュニケーションの心理学１ コミュニケーションの心理学２ キャリア英語入門１ ※ キャリア英語入門２ ※ キャリア英語演習１ キャリア英語演習２ キャリア英語演習３ キャリア英語演習４ 卒業論文 教育の方法・技術とICTの活用 教育実習事前事後指導 教育相談 教職実践演習 ※ 発達と学習の教育心理学	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1前 1後 2前 3前 3後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通 3後 3～4通 3前 4後 2後	2 2 2 2 2 2 2 0.3 0.3 2 2 2 2 6 2 0.3 2 0.7 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬和学園大学人文学部英語文化コミュニケーション学科 教授 (平成5年4月)	○				5日	
3	基(主専)	教授	ヤマザキ　ユキ 山﨑　由紀 ＜令和8年4月＞		Ph.D.in History(米国)		英語Ⅰ読む・書く 英語Ⅱ読む・書く 基礎演習１ 基礎演習２ アメリカ社会と歴史１【隔年】 アメリカ社会と歴史２【隔年】 アメリカ社会と歴史３【隔年】 アメリカ社会と歴史４【隔年】 歴史探究入門１ ※ 歴史探究入門２ ※ 歴史探究演習１ 歴史探究演習２ 歴史探究演習３ 歴史探究演習４ 卒業論文 メディア英語１ メディア英語２	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 	1前 1後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通 3前 3後	4 4 2 2 2 2 2 2 0.1 0.3 2 2 2 2 6 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬和学園大学人文学部英語文化コミュニケーション学科 教授 (平成20年4月)	○		○	外国語カリキュラム委員会	5日	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（人文学部国際教養学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
4	基(主専)	教授	アラキ　ヨウコ 荒木　陽子 ＜令和8年4月＞		博士(学術)		文学１ ※【隔年】 文学２ ※【隔年】 英語Ⅰ読む・書く 英語Ⅱ読む・書く 基礎演習１ 基礎演習２ 異文化コミュニケーション論１ 異文化コミュニケーション論２ 英語文学２ 文学研究２ 文学・文化特講１ 文学・文化特講２ 多文化・思想入門１ ※ 多文化・思想入門２ ※ 多文化･思想演習１ 多文化･思想演習２ 多文化･思想演習３ 多文化･思想演習４ 卒業論文	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1前 1後 1前 1後 2前 2後 2後 2後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通	0.7 0.7 4 4 2 2 2 2 2 2 2 2 0.3 0.3 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬和学園大学人文学部英語文化コミュニケーション学科 教授 (平成28年10月)	○		○	FD/カリキュラム委員会	5日	
5	基(主専)	教授	マルハタ　ヒロト 丸畠　宏太 ＜令和8年4月＞		法学修士		スポーツとリベラルアーツ ※ 基礎演習１ 基礎演習２ キリスト教史1 キリスト教史2 欧米文化論１ 欧米文化論２ 西洋史概説 西洋史 歴史学フィールドワーク１【隔年】 歴史学フィールドワーク３【隔年】 歴史探究入門１ ※ 歴史探究入門２ ※ 歴史探究演習１ 歴史探究演習２ 歴史探究演習３ 歴史探究演習４ 卒業論文 キリスト教史１ キリスト教史２ 欧米文化論１ 欧米文化論２	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 	2･3･4後 1前 1後 2前 2後 2前 2後 2前 2後 2前 2前 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通 2前 2後 2前 2後	0.1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 0.3 0.3 2 2 2 2 6 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬和学園大学人文学部国際文化学科 教授 (平成20年4月)	○		○	FD/カリキュラム委員会	5日	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（人文学部国際教養学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
6	基(主専)	教授	シモタオ　ジロウ 下田尾　治郎 ＜令和8年4月＞		Master of Theology (米国)		キリスト教学１	○	1前	4	2	敬和学園大学人文学部国際文化学科教授 (平成26年4月)	○				5日	
							キリスト教学２	○	1後	4	2							
							チャペル・アッセンブリ・アワー１		1前	1	1							
							チャペル・アッセンブリ・アワー２		1後	1	1							
							チャペル・アッセンブリ・アワー３		2前	1	1							
							チャペル・アッセンブリ・アワー４		2後	1	1							
							チャペル・アッセンブリ・アワー５		3前	1	1							
							チャペル・アッセンブリ・アワー６		3後	1	1							
							チャペル・アッセンブリ・アワー７		4前	1	1							
							チャペル・アッセンブリ・アワー８		4後	1	1							
							文学１ ※【隔年】		1･2･3･4前	0.4	1							
							文学２ ※【隔年】		1･2･3･4後	0.4	1							
							基礎演習１		1前	2	1							
							基礎演習２		1後	2	1							
							聖書の世界２		1後	2	1							
							比較宗教思想１	○	2前	2	1							
							比較宗教思想２	○	2後	2	1							
							多文化・思想入門１ ※		2前	0.3	1							
							多文化・思想入門２ ※		2後	0.3	1							
							多文化･思想演習１	○	3前	2	1							
							多文化･思想演習２	○	3後	2	1							
							多文化･思想演習３	○	4前	2	1							
							多文化･思想演習４	○	4後	2	1							
							卒業論文	○	4通	6	1							
7	基(主専)	教授	ファン　ブンケイ 房　文慧 ＜令和8年4月＞		博士(経済学)		経済学１		1･2･3･4前	2	1	敬和学園大学人文学部国際文化学科教授 (平成11年4月)	○	○			5日	
							経済学２		1･2･3･4後	2	1							
							スポーツとリベラルアーツ ※		2･3･4後	0.1	1							
							基礎演習１		1前	2	1							
							基礎演習２		1後	2	1							
							留学 異文化研究		1･2･3前･後	32	2							
							フィールド･ワーク		1･2･3･4前･後	4	2							
							経済史１		2前	2	1							
							経済史２		2後	2	1							
							地球環境経済論１	○	3前	2	1							
							地球環境経済論２	○	3後	2	1							
							国際社会入門１ ※		2前	0.4	1							
							国際社会入門２ ※		2後	0.4	1							
							国際社会演習１	○	3前	2	1							
							国際社会演習２	○	3後	2	1							
							国際社会演習３	○	4前	2	1							
							国際社会演習４	○	4後	2	1							
							卒業論文	○	4通	6	1							

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（人文学部国際教養学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
8	基(主専)	教授	トミカワ　ヒサシ 富川　尚 ＜令和8年4月＞		修士(政治学) ※		政治学１ 政治学２ スポーツとリベラルアーツ ※ 基礎演習１ 基礎演習２ 国際関係史１【隔年】 国際関係史２【隔年】 国際政治論１【隔年】 国際政治論２【隔年】 地域統合論１【隔年】 地域統合論２【隔年】 国際社会入門１ ※ 国際社会入門２ ※ 国際社会演習１ 国際社会演習２ 国際社会演習３ 国際社会演習４ 卒業論文	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1･2･3･4前 1･2･3･4後 2･3･4後 1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通	2 2 0.1 2 2 2 2 2 2 2 2 0.3 0.3 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬和学園大学人文学部国際文化学科教授 (平成14年4月)	○				5日	
9	基(主専)	教授	イチノヘ　シンヤ 一戸　信哉 ＜令和8年4月＞		修士(法学)		時事問題研究１ 時事問題研究２ サイバーセキュリティ入門 スポーツとリベラルアーツ ※ 基礎演習１ 基礎演習２ デジタルジャーナリズム論 情報メディア論 海外メディア事情(海外取材･研修)【隔年】 情報メディア特論１(国内取材･研修)【隔年】 情報法【隔年】 著作権法【隔年】 情報メディアPBL１ 情報メディアPBL２ 情報メディア演習１ 情報メディア演習２ 情報メディア演習３ 情報メディア演習４ 卒業論文	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1･2･3･4後 2･3･4後 1前 1後 1後 1前 2後 2後 3前 3前 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通	2 2 1 0.8 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬和学園大学人文学部国際文化学科教授 (平成18年10月)	○				5日	
10	基(主専)	教授	イトウ　マナブ 伊藤　学 ＜令和8年4月＞		博士(工学)		コンピュータリテラシー 情報技術資格対策（ITパスポート） データサイエンス入門 情報技術資格対策(デジタルコンテンツ制作) AIリテラシー スポーツとリベラルアーツ ※ 基礎演習１ 基礎演習２ デジタルコンテンツ制作１【隔年】 デジタルコンテンツ制作２【隔年】 情報メディア演習１ 情報メディア演習２ 情報メディア演習３ 情報メディア演習４ 卒業論文	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1前･後 2･3･4前 2･3･4前 2･3･4前 2･3･4後 2･3･4後 1前 1後 2後 2後 3前 3後 4前 4後 4通	4 4 2 2 2 0.3 2 2 2 2 2 2 2 2 6	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬和学園大学人文学部国際文化学科教授 (令和6年4月)	○				5日	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（人文学部国際教養学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
11	基(主専)	教授	ドイ　トモノリ 土居　智典 ＜令和8年4月＞		博士(文学)		中国語Ⅰ文法 中国語Ⅱ文法 基礎演習１ 基礎演習２ アジア近現代史１ アジア近現代史２ アジア史概説 アジア史 アジア文化論１ アジア文化論２ 歴史学フィールドワーク１【隔年】 歴史学フィールドワーク２【隔年】 歴史探究入門１ ※ 歴史探究入門２ ※ 歴史探究演習１ 歴史探究演習２ 歴史探究演習３ 歴史探究演習４ 卒業論文 アジア文化論１ アジア文化論２	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後 2前 2後 2前 2前 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通 2前 2後	4 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 0.3 0.1 2 2 2 2 6 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬和学園大学人文学部国際文化学科教授 (令和5年4月)	○		○	外国語カリキュラム委員会	5日	
12	基(主専)	教授	カトウ　ヒロヤス 加藤　裕康 ＜令和8年4月＞		博士(コミュニケーション学)		スポーツとリベラルアーツ□※ 基礎演習１□ 基礎演習２□ アニメ文化経済論□【隔年】 コンテンツプロデュース論□【隔年】 デジタルコンテンツ概論 ポピュラー文化論□【隔年】 メディア産業論□ 情報メディア特論３（eスポーツと社会）□ 広報・広告コミュニケーション論□【隔年】 情報メディア特論２（国内メディア研究）□ 情報メディア演習１□ 情報メディア演習２□ 情報メディア演習３□ 情報メディア演習４□ 卒業論文□	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	2･3･4後 1前 1後 2後 2後 2後 2後 2前 2後 2後 2後 3前 3後 4前 4後 4通	0.3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬和学園大学人文学部国際文化学科教授 (令和6年4月)	○				5日	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（人文学部国際教養学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
13	基(主専)	教授	フジモト　コウジ 藤本　晃嗣 ＜令和8年4月＞		修士(国際公共政策)※		私たちの暮らしと行政		1･2･3･4前	2	1	敬和学園大学人文学部国際文化学科 教授 (平成18年4月)	○				5日	
							日本国憲法１		1･2･3･4前	2	1							
							日本国憲法２		1･2･3･4後	2	1							
							私たちの暮らしと労働法制		3･4後	1	1							
							スポーツとリベラルアーツ ※		2･3･4後	0.1	1							
							基礎演習１		1前	2	1							
							基礎演習２		1後	2	1							
							国際法１	○	2前	2	1							
							国際法２	○	2後	2	1							
							国際機構論１【隔年】		3前	2	1							
							国際機構論２【隔年】		3後	2	1							
							国際人権論１【隔年】		3前	2	1							
							国際人権論２【隔年】		3後	2	1							
							国際社会入門１ ※		2前	0.3	1							
							国際社会入門２ ※		2後	0.3	1							
							国際社会演習１	○	3前	2	1							
							国際社会演習２	○	3後	2	1							
							国際社会演習３	○	4前	2	1							
							国際社会演習４	○	4後	2	1							
							卒業論文	○	4通	6	1							
14	基(主専)	教授	ジョ　オーヨン 趙　晤衍 ＜令和8年4月＞		社会福祉学修士		基礎演習１		1前	2	1	敬和学園大学人文学部共生社会学科 教授 (平成17年4月)	○				5日	
							基礎演習２		1後	2	1							
							インターンシップ		3前･後	4	2							
							キャリア開発入門		2後	1	1							
							キャリア開発１		3前	2	1							
							キャリア開発２		3後	2	1							
							地域共生社会論 ※	○	2前	0.9	1							
							地域福祉１		3前	2	1							
							地域福祉２		3後	2	1							
							社会起業論１ ※	○	2前	0.9	1							
							社会起業論２ ※	○	2後	0.9	1							
							ファンドレイジング ※		3後	1.1	1							
							ソーシャルベンチャー起業実践論１		3前	2	1							
							ソーシャルベンチャー起業実践論２		3後	2	1							
							まちづくりPBL１ ※		2前	0.4	1							
							まちづくりPBL２ ※		2後	0.4	1							
							地域経営演習１	○	3前	2	1							
							地域経営演習２	○	3後	2	1							
							地域経営演習３	○	4前	2	1							
							地域経営演習４	○	4後	2	1							
							卒業論文	○	4通	6	1							

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（人文学部国際教養学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
15	基(主専)	准教授	エグチ　カズミ 江口　和美 ＜令和8年4月＞		公共経営修士 (専門職)※		基礎演習１ 基礎演習２ フィールド･ワーク インターンシップ リテラシーとコンピテンシー１ リテラシーとコンピテンシー２ キャリア英語入門１　※ キャリア英語入門２　※ キャリア英語演習１ キャリア英語演習２ キャリア英語演習３ キャリア英語演習４ 卒業論文 カリキュラム論 教育実習（中･高） 教育実習事前事後指導 教育制度論 教職実践演習　※ 教職入門	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 	1前 1後 1･2･3･4前･後 3前･後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通 3前 4前･後 3～4通 2前 4後 1後	2 2 4 4 2 2 0.2 0.2 2 2 2 2 6 2 8 1 2 1.6 2	1 1 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1	敬和学園大学人文学部英語文化コミュニケーション学科 准教授 (令和3年8月)	○	○			5日	
16	基(主専)	准教授	オムラティグ　ロサ Ó MUIREARTAIGH Rossa ＜令和8年4月＞		Ph.D.in philosophy(スイス)		英語Ⅰ聴く・話す 英語Ⅱ聴く・話す 英語Ⅲ聴く・話す 英語Ⅳ聴く・話す 文化交流論１ 文化交流論２ 通訳実践 海外キャリア研修 翻訳１ 翻訳２ ジャパン･スタディーズ【隔年】 キャリア英語入門１　※ キャリア英語入門２　※ キャリア英語演習１ キャリア英語演習２ キャリア英語演習３ キャリア英語演習４ 卒業論文	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後 2前 2後 1前 3後 3前 3後 3前 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通	4 4 4 4 2 2 2 2 2 2 2 0.2 0.2 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬和学園大学人文学部英語文化コミュニケーション学科 准教授 (令和6年9月)	○				5日	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（人文学部国際教養学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
17	基(主専)	准教授	オオイワ　アヤコ 大岩　彩子 ＜令和8年4月＞		M.A. in Second Language Studies(米国)		英語Ⅰ聴く・話す 英語Ⅱ聴く・話す 英語Ⅲ聴く・話す 英語Ⅳ聴く・話す 基礎演習１ 基礎演習２ インターンシップ 児童英語教育概論１ 児童英語教育概論２ 児童英語指導実習論 ※ 検定試験準備コースⅢ キャリア英語入門１ ※ キャリア英語入門２ ※ キャリア英語演習１ キャリア英語演習２ キャリア英語演習３ キャリア英語演習４ 卒業論文	 ○ ○ ○ ○ ○	1前 1後 2前 2後 1前 1後 3前･後 2前 2後 3通 3通 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通	4 4 4 4 2 2 4 2 2 0.7 2 0.3 0.3 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬和学園大学人文学部英語文化コミュニケーション学科 准教授 (平成25年9月)	○		○	外国語カリキュラム委員会	5日	
18	基(主専)	准教授	ナガサカ　ヤスヨ 長坂　康代 ＜令和8年4月＞		博士(学術)		文化人類学１ 文化人類学２ 基礎演習１ 基礎演習２ 地域学１ 地域学２ 地域文化論１ 地域文化論２ 多文化・思想入門１ ※ 多文化・思想入門２ ※ 多文化･思想演習１ 多文化･思想演習２ 多文化･思想演習３ 多文化･思想演習４ 卒業論文 地域文化論１ 地域文化論２	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 	1･2･3･4前 1･2･3･4後 1前 1後 2前 2後 2前 2後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 0.2 0.2 2 2 2 2 6 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬和学園大学人文学部国際文化学科 准教授 (平成30年4月)	○				5日	
19	基(主専)	准教授	キム　キョンホ 金　耿昊 ＜令和8年4月＞		博士(学術)		日本史概説 歴史学 スポーツとリベラルアーツ ※ 基礎演習１ 基礎演習２ 日本近現代史１ 日本近現代史２ 日本思想史１ 日本思想史２ 歴史学フィールドワーク２【隔年】 歴史学フィールドワーク３【隔年】 歴史探究入門１ ※ 歴史探究入門２ ※ 歴史探究演習１ 歴史探究演習２ 歴史探究演習３ 歴史探究演習４ 卒業論文	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	1･2･3･4前 1･2･3･4後 2･3･4後 1前 1後 2前 2後 2前 2後 2前 2前 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通	2 2 0.1 2 2 2 2 2 2 2 2 0.3 0.3 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬和学園大学人文学部国際文化学科 准教授 (令和5年4月)	○				5日	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（人文学部国際教養学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
20	基(主専)	准教授	イニシ　ヒロキ 井西　弘樹 ＜令和8年4月＞		博士(文学)		哲学１		1･2･3･4前	2	1	敬和学園大学人文学部国際文化学科講師 (令和3年4月)	○		○	外国語カリキュラム委員会	5日	
							哲学２		1･2･3･4後	2	1							
							文学１ ※【隔年】		1･2･3･4前	0.4	1							
							文学２ ※【隔年】		1･2･3･4後	0.4	1							
							ドイツ語Ⅰ文法		1前	4	1							
							ドイツ語Ⅱ文法		1後	4	1							
							スポーツとリベラルアーツ ※		2･3･4後	0.1	1							
							基礎演習１		1前	2	1							
							基礎演習２		1後	2	1							
							インターンシップ		3前･後	4	2							
							倫理思想史1【隔年】		2前	2	1							
							倫理思想史2【隔年】		2後	2	1							
							ヨーロッパ思想史１	○	2前	2	1							
							ヨーロッパ思想史２	○	2後	2	1							
							現代哲学		3前	2	1							
							生命倫理学		3後	2	1							
							多文化・思想入門１ ※		2前	0.2	1							
							多文化・思想入門２ ※		2後	0.2	1							
							多文化・思想演習１	○	3前	2	1							
							多文化・思想演習２	○	3後	2	1							
							多文化・思想演習３	○	4前	2	1							
							多文化・思想演習４	○	4後	2	1							
							卒業論文	○	4通	6	1							
21	基(主専)	講師	クボ　アリトモ 久保 有朋 ＜令和8年4月＞		博士(学術)		基礎演習１		1前	2	1	敬和学園大学人文学部共生社会学科講師 (令和7年4月)	○				5日	
							基礎演習２		1後	2	1							
							地域調査		3前	2	1							
							コミュニティデザイン１	○	1前	2	1							
							コミュニティデザイン２	○	1後	2	1							
							伝統文化・町並み景観論【隔年】		2前	2	1							
							非営利組織経営【隔年】		2後	2	1							
							観光ビジネス論【隔年】		2後	2	1							
							社会起業論１ ※	○	2前	1.1	1							
							社会起業論２ ※	○	2後	1.1	1							
							ファンドレイジング ※		3後	0.9	1							
							地域経営論１	○	3前	2	1							
							地域経営論２	○	3後	2	1							
							まちづくりPBL１ ※		2前	0.3	1							
							まちづくりPBL２ ※		2後	0.3	1							
							地域経営演習１	○	3前	2	1							
							地域経営演習２	○	3後	2	1							
							地域経営演習３	○	4前	2	1							
							地域経営演習４	○	4後	2	1							
							卒業論文	○	4通	6	1							

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（人文学部国際教養学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
22	基(主専)	助教	イケダ　シノブ 池田　しのぶ ＜令和8年4月＞		修士(社会福祉学)		基礎演習１ 基礎演習２ 地域とボランティア ボランティア 地域共生社会論 ※ 福祉まちづくり論 まちづくりPBL１ ※ まちづくりPBL２ ※ 地域経営演習１ 地域経営演習２ 地域経営演習３ 地域経営演習４ 卒業論文	 ○ ○ ○ ○ ○ ○	1前 1後 1後 1･2･3･4前･後 2前 2前 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通	2 2 2 4 1.1 2 0.3 0.3 2 2 2 2 6	1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬和学園大学人文学部共生社会学科助教 (平成17年4月)	○				5日	
23	その他	教授	タナカ　トシミツ 田中　利光 ＜令和8年4月＞		博士(社会福祉学)		聖書の世界１		1前	2	1	敬和学園大学人文学部共生社会学科教授 (平成29年4月)	○	○				
24	その他	教授	マツウラ　シンジ 松浦　進二 ＜令和8年4月＞		社会学士		スポーツ実習１ スポーツ実習２		1前 1後	4 4	4 4	敬和学園大学人文学部 特任教授 (平成21年3月)						
25	その他	講師	キバヤシ　リエ 木林　理恵 ＜令和8年4月＞		博士(学術)		日本語Ⅰ読む・書く 日本語Ⅱ読む・書く 日本語Ⅰ聴く・話す 日本語Ⅱ聴く・話す 日本語Ⅲ読む・書く 日本語Ⅳ読む・書く 日本語Ⅲ聴く・話す 日本語Ⅳ聴く・話す 留学生と学ぶ日本語表現 日本語教育学概論１ 日本語教育学概論２ 日本語能力試験対策クラスⅠ 日本語能力試験対策クラスⅡ 日本事情１ 日本事情２		1前 1後 1前 1後 1･2前 1･2後 1･2前 1･2後 1前 2前 2後 1･2前 1･2後 2前 2後	8 8 8 8 4 4 4 4 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	敬和学園大学人文学部 契約講師 (令和2年4月)			○	外国語カリキュラム委員会		
26	その他	講師	ミヤゾノ　マモル 宮薗　衛 ＜令和8年4月＞		修士(教育学)		社会科・地理歴史科教科教育法 社会科・地理歴史科指導法		3後 4前	2 2	1 1	新潟大学 名誉教授 (令和4年4月)						
27	その他	講師	ワタナベ　ノボル 渡邊　登 ＜令和8年4月＞		社会学修士※		社会学１ 社会学２		1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	新潟大学 名誉教授 (令和5年4月)						
28	その他	講師	ニシムラ　ヒデオ 西村　秀雄 ＜令和8年4月＞		教育学修士		科学史１ 科学史２		1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	金沢工業大学 科学技術応用倫理研究所 客員教授 (平成16年4月)						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（人文学部国際教養学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
29	その他	講師	オジマ　ススム 尾島　進 ＜令和8年4月＞		経営学士		金融論１ 金融論２		2前 2後	2 2	1 1	元第四北越リサーチ＆コンサルティング株式会社 リサーチ事業部 研究主幹 (令和5年3月まで)						
30	その他	講師	ヤダ　クミコ 弥田　久美子 ＜令和8年4月＞		MA Linguistics (英国)		検定試験準備コース（TOEIC）Ⅰ１ 検定試験準備コース（TOEIC）Ⅰ２ 英語の発音１ 英語の発音２		1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	新潟大学 非常勤講師 (平成7年4月)						
31	その他	講師	クシヤ　ケイジ 櫛谷　圭司 ＜令和8年4月＞		理学修士		人文地理学 地誌		2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	新潟県立大学 名誉教授 (令和6年5月)						
32	その他	講師	サカイ　クニアキ 坂井　邦晃 ＜令和8年4月＞		修士(教育学)		児童英語教育実践１ 児童英語教育実践２ 児童英語指導実習論 ※		2前 2後 3通	2 2 1.3	1 1 1	アトリエさかい 代表 (令和3年4月)						
33	その他	講師	キジマ　ツトム 木島　勉 ＜令和8年4月＞		文学士		考古学１ 考古学２		1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	糸魚川市長者ケ原考古館 学芸員 (平成30年4月)						
34	その他	講師	イトウ　チアキ 伊藤　知明 ＜令和8年4月＞		M.A in Linguistics (米国)		英文法１ 英文法２		1前 1後	2 2	1 1	敬和学園大学 非常勤講師 (令和2年4月)						
35	その他	講師	オカモト　リョウコ 岡本　亮子 ＜令和8年4月＞		文学修士		ドイツ語Ⅰ読む・書く ドイツ語Ⅱ読む・書く ドイツ語Ⅲ読む・書く ドイツ語Ⅳ読む・書く		1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	敬和学園大学 非常勤講師 (平成4年4月)						
36	その他	講師	ヨシザワ　カツヒコ 吉澤　克彦 ＜令和8年4月＞		修士(教育学)		特別活動論		2後	2	1	新潟県立大学 非常勤講師 (平成30年4月)						
37	その他	講師	ヨシハラ　ユキヒロ(ヨシオ) 吉原　悠博(芳雄) ＜令和8年4月＞		学士(美術)		ビジュアルアート表現１ ビジュアルアート表現２		2前 2後	2 2	1 1	吉原写真館 館主 （平成20年4月）						
38	その他	講師	イシカワ　マナブ 石川　学 ＜令和8年4月＞		修士(教育学)		社会科・公民科指導法		3後	2	1	学校法人山形学院 理事長 (令和5年4月)						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（人文学部国際教養学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
39	その他	講師	ナカムラ　ヨシミ 中村　義実 ＜令和8年4月＞		Ph.D. Liberal sutudies (米国)		言語コミュニケーション論１【隔年】 言語コミュニケーション論２【隔年】		2前 2後	2 2	1 1	新潟県立看護大学 看護学部 教授 (平成28年4月)						
40	その他	講師	ツジモト　シゲコ 辻元　滋子 ＜令和8年4月＞		教養学士		日本語表現Ⅰ 日本語表現Ⅱ		1･2前 1･2後	2 2	1 1	敬和学園大学 非常勤講師 (平成28年10月)						
41	その他	講師	ジャン　ジェユウ 姜　杰裕 ＜令和8年4月＞		修士(文学)※		中国語Ⅰ聴く・話す 中国語Ⅱ聴く・話す 中国語Ⅲ聴く・話す 中国語Ⅳ聴く・話す		1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	敬和学園大学 客員教授 (平成25年9月)						
42	その他	講師	ビル　ムリノス Bill Moulinos ＜令和8年4月＞		Master of Arts (米国)		英語Ⅲ聴く・話す 英語Ⅳ聴く・話す		2前 2後	4 4	1 1	敬和学園大学 非常勤講師 (平成22年4月)						
43	その他	講師	ウシヤマ　ユキヒコ 牛山　幸彦 ＜令和8年4月＞		博士(学術)		スポーツ実習３ スポーツ実習４		2･3･4前 2･3･4後	2 2	2 2	新潟大学 教育学部 教授 (平成元年4月)						
44	その他	講師	トミヤマ　エイコ 富山　栄子 ＜令和8年4月＞		経済学修士		マーケティング論１ マーケティング論２		2前 2後	2 2	1 1	事業創造大学院大学 事業創造研究科 教授 (平成18年4月)						
45	その他	講師	ヤマガケ　コウタロウ 山縣　耕太郎 ＜令和8年4月＞		博士(理学)		自然地理学		2･3･4後	2	1	上越教育大学大学院 学校研究科 教授 (平成3年7月)						
46	その他	講師	ヤマギワ　ノリコ 山際　規子 ＜令和8年4月＞		教育学修士		キリスト教音楽１ キリスト教音楽２ キリスト教音楽３ キリスト教音楽４ キリスト教音楽５ キリスト教音楽６ キリスト教音楽７ キリスト教音楽８		1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	豊岡短期大学 講師 (平成27年4月)						
47	その他	講師	ミツイ　マサタカ 三ツ井　正孝 ＜令和8年4月＞		文学修士※		日本語学１ 日本語学２		2前 2後	2 2	1 1	新潟大学 人文学部 准教授 (平成8年)						
48	その他	講師	ナカノ　ヒロアキ 中野　啓明 ＜令和8年4月＞		博士(学術)		道徳教育指導論		3前	2	1	新潟青陵大学 福祉心理学部 教授 (平成13年4月)						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（人文学部国際教養学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
49	その他	講師	タナカ　コウジ 田中　幸治 ＜令和8年4月＞		修士(音楽)		音楽･音楽史１ 音楽･音楽史２		2前 2後	2 2	1 1	新潟大学 教育学部 教授 (平成5年4月)						
50	その他	講師	ササキ　ヒロシ 佐々木　寛 ＜令和8年4月＞		法学修士		平和学１ 平和学２		3前 3後	2 2	1 1	新潟国際情報大学 国際学部 教授 (平成12年4月)						
51	その他	講師	タカヤ　クニヒコ 高谷　邦彦 ＜令和8年4月＞		博士(国際広報メディア)		映像制作２		2後	2	1	名古屋短期大学 現代教養学科 教授 (平成21年4月)						
52	その他	講師	タマキ　カツキ 田巻　華月 ＜令和8年4月＞		文学士		ビジネスマナー講座（秘書検定対策）１ ビジネスマナー講座（秘書検定対策）２		2･3･4前 2･3･4後	2 2	1 1	エムフルール 代表 (平成26年6月)						
53	その他	講師	アリスター　ギレット Alistair Gillett ＜令和8年4月＞		Postgraduate Certificate (英国)		プリゼンテーション・スキルズ１ プリゼンテーション・スキルズ２		2前 2後	2 2	1 1	敬和学園大学 非常勤講師 (令和3年4月)						
54	その他	講師	コマガタ　チナツ 駒形　千夏 ＜令和8年4月＞		文学修士		フランス語Ⅰ総合 フランス語Ⅱ総合		1前 1後	2 2	1 1	新潟大学 経済科学部 助教 (平成7年4月)						
55	その他	講師	チョウ　カズシゲ 長　和重 ＜令和8年4月＞		MA TESOL (米国)		英語Ⅰ読む・書く 英語Ⅱ読む・書く 検定試験準備コースⅡ１ 検定試験準備コースⅡ２		1前 1後 2前 2後	4 4 2 2	1 1 1 1	敬和学園大学 非常勤講師 (平成18年4月)						
56	その他	講師	カシモト　ナオコ 樫本　直子 ＜令和8年4月＞		学士(文学)		通訳１ 通訳２		2前 2後	2 2	1 1	新潟県知事政策局 国際課 語学業務コーディネーター(英語) (平成27年4月)						
57	その他	講師	マツイ　ヒロエ 松井　弘恵 ＜令和8年4月＞		学士(文学)		アナウンス・ナレーション実習１ アナウンス・ナレーション実習２		2前 2後	2 2	1 1	株式会社e-table 代表取締役 (平成31年2月)						
58	その他	講師	イマイ　リエ 今井　理恵 ＜令和8年4月＞		博士(教育学)		英語教育学概論 英語教材研究論 英語科教科教育法１ 英語科教科教育法２		2前 2後 3前 3後	2 2 2 2	1 1 1 1	新潟医療福祉大学 講師 (平成28年4月)						
59	その他	講師	イトウ(ナカオ)　アツミ 伊藤(中尾)　敦美 ＜令和8年4月＞		博士(学術)		教育原理 生徒・進路指導論		2後 3後	2 2	1 1	長岡技術科学大学 工学部基盤共通教育部　准教授 (平成26年10月)						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（人文学部国際教養学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
60	その他	講師	ミチガミ　マユ 道上　真有 ＜令和8年4月＞		博士(経済学)		国際経済論１ 国際経済論２		2前 2後	2 2	1 1	新潟大学 経済科学部 准教授 (平成22年1月)						
61	その他	講師	ミウラ　ミツヨシ 三浦　三厳 ＜令和8年4月＞		学士(法学)		法学１ 法学２		1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	三浦法律事務所 (平成20年4月)						
62	その他	講師	コバヤシ　リリコ 小林　りり子 ＜令和8年4月＞		Master of Science (ドイツ)		ドイツ語Ⅲ文法 ドイツ語Ⅳ文法		2前 2後	2 2	1 1	新潟大学 非常勤講師 (平成19年4月)						
63	その他	講師	シミズ　ダイスケ 清水　大輔 ＜令和8年4月＞		短期大学卒		コンピュータリテラシー Web技術 スマートフォンアプリ開発１ スマートフォンアプリ開発２ 情報セキュリティ		1前･後 2前 2前 2後 2後	6 2 2 2 2	3 1 1 1 1	株式会社マーブルアーチ 代表取締役 (平成13年9月)						
64	その他	講師	ローランド　エバート Roland Ebert ＜令和8年4月＞		Bachelor of Arts (ドイツ)		ドイツ語Ⅰ聴く・話す ドイツ語Ⅱ聴く・話す ドイツ語Ⅲ聴く・話す ドイツ語Ⅳ聴く・話す		1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	敬和学園大学 非常勤講師 (平成24年4月)						
65	その他	講師	ファン　インジョ 黄　仁祚 ＜令和8年4月＞		修士(文学)		コリア語Ⅰ総合 コリア語Ⅱ総合		1前 1後	2 2	1 1	敬和学園大学 非常勤講師 (平成26年4月)						
66	その他	講師	セオ　カツトシ 妹尾　克利 ＜令和8年4月＞		博士(学術)		映像制作１		2前	2	1	北星学園大学 文学部 准教授 (平成26年4月)						
67	その他	講師	スズキ　サトシ 鈴木　智士 ＜令和8年4月＞		学士(文学)		SPI対策１ SPI対策２ 基礎数学１ 基礎数学２ 社会と数理１ 社会と数理２		3･4前 3･4後 1･2･3･4前 1･2･3･4後 2･3･4前 2･3･4後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	フリースクール「エンカレッジ新潟」主催 (平成31年4月) 不登校学習支援連盟 代表 (令和5年4月)						
68	その他	講師	サイトウ　ユウキ 齊藤　勇紀 ＜令和8年4月＞		修士(教育学)		特別支援教育概論		3前	2	1	新潟青陵大学 福祉心理学部 教授 (平成28年4月)						
69	その他	講師	コン　ヨウスケ 金　洋輔 ＜令和8年4月＞		学士(教育学)		総合的な学習の指導法		2前	1	1	新潟市立有明台小学校 教頭 (令和4年4月)						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（人文学部国際教養学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
70	その他	講師	カトウ　マサカズ 加藤　雅一 ＜令和8年4月＞		学士(情報文化)		コピーライティング研究		2後	2	1	株式会社テクスファーム 取締役社長 (平成15年11月)						
71	その他	講師	ジョ　イ 徐　偉 ＜令和8年4月＞		博士(経済学)		中国語Ⅰ読む・書く 中国語Ⅱ読む・書く 中国語Ⅲ文法 中国語Ⅳ文法 検定試験準備コース（中国語）　※		1前 1後 2前 2後 1･2･3前	2 2 2 2 0.9	1 1 1 1 1	行政書士法人みなみ法務事務所 (平成29年7月)						
72	その他	講師	カマモト　ケンジ 釜本　健司 ＜令和8年4月＞		博士(教育学)		社会科・公民科教科教育法		3前	2	1	新潟大学 教育学部 准教授 (平成24年9月)						
73	その他	講師	キシ　ヤスユキ 岸　保行 ＜令和8年4月＞		学術博士		経営学１ 経営学２		1･2･3･4前 1･2･3･4後	2 2	1 1	新潟大学 経済科学部 准教授 (平成24年4月)						
74	その他	講師	マルヤマ　ケイコ 丸山　恵子 ＜令和8年4月＞		汉语国际教育硕士专业学位 (中国)		中国語Ⅲ読む・書く 中国語Ⅳ読む・書く 検定試験準備コース（中国語）　※		2前 2後 1･2･3前	2 2 1.1	1 1 1	佐渡国際教育学院 特任主任 (平成27年11月)						
75	その他	講師	ヤマダ　マミ 山田　真実 ＜令和8年4月＞		学士(文学)		情報技術資格対策（Word） 情報技術資格対策（Excel）		1･2･3･4前･後 1･2･3･4前･後	4 4	2 2	新潟通信サービス株式会社　総務部主任 (平成21年4月)						
76	その他	講師	チョウ　ブンテイ 張　文婷 ＜令和8年4月＞		博士(地域研究)		現代企業論 中小企業論		2後 3前	2 2	1 1	新潟大学 人文社会科学系 専任講師 (平成31年4月)						
77	その他	講師	ホリキリ　ノブヒロ 堀切　修宏 ＜令和8年4月＞		学士(教育学)		英語Ⅰ読む・書く 英語Ⅱ読む・書く		1前 1後	4 4	1 1	新潟こども医療専門学校 非常勤講師(平成28年4月)						
78	その他	講師	ワタナベ　シュン 渡邊　駿 ＜令和8年4月＞		博士(学術)		イスラーム文化論１ イスラーム文化論２		2前 2後	2 2	1 1	一般財団法人日本エネルギー経済研究所 中東研究センター 主任研究員 (令和3年4月)						
79	その他	講師	ミゲル　マラシガン Miguel Marasigan ＜令和8年4月＞		Ph.D.in English Languege and Literature (フィリピン)		英語Ⅰ聴く・話す 英語Ⅱ聴く・話す 英語Ⅲ読む・書く 英語Ⅳ読む・書く 観光と留学の英語１ 観光と留学の英語２		1前 1後 2前 2後 2前 2後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	敬和学園大学人文学部 契約講師 (令和7年4月)						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（人文学部国際教養学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
80	その他	講師	ブライアン　サウスウィック Brian Southwick ＜令和8年4月＞		Master of Education（アメリカ）		英語Ⅰ聴く・話す 英語Ⅱ聴く・話す 英語Ⅲ読む・書く 英語Ⅳ読む・書く ビジネス英語１ ビジネス英語２		1前 1後 2前 2後 3前 3後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	敬和学園大学人文学部 契約講師 (令和7年4月)						
81	その他	講師	シュハマ　ユウジ 主濱　祐二 ＜令和8年4月＞		修士（教育学）※		英語学１ 英語学２		2前 2後	2 2	1 1	帝京大学　リベラルアーツセンター講師 （令和7年4月）						
82	その他	講師	イトウ　リョウジ 伊藤　龍二 ＜令和8年4月＞		修士(商学)※		企業経営論１ 企業経営論２		3前 3後	2 2	1 1	新潟大学　経済科学部　准教授 (平成26年4月)						
83	その他	講師	アリモト　サトシ 有元　知史 ＜令和8年4月＞		商学修士※		簿記会計		2後	2	1	新潟大学　経済科学部　准教授 （令和2年4月）						

（注）
1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。
2　私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。
3　「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。
4　「教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況」の欄は，教育課程の編成等についての意思決定を行う会議体で所属予定の会議体がある場合，欄に「○」を記入すること。
5　「申請に係る大学等の職務に従事する週当たりの平均日数」及び「申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況」の欄は，基幹教員のみ記載すること。
6　「申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況」の欄は，申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）で基幹教員として勤務している場合，その大学及び学部等の名称及びそれらの学部等での教員区分を記載すること。

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基幹教員の年齢構成・学位保有状況

職　　位	学　　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　　計	備　　考
教　　授	博　　士	人	人	人	4人	人	2人	人	6人	
	修　　士	人	人	人	2人	2人	3人	1人	8人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博　　士	人	人	2人	2人	人	人	人	4人	
	修　　士	人	人	人	1人	1人	人	人	2人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　　師	博　　士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	修　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　　教	博　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　　士	人	人	人	人	1人	人	人	1人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　　計	博　　士	人	1人	2人	6人	人	2人	人	11人	
	修　　士	人	人	人	3人	4人	3人	1人	11人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）

1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。

2　この書類は，基幹教員についてのみ作成すること。

3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。

4　「基幹教員の年齢構成・学位保有状況」欄の「基幹教員」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合，「専任教員」と読み替えること。

5　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。